



KN2100VA/KN4100V-

VA/KN8100V シリーズ

KN1132V/KN1132VB/

KN8000VBシリーズ

IP-KVMスイッチ ユーザーマニュアル

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現等は公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がございますので、ご理解願います。また、グローバル共通のマニュアルを翻訳したドキュメントであるため、日本国内でのお取り扱いがない機種が含まれている場合がありますことを、ご了承ください。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準ずるものですが、万が一内容に不備・誤り等ございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

コンプライアンスに関する声明

連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置Class Aの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FGCIによる注意事項

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。

提案

FCC&CE規格に準拠するには、ユニットにシールド付きツイストペア(STP)ケーブルを使用する必要があります。



カナダ産業省による宣言

Class Aの本デジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

CAN ICES-003 (A) / NMB-003 (A)

HDMI商標に関する宣言

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator,Inc.の商標または登録商標です。



RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

バッテリーの安全に関する注意事項

- ◆ 不適切なタイプのバッテリーに交換された場合、爆発する危険性があります。使用済のバッテリーは、関連する指示に従って処分してください。

ユーザー情報

ユーザーの皆様へ

このマニュアルに記載されているすべての情報、ドキュメント、および仕様は、製造元から事前に通知されることなく変更される場合があります。製造業者は、本契約の内容に関して、明示的または黙示的に表明または保証を行わず、特定の目的のための商業性または適合性に関するいかなる保証も特に放棄します。このマニュアルに記載されている製造元のソフトウェアは、そのまま販売またはライセンスを受けています。購入後にプログラムに欠陥があることが判明した場合、購入者(メーカー、代理店、または販売店は除く)が、必要なすべてのサービス、修理、およびソフトウェアの欠陥に起因する付随的または派生的損害の全費用を負担するものとします。

このシステムの製造業者は、この装置に対する許可されていない変更によって引き起こされる無線および/またはTV干渉の責任を負いません。このような干渉を訂正することは、ユーザーの責任です。

製造業者は、動作前に正しい電圧設定が選択されていない場合には、このシステムの動作において被るいかなる損害に対しても責任を負いません。使用前に電圧設定が正しいことを確認してください。

同梱品

すべてのコンポーネントが正常に動作していることを確認します。問題が発生した場合は、販売店にお問い合わせください。

標準のIP-KVMスイッチのパッケージは、以下で構成されます：

- ◆ IP-KVMスイッチ(KN2116VA / KN4116VA / KN2124VA / KN4124VA / KN1132V / KN1132VB / KN2116VB / KN2132VA / KN4016VB / KN4024VB / KN4132VA / KN8032VB / KN8132V / KN2140VA / KN4140VA / KN4164V / KN8064VB / KN8164V / KN8116V) × 1
- ◆ 電源ケーブル抜け防止ホルダー「Lok-U-Plug」× 2
- ◆ 電源ケーブル抜け防止ホルダー取付工具 × 1
- ◆ 電源ケーブル × 2
- ◆ マウントキット × 1
- ◆ フットパッド(4pcs) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

目次

コンプライアンスに関する声明.....	i
バッテリーの安全に関する注意事項.....	ii
ユーザー情報.....	iii
ユーザーの皆様へ.....	iii
同梱品.....	iv
目次.....	v
本マニュアルについて.....	xiv
マニュアル表記について.....	xvi
用語.....	xvi
第1章 はじめに.....	1
概要.....	1
特長.....	6
ハードウェア.....	6
管理.....	7
使いやすいインターフェース.....	8
高度なセキュリティ.....	8
バーチャルメディア.....	9
バーチャルリモートデスクトップ.....	9
新型KNシリーズに特化した機能.....	9
システム要件.....	11
リモートユーザー側で使用するコンピューター.....	11
サーバー.....	12
コンピューターモジュール.....	13
オペレーティングシステム.....	14
ブラウザ.....	14
ケーブルホルダー.....	15
製品各部名称.....	16
フロントカバーの開け方.....	16
KN2116VA / KN4116VA / KN8116V フロントパネル.....	16
KN2124VA / KN4124VA フロントパネル.....	16
KN1132V / KN2132VA / KN4132VA / KN8132V フロントパネル.....	17
KN2140VA / KN4140VA フロントパネル.....	17
KN4164V / KN8164V フロントパネル.....	17
KN2116VA / KN4116VA / KN8116V リアパネル.....	20
KN1132V / KN2132VA / KN4132VA / KN8132V リアパネル.....	20

KN4164V / KN8164V リアパネル.....	20
KN2124VA / KN4124VA リアパネル.....	22
KN2140VA / KN4140VA リアパネル.....	22
KN1132VB/KN2116VB/KN4016VB/KN4024VB/KN8032VB フロントパネル.....	23
KN2116VB/KN4016VB リアパネル.....	23
KN4024VB リアパネル.....	23
KN1132VB/KN8032VB リアパネル.....	23
KN8064VB フロントパネル.....	24
KN8064VB リアパネル.....	24
第2章 ハードウェアのセットアップ.....	28
概要.....	28
セットアップの前に.....	28
卓上設置とラックへの取り付け.....	29
卓上設置.....	29
KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB/KN4024VB/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8064VB/KN8164V/KN8116V ラックへのマウント.....	30
KN2124VA/KN4124VA/KN2140VA/KN4140VA 単体構成でのセットアップ..	34
接続図(単体使用時).....	36
KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V/KN8116V 単体構成でのセットアップ.....	37
接続図(単体使用時).....	39
KN1132VB/KN2116VB/KN4016VB/KN4024VB/ KN8032VB/KN8064VB 単体構成でのセットアップ.....	40
接続図(単体使用時).....	42
コンピューターモジュール接続図.....	43
コンピューターモジュール接続図(続き).....	44
2段階でのシステム構成.....	45
接続図(2段階のカスケード接続時).....	47
CM1164AまたはCM1284を使用した2段階構成.....	48
接続図(CM1164AとCM1284を使用した2段階でのシステム構成).....	49
ケーブルの固定.....	50
チャンネル転送.....	51
バスの増設について.....	52
チャンネル転送の設定.....	52
PDUのセットアップ.....	53
ホットプラグ.....	56
モジュールID機能.....	56

電源オフと再起動.....	56
ポートIDの付番.....	57
ポート選択.....	57
第3章 スーパーアドミニストレーターによる設定.....	58
概要.....	58
初期設定.....	58
ネットワーク設定.....	59
スーパーアドミニストレーターのログイン情報の変更.....	60
次の操作.....	62
第4章 ログイン.....	63
概要.....	63
ローカルコンソールによるログイン.....	64
ブラウザーによるログイン.....	65
WindowsクライアントAPによるログイン.....	66
WindowsクライアントAPの接続画面.....	67
接続 - WindowsクライアントAP.....	68
ファイルメニュー.....	69
JavaクライアントAPによるログイン.....	70
JavaクライアントAPの接続画面.....	71
接続 - JavaクライアントAP.....	72
第5章 ユーザーインターフェース.....	73
概要.....	73
ウェブブラウザーのメイン画面.....	73
画面各部名称.....	74
製造番号.....	74
タブメニュー.....	75
AP GUI メイン画面.....	76
ローカルコンソールGUIのメイン画面.....	78
ローカルにおけるバーチャルメディアのマウント.....	79
コントロールパネル.....	80
Windowsクライアントのコントロールパネル.....	80
Windowsクライアントのコントロールパネルの機能.....	82
マクロ.....	84
ビデオ設定.....	93
メッセージボード.....	98
バーチャルメディア.....	101

ズーム	107
オンスクリーンキーボード	107
マウスポインターの種類	109
拡張ディスプレイ	110
マウスダイナシクモード	111
コントロールパネルの設定	114
Javaコントロールパネル	117
Webクライアントのコントロールパネル	118
機能	118
Webクライアントのビデオ設定	120
Webクライアントのオンスクリーンキーボード	121
Webクライアントにおけるマウスポインターの種類	121
バーチャルメディア	122
Webクライアントにおけるマウス同期モード	124
第6章 ポートアクセス	126
概要	126
ブラウザGUI	126
AP GUI	126
サイドバー	127
サイドバーのツリービュー	128
スキャン	129
アレイ	129
フィルター	129
サイドバーユーティリティ	131
ポートやアウトレットの名称設定	132
KVMデバイスとポート - 接続画面	133
デバイスレベル	133
ポートレベル	135
ブレードサーバー - 接続画面	136
ブレード設定画面	136
ポートの関連付け	137
ポートの関連付け解除	141
履歴	142
お気に入り	143
ユーザー環境設定	146
ビューア環境設定	148
セッション	149
アクセス	150
デバイスレベルのブラウザGUIインターフェース	150
ポートレベルのブラウザGUIインターフェース	151

デバイスレベルのAP GUIインターフェース.....	153
ポートレベルのAP GUIインターフェース.....	154
変更の保存.....	155
ポート設定.....	156
デバイスレベル.....	156
ポートレベル.....	158
第7章 ユーザー管理.....	164
概要.....	164
ブラウザーGUI.....	164
AP GUI.....	164
ユーザー.....	166
ユーザーの追加.....	166
ユーザーアカウントの編集.....	170
ユーザーアカウントの削除.....	171
グループ.....	172
グループの作成.....	172
グループの編集.....	174
グループの削除.....	174
ユーザーとグループ.....	175
ユーザーをグループに割り当てるには.....	175
グループからユーザーを削除するには.....	176
グループからユーザーを削除するには.....	177
デバイスの割り当て.....	178
デバイス権限の割り当て.....	178
デバイス操作権限の割り当て.....	181
第8章 デバイス管理.....	183
KVMデバイス.....	183
デバイス情報.....	183
操作モード.....	185
ネットワーク.....	188
ANMS.....	194
セキュリティ.....	202
日付/時刻.....	214
免責事項(ブラウザーインターフェースのみ).....	216
ブレードサーバー.....	217
設定画面.....	217
ブレードサーバーのセットアップ.....	218
ブレードサーバーの変更・削除.....	219
ウェブアクセス.....	219
第9章 ログ.....	220

概要.....	220
ブラウザーGUI.....	220
AP GUI.....	220
ログ情報.....	221
フィルター.....	221
ログ通知設定.....	223
第10章 メンテナンス.....	224
概要.....	224
ブラウザーGUI.....	224
AP GUI.....	224
メインファームウェアのアップグレード.....	225
ファームウェアアップグレードのリカバリー.....	226
コンピューターモジュールのアップグレード.....	227
コンピューターモジュールのアップグレード.....	227
コンピューターモジュールのファームウェア情報.....	229
情報の表示.....	229
モジュール表示情報の更新.....	230
モジュールのファームウェアアップグレードリカバリー.....	230
バックアップ/リストア.....	231
バックアップ.....	231
リストア.....	232
ターミナル.....	233
システム操作.....	235
ポートネームの消去.....	235
デフォルト値のリストア.....	235
終了時にリセット.....	235
第11章 ダウンロード.....	237
概要.....	237
第12章 ポート操作.....	238
概要.....	238
ポートへの接続.....	239
ポートツールバー.....	241
ツールバーのアイコン.....	242
ツールバーのホットキーによるポート切替.....	243
ポートアクセス画面の呼び出し.....	244
GUIホットキー一覧.....	245

パネルアレイモード	246
パネルアレイツールバー	247
マルチユーザー操作	248
ユーザーとパス	249
第13章 ログサーバー	251
セットアップ	251
起動	252
メニューバー	253
設定	253
イベント	254
オプション	256
ヘルプ	256
ログサーバーのメイン画面	257
概要	257
リストパネル	258
イベントパネル	258
付録	259
安全にお使いいただくために	259
全般	259
ラックへのマウント	262
仕様	263
KN2116VA/KN4116VA/KN8116V	263
KN2124VA/KN4124VA	265
KN1132V/KN2132VA/KN4132VA	267
KN8132V/KN4164V/KN8164V	269
KN2140VA/KN4140VA	271
KN8032VB/KN8064VB	273
KN1132VB	275
KN2116VB/KN4016VB	277
KN4024VB	279
トラブルシューティング	281
操作全般	281
マウスの問題	283
バーチャルメディア	285
ウェブブラウザ	285
WinクライアントActiveXビューアとWinクライアントAP	286
JavaアプレットとJavaクライアントAP	287
Sunシステム	289
Macシステム	289
Redhatシステム	290
ログサーバー	290

パネルアレイモード	291
IPアドレスの設定	294
ローカルコンソール	294
IPインストーラー	294
ブラウザ	296
IPv6	296
リンクローカルIPv6アドレス	296
IPv6ステートレス自動設定	297
ポートの転送	298
キーボードエミュレーション	299
Macキーボード	299
Sunキーボード	300
PPPモデムの動作	301
基本設定	301
接続設定例(Windows XPの場合)	302
KA7140の設定と操作	303
設定	303
操作方法	305
KA7140のピン配列	305
内部シリアルインターフェースの設定	306
ナビゲーション	306
操作方法	307
スイッチレベルの設定	307
ポートレベルの設定	308
その他のマウス同期方法	309
Windows:	309
Sun/Linux	311
その他のビデオ解像度の手順	312
信頼された証明書	313
概要	313
証明書のインストール	314
証明書のインストール完了	315
自己署名済みプライベート証明書	318
ファイルのインポート	319
ファンの位置と速度に関する情報	320
ファンの位置	320
ログイン情報の消去	321
工場出荷時のデフォルト設定	323

シリアルアダプターのピン配列.....	323
サポートされるKVMスイッチ.....	324
サポートされる電源管理デバイス.....	324
サポートされるPDU.....	325
サポートされるバーチャルメディア.....	326
Windowsクライアント Active Xビューア/WinクライアントAP.....	326
Javaクライアントビューア/JavaクライアントAP.....	326

本マニュアルについて

このマニュアルは、IP-KVMスイッチを最大限に活用できるように提供されています。このマニュアルでは、製品の取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

このユーザーマニュアルでは、次のIP-KVMスイッチの機種について説明します。

型番	製品名
KN1132V	1ローカル/1リモート アクセス 32ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN1132VB	1ローカル/1リモート アクセス 32ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN2116VA	1ローカル/2リモート アクセス 16ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN2116VB	1ローカル/2リモート アクセス 16ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN2124VA	1ローカル/2リモート アクセス 24ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN2132VA	1ローカル/2リモート アクセス 32ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN2140VA	1ローカル/2リモート アクセス 40ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4016VB	1ローカル/4リモート アクセス 16ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4024VB	1ローカル/4リモート アクセス 24ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4116VA	1ローカル/4リモート アクセス 16ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4124VA	1ローカル/4リモート アクセス 24ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4132VA	1ローカル/4リモート アクセス 32ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4140VA	1ローカル/4リモート アクセス 40ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN4164V	1ローカル/4リモート アクセス 64ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN8116V	1ローカル/8リモート アクセス 16ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN8032VB	1ローカル/8リモート アクセス 32ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN8132V	1ローカル/8リモート アクセス 32ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN8064VB	1ローカル/8リモート アクセス 64ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ
KN8164V	1ローカル/8リモート アクセス64ポート Cat 5 IP-KVMスイッチ

マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに: IP-KVMスイッチの用途、機能、利点について説明します。フロントパネルとリアパネルのコンポーネントについて説明します。

第2章 ハードウェアのセットアップ: IP-KVMスイッチのセットアップ手順について説明します。

第3章 スーパーアドミニストレーターによるセットアップ: スーパーアドミニストレーター

がIP-KVMスイッチのネットワーク環境の設定、および既定のユーザーネームとパスワードの変更に使用する手順について説明します。

第4章 ログイン: ローカルコンソール、インターネットブラウザ、スタンドアロンのWindowsアプリケーション(AP)プログラム、およびスタンドアロンのJavaアプリケーション(AP)プログラムから、使用可能なアクセス方法のそれぞれでIP-KVMスイッチにログインする方法について説明します。

第5章 ユーザーインターフェース: IP-KVMスイッチのユーザーインターフェースのレイアウトと構成要素について説明します。

第6章 ポートアクセス: ポートアクセス画面と、ポートおよび電源アウトレット管理に関するオプションの設定方法について説明します。

第7章 ユーザー管理: スーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターが、ユーザーとグループを作成・変更・削除する方法と、それらに属性を割り当てる方法について説明します。

第8章 デバイス管理: スーパーアドミニストレーターがIP-KVMスイッチの操作全般を設定および制御する方法について説明します。

第9章 ログ: イベントログ情報の表示、消去、およびエクスポートの方法と、IP-KVMスイッチのイベント通知のセットアップ方法について説明します。

第10章 メンテナンス: IP-KVMスイッチのファームウェアのアップグレード方法と、インストールされているデバイスへのポートの接続に使用するコンピューターモジュールのファームウェアについて説明します。

第11章 ダウンロード: スタンドアロンAP版のWinクライアント、Javaクライアント、およびログサーバープログラムをダウンロードする方法について説明します。

第12章 ポート操作: IP-KVMスイッチのポートに接続されたデバイスへのアクセスと操作について詳しく説明します。

第13章 ログサーバー: ログサーバーのインストールと設定方法について説明します。

付録: 本書の巻末にある技術情報とトラブルシューティング情報を記載しています。

注意:

- ◆ 本書をよくお読みになり、設置・操作の手順に従い、本機や接続機器の破損を防止してください。

- ◆ このマニュアルのリリース以降に、製品の機能や特長が追加・改良・削除されることで、アップデートされる場合があります。最新の取扱説明書については、<http://www.aten.com/global/en/>をご覧ください。

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- [] 押すべきキーを示します。入力するキーを示します。例えば [Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
- 1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- > (メニューやダイアログボックスなどで)連続したオプションを選択することを示します。矢印は操作の手順を示します。例えば「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

用語

本書において、ローカルとリモートという用語は、IP-KVMスイッチのセットアップ環境に導入されたオペレーターとデバイスに使用されます。

視点に応じて、状況によってはユーザーとサーバーはローカルと見なすことができますしリモートと見なす場合もあります。

- ◆ IP-KVMスイッチ側から見た場合
 - ◆ リモートユーザー - IP-KVMスイッチから離れた場所からネットワーク経由でログインするユーザーです。
 - ◆ ローカルコンソール - IP-KVMスイッチに直接接続されているキーボード、マウス、モニターです。
- ◆ ユーザー側から見た場合
 - ◆ ローカルクライアントユーザー - 自分のコンピューターに座って、自分から

離れたIP-KVMスイッチに接続されたサーバーで操作を実行しているユーザーです。

- ◆ リモートサーバー - ローカルクライアントユーザーから離れた場所にあるサーバーです。

第1章 はじめに

概要

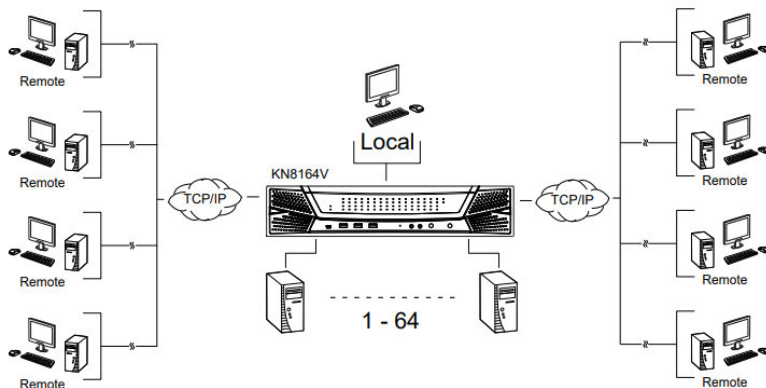
KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4116VB/KN4024VB/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8064VB/KN8164Vは、IPベースのKVM制御ユニットで、ローカルオペレーターとリモートオペレーターの両方が1箇所のコンソールから複数のサーバーを監視し、アクセスすることを可能にします。このシリーズのIP-KVMスイッチは、最大16/24/32/40/64のサーバーを制御でき、互換性のあるKVMスイッチをカスケード接続することにより、2段階の完全な機器構成で最大512台のサーバーを制御できます。さらに、1台のCM1164AまたはCM1284と併用することで、最大4台のIP-KVMスイッチを統合管理および制御できます。各IP-KVMスイッチは、最大1920×1200の優れたFHDビデオ解像度と、倍速のバーチャルメディア伝送を提供するとともに、FIPS 140-2 Level 1セキュリティ規格に準拠しています。KNシリーズは、ユーザーがネットワークを介してデータセンター全体を監視しアクセスするためのローカルコンソールと、IP経由のリモートアクセスを提供します。さらに、ネットワークがダウンしたときにBIOSレベルでトラブルシューティングできるよう、外部モデムを使用した帯域外アクセスの手段を提供します。

これらのKNシリーズのIP-KVMスイッチは、サポートするバスの数と、それらが提供するKVMポートの数によって、以下のように区別されます。

型番	サポートされるバス数	KVMポート
KN2116VA	ローカル:1、リモート:2、1U	16
KN2116VB	ローカル:1、リモート:2、1U	16
KN4016VB	ローカルおよびリモート共有:4、1U	16
KN4116VA	ローカル:1、リモート:4、1U	16
KN8116V	ローカル:1、リモート:8、1U	16
KN2124VA	ローカル:1、リモート:2、1U	24
KN4024VB	ローカルおよびリモート共有:4、1U	24
KN4124VA	ローカル:1、リモート:4、1U	24
KN1132V	ローカル:1、リモート:1、1U	32

型番	サポートされるバス数	KVMポート
KN1132VB	ローカル:1、リモート:1、1U	32
KN2132VA	ローカル:1、リモート:2、1U	32
KN4132VA	ローカル:1、リモート:4、1U	32
KN8032VB	ローカルおよびリモート共有:8、1U	32
KN8132V	ローカル:1、リモート:8、1U	32
KN2140VA	ローカル:1、リモート:2、1U	40
KN4140VA	ローカル:1、リモート:4、1U	40
KN4164V	ローカル:1、リモート:4、2U	64
KN8064VB	ローカルおよびリモート共有:8、2U	64
KN8164V	ローカル:1、リモート:8、2U	64

各バスは、最大2(ローカル:1、リモート:1)、3(ローカル:1、リモート:2)、4(ローカル/リモート共有)、5(ローカル:1、リモート:4)、8(ローカル/リモート共有)、または9(ローカル:1、リモート:8)のユーザーセッションを許可します。次ページの図は、1つのローカルセッションと8つのリモートセッションを介してKN8164Vに接続およびアクセスする方法を示しています。



IP-KVMスイッチは通信プロトコルにTCP/IPを使用するため、LAN、WAN、またはインターネット上の任意の場所からIPアドレスを介してアクセスできます。リモートオペレーターは、接続対象となるコンピューターがどこにあるかを意識することなく、ブラウザ経由でログインしたり、スタンドアロンのWindowsまたはJava GUIアプリケーションを使用したりできます。Javaを使用すると、IP-KVMスイッチはJRE(Java Runtime Environment)対応OSと連携して動作し、マルチプラットフォームの操作性を確保できます。

クライアントソフトウェアを使用すると、オペレーターは、ローカル側で直接作業しているときと同様の操作感で、キーボード、ビデオ、およびマウスの信号を、IP-KVMスイッチの配下にあるサーバーとやり取りできます。

IP-KVMスイッチのバスは最大32ユーザーで共有できます。メッセージボード機能を使用するとユーザーが相互に通信できるため、ポートの共有が容易に行えます。

アドミニストレーターは、GUIアプリケーションのインストールと実行、BIOSレベルのトラブルシューティング、ルーチン監視、同時メンテナンス、システム管理、再起動、さらには起動前の機能に至るまで、各種メンテナンスタスクを簡単に処理できます。

ローカルコンソールの操作は、フルスクリーンのGUIディスプレイを使って、キーボードからホットキーの組み合わせを入力することで簡単に行えます。

システムのアクティビティを監視することは容易ではありませんが、便利なオートスキャン機能を使えば、ユーザーが指定した間隔でポートからポートに自動的に切り替えることができます。一方、パネルアレイモードでは、最大64台のサーバーのビデオ出力を同時に表示できます。

IP-KVMスイッチにはRJ-45コネクタがあり、Cat 5eケーブルを使用してサーバーにリンクできます。この省スペースなイノベーションは、システムラックにおいて16/24/32/40ポート搭載IP-KVMスイッチを1Uサイズで、64ポート搭載IP-KVMスイッチを2Uサイズで、それぞれ便利に取り付けることを意味します。そして、この機器構成は、現代における商業ビルの大半に組み込まれている内部ネットワーク配線を活用できます。

セットアップは高速で簡単です。適切なポートにケーブルを接続するだけです。IP-KVMスイッチはキーボード入力を直接傍受するため、複雑なソフトウェアインストールのルーチンに影響したり、非互換性の問題を心配したりする必要はありません。

ファームウェアはネットワーク経由でアップグレード可能であるため、入手可能になったファームウェアのアップデートをウェブサイトからダウンロードするだけで、最新の機能向上を維持できます。

強力なセキュリティ機能により、IP-KVMスイッチは、広範囲に分散した複数サーバーセットアップにリモートでアクセスし、管理するための最も高速で信頼性の高い、最もコスト効率の高い方法を提供します。

IP-KVMスイッチには、モジュールID、OS、キーボード言語、モジュール名、操作モードなどのポート情報を保存するモジュールID機能があります。これにより、コンピュ

ーターモジュールをあるポートから別のポートに移動すると、IP-KVMスイッチは新しい場所と同じコンピューターモジュールを認識します。また、コンピューターモジュールのケーブルを別のIP-KVMスイッチに移動する際の使いやすさを考慮し、モジュールID、OS、キーボード言語、モジュール名、およびポートの操作モードはコンピューターモジュールの内部に保存されます。

このKNシリーズのIP-KVMスイッチは、高度なバーチャルメディア機能をサポートしており、より高速な転送速度と、USB DVD/CD/ハードドライブおよびその他のストレージメディアのサーバーへのダイレクトマッピングを可能にします。バーチャルメディアのサポートにより、ファイル転送の実行、アプリケーションとOSパッチのインストール、および診断のリモート実行をできます。世界中のどこにいても、1箇所のリモートコンソールからシステム全体をアップグレードできます。

このシリーズの各モデルは、デュアル電源を提供します。これにより、電源の1つが故障した場合、2つ目の電源が自動的に引き継がれます。デュアル電源をサポートするだけでなく、サーバールームのアウトレットの停電を防ぎます。サーバールームに複数システムの電源がある場合は、異なる電源に接続することでスマートに対応できます。サーバールームの電源の1つが遮断された場合、IP-KVMスイッチは2番目の電源に自動的に調整して、機能を維持します。

KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB/KN4024VB/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8064VB/KN8164V/KN8116Vの各モデルは内部ファンを制御できる温度センサーに対応しています。センサーは、サーバーの室温に応じてファンが最適な速度で動作するように調整します。必要に応じて調整すると、エネルギーをより効率的に使用し、ファンとIP-KVMスイッチの両方の耐用年数を引き延ばすことができます。

これらのKNシリーズのIP-KVMスイッチの機種もオーディオ対応となります。マイクとスピーカーは、サーバーのローカルコンソールでサポートされます。スピーカーは、リモートユーザーのコンピューターでサポートされます。

KNシリーズは、ATENのCC2000管理ソフトウェアに統合できます。CC2000は、管理者が世界中のどこにいても、遠隔地にあるデータセンターと支社を完全に制御できるようにします。これにより、ネットワーク上のすべてのデバイスをリモートで監視および制御できます(CC2000に関する詳細は、ATENのウェブサイトを参照してください)。

KNシリーズは、ATENのKVM over IP コンソールステーション(KA82シリーズ)に対応しています。KA82シリーズは、複数のKNデバイスを一元管理できるハードウェアベースの

スタンドアロン・コンソールソリューションです。PCが許可されていない環境に特に適しています(KVM over IPコンソールステーションの詳細については、ATEN のウェブサイト参照してください)。

データセンター全体の管理と制御を支援するために、ATEN IP-KVMスイッチはブレードサーバーとシャーシをサポートしています。電源管理デバイスとの連携機能を使用すると、KVMポートをATEN PDUの電源アウトレットに関連付けて、IP-KVMスイッチのユーザーインターフェースからサーバーの電源管理をできます。

KNシリーズは、Webクライアントビューア機能により、ウェブ対応のKVM over IPアクセスもサポートするようになりました。Webクライアントビューアは、主要なウェブブラウザと完全に互換性があるため、Javaまたはブラウザのプラグインをセットアップせずにブラウザから直接実行されます。Webクライアントビューアは、JavaやWindowsプラグインと同様に、KNシリーズに接続されたすべてのサーバーとPCにリモートでアクセスできますが、管理と操作のためのより同時の直接アクセスオプションの利点があります。

管理の利便性を高めるために、iPadアプリケーション(PadClient)も用意されています。サーバーやコンピューターのリアルタイムアクセスと制御をシンプルかつモバイルにする直感的なインターフェースを備えています。PadClientの詳細については、ATENのウェブサイトを参照してください。

特長

ハードウェア

- ◆ 高密度ポート - RJ-45コネクタおよびCat 5e/6ケーブルで、1Uサイズの筐体では最大40ポート。
(KN2116VA/KN2116VB/KN4016VB/KN4116VA/KN8116V)、24ポート
(KN2124VA/KN4024VB/KN4124VA)、32ポート
(KN1132V/KN1132VB/KN2132VA/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V)および40ポート(KN2140VA/KN4140VA)を、または2Uサイズの筐体では64ポート(KN4164V/KN8064VB/KN8164V)をそれぞれ接続
 - ◆ ラップトップUSBコンソール(LUC)機能 - 専用のUSBポートにノートパソコンを直接接続することで、コンソールを簡単に操作
 - ◆ リモートKVM over IPアクセス用に1/2/4/8系統の個別バスを提供
 - ◆ 冗長LANまたはデュアルIP操作用に10/100/1000Mbps NICを2枚搭載
 - ◆ ブレードサーバー対応
 - ◆ PS/2、USB、レガシーSun(13W3)およびシリアル(RS-232C)接続をサポート
 - ◆ ローカルコンソールにはUSBキーボード/マウスの接続が可能
 - ◆ マルチプラットフォーム(Windows、Mac、Linux、Oracle社SPARC(Sun)、VT100ベースのシリアルデバイス)対応
 - ◆ オーディオ対応
 - ◆ デュアル電源
 - ◆ ビデオ解像度 - ローカルコンソールとリモートセッション表示で、最大1920×1200@60Hz、24ビットの色深度に対応
 - ◆ 単体使用時は最大64のコンピューターの監視および制御が、カスケード接続時*は最大512台のコンピューターの制御が、それぞれ可能
- * カスケード接続対応のKVMスイッチは、CS1308、CS1316、KH1508A、KH1516A、KH1532Aです。

管理

- ◆ ユーザーアカウントは最大64名作成可能 - 操作や管理を行うにあたり最大32ユーザーによる同時ログインに対応
- ◆ 温度によって速度を自動調整するグリーンITファン
- ◆ イベントログおよびWindowsベースのログサーバー対応
- ◆ 重大なシステムイベントの発生時にはSMTPメールで通知。SNMPトラップ、Syslog対応
- ◆ カスタマイズ可能なイベント通知機能
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ アウトオブバンドアクセス - モデムのダイヤルイン/ダイヤルアウト/ダイヤルバック接続に対応
- ◆ モジュールID保存機能 - モジュールのポート変更後もデバイス情報を自動認識。製品側では再設定不要
- ◆ ポート共有モードにより複数ユーザーからのサーバーへの同時アクセスが可能
- ◆ ATEN統合管理ソフトウェアCC2000およびビデオセッションレコーディングソフトウェアCCVSRとの統合に対応
- ◆ ATEN KVM over IP コンソールステーション(KA8270/KA8280/KA8278/KA8288)対応
- ◆ USB、PS/2、RS-232Cローカルコンソール搭載のATEN コンピューターモジュールをサポート(デバイスをKA7174に接続する方法の詳細については、KA7174のユーザーマニュアルを参照)
- ◆ 電源管理デバイスとの連携を強化 - KVMポートをATEN PDU製品の電源アウトレットに関連付けることで、アクセスに使用するインターフェースを一本化してサーバー電源をリモート管理
- ◆ IPv6対応
- ◆ モバイルデバイスからiPad用アプリPadクライアントを使った操作や管理が可能

使いやすいインターフェース

- ◆ ATEN独自のパネルレイモード™ - グリッド表示ですべてのポートを監視(ローカル画面とリモート画面の両方)
- ◆ 統合された多言語インターフェース - ローカルコンソール、ブラウザーメニュー等のGUIは多言語に対応しているため、ユーザーの訓練時間を短縮し、生産性の向上が可能
- ◆ クライアント側はマルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac OS X、Linux、Oracle社SPARC(Sun)
- ◆ マルチブラウザー対応 - Edge(Chromium)、Chrome、Firefox、Safari、Opera
- ◆ ウェブブラウザーのGUIを使ったりリモートアクセス - 事前にソフトウェア(例: Java)をインストールしなくても、ウェブブラウザーだけで管理タスクの実行が可能
- ◆ Webクライアントビューアによるウェブ対応のIP-KVMアクセスをサポート - ユーザーは、Javaまたはブラウザープラグインをインストールせずに、ウェブブラウザーから接続されているすべてのサーバーおよびPCに直接アクセス可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップを複数起動し、同一ログインセッションから複数のサーバーに接続可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ キーボード/マウスのブロードキャスト - キーボードとマウスの操作信号をすべてのサーバーへ同時入力
- ◆ ローカルコンソールとのビデオ同期 - ローカルコンソールモニターのEDID情報はディスプレイ解像度の最適化のためにコンピューターモジュールに保存

高度なセキュリティ

- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ TLS 1.2暗号化とRSA証明書(最大4096ビットの暗号化キー)をサポートし、セキュアなブラウザーによるログインを実現
- ◆ キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号を個別に暗号化可能(56ビットDES、168ビット3DES、256ビットAES、128ビットRC4、ランダムより選択)

- ◆ IPアドレスやMACアドレスによるフィルタリング機能
- ◆ サーバーへのアクセス権限や操作権限をユーザー毎およびグループ毎に設定可能
- ◆ CSR自動生成機能およびサードパーティー機関による認証に対応

バーチャルメディア

- ◆ バーチャルメディアにより、リモートファイル転送、OSのパッチ適用、ソフトウェアのインストール、診断テストの実行が可能
- ◆ バーチャルメディアの自動マウント - リモートセッションウィンドウを介してストレージの場所(ドライブ、フォルダー、リムーバブルディスクおよびISOファイル)をドラッグ&ドロップし、メディアをマウント
- ◆ USBインターフェース対応サーバーでは、OSとBIOSの両方のレベルでバーチャルメディア機能が利用可能
- ◆ DVD/CDDライブ、USB大容量ストレージデバイス、PCハードドライブ、ISOイメージをサポート
- ◆ コンピューターモジュールKA7166、KA7168、KA7169、KA7177、KA7183、KA7188、またはKA7189で接続されたコンピューターはスマートカードリーダーの使用が可能

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ モノクロの色深度、しきい値およびノイズ設定、帯域幅の増減などのビデオ品質を調整して、データ転送速度を最適化
- ◆ フルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ リモートユーザー間のコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載
- ◆ マウスダイナミック機能 - ローカル/リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ 終了マクロ対応
- ◆ 多言語対応のオンスクリーンキーボード搭載
- ◆ BIOSレベルのアクセスによるトラブルシューティングが可能

新型KNシリーズに特化した機能

- ◆ 高度なセキュリティ – FIPS 140-2 Level 1セキュリティ標準に準拠
- ◆ 高速バーチャルメディア – バーチャルメディア伝送速度は従来モデルの2倍に進化
- ◆ 高度なFPGAグラフィックプロセッサ – 最大でフルHD解像度1920 × 1200に対応

システム要件

リモートユーザー側で使用するコンピューター

リモートユーザー側のコンピューター(クライアントコンピューター)とは、ユーザーが離れた場所からインターネット経由でIP-KVMスイッチにログインするコンピューターのことです(p.11「用語」を参照)。これらのコンピューターには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 最適な結果を得るには、Windows10に対応するCPUを搭載したコンピューターを使用し、解像度を1024×768以上に設定することを推奨します。
- ◆ Edge(Chrome)以上のウェブブラウザ
- ◆ ブラウザーはTLS 1.2暗号化通信に対応したものをお使いください。
- ◆ 最適な結果を得るために、512kbps以上のネットワーク転送速度を推奨します。
- ◆ ブラウザーベースのWinクライアント ActiveXビューアの場合、DirectX 8がインストールされており、インストール後に150MB以上のメモリが使用可能であることを確認してください。
- ◆ ブラウザーベースのJavaクライアントビューアの場合、最新バージョンのJava Runtime Environment(JRE)がインストールされており、インストール後に205MB以上のメモリが使用可能であることを確認してください。
- ◆ WindowsクライアントAPの場合、DirectX 8がインストールされており、インストール後に90MB以上のメモリが使用可能であることを確認してください。
- ◆ JavaクライアントAPの場合は、最新バージョンのJava Runtime Environment(JRE)がインストールされており、インストール後に145MB以上のメモリが使用可能である必要があります。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0以降のドライバーをインストールしてください。

サーバー

サーバーは、コンピューターモジュールを介してIP-KVMスイッチに接続されたコンピューターです(p.11「用語」参照)。これらのサーバーには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA、VESA DMT/CVTまたはマルチスキャンに対応したポート。
- ◆ USBタイプのコンピューターモジュールを接続する場合：USB Type-AポートとUSBホストコントローラー。
- ◆ PS/2タイプのコンピューターモジュールを接続する場合：PS/2キーボードおよびマウスポート。

コンピューターモジュール

- ◆ IP-KVMスイッチをコンピューターモジュールに接続するには、ストレート配線のCat 5e(またはそれ以上の)ケーブルが必要です(p.34参照)。
- ◆ IP-KVMスイッチで使用するには、次のコンピューターモジュールが必要です。

機能	モジュール
PS/2ポートを備えたデバイスへの接続	KA7120
USBポートを備えたデバイスへの接続(すべてのプラットフォーム-PC、Mac、Sun)	KA7170
レガシーSunコンピューターへの接続	KA7130
シリアルデバイスへの接続	KA7140
USBコンピューターへの接続(DVI出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7166
USBコンピューターへの接続(HDMI出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7168
USBコンピューターへの接続(DisplayPort出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7169
USBデバイスへの接続(バーチャルメディアに対応)	KA7175
USBデバイスへの接続(バーチャルメディアおよびオーディオに対応)	KA7176
USBデバイスへの接続(バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7177
USBコンピューターへの接続(VGA出力、バーチャルメディア、オーディオおよびデュアル出力に対応)	KA7178
USB-Cデバイスへの接続(バーチャルメディアに対応)	KA7183
USBコンピューターへの接続(HDMI出力、バーチャルメディア、スマートカードリーダー、およびオーディオに対応)	KA7188
USBコンピューターへの接続(DisplayPort出力、バーチャルメディア、スマートカードリーダー、およびオーディオに対応)	KA7189

注意:

IP-KVMスイッチの導入前に購入したコンピューターモジュールを使用する場合は、コンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードする必要があります。(p.227参照)。

オペレーティングシステム

- ◆ リモートユーザー側のコンピューターでサポートされるオペレーティングシステムには、Windows 2000以降、およびJava Runtime Environment (JRE) 6、Update3、またはそれ以降(Linux、Mac、Sunなど)を実行できるオペレーティングシステムが含まれます。
- ◆ IP-KVMスイッチのポートに接続されているサーバーでサポートされるオペレーティングシステムを次の表に示します。

OS		バージョン
Windows		2000以降
Linux	RedHat	7.1以降
	Fedora	Core2以降
	SuSE	9.0以降
	Mandriva(Mandrake)	9.0以降
UNIX	AIX	4.3以降
	FreeBSD	4.2以降
	Sun	Solaris8以降
Novell	Netware	5.0以降
Mac		OS 9以降*
DOS		6.2以降

ブラウザ

IP-KVMスイッチにログインするユーザーは、次の対応ブラウザをお使いください。

ブラウザ		バージョン
IE		8以降
Chrome		8.0以降
Firefox	Windows	3.5以降
	Linux	3.0以降
Safari	Windows	4.0以降
	Mac	3.1以降
Opera		10.0以降

* 詳細については、p.289「Macシステム」を参照してください。

ケーブルホルダー

ケーブルホルダーはオプション品です。安全性を高めるには、ATEN Lok-U Plugケーブルホルダーを使用して、IP-KVMスイッチの所定の位置にケーブルを固定してください。使用できるのは、IP-KVMスイッチと併用できるように特別に設計されたATEN Lok-U-Plugケーブルホルダーのみです。他の種類のケーブル固定デバイスを使用すると、IP-KVMスイッチまたはユーザーに取り返しの付かない損傷や損害を与える可能性があります。互換性のあるケーブルホルダーのリストについては、製品ウェブページの「互換アクセサリ」セクションを参照してください。

製品各部名称

フロントカバーの開け方

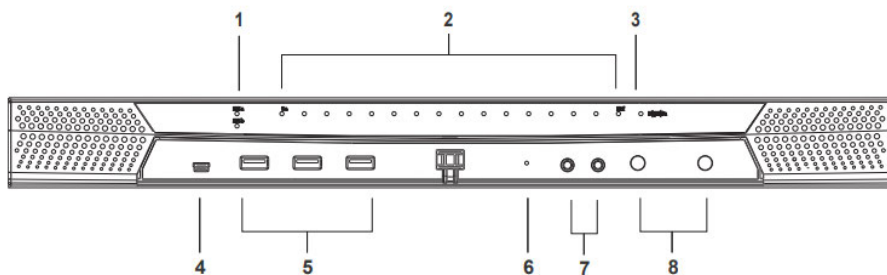
IP-KVMスイッチのフロントポートにアクセスするには、以下に示すようにユニットのフロント側にあるATENロゴを押すだけです。



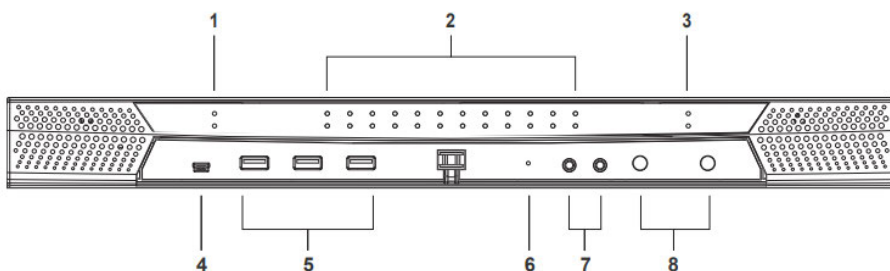
注意:

不要な消耗や破損を防ぐために、フロントのポートを使用しないときは、必ずユニットのフロントカバーを閉じてください。

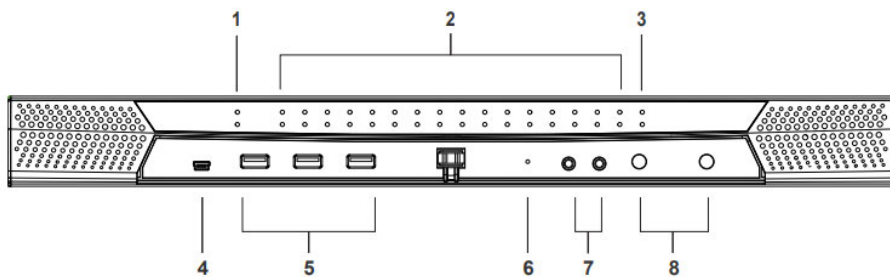
KN2116VA / KN4116VA / KN8116V フロントパネル



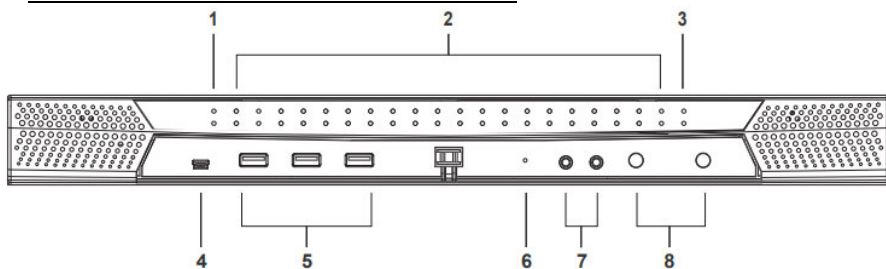
KN2124VA / KN4124VA フロントパネル



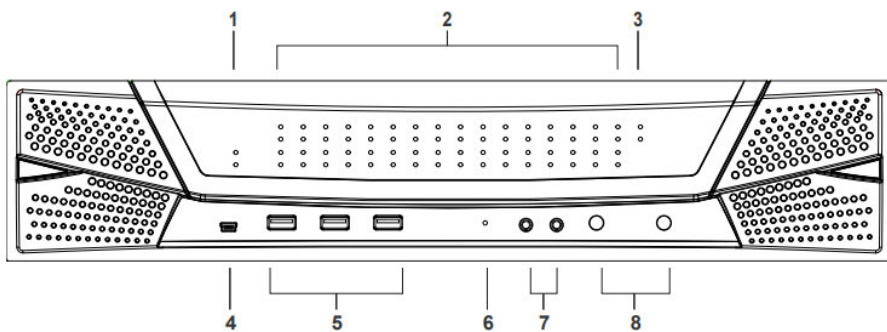
KN1132V / KN2132VA / KN4132VA / KN8132V フロントパネル



KN2140VA / KN4140VA フロントパネル



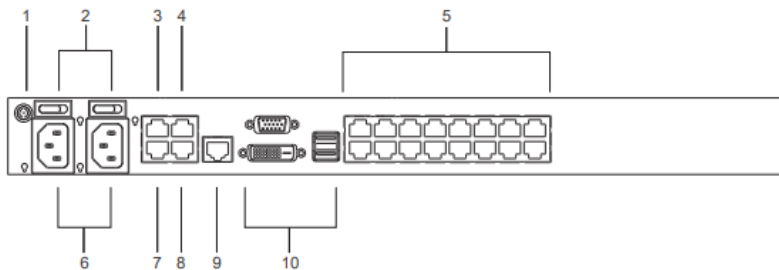
KN4164V / KN8164V フロントパネル



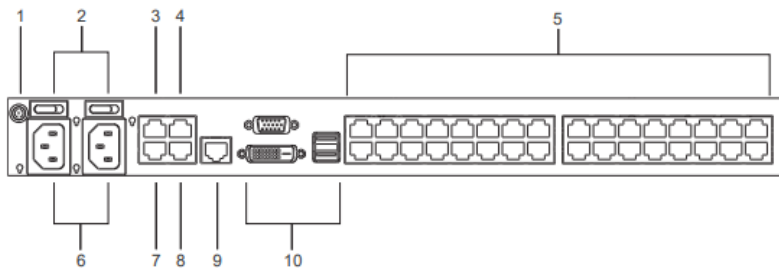
番号	名称	説明
1	電源LED	本体の電源がオンになると青色に点灯し、2つの電源の利用可能状況を示します。
2	ポートLED	<p>ポートLEDは、各LEDに対応するKVMポートのステータス情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 緑:ポートに接続されているコンピューターはオンラインです。 ◆ 赤:ポートに接続されているコンピューターが選択されています (KVMフォーカスがあります)。 ◆ オレンジ:ポートに接続されているコンピューターがオンラインで選択されています。 <p>通常、LEDは点灯状態です。ただし、オートスキャンモードまたはスキップモードで該当するポートにアクセスすると、0.5秒間隔で点滅します (p.243 およびp.244参照)。</p>
3	LAN LED	<p>プライマリーおよびセカンダリー10/100/1000Mbps LAN LEDです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 赤色:10 Mbps ◆ オレンジ:100 Mbps ◆ グリーン:1000 Mbps ◆ 点滅している場合、インターネット経由でIP-KVMスイッチにアクセス中であることを示します。
4	ラップトップUSB コンソールポート	ノートパソコンをIP-KVMスイッチに直接接続するための専用USBポートで、コンソール操作を容易にします。
5	USBポート	<p>ここでは、USBキーボードとマウスを接続できます。これは、キーボードとマウスを接続するにあたり、リアパネルのポートの代わりに使うことも、あるいは、リアパネルとは別に追加で使用することも可能です。このポートは、VシリーズのIP-KVMスイッチにおいて、バーチャルメディアの利用権限が付与されているアカウントではUSBストレージ周辺機器 (CD/DVD、HD、フラッシュドライブなど)の接続にも使用できます。ただし暗号化USBメモリ、タッチパネルやプリンター、静脈認証、オーディオインターフェースなど汎用USB機器には対応していません。</p>

番号	名称	説明
6	リセットボタン	<p>注意:このスイッチは、くぼみがあるため、ペーパークリップの先端やボールペンなどの小さいもので押し込む必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 製品の動作中に、このボタンを押して離すと、システム再起動を実行します。 ◆ 製品の動作中に、このボタンを3秒以上長押しすると、アカウント情報以外の設定内容を消去し、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。 <p>注意:この操作を行っても、ユーザーアカウントの情報は消去されません。ユーザーアカウント情報の消去については、p.321「ログイン情報の消去」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ このボタンを押したまま製品本体の電源をオンにすると、これまでにアップグレードされたファームウェアの内容を破棄して、工場出荷時におけるファームウェアバージョンに戻します。この操作によって、ファームウェアアップグレードの失敗から回復して、アップグレードを再度できます。 <p>注意:このオプションはファームウェアアップグレードに失敗し、製品本体が操作できなくなった場合にのみ、実行してください。</p>
7	オーディオポート	<p>ここには、スピーカーとマイクを接続します。</p>
8	ポート切替ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「PORT DOWN」を押すと、ローカルコンソールで操作中のポートから前のポートへと手動で切り替えます。 ◆ 「PORT UP」を押すと、ローカルコンソールで操作中のポートから次のポートへと手動で切り替えます。

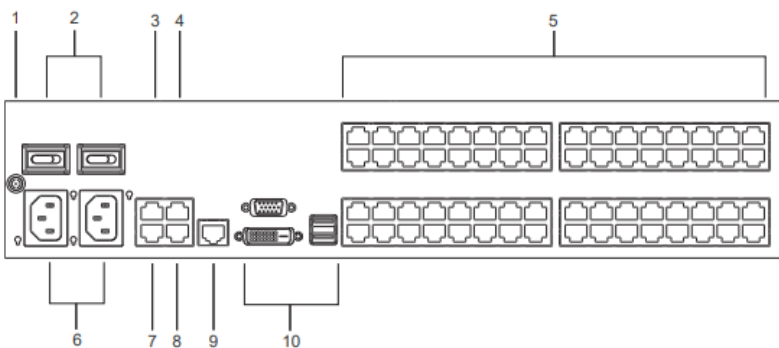
KN2116VA / KN4116VA / KN8116V リアパネル



KN1132V / KN2132VA / KN4132VA / KN8132V リアパネル

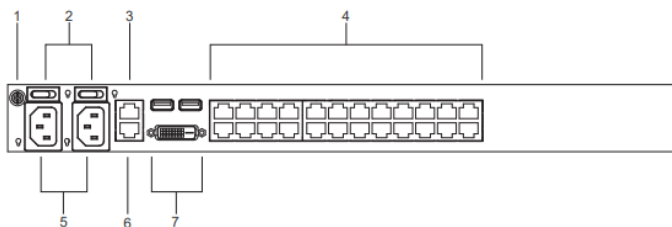


KN4164V / KN8164V リアパネル

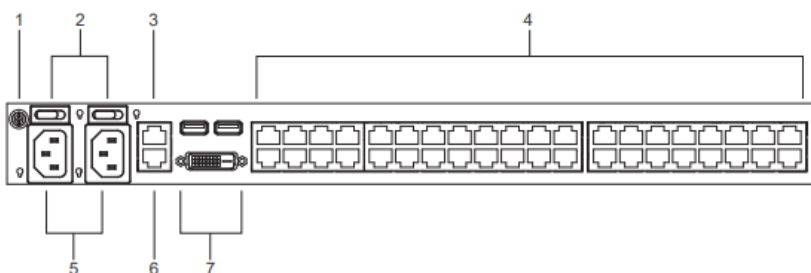


番号	名称	説明
1	グラウンドターミナル	本製品のアースに使用される接地線を接続します。
2	電源スイッチ	製品本体に電源を入れたり切ったりするための標準的なロックスイッチです。
3	セカンダリーLANポート	ここには、ユニットをバックアップ・ネットワークインターフェース(10/100/1000Mbps)に接続するケーブルを接続します。
4	PONポート	このコネクタは、電源管理デバイス(PON)用に提供されています。 このデバイスは、サーバーをネットワーク経由でリモート起動するためにIP-KVMスイッチに取り付けられたユニットです。 セットアップの詳細については、p.37 「KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V/KN8116V 単体構成でのセットアップ」の手順6を参照してください。PONユニットの詳細については、販売店にお問い合わせください。
5	KVMポート	ここには、ユニットをコンピューターモジュール(サーバーに接続)にリンクするCat 5eケーブルを接続します。
6	電源ソケット	ここには、電源ケーブルを接続します。左側の電源ソケットは左側の電源スイッチに対応し、右側の電源ソケットは右側の電源スイッチに対応します。
7	プライマリーLANポート	ここには、ユニットをプライマリー・ネットワークインターフェース(10/100/1000Mbps)に接続するケーブルを接続します。
8	シリアルポート	このポートはシリアルデバイスに使用できます。また、ネットワーク経由でユニットを使用できない場合は、接続中のダイヤルに使用できます。 セットアップの詳細については、p.37 「KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V/KN8116V 単体構成でのセットアップ」の手順7を参照してください。
9	リモートコンソールポート	このポートは予約済みであり、今後のアップグレードでリモートコンソールポートとして使用できるようになります。
10	ローカルコンソールポート	ユニットには、ローカルコンソールからだけでなく、ネットワーク経由でもアクセスできます。ここには、ローカルコンソールデバイス(USBキーボード、USBマウス、DVI-DまたはVGAモニター)を接続します。

KN2124VA / KN4124VA リアパネル



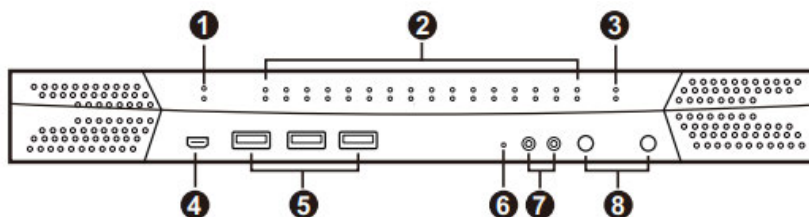
KN2140VA / KN4140VA リアパネル



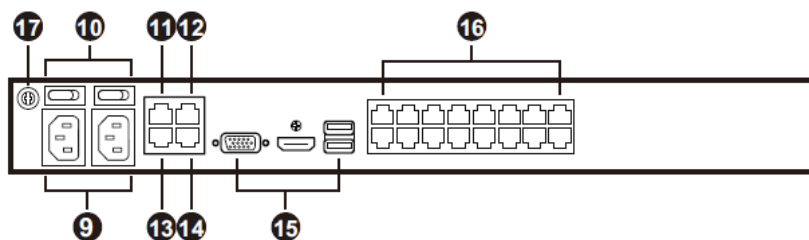
番号	名称	説明
1	グラウンドターミナル	ユニットのアースに使用される接地線を接続します。
2	電源スイッチ	製品本体に電源を入れたり切ったりするための標準的なロッカースイッチです。
3	セカンダリーLANポート	ここには、ユニットをバックアップ・ネットワークインターフェース (10/100/1000Mbps) に接続するケーブルを接続します。
4	KVMポート	ここには、ユニットをコンピューターモジュール (サーバーに接続) にリンクする Cat 5e ケーブルを接続します。
5	電源ソケット	ここには、電源ケーブルを接続します。左側の電源ソケットは左側の電源スイッチに対応し、右側の電源ソケットは右側の電源スイッチに対応します。
6	プライマリーLANポート	ここには、ユニットをプライマリー・ネットワークインターフェース (10/100/1000Mbps) に接続するケーブルを接続します。
7	ローカルコンソールポート	ユニットには、ローカルコンソールからだけでなく、ネットワーク経由でもアクセスできます。ここには、ローカルコンソールデバイス (USB キーボード、USB マウス、DVI-I モニター) を接続します。

KN1132VB/KN2116VB/KN4016VB/KN4024VB/KN8032VB

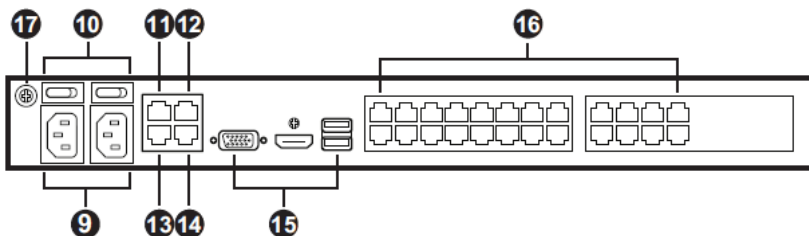
フロントパネル



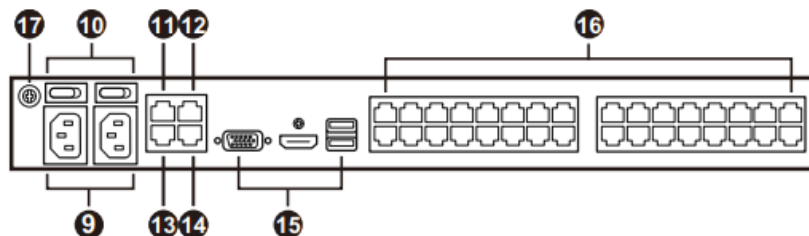
KN2116VB/KN4016VB リアパネル



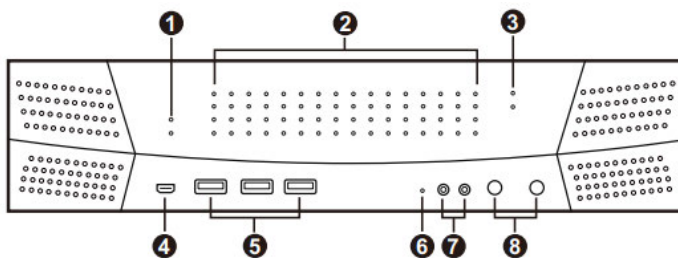
KN4024VB リアパネル



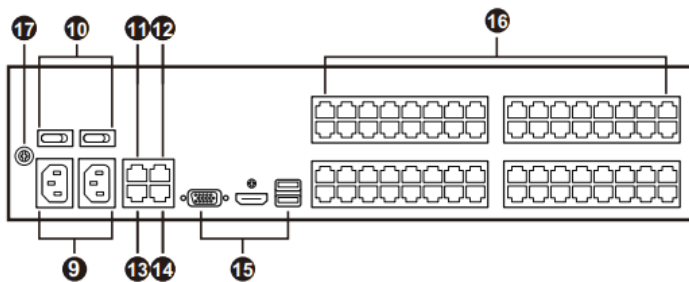
KN1132VB/KN8032VB リアパネル



KN8064VB フロントパネル



KN8064VB リアパネル



番号	名称	説明
1	電源LED	本体の電源がオンになると青色に点灯し、2つの電源の利用可能状況を示します。
2	ポートLED	<p>ポートLEDは、各LEDに対応するKVMポートのステータス情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 緑: ポートに接続されているコンピューターはオンラインです。 ◆ 赤: ポートに接続されているコンピューターが選択されています (KVMフォーカスがあります)。 ◆ オレンジ: ポートに接続されているコンピューターがオンラインで選択されています。 <p>通常、LEDは点灯状態です。ただし、オートスキャンモードまたはスキップモードで該当するポートにアクセスすると、0.5秒間隔で点滅します (p.243およびp.244参照)。</p>
3	LAN LED	<p>プライマリーおよびセカンダリー10/100/1000Mbps LAN LEDです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 赤色: 10 Mbps ◆ オレンジ: 100 Mbps ◆ グリーン: 1000 Mbps ◆ 点滅している場合、インターネット経由でIP-KVMスイッチにアクセス中であることを示します。
4	ラップトップUSBコンソールポート	ノートパソコンをIP-KVMスイッチに直接接続するための専用USBポートで、コンソール操作を容易にします。
5	USBポート	<p>ここには、USBキーボードとマウスを接続できます。これは、キーボードとマウスを接続するにあたり、リアパネルのポートの代わりに使うことも、あるいは、リアパネルとは別に追加で使用することも可能です。このポートは、VシリーズのIP-KVMスイッチにおいて、バーチャルメディアの利用権限が付与されているアカウントではUSBストレージ周辺機器 (CD/DVD、HD、フラッシュドライブなど) の接続にも使用できます。ただし暗号化USBメモリ、タッチパネルやプリンター、静脈認証、オーディオインターフェースなど汎用USB機器には対応していません。</p>

番号	名称	説明
6	リセットボタン	<p>注意:このスイッチは、くぼみがあるため、ペーパークリップの先端やボールペンなどの小さいもので押し込む必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 製品の動作中に、このボタンを押して離すと、システム再起動を実行します。 ◆ 製品の動作中に、このボタンを3秒以上長押しすると、アカウント情報以外の設定内容を消去し、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。 <p>注意:この操作を行っても、ユーザーアカウントの情報は消去されません。</p> <p>ユーザーアカウント情報の消去については、p.321「ログイン情報の消去」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ このボタンを押したまま製品本体の電源をオンにすると、これまでにアップグレードされたファームウェアの内容を破棄して、工場出荷時におけるファームウェアバージョンに戻します。この操作によって、ファームウェアアップグレードの失敗から回復して、アップグレードを再度できます。 <p>注意:このオプションはファームウェアアップグレードに失敗し、製品本体が操作できなくなった場合にのみ、実行してください。</p>
7	オーディオポート	<p>ここには、スピーカーとマイクを接続します。</p>
8	ポート切替ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「PORT DOWN」を押すと、システムにおける現在のポートから前のポートへと手動で切り替えます。 ◆ 「PORT UP」を押すと、システムにおける現在のポートから次のポートへと手動で切り替えます。
9	電源ソケット	<p>ここには、電源ケーブルを接続します。左側の電源ソケットは左側の電源スイッチに対応し、右側の電源ソケットは右側の電源スイッチに対応します。</p>
10	電源スイッチ	<p>製品本体に電源を入れたり切ったりするための標準的なロックスイッチです。</p>
11	プライマリーLANポート	<p>ここには、ユニットをプライマリー・ネットワークインターフェース(10/100/1000Mbps)に接続するケーブルを接続します。</p>

番号	名称	説明
12	PONポート	<p>このコネクタは、電源管理デバイス(PON)用に提供されています。</p> <p>このデバイスは、サーバーをネットワーク経由でリモート起動するためにIP-KVMスイッチに取り付けられたユニットです。</p> <p>セットアップの詳細については、p.40</p> <p>「KN1132VB/KN2116VB/KN4016VB/KN4024VB/KN8032VB/KN8064VB 単体構成でのセットアップ」の手順6を参照してください。PONユニットの詳細については、販売店にお問い合わせください。</p>
13	セカンダリーLANポート	<p>ここには、ユニットをバックアップ・ネットワークインターフェース(10/100/1000Mbps)に接続するケーブルを接続します。</p>
14	シリアルポート	<p>このポートはシリアルデバイスに使用できます。また、ネットワーク経由でユニットを使用できない場合は、接続中のダイヤルに使用できます。</p> <p>セットアップの詳細については、p.40</p> <p>「「KN1132VB/KN2116VB/KN4016VB/KN4024VB/KN8032VB/KN8064VB 単体構成でのセットアップ」の手順7を参照してください。</p>
15	ローカルコンソールポート	<p>ユニットには、ローカルコンソールからだけでなく、ネットワーク経由でもアクセスできます。ここには、ローカルコンソールデバイス(USBキーボード、USBマウス、VGAまたはHDMIモニター)を接続します。</p>
16	KVMポート	<p>ここには、ユニットをコンピューターモジュール(サーバーに接続)にリンクするCat 5eケーブルを接続します。</p>
17	グラウンドターミナル	<p>ユニットのアースに使用される接地線を接続します。</p>

第2章

ハードウェアのセットアップ

概要

USBインターフェースに対応したコンピューターを接続できるように、IP-KVMスイッチは、本体と接続機器間の仲介として機能するコンピューターモジュールを利用した設計となっております(詳細については、p.43「コンピューターモジュール接続図」を参照)。

接続するサーバーまたはデバイス1台ごとに、コンピューターモジュールが1台必要です。コンピューターモジュールの型番は、p.13「コンピューターモジュール」に記載されています。

セットアップの前に



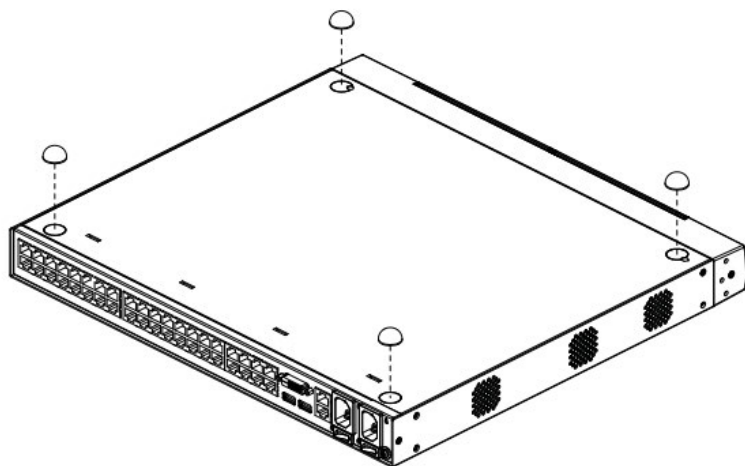
1. 本機の設置および接地に関する重要な安全上の注意事項は、p.259以降に記載されています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続するデバイスすべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここからも電源ケーブルを抜いてください。
3. 環境温度が高い場合は、注意してデバイス进行操作してください。このような条件下では、デバイスの表面が過熱する可能性があります。たとえば、環境温度が50°Cに近づくと、デバイスの表面温度が70°C以上になる場合があります。

卓上設置とラックへの取り付け

IP-KVMスイッチは、さまざまな方法で卓上に設置したり、ラックにマウントしたりできます。以下のセクションでは、各方法の手順について説明します。

卓上設置

IP-KVMスイッチは、その重量と接続されているケーブルの重量を安全に支えることができる、適切な平面上に設置できます。IP-KVMスイッチ本体を置く、または複数のユニットを積み重ねるには、次の図に示すように、製品パッケージに付属のゴム製フットパッドの下部から台紙を取り外し、IP-KVMスイッチ本体の底面パネルの角に貼り付けます：



注意：

適切な通気を確保するために製品の両側に少なくとも5cm程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも13cm程度の余裕を設けて設置してください。

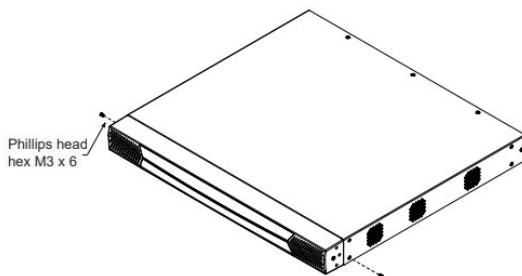
KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN1132VB/ KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB/KN4024VB/KN4132VA/KN8032V B/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8064VB/KN8164V/ KN8116V ラックへのマウント

KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116V B/KN2132VA/KN4016VB/KN4024VB/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140V A/KN4140VA/KN8116Vは、19インチラックに1Uサイズでマウントできます。また、KN4164V/KN8064VB/KN8164Vは、19インチラックに2Uサイズでマウントできます。マウント用ブラケットは、用途に応じてラックのフロント側、リア側のどちらにも取り付けることができます。

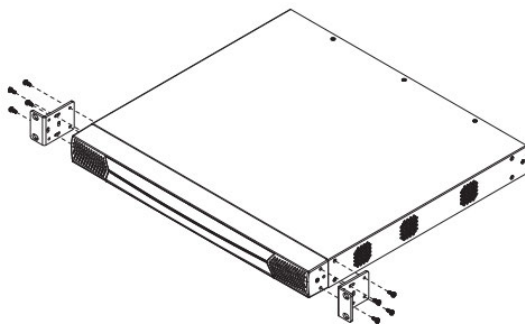
ラックへのマウント – フロント

製品本体をラックのフロント側に取り付ける場合は、下記の手順に従って作業を行ってください。

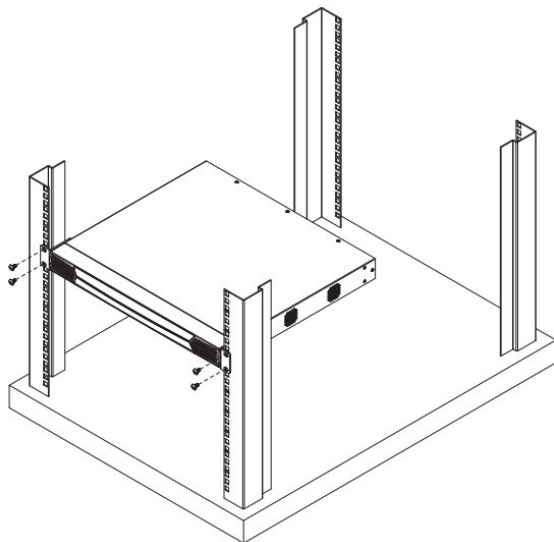
1. 製品本体のフロント側にあるネジを外してください。



2. ラックマウントキットに同梱されたM3プラスネジ8mmを使用して、製品本体で左右両方のフロント側にラックマウントブラケットをネジ止めしてください。



3. 製品本体をラックのフロント側に固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。
4. マウント用ブラケットをラックのフロント側にネジ止めしてください。



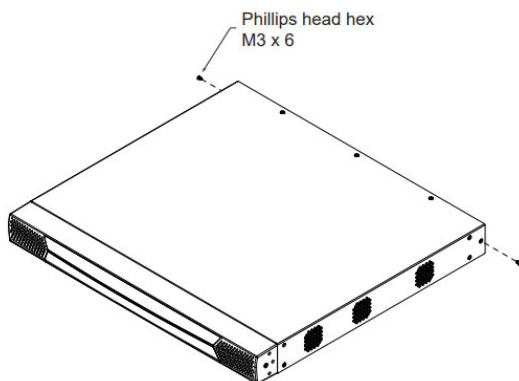
注意:

ネジとケージナットは、ラックマウントキットに同梱されていません。

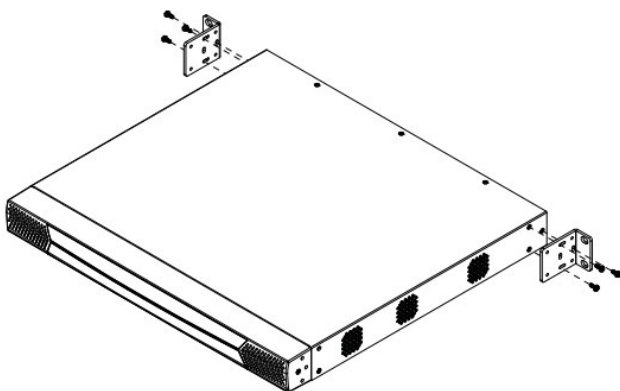
ラックへのマウント - リア

製品本体をラックのリア側に取り付ける場合は、下記の手順に従って作業を行ってください。

1. 製品本体のリア側近くにある左右両方のネジ各1個(合計2個)を外してください。

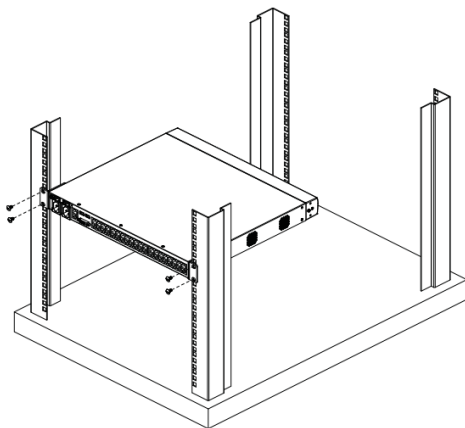


2. ラックマウントキットに同梱されたM3プラスネジ8mmを使用して、製品本体の左右両方のリア側にラックマウントブラケットをネジ止めしてください。



3. 製品本体をラックのリア側に固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。

4. マウント用ブラケットをラックのリア側にネジ止めしてください。



注意:

ネジとケージナットは、ラックマウントキットに同梱されていません。

KN2124VA/KN4124VA/KN2140VA/KN4140VA

単体構成でのセットアップ

単体構成でセットアップするには、p.36から始まる接続図(図中の番号は、手順の番号に対応)を参考にしながら、次の手順に従って作業を行ってください:

1. ローカルコンソールのキーボード、モニター、およびマウスをユニットのコンソールポートに差し込みます。各ポートは色分けされていて、適切なアイコンが付いています。

注意:

1. USBキーボードおよびマウスは、フロントパネルのUSBポートとコンソールポートセクションのポートに接続できます。
 2. IP-KVMスイッチでサポートされるユニットとローカルモニター間の距離は、最大で20mです。
-

2. ストレート配線のCat 5eケーブルを使用して、取り付けるサーバーに適したコンピュータモジュールを空いているKVMポートに接続します(詳しくはp.13の表を参照してください)。

注意:

1. KA7120またはKA7130のコンピュータモジュールを使用している場合、マウスポインターの同期についてはp.309を参照してください。
 2. コンピュータモジュールKA7140の使用環境における設定と動作については、p.303を参照してください。
 3. KVMスイッチとコンピュータモジュールの距離は、KA7140では300m、KA71xxでは50m(Cat 5eケーブルでは最長40m、Cat 6ケーブルでは最長50m)を超えないようにしてください。
-

3. コンピュータモジュールのコネクターを、取り付けるサーバーの適切なポートに差し込みます(p.43「コンピュータモジュール接続図」参照)。
4. LANまたはWANに接続されているケーブルを、IP-KVMスイッチにおけるプライマリネットワークのインターフェースソケットに差し込みます。
5. (オプション)LANまたはWANからの別のケーブルをIP-KVMスイッチのバックアップ(セカンダリー)ネットワークのインターフェースソケットに差し込みます。

6. 適切な接地線を使用して、IP-KVMスイッチのグラウンドターミナルを適切な接地物に接続することで、製品本体をアース接続します。

注意:

この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の誤動作防止や破損防止に一定の効果があります。

7. パッケージに同梱されている電源ケーブルをIP-KVMスイッチの電源ソケットに差し込んだら、プラグ部分をAC電源に差し込みます。

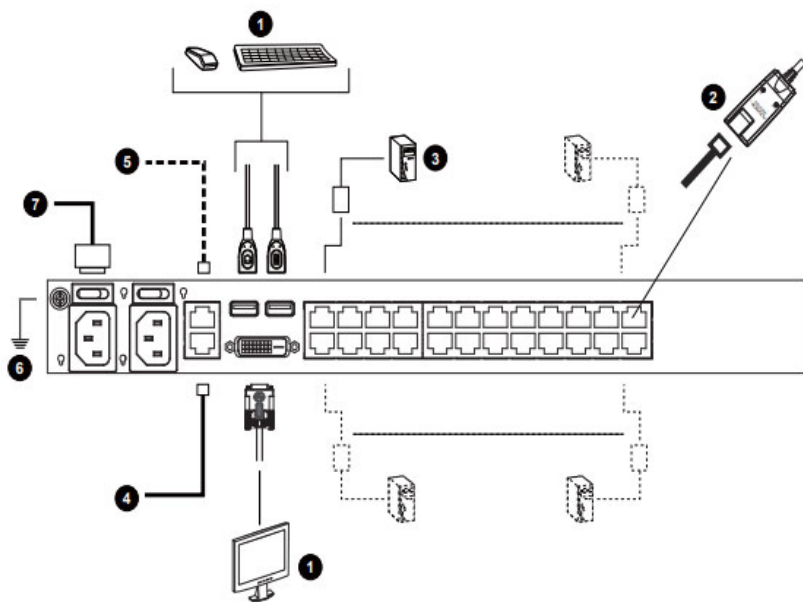
電源ソケットを1つしか使用しない場合は、必ず正しい電源スイッチを入れてください(p.22「電源スイッチ」参照)。両方の電源ソケットを使用する場合、どちらの電源スイッチを使用してもIP-KVMスイッチをオンにできます。デュアル電源を有効にするには、両方の電源スイッチをオンにします。

注意:

UPSまたはATEN PN9108/PN0108に電源を接続する場合は、標準の電源ケーブルではなく、パッケージに付属のユーティリティー電源ケーブルを使用してください。

8. IP-KVMスイッチに対してケーブルの接続が終わったら、IP-KVMスイッチ本体の電源をオンにできます。IP-KVMスイッチに電源が入ったら、サーバーの電源を入れることができます。

接続図(単体使用時)



注意:

上図はKN2124VAを使用した場合の構成図です。他のKNシリーズのIP-KVMスイッチのセットアップは、追加のKVMポートを提供する点のみが異なります。

KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA /KN8132V/KN4164V/KN8164V/KN8116V

単体構成でのセットアップ

単体構成でセットアップするには、p.39から始まる接続図(図中の番号は、手順の番号に対応)を参考にしながら、次の手順に従って作業を行ってください:

1. ローカルコンソールのキーボード、モニター、およびマウスをユニットのコンソールポートに差し込みます。各ポートは色分けされていて、適切なアイコンが付いています。

注意:

1. USBキーボードおよびマウスは、フロントパネルのUSBポートとコンソールポートセクションのポートに接続できます。
 2. IP-KVMスイッチでサポートされるユニットとローカルモニター間の距離は、最大で20mです。
-

2. ストレート配線のCat 5eケーブルを使用して、取り付けるサーバーに適したコンピューターモジュールを空いているKVMポートに接続します(詳しくはp.13の表を参照してください)。

注意:

1. KA7120またはKA7130のコンピューターモジュールを使用している場合、マウスポインターの同期についてはp.309を参照してください。
 2. コンピューターモジュールKA7140の使用環境における設定と動作については、p.303を参照してください。
 3. IP-KVMスイッチとコンピューターモジュールの距離は、KA7140では300m、KA71xxでは50m(Cat 5eケーブルでは最長40m、Cat 6ケーブルでは最長50m)を超えないようにしてください。
-

3. コンピューターモジュールのコネクタを、取り付けるサーバーの適切なポートに差し込みます(p.43「コンピューターモジュール接続図」参照)。
4. LANまたはWANに接続されているケーブルを、IP-KVMスイッチにおけるブライマリーネットワークのインターフェースソケットに差し込みます。

5. (オプション)LANまたはWANに接続されている別のケーブルを、IP-KVMスイッチのバックアップ(セカンダリー)ネットワークのインターフェースソケットに差し込みます。
6. (オプション)Cat 5eケーブルを使用して、IP-KVMスイッチのPONポートにシリアルアダプターを接続します。電源管理デバイスのPON INポートにアダプターを接続します。

注意:

1. 電源管理デバイスおよびPDUについては、GUIの「デバイス管理 / OOB/コンソールポート設定」に移動し、38400bpsのボーレートを選択します。
2. KNとPNの両方でCC管理機能が無効になっていることを確認します。
3. 例に示されたPONユニットはPN0108です。適切なユニットの一覧については、p.324「サポートされる電源管理デバイス」およびp.325「サポートされるPDU」を参照してください。

-
7. (オプション)ストレート配線のCat 5eケーブルを使用して、IP-KVMスイッチのシリアルポートにシリアルアダプターを接続します。アダプターのシリアルコネクタをシリアルデバイスまたはモデムのDB-9ポートに接続します(接続機器のCOMポートを設定する方法については、p.185「操作モード」を参照してください)。
 8. 適切な接地線を使用して、IP-KVMスイッチのグラウンドターミナルを適切な接地物に接続することで、製品本体をアース接続します。

注意:

この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の誤動作防止や破損防止に一定の効果があります。

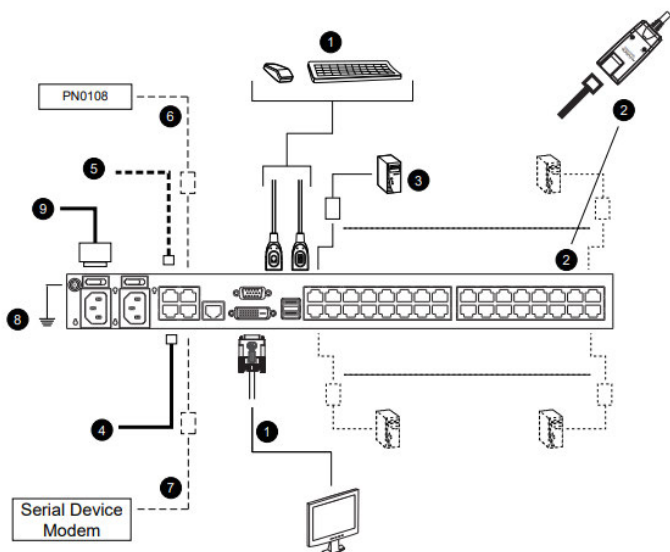
-
9. パッケージに同梱されている電源ケーブルをIP-KVMスイッチの電源ソケットに差し込んだら、プラグ部分をAC電源に差し込みます。
電源ソケットを1つしか使用しない場合は、必ず正しい電源スイッチを入れてください(p.21「電源スイッチ」参照)。両方の電源ソケットを使用する場合、どちらの電源スイッチを使用してもKVMスイッチをオンにできます。デュアル電源を有効にするには、両方の電源スイッチをオンにします。

注意:

UPSまたはATEN PN9108/PN0108に電源を接続する場合は、標準の電源ケーブルではなく、パッケージに付属のユーティリティー電源ケーブルを使用してください。

10. IP-KVMスイッチに対してケーブルの接続が終わったら、IP-KVMスイッチ本体の電源をオンにできます。IP-KVMスイッチに電源が入ったら、サーバーの電源を入れることができます。

接続図(単体使用時)



注意:

上図はKN8132Vを使用した場合の構成図です。他のKN8シリーズのIP-KVMスイッチのセットアップもKN8132Vと同じですが、追加のKVMポートを提供する点のみが異なります。

KN1132VB/KN2116VB/KN4016VB/KN4024VB/ KN8032VB/KN8064VB 単体構成でのセットアップ

単体構成でセットアップするには、p.42から始まる接続図(図中の番号は、手順の番号に対応)を参考にしながら、次の手順に従って作業を行ってください。

1. 接地線の片方の端をグランドターミナルに接続し、もう片方の端を適切な接地物に接続します。

注意:

この手順は省略しないでください。適切な接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. ローカルコンソールのUSBキーボード、USBマウス、VGAまたはHDMIディスプレイを、ユニットのローカルコンソールポートに接続します。各ポートは色分けされていて、適切なアイコンが付いています。

注意:

- ◆ USBキーボードおよびUSBマウスは、本体のフロントパネルのUSB Type-Aポートまたはリアパネルのローカルコンソールポートに接続できます。
 - ◆ IP-KVMスイッチでサポートされるユニットとローカルモニター間の距離は、最大で20mです。
-

3. ストレート配線のCat 5e/6ケーブルを使用して、取り付けるサーバーに適したコンピューターモジュールを、空いているKVMポートに接続します。

注意:

- ◆ IP-KVMスイッチとコンピューターモジュール間の距離は、使用しているコンピューターモジュールに指定された最大距離を超えてはなりません。
- ◆ KA7120またはKA7130のコンピューターモジュールを使用している場合、マウスポインターの同期についてはp.309を参照してください。
- ◆ コンピューターモジュールKA7140の使用環境における設定と動作については、p.303を参照してください。

- ◆ IP-KVMスイッチとコンピューターモジュールの間の距離は、KA7140では300m、KA71xxでは50mを超えないようにしてください。(Cat 5e ケーブルで最大40m / Cat 6 ケーブルで最大50m)
-

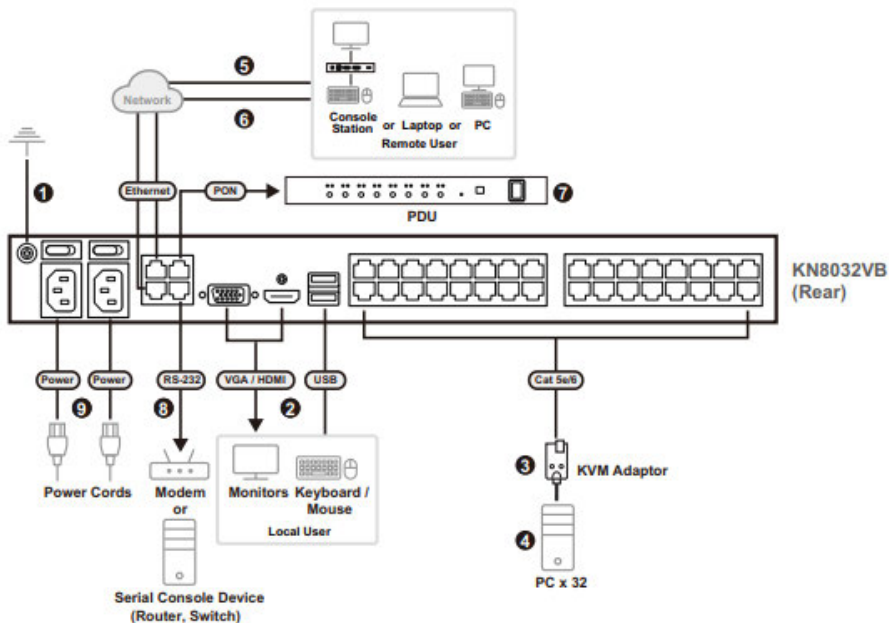
4. コンピューターモジュールのコネクタを、取り付けのサーバーの適切なポートに接続します。
 5. イーサネットケーブルをユニットのプライマリーLANポートに接続します。
 6. (オプション)別のイーサネットケーブルをユニットのセカンダリーLANポートに接続します。
 7. (オプション)ストレート配線のCat5e/6ケーブルを使ってシリアルアダプターをユニットのPONポートに接続したら、このアダプターをPDUユニットのPON入力ポートに接続します。
 8. (オプション)ストレート配線のCat5e/6ケーブルを使ってシリアルアダプターをユニットのシリアルポートに接続したら、このアダプターのシリアルコネクタをPCまたはモデムのDB-9ポートに接続します。
 9. 付属の電源ケーブルを本体の電源ソケットに差し込んだら、プラグ部分をAC電源に差し込みます。
-

注意:

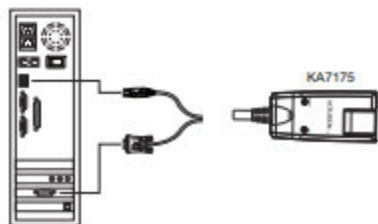
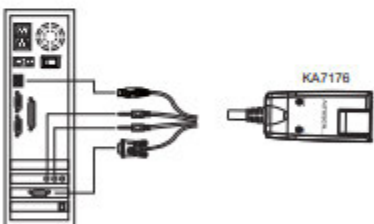
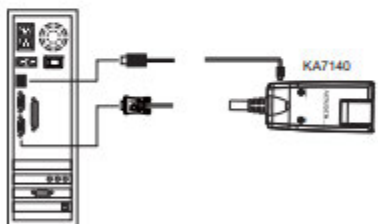
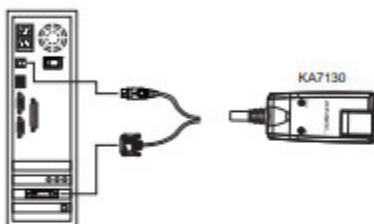
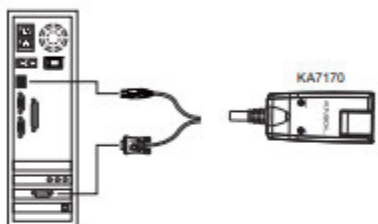
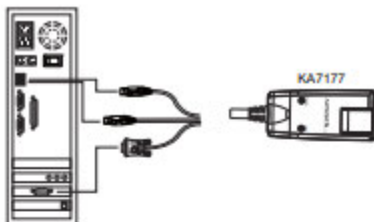
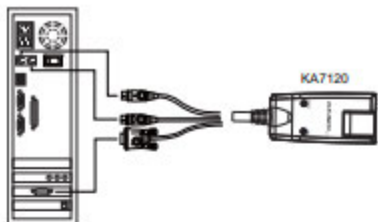
- ◆ 電源ソケットを1つしか使用しない場合は、必ず正しい電源スイッチを入れてください。
 - ◆ 両方の電源ソケットを使用する場合、いずれかの電源スイッチを使用してユニットの電源を入れるか、電源の冗長性のために両方の電源スイッチをオンにできます。
-

10. IP-KVMスイッチの電源を入れてから、コンピューター、ディスプレイ、およびその他の接続されているデバイスの電源を入れます。

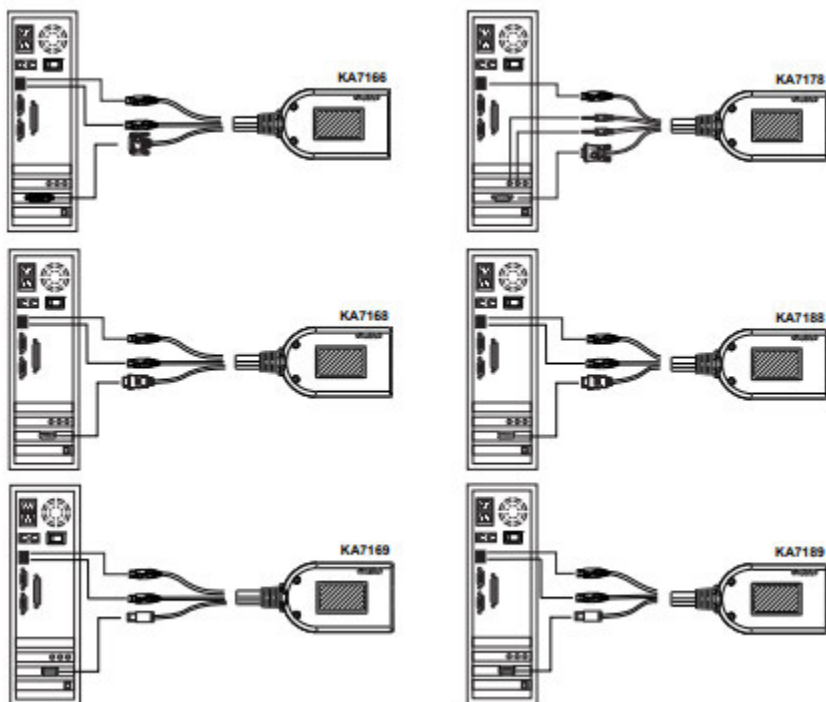
接続図(単体使用時)



コンピューターモジュール接続図



コンピューターモジュール接続図(続き)



2段階でのシステム構成

さらに多くのサーバーを制御するために、元のIP-KVMスイッチのKVMポートから最大16/32の追加のKVMスイッチをカスケード接続できます。384台のサーバー (KN2124VA/KN4124VA)または512台のサーバー (KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB /KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8064VB/KN8164V)を完全な2段階の機器構成で制御できます。

このカスケード接続の機器構成では、IP-KVMスイッチは第1段階のユニットと見なされ、カスケード接続されたKVMスイッチは第2段階のユニットと見なされます。本製品の対応カスケード段数は2段階までとなります。

注意:

例の中でカスケード接続されているKVMスイッチはKH1516Aです。他のKVMスイッチの一覧については、p.324「サポートされるKVMスイッチ」を参照してください。

2段階の機器構成の場合は、p.47の接続図を参照し、次の手順に従って作業を行ってください。

1. 接続するすべてのデバイス(機器構成に存在するすべてのデバイスを含む)の電源が適切に接地され、オフになっていることを確認します。
2. ストレート配線のCat 5eケーブルを使用して、第1段階のユニット(IP-KVMスイッチ)の使用可能な任意のKVMポートをKA7120と接続します(「コンピューターモジュール」参照)。
3. コンピューターモジュールのKVMコネクタを、2段階目にあるユニットのコンソールポート(キーボード、ビデオ、およびマウス)に差し込みます。

注意:

第1段階のユニットと第2段階のユニットの間の距離は、使用するコンピューターモジュールの仕様に基づいて40mまたは50mを超えないようにしてください。

4. KVMケーブル(カスケード接続されたKVMスイッチの「ユーザーマニュアル」の「ケーブル」セクションを参照)を使用して、第2段階のユニットにおける使用可能なKVMポートを、取り付けるサーバーのキーボード、ビデオ、およびマウス

ポートに接続します。

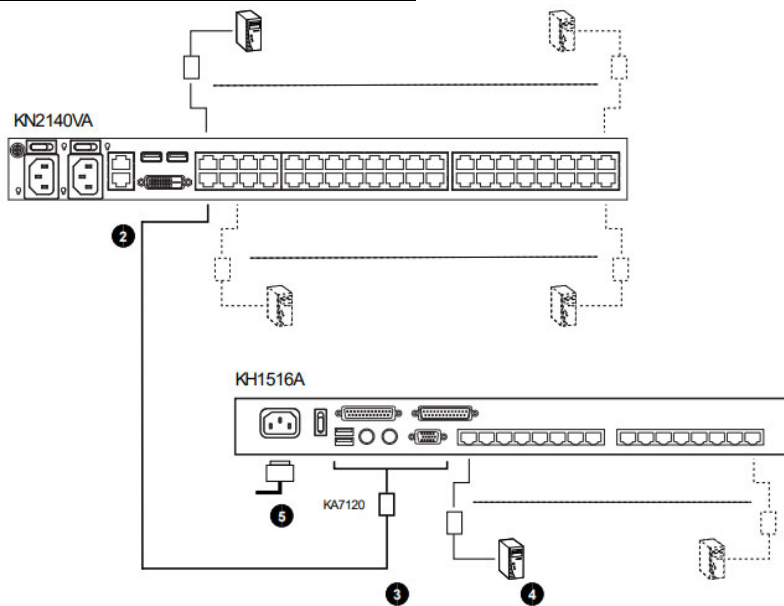
5. カスケード接続されたKVMスイッチに付属の電源ケーブルを本体の電源ソケットに差し込んだら、プラグ部分をAC電源に差し込みます。
6. 接続したい第2段階のユニットがあれば、この手順を繰り返します。
7. 第2段階のユニットの電源をオンにしてから、第1段階のユニットの電源をオンにします。
8. すべてのサーバーの電源を入れます。

注意:

電源投入シーケンスでは、最初にすべての第2段階のKVMスイッチに電源を投入する必要があります。第2段階のユニットにあるすべてのKVMスイッチの電源をオンにしてから、第1段階にあるKVMスイッチの電源をオンにしてください。すべてのKVMスイッチの電源を入れたら、サーバーの電源を入れることができます。

カスケード接続したKVMに対してはバーチャルメディア機能は非対応となります。バーチャルメディア機能を必須とする場合は1段目のKNシリーズ本体にサーバーを接続してご利用ください。

接続図(2段階のカスケード接続時)



注意:

上図はKN2140VAを使用した場合の構成図です。

他のKNシリーズのIP-KVMスイッチの取り付け方法は同じですが、KVMポートの数が少なくなるという点だけが異なります。

CM1164AまたはCM1284を使用した2段階構成

IP-KVMスイッチは、1台のCM1164AまたはCM1284から、最大4台のIP-KVMスイッチを繋げて利用ができます。

(KN2124VA/KN4124VA/KN2116VA/KN4116VA/KN4116VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8064VB/KN8164V/KN8116V)。このカスケード接続の機器構成では、CM1164AまたはCM1284は第1段階のユニットと見なされ、カスケード接続されたIP-KVMスイッチは第2段階のユニットと見なされます。KN本体へさらにカスケード接続の増設はできません。

2段階の機器構成の場合は、p.49の接続図を参照し、次の手順に従って作業を行ってください。

1. 接続するすべてのデバイス(機器構成に存在するすべてのデバイスを含む)の電源が適切に接地され、オフになっていることを確認します。
2. ディスプレイをCM1164AまたはCM1284のリアパネルにあるポートに接続し、USBキーボードとUSBマウスもアイコンが書かれたポートごとに接続します。
3. CM1164AまたはCM1284同梱のKVMケーブルを使用して、CM本体のCPUポートとKN本体のコンソールポートを接続します。KN本体側のUSBコネクタはキーボードコンソールポートに接続してください。

注意:

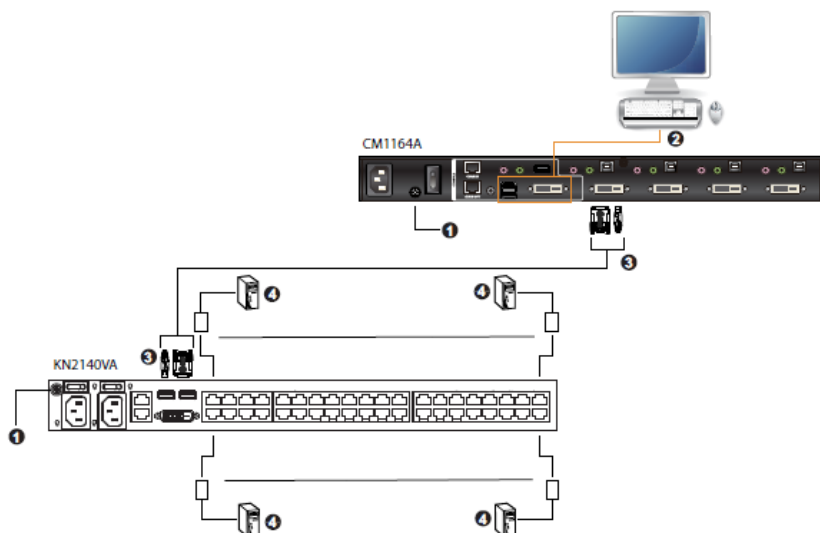
1. 第1段階のユニットと第2段階のユニットの間の距離は、USB規格に基づいて5mを超えないようにしてください。
 2. KN本体のコンソールインターフェイスに合わせてCM1164AまたはCM1284をお選びください。
-
4. KN本体の各CPUポートにサーバーと接続するコンピューターモジュールを接続します。コンピューターモジュールにUSBコネクタが2つある製品は両方ともサーバーに接続してください。
 5. CM1164AおよびCM1284に付属の電源ケーブルを本体の電源ソケットに差し込んだら、プラグ部分をAC電源に差し込みます。

6. 接続するKN本体の電源ケーブルをコンセントに接続します。
7. 第2段階のユニットの電源をオンにしてから、第1段階のユニットの電源をオンにします。
8. KN本体に接続しているすべてのサーバーの電源を入れます。

注意:

電源投入シーケンスでは、最初にすべての第2段階のKVMスイッチに電源を投入する必要があります。第2段階のユニットにあるすべてのKVMスイッチの電源をオンにしてから、第1段階にあるKVMスイッチの電源をオンにしてください。すべてのKVMスイッチの電源を入れたら、サーバーの電源を入れることができます。

接続図(CM1164AとCM1284を使用した2段階でのシステム構成)



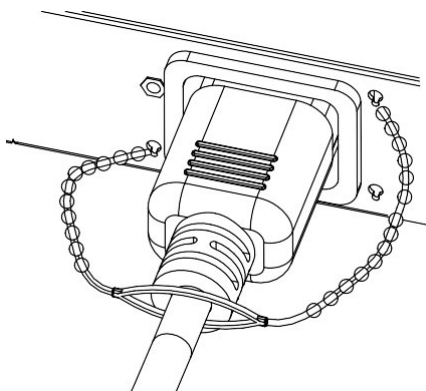
注意:

1. 上図はCM1164AおよびKN2140VAを使用した場合の構成図です。他のKNシリーズのIP-KVMスイッチの取り付け方法は同じですが、KVMポートの数が少なくなるという点だけが異なります。

2. CM1284を使用してKNシリーズのIP-KVMスイッチを取り付ける方法は、CM1284がHDMIインターフェースを使用する点のみが異なります。CM1284を使用した完全な2段階の機器構成では、一部製品ではDVI→HDMIアダプターが必要になります。
-

ケーブルの固定

安全性を高めるには、ATEN Lok-U-Plugケーブルホルダーを使用して、電源供給デバイスのケーブルをIP-KVMスイッチの所定の位置に固定してください。各電源アウトレットの周りにある特別に設計された穴を使用して、ケーブルホルダーを下図のように固定してください。



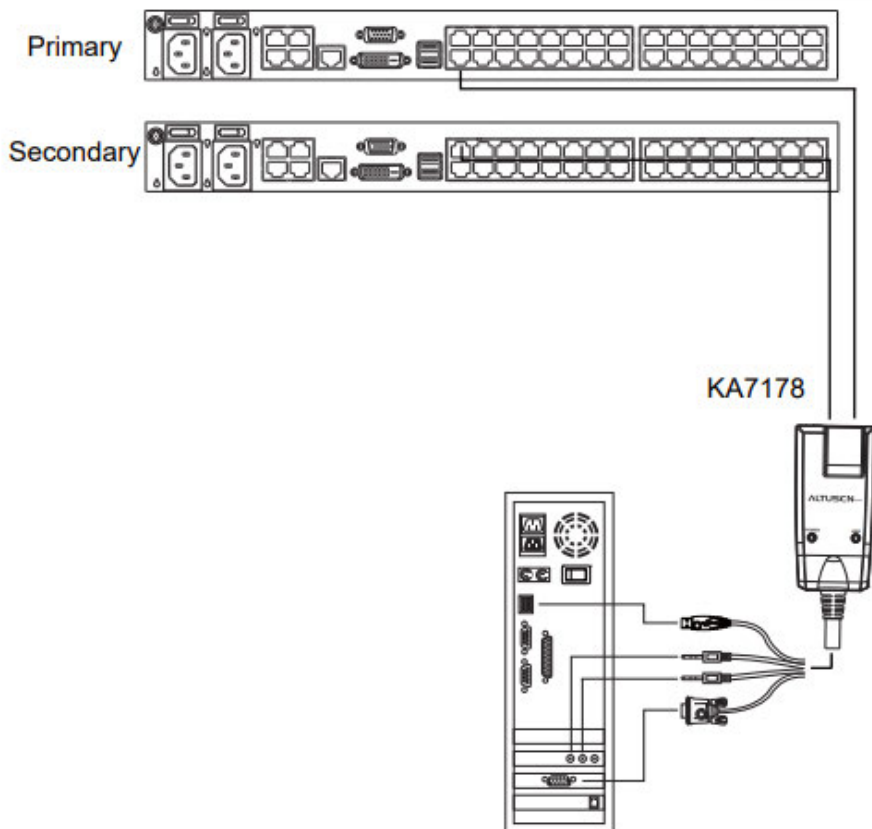
注意:

1. ケーブルホルダーはオプション品です。p.15「ケーブルホルダー」を参照してください。
 2. IP-KVMスイッチと併用できるように特別に設計されたATEN Lok-U-Plugケーブルホルダーのみ使用できます。他の種類のケーブル固定デバイスを使用すると、IP-KVMスイッチまたはユーザーに取り返しの付かない損傷や損害を与える可能性があります。
-

チャンネル転送

コンピューターモジュールKA7178を利用することで1台のサーバーを2台のKVMスイッチからアクセスできるようにしますが、チャンネル転送機能を使用すると、KN8032VBならあたかも1台16バス対応のIPKVMで操作しているような使い方ができます。

下の図を使用して、KA7178アダプターをセットアップし、次のページの指示に従って、両方のKVMスイッチでチャンネル転送を設定してください。



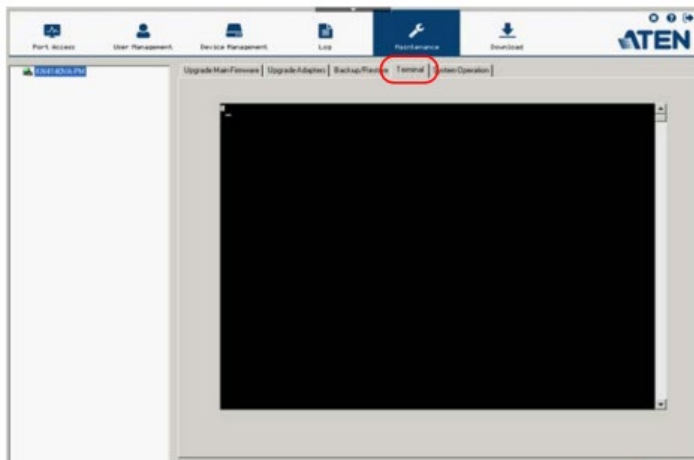
バスの増設について

チャンネル転送機能は、KA7178を2台のKN本体に接続し、以下コマンドで動作モードを変えると仮想的に1台のKVMが16バス利用できるようにするというモードです。ただしこの機能を利用するには全CPUポートをKA7178で接続する必要し、リモートはプライマリのKN本体にログインする必要があります。

チャンネル転送の設定

チャンネルの転送を設定するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「メンテナンス」タブをクリックします。
2. メニューバーから「ターミナル」を選択してください。



3. プライマリーおよびセカンダリーのKVMスイッチでチャンネル転送を設定するには、コマンドラインを使用します。

プライマリーのKVMスイッチでチャンネル転送を有効にするには、次のように入力します。

```
setvchannelmode 1
```

セカンダリーのKVMスイッチでプライマリと接続するため次を入力します。

```
setforward [IPアドレス]
```

PDUのセットアップ

ATEN PDU製品は、アウトレットレベルの制御とリモートアクセスを組み合わせたインテリジェントPDUで、IT管理者はTCP/IP接続を介して、実際に任意の場所からユニットに接続されたデバイスの電源制御をできます。このセクションでは、IP-KVMスイッチ

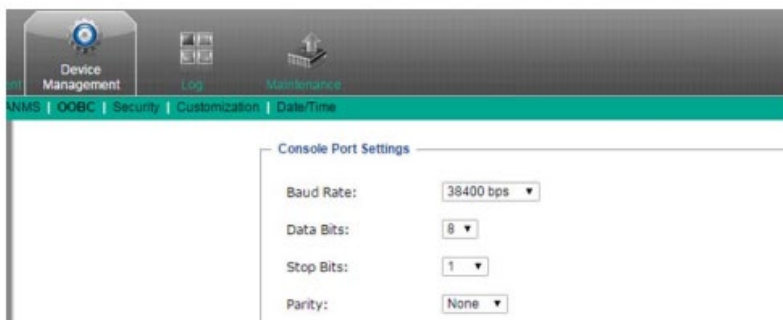
KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB/KN4024VB/KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN4164V/KN8064VB/KN8164V/KN8164V/KN8116Vについて説明しています。

注意:

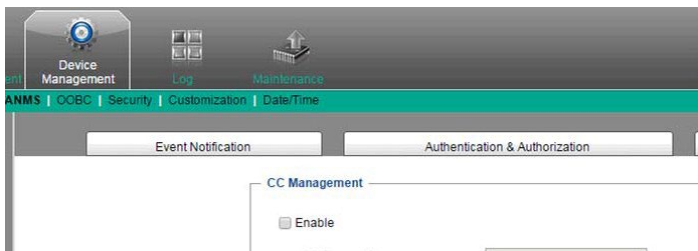
この例で示されているPDUのGUIはPE9216rです。他のPDUの一覧については、p.325「サポートされるPDU」を参照してください。

互換性のあるIP-KVMスイッチと組み合わせてPDUをセットアップするには、以下の画像を参照して、以下の操作を行います。

1. IP-KVMスイッチとPDUの両方をイーサネットスイッチに接続します。
2. PDUのGUIで、「デバイス管理」>「OOBC」の順に参照します。コンソールポート設定で、ボーレートを38400bpsに設定します。



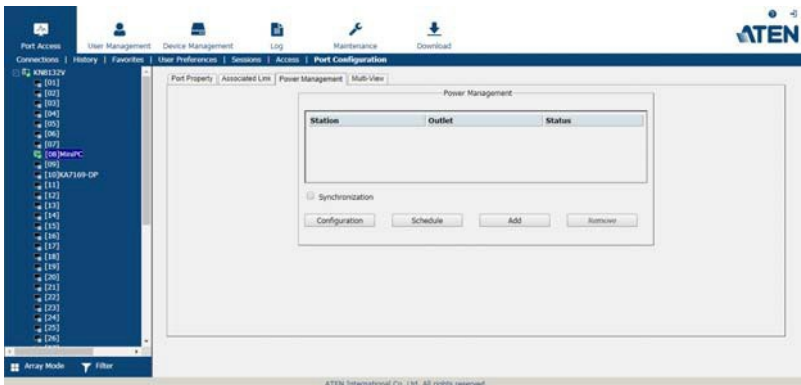
3. 「デバイス管理」で、「CC管理」の「ANMS」を参照し、「有効」からチェックを外します。



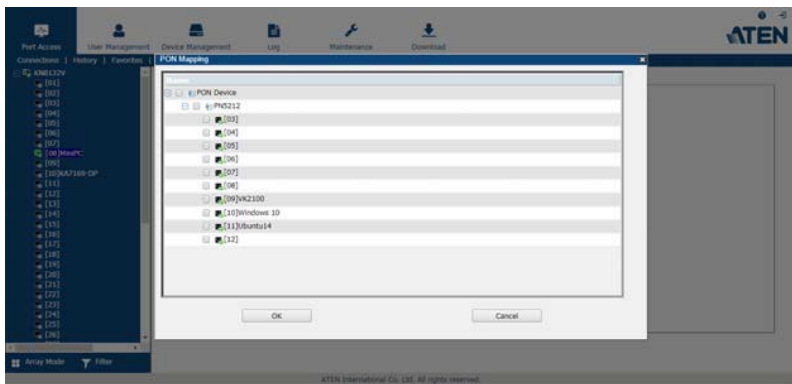
4. 次に、PDU(コンソールのPON IN)をIP-KVMスイッチ(PON)に直接接続します。
5. これに続いて、IP-KVMスイッチのGUIを使用して、「デバイス管理」>「ANMS」の順に参照します。「認証」で、「CC管理」からチェックを外します。



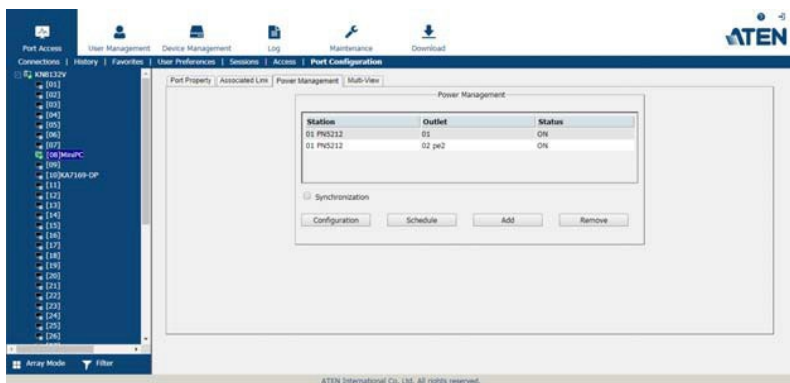
6. 最後に、適切な電源管理権限が割り当てられていることを確認します。「ポートアクセス」>「ポート設定」の順に参照します。左側のツリーメニューから該当するポート番号を選択します。



「追加」(電源デバイス)を選択します。



電源アウトレットの権限は、次に示すように、選択したポートに割り当てられます。



ホットプラグ

IP-KVMスイッチはホットプラグに対応しています。ポートからケーブルを抜き差しすることで、ユニットをシャットダウンすることなく、コンポーネントを一旦取り外して、お使いの機器構成に戻すことができます。

注意:

サーバーのOSがホットプラグに対応していない場合、この機能は正常に動作しないことがあります。

モジュールID機能

コンピューターモジュールの情報(モジュールID、ポートネーム、OS、キーボード言語、アクセスモード)はモジュール内メモリに保存されます。そのため、あるポートから別のポートに繋ぎ変えても、再設定する必要はありません。代わりに、モジュールID機能は、これらの情報を新しい場所にリストアします。

ただし、サーバーとコンピューターモジュールを別のKVMスイッチに移動する場合は、コンピューターモジュールに保存されている情報のみが保持されます。他の設定については、再設定するか、バックアップ/リストア機能(p.231参照)を使用して復元する必要があります。

ポート設定はコンピューターモジュールと一緒に保存されるため、サーバーを元のコンピューターモジュールなしで新しいポートに移動する場合、または別のサーバーをコンピューターモジュールに接続する場合は、新しいサーバーのポート設定を手動で再構成する必要があります。ポート設定について詳しくは、p.131「サイドバーユーティリティー」を参照してください。

電源オフと再起動

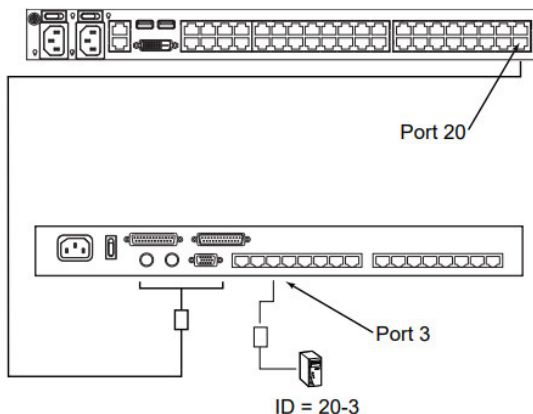
IP-KVMスイッチの電源を切る必要が生じた場合、またはIP-KVMスイッチの電源が切れて再起動が必要な場合は、30秒待つてから電源を入れ直します。サーバーはこの影響を受けないはずですが、サーバーのいずれかが失敗した場合は、単に再起動します。

ポートIDの付番

システム上の各サーバーには、一意のポートIDが割り当てられます。ポートIDは、次のように決定される1つまたは2つのセグメント番号です：

- ◆ 第1段階のユニットに接続されたサーバーには、接続されているKVMポート番号に対応する1セグメントのポートID(1~64)があります。
- ◆ 第2段階のユニットに接続されたサーバーには、2セグメントのポートIDがあります。
 - 2番目のセグメント(1~16)は、サーバーが接続されている第2段階のユニットのKVMポート番号を表します。
 - 最初のセグメント(1~64)は、第2段階のユニットがつながっている第1段階のユニットのKVMポート番号を表します。

たとえば、ポートIDが「20-3」の場合は、第1段階のユニットのKVMポート20に接続されている第2段階のユニットのKVMポート3に接続されているサーバーを指します。



ポート選択

ポートの選択は、GUIを使用して行います。ポートの選択については、第6章「ポートアクセス」を参照してください。

第3章

スーパーアドミニストレーターによる設定

概要

この章では、スーパーアドミニストレーターがIP-KVMスイッチを初めてセットアップするために実行する管理手順について説明します。

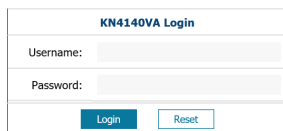
初期設定

IP-KVMスイッチのケーブル接続が完了したら、スーパーアドミニストレーターはユニットをユーザー操作用にセットアップする必要があります。この設定には、ネットワークパラメーターの設定やデフォルトのスーパーアドミニストレーターのログインの変更といった操作が含まれます。これを初めて行うには、ローカルコンソールを使うのが最も便利です。

注意:

ネットワークのリモート設定方法については、p.294「IP アドレスの設定」を参照してください。

ローカルコンソールが接続され、IP-KVMスイッチの電源がオンになると、コンソールモニターにログインプロンプトが表示されます:



KN4140VA Login	
Username:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

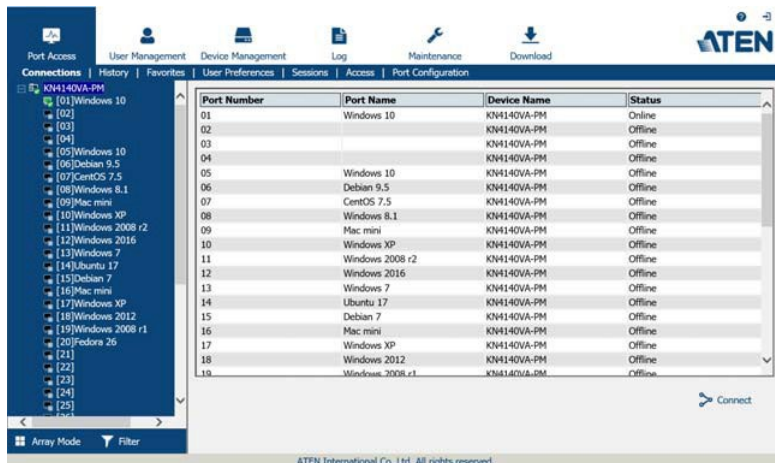
初回ログインの際には、デフォルトアドミニストレーターのアカウントを使用してください。

ユーザーネーム : administrator パスワード : password

注意:

セキュリティ上の理由から、ログインパスワードを変更するように求められます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

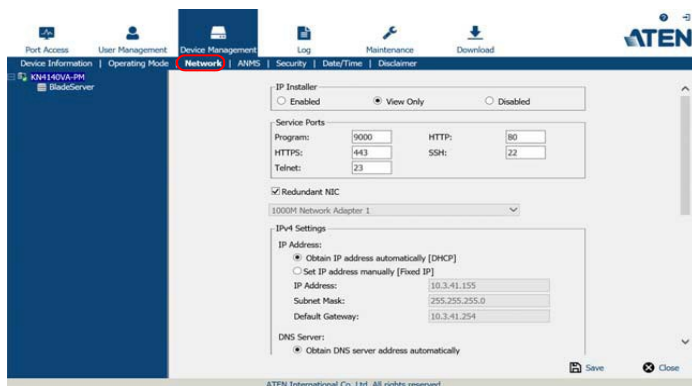
ログインに成功すると、ローカルコンソールのメイン画面が表示されます：



ネットワーク設定

ネットワークを設定するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「デバイス管理」タブをクリックしてください。
2. 「ネットワーク」タブを選択してください。



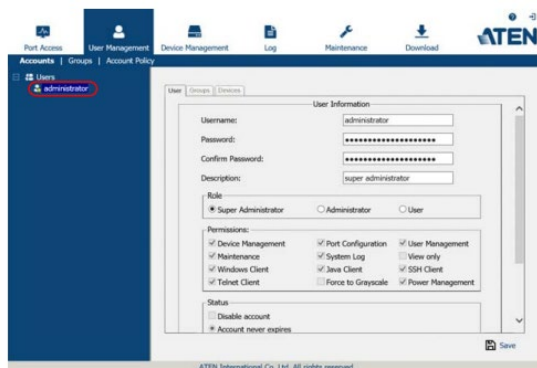
3. p.188「ネットワーク」に記載されている内容に従って各項目を入力します。

スーパーアドミニストレーターのログイン情報の変更

デフォルトのスーパーアドミニストレーターのユーザーネームとパスワードを変更するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 画面上部にある「ユーザー管理」タブをクリックしてください。

「ユーザー管理」画面の左側にあるサイドバーにはユーザーとグループのリストがあります。初めてログインした場合は、スーパーアドミニストレーターだけが表示されます。



2. 左パネルの「administrator」をクリックします。そうすると、「ユーザー情報」画面が表示されます。

User Information

Username:

Password:

Confirm Password:

Description:

Role

Super Administrator Administrator User

Permissions:

<input checked="" type="checkbox"/> Device Management	<input checked="" type="checkbox"/> Port Configuration	<input checked="" type="checkbox"/> User Management
<input checked="" type="checkbox"/> Maintenance	<input checked="" type="checkbox"/> System Log	<input type="checkbox"/> View only
<input checked="" type="checkbox"/> Windows Client	<input checked="" type="checkbox"/> Java Client	<input checked="" type="checkbox"/> SSH Client
<input checked="" type="checkbox"/> Telnet Client	<input type="checkbox"/> Force to Grayscale	<input checked="" type="checkbox"/> Power Management

Status

Disable account

Account never expires

Account expires on

User must change password at next logon

User cannot change password

Password never expires

Password expires after days

3. ユーザーネームとパスワードを固有のものに変更してください。
4. パスワードが正しいことを確認するために、「確認用パスワード」欄にパスワードを再度入力してください。
5. 「保存」をクリックしてください。
6. 正常に変更されたことを知らせるダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックしてください。
7. ローカルコンソールのメイン画面にある別の項目をクリックすると、この画面を閉じます。

次の操作

ネットワークを設定し、デフォルトのスーパーアドミニストレーターのパスワードを変更したら、他の管理アクティビティーに進むことができます。これには、ユーザー管理、デバイス管理、およびファームウェアアップグレードのメンテナンスが含まれます。

これらのアクティビティーは、IP-KVMスイッチのGUIユーティリティーを使用して実行できます。これには、ローカルコンソール、ブラウザーベースのWindows ActiveXビューア、ブラウザーベースのJavaクライアントビューア、スタンドアロンのWindowsクライアントAP、およびスタンドアロンのJavaクライアントAPが含まれます。最適なアプローチを選択してください。

注意:

ファームウェアアップグレードのメンテナンスは、ローカルコンソールからは実行できません。この操作には、IP-KVMスイッチの他のGUIユーティリティーのいずれかでリモートからログインする必要があります。

第4章 ログイン

概要

IP-KVMスイッチは、ローカルコンソール、インターネットブラウザ、Windowsアプリケーション(AP)プログラム、およびJavaアプリケーション(AP)プログラムからアクセスできます。

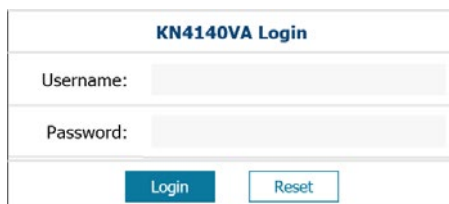
どのアクセス方法を選択しても、IP-KVMスイッチの認証手順では、有効なユーザーネームとパスワードを送信する必要があります。間違ったログイン情報が入力されると、認証ルーチンから、「無効なユーザーネームまたはパスワード」や「ログイン失敗」のメッセージが返ってきます。この類のメッセージが表示された場合は、正しいユーザーネームとパスワードで再ログインしてください。

注意:

無効なログイン試行が一定の回数を超えると、タイムアウト時間が作動します。この場合、このタイムアウト時間が経過するまで、再ログインすることができなくなります。詳しくは、p.202「ログイン失敗」を参照してください。

ローカルコンソールによるログイン

ローカルコンソールが接続されていて、ユーザーがログインしていない場合、IP-KVMスイッチのログイン画面がモニターに表示されます。



KN4140VA Login	
Username:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「**ログイン**」をクリックします。そうすると、ローカルコンソールのメイン画面が表示されます。ローカルコンソールのメイン画面は、ウェブブラウザ、Winクライアント、およびJavaクライアントのメイン画面と同様です。ウェブブラウザのメイン画面については、p.73を参照してください。

注意:

セキュリティ上の理由から、アドミニストレーターとして初めてログインする場合は、ログインパスワードの変更を求められます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

ブラウザによるログイン

IP-KVMスイッチは、任意のプラットフォームで動作するインターネットブラウザを介してアクセスできます。製品本体にアクセスするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. ブラウザーを開き、アクセスするIP-KVMスイッチのIPアドレスをブラウザのロケーションバーで指定します。

注意:

セキュリティのために、管理者によってログイン文字列が設定されている場合があります(詳細についてはp.206を参照してください)。その場合、ログインの際に、IPアドレスの後スラッシュを入れてから文字列を入力してください。次に例を示します。

192.168.0.100/kn8164v

IPアドレスやログイン文字列がご不明な場合は、管理者にご相談ください。

2. セキュリティー警告ダイアログボックスが表示されたら、証明書を受け入れます。これは信頼できるものです(詳細については、p.313「信頼された証明書」を参照)。2番目の証明書が表示された場合は、それも受け入れます。「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)」をクリックすると、ログイン画面が表示されます。

KN4140VA Login	
Username:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

3. ユーザーネームとパスワード(管理者が設定)を入力し、「ログイン」をクリックすると、ウェブメイン画面が表示されます。ウェブメイン画面については、p.73を参照してください。

注意:

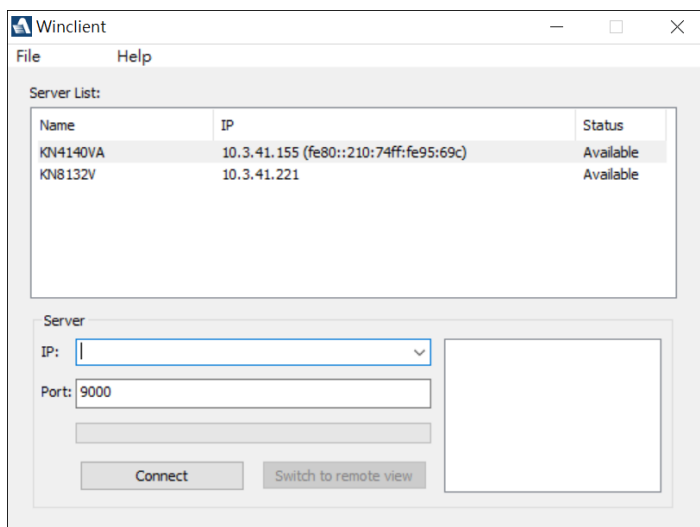
アドミニストレーターで、初めてログインする場合は、デフォルトのユーザーネーム(administrator)とパスワード(password)を使用します。セキュリ

ティー上の理由から、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

WindowsクライアントAPによるログイン

アドミニストレーターは、IP-KVMスイッチをブラウザアクセス経由で使用できないようにする場合があります。Windows APクライアントを使用すると、ブラウザを介さずにWindowsシステムユーザーに直接リモートアクセスできます(ただし、最初にブラウザ画面からWindows AP クライアントプログラムをダウンロードしてください。詳細は第11章「ダウンロード」を参照してください)。

IP-KVMスイッチに接続するには、Windows APクライアントプログラムをダウンロードしたハードディスク上の場所に移動し、そのアイコン(WinClient.exe)をダブルクリックしてWindowsクライアント接続画面を表示します。



WindowsクライアントAPの接続画面

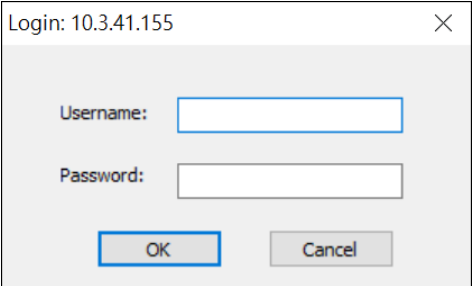
接続画面の説明を次の表に示します:

項目	説明
メニューバー	<p>メニューバーには、ファイルとヘルプの2つの項目があります。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ ファイルメニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルを作成、保存、および開くことができます (p.69「ファイルメニュー」参照)。◆ ヘルプメニューには、WinクライアントAPのバージョンが表示されます。
サーバーリスト	<p>WinClient.exeファイルが実行されると、ユーザーのローカルLANセグメントにあるIP-KVMスイッチが検索され、検出されたものがこのボックスに一覧表示されます。これらのユニットのいずれかに接続する場合は、ダブルクリックします(詳細については、p.68「接続 - WindowsクライアントAP」を参照してください)。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none">1. IP-KVMスイッチは、「デバイスリストを有効にする」の設定パラメーターが有効になっていない限り、一覧に表示されません。詳細については、p.209「動作モード」を参照してください。2. プログラムのアクセスポート設定 (p.189「サービスポート」参照)が、このダイアログボックスの「サーバー」セクションにある「ポート」で指定した番号と一致するユニットのみが、「サーバーリスト」ウィンドウに表示されます。
サーバー	<p>このエリアは、リモート側にあるIP-KVMスイッチに接続する場合に使用します。IPリストボックスを展開し、リストからアドレスを選択できます。目的のアドレスがリストに表示されない場合は、対象となるIPアドレスを「IP」欄に、また、ポート番号を「ポート」欄に、それぞれ入力します(ポート番号がご不明な場合は、本機の管理者にご確認ください)。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ IPアドレスとポート番号を指定したら、「接続」をクリックします。(詳細については、p.68「接続 - WindowsクライアントAP」を参照してください)。◆ セッションが終了し、このダイアログボックスに戻ったら、「切断」をクリックして接続を終了します。
メッセージパネル	<p>「サーバー」パネルのすぐ右にある「メッセージ」パネルには、IP-KVMスイッチへの接続に関するステータスメッセージが一覧表示されます。</p>
リモート表示に切替	<p>認証されると(詳細はp.68「接続 - WindowsクライアントAP」を参照)、このボタンが有効になります。クリックすると、GUIメイン画面に切り替わります。GUIメイン画面については、p.76で説明します。</p>

接続 - WindowsクライアントAP

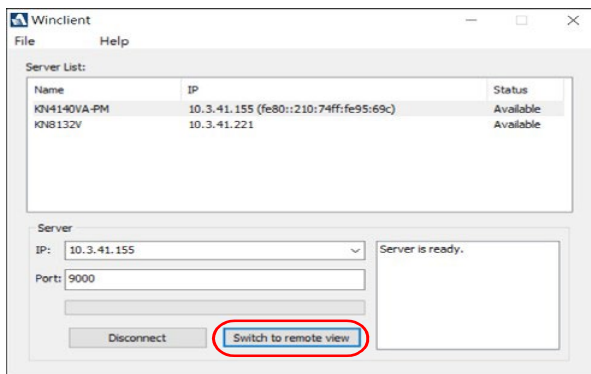
IP-KVMスイッチに接続するにはアプリ起動後、次の手順を実行します。

1. 「サーバーリスト」ボックスから、接続するデバイスを**ダブルクリック**します。
- または -
「サーバーIP」と「ポート」の各入力ボックスで、IPアドレスとポート番号をそれぞれ指定します。
2. 「**接続**」をクリックします。
「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。



A login dialog box titled "Login: 10.3.41.155" with a close button (X) in the top right corner. It contains two input fields: "Username:" and "Password:". Below the input fields are two buttons: "OK" and "Cancel".

3. 有効なユーザーネームとパスワードを入力したら、「**OK**」をクリックします。
4. 認証されると、「リモート表示に切替」ボタンが有効になります。これをクリックすると、IP-KVMスイッチに接続し、GUIメイン画面を表示します。GUIメイン画面については、p.76を参照してください。



ファイルメニュー

ファイルメニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルに対して、作成、保存、開くといった操作が行えます。作業ファイルは、クライアントセッションで指定されたすべての情報で構成されます。これには、「サーバーリスト」および「サーバーIP」のリスト項目と、「ホットキー」設定が含まれます。

ユーザーがクライアントプログラムを実行するたびに、現在の作業ファイルに含まれている値を読み込んで開きます。現在の作業ファイルは、プログラムが最後に終了した時点で有効だった値で構成されます。

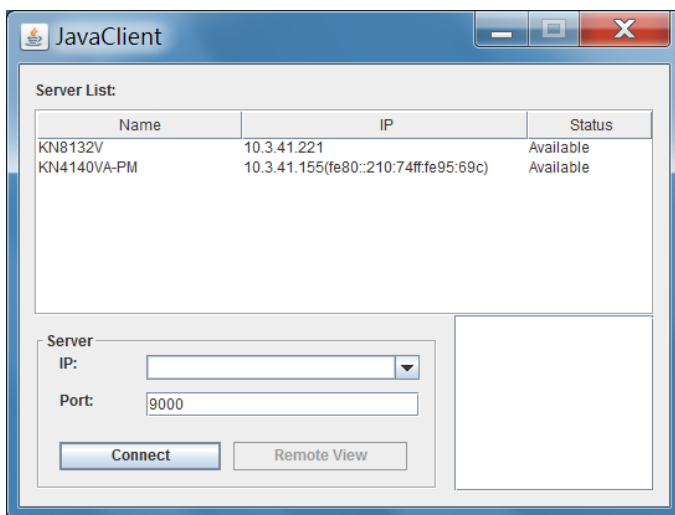
「ファイル」メニューは、以下の項目で構成されます。

新規	ユーザーは名前付き作業ファイルを作成して、その値が失われないようにできます。また、後で呼び出すこともできます。
開く	以前に保存した作業ファイルを開き、そこに含まれている値を使用できます。
保存	現在有効な値を現在の作業ファイルに保存できます。
終了	Winクライアントを終了します。

JavaクライアントAPIによるログイン

管理者がブラウザーアクセスを介してIP-KVMスイッチを使用できないようにし、ローカルクライアントユーザーがWindowsを実行していない場合、Java APクライアントは非Windowsシステムユーザーに直接リモートアクセスを提供します(ただし、最初にブラウザーの画面からJava AP クライアントプログラムをダウンロードしてください。詳細は第11章「ダウンロード」を参照してください)。

IP-KVMスイッチに接続するには、Java APクライアントプログラムをダウンロードしたハードディスク上の場所に移動し、そのアイコン(JavaClient.jar)をダブルクリックしてJavaクライアント接続画面を表示します。



JavaクライアントAPの接続画面

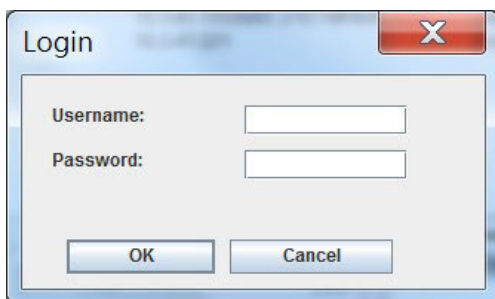
接続画面の説明を次の表に示します。

項目	説明
サーバーリスト	<p>JavaClient.jarファイルが実行されると、ユーザーのローカルLANセグメントにあるIP-KVMスイッチが検索され、検出されたものがこのボックスに一覧表示されます。これらのユニットのいずれかに接続する場合は、ダブルクリックします(詳細については、p.68「接続 - WindowsクライアントAP」を参照してください)。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none">1. IP-KVMスイッチは、「デバイスリストを有効にする」の設定パラメーターが有効になっていない限り、一覧に表示されません。詳細については、p.209「動作モード」を参照してください。2. プログラムのアクセスポート設定(p.189「サービスポート」参照)が、このダイアログボックスの「サーバー」セクションにある「ポート」で指定した番号と一致するユニットのみが、「サーバーリスト」ウィンドウに表示されます。
サーバー	<p>このエリアは、リモート側にあるIP-KVMスイッチに接続する場合に使用します。IPリストボックスを展開し、リストからアドレスを選択できます。目的のアドレスがリストに表示されない場合は、対象となるIPアドレスを「IP」欄に、また、ポート番号を「ポート」欄に、それぞれ入力します(ポート番号がご不明な場合は、本機の管理者にご確認ください)。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ IPアドレスとポート番号を指定したら、「接続」をクリックします(詳細については、p.68「接続 - WindowsクライアントAP」を参照してください)。◆ セッションが終了し、このダイアログボックスに戻ったら、「切断」をクリックして接続を終了します。
メッセージパネル	<p>「サーバー」パネルのすぐ右にある「メッセージ」パネルには、IP-KVMスイッチへの接続に関するステータスメッセージが一覧表示されます。</p>
リモート表示に切替	<p>認証されると(詳細はp.68「接続 - WindowsクライアントAP」を参照)、このボタンが有効になります。クリックすると、GUIメイン画面に切り替わります。GUIメイン画面については、p.76で説明します。</p>

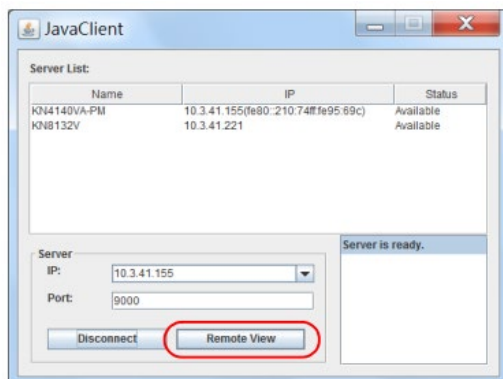
接続 - JavaクライアントAP

IP-KVMスイッチに接続するにはアプリ起動後、次の手順を実行します。

1. 「サーバーリスト」のボックスから、接続するデバイスを**ダブルクリック**します。
- または -
「サーバーIP」と「ポート」の各入力ボックスでIPアドレスとポート番号を指定します。
2. 「ログイン」をクリックします。
「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。



3. 有効なユーザーネームとパスワードを入力したら、「OK」をクリックします。
4. 認証されると、「リモート表示」ボタンが有効になります。これをクリックすると、IP-KVMスイッチに接続し、GUIメイン画面を表示します。GUIメイン画面については、p.76を参照してください。



第5章

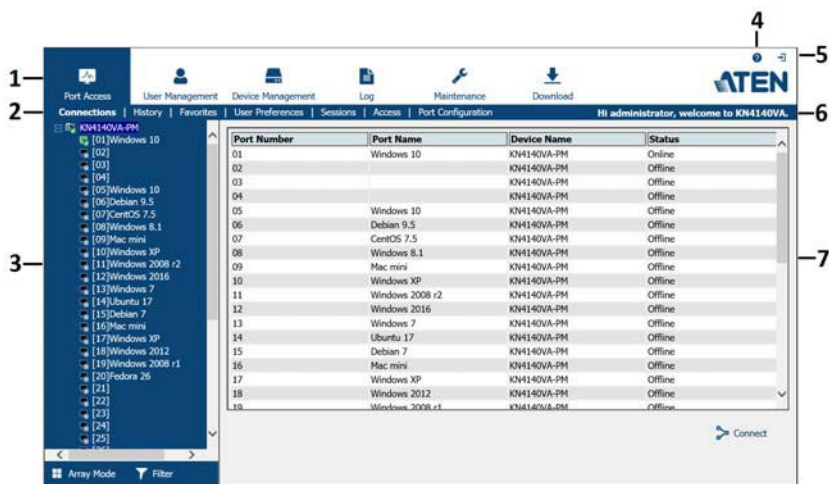
ユーザーインターフェース

概要

正常にログインすると、IP-KVMスイッチのユーザーインターフェースのメイン画面が表示されます。画面の外観は、ログインの手段によって若干異なります。各インターフェースについては、後続のセクションで説明します。

ウェブブラウザのメイン画面

マルチプラットフォームの相互運用性を確保するために、ほとんどの標準ウェブブラウザでIP-KVMスイッチへのアクセスを実現できます。ユーザーがログインして認証されると(p.65参照)、ウェブブラウザのメイン画面が表示され、「ポートアクセス」画面が表示されます。



注意:

説明には、スーパーアドミニストレーター用の画面を使用しております。ユーザーの種類や操作権限によっては、表示されているすべてのメニューが利用できるとは限りません。

画面各部分名称

ウェブ画面における各部分名称と説明は、下表のとおりです。







番号	項目	説明
1	タブメニュー	タブメニューには、IP-KVMスイッチの主な操作カテゴリが表示されます。このタブメニューに表示される項目はユーザーアカウントが開設された際のユーザーのタイプと割り当てられた操作権限によって決まります。
2	メニューバー	メニューバーには、タブメニューで選択された操作に関連するサブカテゴリが表示されます。このメニューバーに表示される項目はユーザーアカウントが開設された際のユーザーのタイプと割り当てられた操作権限によって決まります。
3	サイドバー	操作中のタブやメニューバーに対応したポートリストがこの部分に表示されます。サイドバーのノードをクリックすると、その詳細画面が表示されます。 サイドバーの下にある「フィルター」ボタンを使うと、ツリーに表示されるポートの範囲を変更できます。フィルター機能については、p.129で詳しく説明します。
4	バージョン情報	この部分は、IP-KVMスイッチの現在のファームウェアバージョンに関する情報を提供します。
5	ログアウト	このボタンをクリックすると、IP-KVMスイッチのセッションからログアウトします。
6	初期メッセージ	この機能が有効な場合 (p.147「初期メッセージ」参照)、初期メッセージが表示されます。
7	詳細表示パネル	メインの作業領域です。表示される画面は、メニューの選択とサイドバーノードの選択を反映しています。

製造番号



「MFG番号」(製造番号)は、ATENの工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証期間に影響することはありません。お使いの製品に関して予期しない不具合を発見し、特殊な調査が必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATENの営業または技術サポートのスタッフが確認依頼することがございます。その時は、このMFG番号をお伝えください。

タブメニュー

画面上部のタブメニューに表示されるアイコンの数およびタイプは、ユーザータイプ（スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー）や、ユーザーに付与された操作権限によって決定します。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

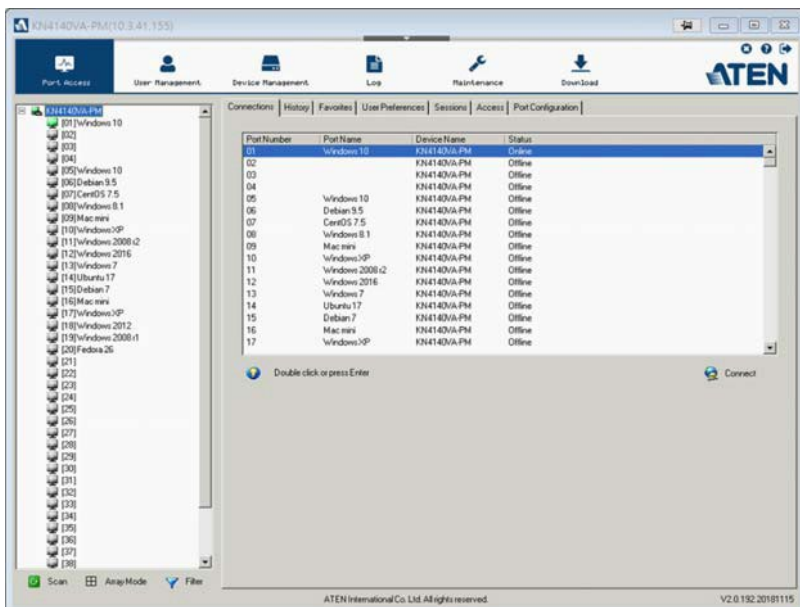
アイコン	機能
	ポートアクセス: 「ポートアクセス」画面は、IP-KVMスイッチの機器構成にアクセスしてデバイスを制御するために使用します。このメニューはすべてのユーザーがアクセス可能です。
	ユーザー管理: ユーザーやグループの作成・管理を行います。また、デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。ユーザー管理については、p.164を参照してください。このタブは、スーパーアドミニストレーター、およびユーザー管理権限を付与されたアドミニストレーターとユーザーが使用できます。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	デバイス管理: 「デバイス管理」画面は、IP-KVMスイッチの全体的な動作を設定および制御するために使用します。なお、これはスーパーアドミニストレーター、およびデバイス管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみがアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	ログ: ログファイルの内容を表示します。「ログ」画面については、p.220で説明します。
	メンテナンス: 「メンテナンス」画面は、新しいファームウェアのインストール、設定とアカウント情報のバックアップとリストア、ネットワークデバイスのping、およびデフォルト値のリストアに使用します。「メンテナンス」画面については、p.224で説明します。なお、これはスーパーアドミニストレーター（およびメンテナンス権限のあるアドミニストレーターとユーザー）がアクセス可能なメニューです。それ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	ダウンロード: ユーザーはこのアイコンをクリックして、WindowsクライアントのAP版、Javaクライアント、およびログサーバーをダウンロードできます。このメニューはすべてのユーザーがアクセス可能です。ダウンロードできるプログラムは、ユーザーの権限によって異なります。

画面右上には、2つの小さなアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると、IP-KVMスイッチのファームウェアバージョンに関する情報を含むパネルが表示されます。
	このアイコンをクリックすると、ログアウトしてIP-KVMスイッチのセッションを終了します。

AP GUI メイン画面

WinクライアントAPおよびJavaクライアントAPによるアクセスでは、ユーザーがログインすると(p.63「ログイン」参照)、GUIメイン画面が表示されます。



GUIメイン画面は、ウェブブラウザと似ています。これらの違いは次のとおりです。

1. アプリには、タブメニューの下にメニューバーがありません。代わりに、ノートブックのような一連のタブがあります。ただし、ウェブブラウザインターフェースと同様に、タブ付きノートブックの構成は、メインのタブメニューとサイドバーで選択した項目によって変わります。
2. 「フィルター」に加えて、サイドバーの下部には「スキャン」と「アレイモード」のボタンもあります。これらの機能については、第6章「ポートアクセス」で説明します。
3. 画面の上部または下部中央には非表示のコントロールパネルがあり、その上にマウスを置くと表示されます。デフォルトは画面の上部中央にあります。
4. 画面の右上隅に追加のアイコンがあります(⊕)。このアイコンをクリックす

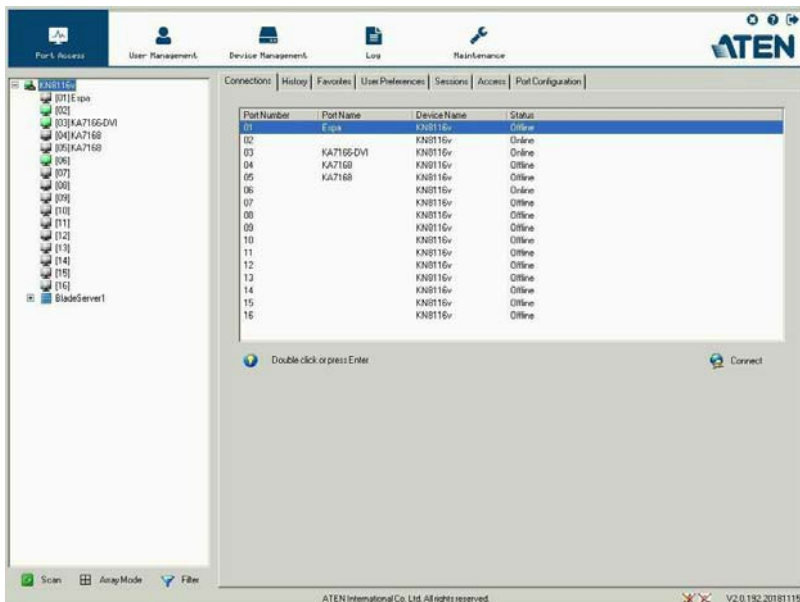
ると、GUIメイン画面が閉じ、最後に選択したポートの表示に移動します。

5. 下の表に示すように、GUIはキーボードを介してナビゲートできます。

キー	アクション
[Ctrl] + [P]	「ポートアクセス」画面を開きます。
[Ctrl] + [U]	「ユーザー管理」画面を開きます。
[Ctrl] + [D]	「デバイス管理」画面を開きます。
[Ctrl] + [L]	「ログ」画面を開きます。
[Ctrl] + [M]	「メンテナンス」画面を開きます。
[Ctrl] + [A]	「ダウンロード」画面を開きます。
[F1]	バージョン情報を確認します。
[F2]	選択したポートのポートネームを編集します。
[F4]	サイドバー(左)パネルを選択します。
[F5]	メイン(右)パネルを選択します。
[F7]	GUIを閉じます。
[F8]	ログアウトします。



ローカルコンソールGUIのメイン画面

ローカルコンソールのGUIメイン画面は、JavaおよびWindows APのGUIメイン画面に似ています。



主な違いは、ローカルコンソールのメイン画面にはダウンロード用のタブがないことです。

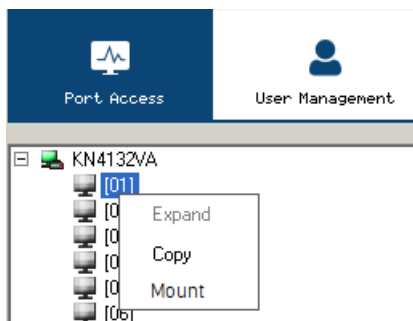
さらに、次の表で説明するように、右下に2つの小さなアイコンがあります。

アイコン	機能
	スピーカー: IP-KVMスイッチのポートに接続されたサーバーからの音声出力を、ローカルコンソールに接続されたスピーカーで聞くことができます。アイコンをクリックすると、スピーカーサポートのオンとオフを切り替えます。オフの場合、アイコン上に赤色の×印が表示されます。
	マイク: ローカルコンソールからのマイク入力を、IP-KVMスイッチのポートに接続されたサーバーに送信できるようにします。アイコンをクリックすると、マイクサポートのオンとオフを切り替えます。オフの場合、アイコン上に赤色の×印が表示されます。

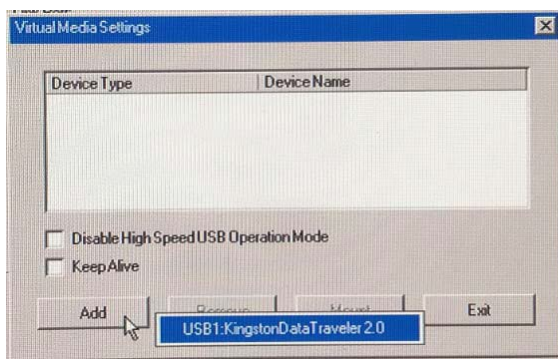
ローカルにおけるバーチャルメディアのマウント

ローカルコンソールは、バーチャルメディアのマウントをサポートします。バーチャルメディアをマウントするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 対象となるサーバーにUSBフラッシュドライブをローカル接続します。
2. ローカルコンソールのサイドバーでサーバーを右クリックし、下図のように「マウント」をクリックします。



3. 表示される「バーチャルメディア設定」ダイアログボックスで、「追加」をクリックしてバーチャルメディアを選択します。



バーチャルメディアのマウント設定は、Windows/Javaクライアントビューア経由の設定と同様です。詳細は、p.101「バーチャルメディアのマウント」を参照してください。

コントロールパネル

Windowsクライアントのコントロールパネル

Winクライアントコントロールパネル(ActiveX WebビューアおよびWinクライアントアプリ用)には最も完全な機能が含まれているため、このセクションではWinクライアントコントロールパネルについて説明します。Javaコントロールパネル(WebビューアおよびJavaクライアントアプリ用)では、この機能のすべてが有効になるわけではありませんが、これらが共有する機能は同じであり、使用時にここで説明する情報を参照できます。

コントロールパネルは、画面の上部または下部中央に非表示になっており(デフォルトは上部中央)、その上にマウスを重ねると表示されます。



パネルは2つの行から構成されています。



注意:

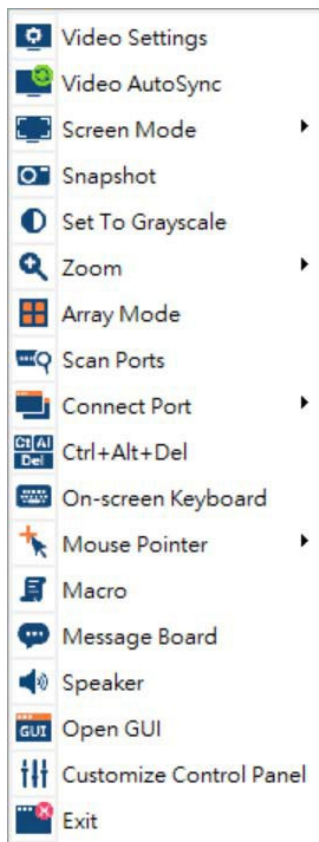
上の画像は、完全なコントロールパネルです。表示されるアイコンはユーザーが選択できます。詳細については、p.114「コントロールパネルの設定」を参照してください。

- ◆ 2行目には、リモート画面のビデオ解像度、ユーザーが使用しているバス、およびコントロールパネルツールバーのメニュー形式版用にクリックできる情報ボタンが表示されます(以下を参照)。

注意:

1. 行の中央にあるバスとユーザー情報は、有効になっている場合にのみ表示されます。詳細については、p.115「バス情報」を参照してください。
 2. IP-KVMスイッチにおけるバスの割り当て方法の詳細については、p.248「マルチユーザー操作」を参照してください。
-

- ◆ コントロールパネルの任意の場所を右クリックすると、コントロールパネルツールバーのメニュースタイルバージョンも表示されます。これらの機能については、以降のセクションで説明します。













- ◆ コントロールパネルを画面上の別の場所に移動するには、2行目にマウスポインターを置いたまま、コントロールパネルを目的の場所にドラッグします。

Windowsクライアントのコントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能を以下の表に示します。

アイコン	機能
	これはトグルボタンです。クリックすると、コントロールパネルが永続的になります。つまり、常に他の画面要素の上に表示されます。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。
	クリックすると、「ビデオオプション」ダイアログボックスを表示します。(詳細については、p.93「ビデオ設定」を参照してください)。
	クリックすると、ビデオの自動同期操作が実行されます。これは、「ビデオオプション」ダイアログボックス(p.93「ビデオ設定」参照)の「自動同期」ボタンをクリックするのと同じです。
	フルスクリーンモードとウィンドウモードを交互に切り替えます。
	クリックすると、リモート画面のスナップショット(画面キャプチャー)を取得します。「スナップショット」パラメーターの設定に関する詳細は、p.116「スナップショット」を参照してください。
	クリックすると、リモートディスプレイをカラー表示とグレースケール表示の間で切り替えます。
	クリックすると、リモート画面のウィンドウをズーム表示します。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードがオフ)でのみ使用できます。詳細については、p.107「ズーム」を参照してください。
	アクセスされたポートで、クリックするとパネルアレイモードを呼び出します(p.246「パネルアレイモード」を参照)。
	IP-KVMスイッチは、フィルター機能で自動スキャン用に選択されたポート間で自動的に切り替わります(p.129「フィルター」を参照)。これにより、手動で切り替えることなく、アクティビティを監視できます。
	クリックすると、接続したいポートを選択します。
	クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号がリモートシステムに送信されます。
	クリックすると、オンスクリーンキーボードが表示されます(p.107「オンスクリーンキーボード」を参照)。

	<p>クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。</p> <p>注意:このアイコンは、変更されているマウスポインターの種類によって変わります (p.109「マウスポインターの種類」を参照)。</p>
	<p>クリックすると、マウスの自動同期と手動同期を交互に切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「自動」を選択すると、アイコンに緑色の✓が表示されます。 ◆ 「手動」を選択すると、アイコンに赤色の×が表示されます。 <p>この機能の完全な説明については、p.111「マウスダイナシクモード」を参照してください。</p>
	<p>クリックすると、「マクロ」ダイアログボックスが表示されます (詳細についてはp.66を参照)。</p>
	<p>「マクロ」ダイアログボックスを使用するよりも便利にマクロにアクセスして実行するために、ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します (上記の表におけるマクロアイコンと、p.84「マクロ」セクションを参照)。</p>
	<p>クリックすると、メッセージボードを表示します (p.98「メッセージボード」参照)。</p>
	<p>クリックすると、「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。アイコンは、バーチャルメディア機能の状態に応じて変化します (詳細についてはp.101「バーチャルメディア」を参照してください)。</p> <p>注意:このアイコンは、機能が無効になっているか使用できない場合、灰色で表示されます。</p>
	<p>拡張ディスプレイアイコンを使用すると、拡張ディスプレイ設定で表示するモニターを選択できます (p.110参照)。この機能の設定方法の詳細については、p.161「マルチビュー」を参照してください。</p>
	<p>クリックすると、クライアントコンピューターのスピーカーで聞こえるようにリモートサーバーからの音声のオンとオフを切り替えます。スピーカーをオフに切り替えると、アイコンに「禁止」記号(斜線の付いた赤い円)が表示されます。</p>
	<p>アクセスされたポートでこのアイコンをクリックすると、GUIを呼び出します。</p>
	<p>クリックすると、「コントロールパネルの設定」ダイアログを表示します。</p> <p>コントロールパネルの設定については、p.114「コントロールパネルの設定」を参照してください。</p>



これらのアイコンは、リモートコンピューターにおける[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。

- ◆ ロック状態がオンの場合、LEDは緑色に点灯し、ツルの部分が閉じた状態になります。
- ◆ ロック状態がオフの場合、LEDは暗緑色になり、ツルの部分が開いた状態になります。

アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。

注意:これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。アイコンをクリックすると、それに応じてキーボードの対応LEDが変化します。同様に、キーボードのロックキーを押すと、アイコンの色がそれに応じて変化します。

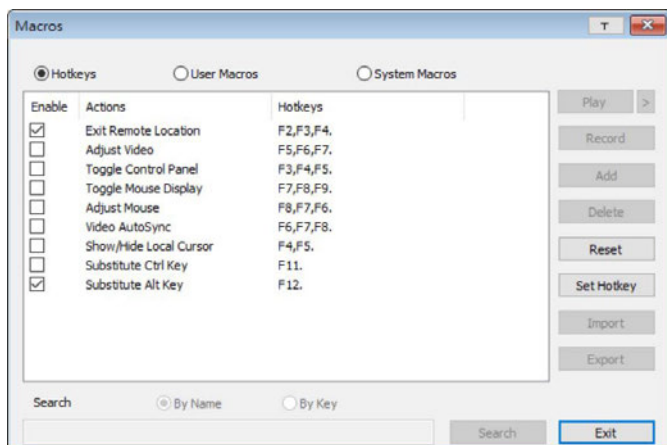
マクロ

マクロアイコンは、マクロダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスできます。これらの機能については、以下のセクションで説明します。

ホットキー

リモートサーバーの操作に関連するさまざまなアクションは、ホットキーを使用して実行できます。ホットキー設定ユーティリティー(アクセスするには、このアイコンをクリック)では、操作を実行するホットキーを設定できます。

アクションを起動するホットキーは、名前の右側に表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効または無効を設定してください。



アクションのホットキーを変更するには、次の操作を行います。

1. 対象となる名前をリストから選択し、「**ホットキーの設定**」をクリックします。
2. 選択したファンクションキーを1つずつ押してください。押されたキーの名前が「**ホットキー**」欄に表示されます。
 - ◆ キー入力の順番が同じでなければ、同一ファンクションキーを複数のアクションに使用できません。
 - ◆ ホットキーの設定を取り消す場合は「**キャンセル**」ボタンをクリックしてください。また、アクションの「**ホットキー**」欄を消去するには「**クリア**」ボタンをクリックしてください。
3. マクロキーの順番を入力し終わったら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーアクションの内容は下表のとおりです。

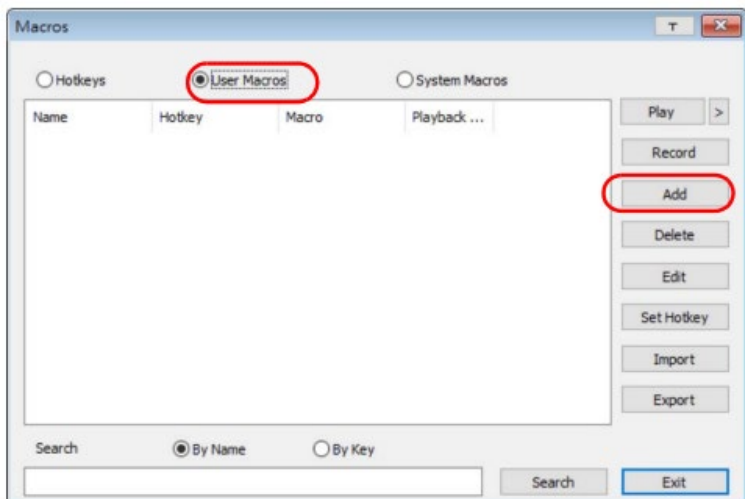
アクション	説明
リモート操作の終了	IP-KVMスイッチへの接続を切断し、ローカルクライアントコンピュータの操作に戻ります。これは、コントロールパネルの「終了」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。
ビデオの調整	「ビデオ設定」ダイアログボックスを表示します。これは、コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは [F5] [F6] [F7]に設定されています。
コントロールパネルの切替	コントロールパネルのオンとオフを切り替えます。デフォルトでは [F3][F4][F5]に設定されています。
マウス表示の切替	ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用して、機能しない方のマウスポインターを最小化することで見やすくできます。この機能はトグル式であるため、同じホットキーを再度入力するとマウス表示を元の設定に戻します。これは、コントロールパネルの「マウスポインター」アイコンをクリックし、「ドット」ポインターの種類を選択するのと同じです。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。 注意: Javaコントロールパネルにはこの機能がありません。
マウスの調整	これにより、ローカルとリモートのマウスの動きが同期されます。デフォルトでは[F8][F7][F6]に設定されています。
ビデオ自動同期	この組み合わせは、自動同期操作を実行します。コントロールパネルの「ビデオ自動同期」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは [F6][F7][F8]に設定されています。

ローカルカーソルの表示/非表示	オフとオンを切り替える: ローカルカーソルを非表示にし、Windows/Java クライアントAPウィンドウ内でのマウスポインターとキーボードの使用をロックし、コントロールパネルを非表示にします。これは、コントロールパネルのマウスポインターアイコンからシングルポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。
代替Ctrlキー	ローカルクライアントコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャーし、それらがリモートサーバーに送信されないようにする場合は、[Ctrl]キーの代わりにファンクションキーを指定することで、それらのエフェクトをリモートサーバーに実装できます。たとえば、[F11]キーを押すと、[F11]+[5]キーがリモートサーバーでは[Ctrl]+[5]として表示されます。デフォルトでは[F11]に設定されています。
代替Altキー	他のすべてのキーボード入力はキャプチャーされ、IP-KVMスイッチに送信されますが、[Alt]+[Tab]と[Ctrl]+[Alt]+[Del]はローカルクライアントコンピューターで動作します。リモートサーバーへの影響を実装するために[Alt]キーの代わりに別のキーを使うこともできます。たとえば、[F12]+[Tab]と[Ctrl]+[F12]+[Del]を使用して[F12]キーを置き換えます。デフォルトのキーは[F12]です。

ユーザーマクロ

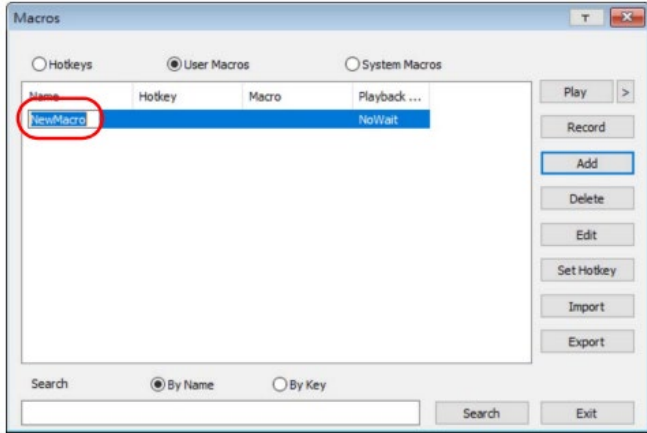
ユーザーマクロは、リモートサーバー上で特定のアクションを実行するために作成されます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。



2. 新規マクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要

であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



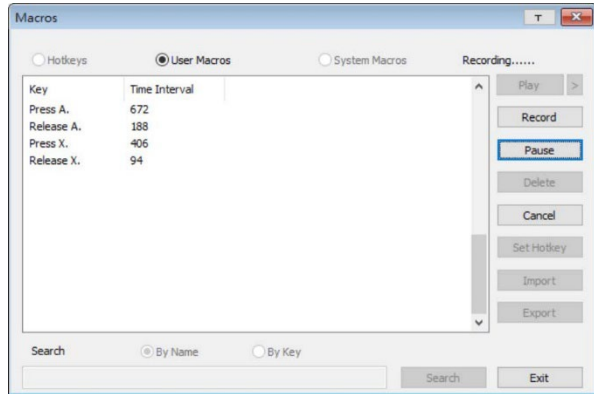
3. 「記録」をクリックしてください。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押してください。

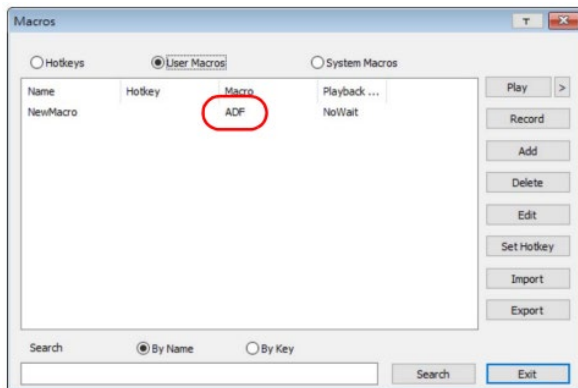
- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。再開するには、「記録」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。



- ◆ 「キャンセル」をクリックすると、すべてのキー入力を取り消します。
- ◆ 完了したら、「記録」をクリックします（これは、手順5で「完了」をクリックした場合と同じです）。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。

注意:

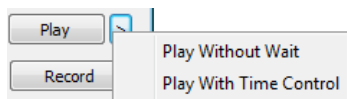
1. 大文字/小文字は考慮されません。Aまたはaを入力しても同じ結果になります。
 2. マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。たとえば、キーボードが繁体字中国語で、デフォルト文字が代替文字Aの場合キーボード切替で取得した漢字は記録されません。
-
5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステム マクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更できます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

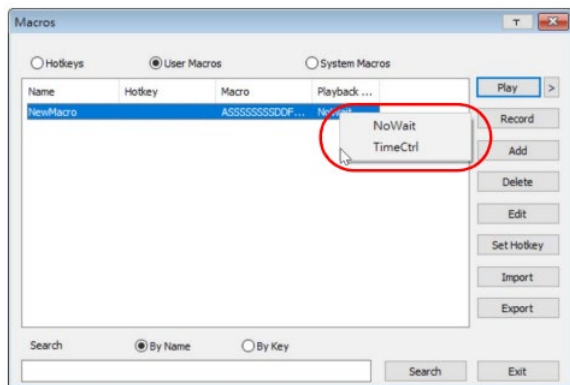
作成したマクロは、下記3つの方法のいずれかで実行できます。

1. ホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、必要なマクロをクリックする(p.83 参照)。
3. この(マクロ)ダイアログボックスを開き、「再生」をクリックする。



このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定するオプションがあります。

- ◆ 「すぐに再生」を選択した場合、マクロは入力キーの遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「タイムコントロール再生」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「再生」ボタンの隣にある矢印ボタンをクリックしてください。
- ◆ リストを開かずに「再生」をクリックすると、「再生」列に表示されるデフォルトの選択肢(「待機なし」または「タイムコントロール」)でマクロが実行されます。



現在の選択肢(上記のスクリーンショットでは「待機なし」)をクリックし、代替
選択肢を選択することで、デフォルトの選択肢を変更できます。

注意:

1. 検索機能については、次のセクションを参照してください。
2. ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されます。したがって、マクロの数、マクロ名のサイズ、またはそれら
呼び出すホットキーの組み合わせの構成に制限はありません。

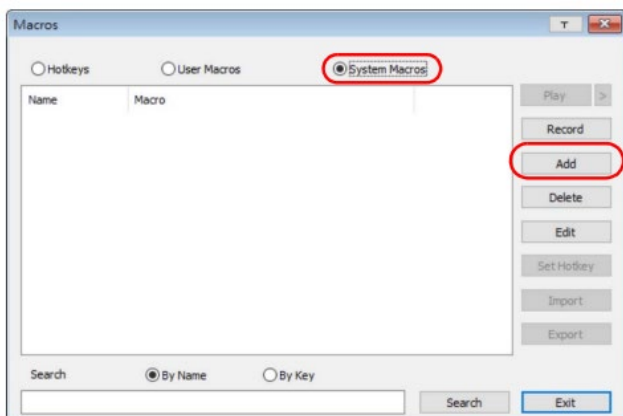
■ 検索

ダイアログボックスの下部にある「検索」を使用すると、大きな上部パネルに表示されるマクロのリストをフィルタリングして、再生または編集できます。ラジオボタンをクリックして、名前前で検索するかキーで検索するかを選択し、文字列で検索をキー入力してから、「**検索**」をクリックします。この文字列に合致するものが、すべて上部パネルに表示されます。

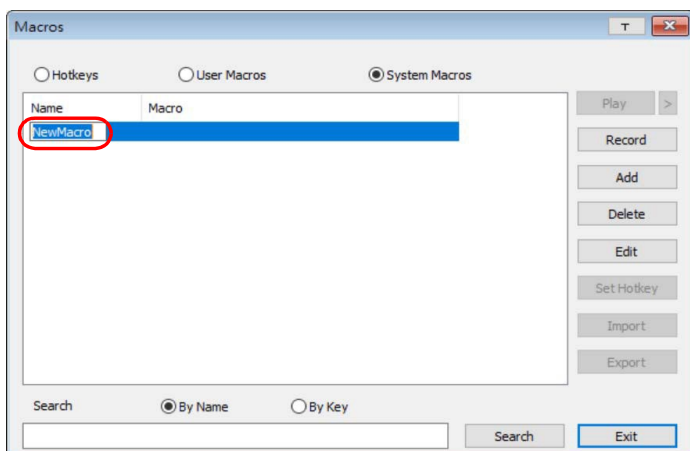
システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。たとえば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておく、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートサーバーのログイン画面を表示することができるため、セキュリティを強化できます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「システムマクロ」ラジオボタンを選択し、「**追加**」ボタンをクリックしてください。



2. 新規マクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



3. 「記録」をクリックしてください。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押してください。

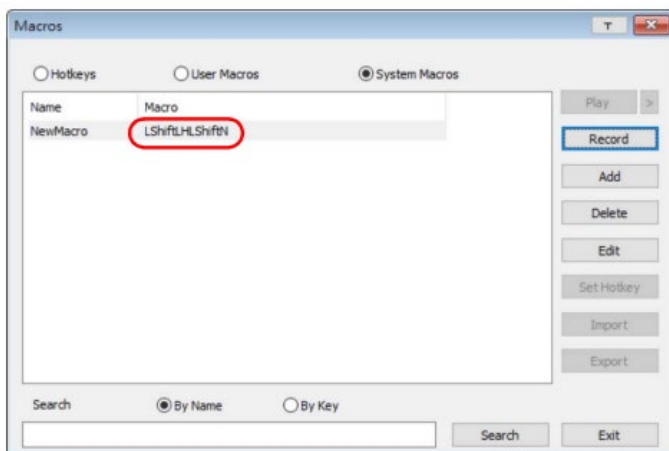
- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。

- ◆ 「表示」をクリックすると、各キー入力と、各キー入力の所要時間が一覧表示されたダイアログボックスが表示されます(手順3の図を参照)。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。

注意:

1. 大文字/小文字は考慮されません。Aまたはaを入力しても同じ結果になります。
 2. マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。たとえば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切替で取得した漢字は記録されません。
-

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステム マクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更できます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

システムマクロが作成されると、ポートごとに使用できるようになります。これらは、ポートの「ポート設定」>「ポートのプロパティ」画面で選択されます(詳細に

については、p.158「ポートレベル」参照)。

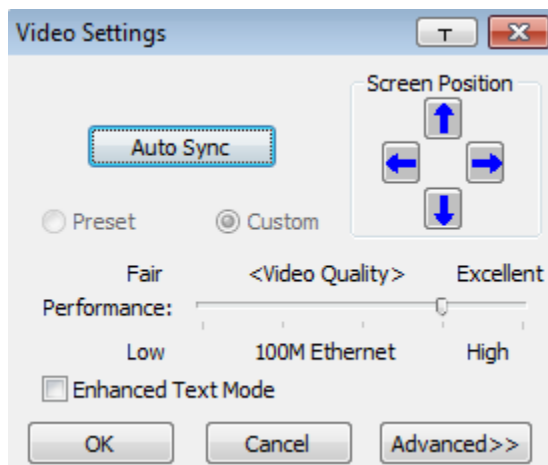
注意:

1. 検索機能については、p.90を参照してください。
 2. ポートごとに選択できるシステムマクロは1つのみです。
 3. システムマクロはIP-KVMスイッチに保存されるため、マクロ名が64バイトを超えることはありません。ホットキーの組み合わせが256バイトを超えることはありません(各キーは通常3~5バイト使用します)。
-

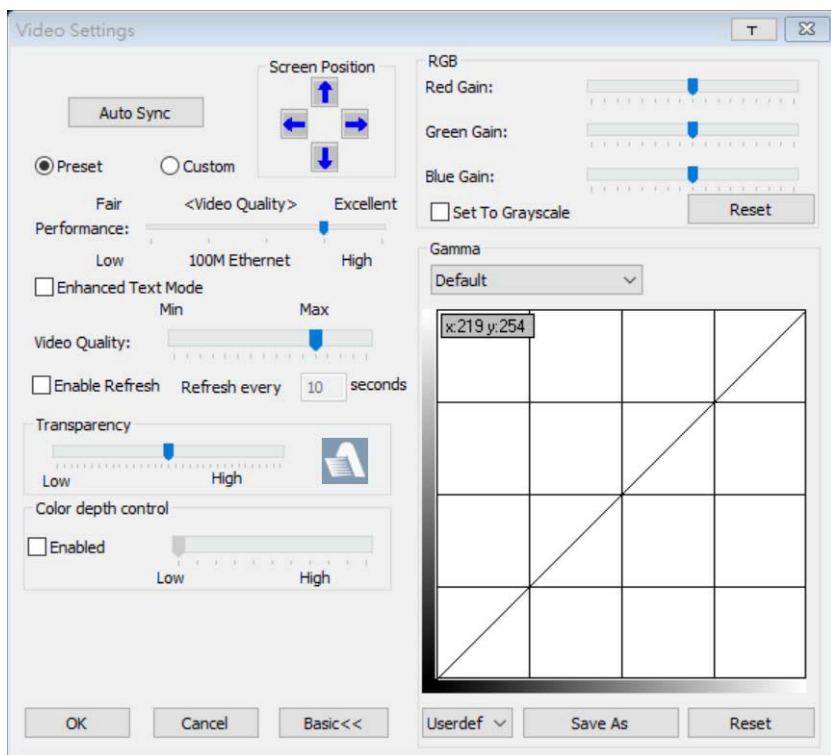
ビデオ設定

コントロールパネルのハンマーアイコンをクリックすると、「ビデオ基本設定」ダイアログボックスで基本設定が表示されます。基本ダイアログボックスのオプションを使用すると、画面位置の調整、自動同期の設定、パフォーマンスバーの設定のスライドが可能です。「詳細」ボタンを選択すると、「ビデオ詳細設定」ダイアログボックスが開き、以下に示すように、RGB、ガンマ、ビデオ品質、再読み込みの有効化、透明度、色深度コントロールなどの、より詳細なオプションが表示されます。

ビデオ基本設定



ビデオ詳細設定



次の表に、ビデオ調整オプションの意味を示します。

オプション	使用方法
画面位置	矢印ボタンをクリックすると、リモートサーバーウィンドウの水平位置および垂直位置を調節します。
自動同期	自動同期をクリックすると、リモート画面の垂直方向と水平方向のオフセット値が検出され、ローカル画面と自動的に同期されます。 注意: <ol style="list-style-type: none"> ローカルマウスポインターとリモートマウスポインターが同期していない場合、ほとんどの場合、この機能を実行することで同期が戻ります。 この機能は、明るい画面で最適に動作します。 結果に満足できない場合は、画面位置カーソルを使用してリモートディスプレイを手動で配置してください。

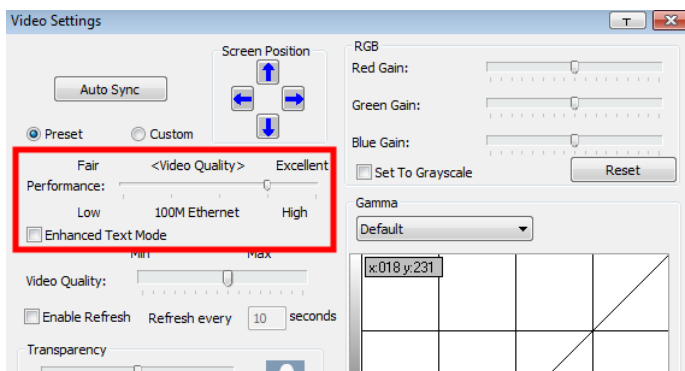
オプション	使用方法
RGB	<p>スライダーバーをドラッグしてRGB(赤、緑、青)の値を調整します。RGBの値の増加に伴って、画像のRGB要素も増加します。</p> <p>「グレースケールに設定」の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。</p> <p>「リセット」ボタンをクリックすると、RGB設定がデフォルト値に戻ります。</p>
ガンマ	<p>このセクションでは、ビデオ表示のガンマレベルを調節できます。この機能については、次の「ガンマ調整」で詳しく説明します。</p>
パフォーマンス	<p>スライダーバーを使用して、ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続のタイプを選択してください。本機はその選択を使用して、ビデオ表示の品質を最適化するためにビデオ品質設定を自動的に調整します。</p> <p>ネットワーク状態は様々であるため、プリセットの選択肢のいずれもうまく動作しないように見える場合は、「詳細」を選択し、「ビデオ品質」スライダーバーを使用して、条件に合わせて設定を調整できます。</p>
テキストモードの強化	<p>一部のインターフェースシステム(Sun Blade1000やその他のサーバーなど)に影響するビデオ画面解像度に関連するビデオ表示の問題を解決するには、これをオンにしてください。この設定により、一部の表示で画像の色を改善できます。</p> <p>デフォルトYUV:4:1:1</p> <p>拡張テキストモードYUV:4:4:4</p>
ビデオ品質	<p>スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワーク帯域によっては、値を大きくすると応答時間が低下する場合があります。</p>
再読込を有効にする	<p>IP-KVMスイッチは1~99秒ごとに画面を再描画できるため、画面から不要なアーチファクトが除去されます。「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1~99の整数で入力してください。IP-KVMスイッチは、指定した間隔で画面を再描画します。この機能はデフォルトで無効になっています。有効にするには、「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れてください。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユニットは、マウスの動作が止まったタイミングでインターバル時間の計測を開始します。 2. この機能を有効にすると、ネットワーク経由で送信されるビデオデータの音量が増加します。設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
透明度	<p>GUIホットキー([Scroll Lock][Scroll Lock]など)が呼び出されたときに表示されるツールバーの透明度を調整します。バーをスライドさせて、サンプルウィンドウの表示を好みに合わせてください。</p>

オプション	使用方法
色深度コントロール	この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。
プリセット/カスタム	「プリセット」ボタンと「カスタム」ボタンを使用すると、カスタムビデオ設定を設定して保存したり、デフォルトのビデオ設定に戻したりできます。

帯域幅に関する注意事項

各種ビデオ設定を調整することで、ネットワーク全体のデータ伝送を非常に低く抑えることができます。そのためには、次の設定を使用します。

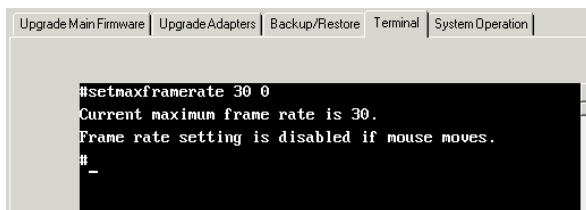
1. 「ビデオ設定」で、「パフォーマンス:」を「100M Ethernet」以下に設定し、「拡張テキストモード」のチェックを外します。



2. 「メンテナンス」タブで、「ターミナル」を選択し、次を入力します。

setmaxframerate 30 0

入力し終わったら、[Enter]キーを押します。



注意:

上記の設定では、KVMアクセスのビデオパフォーマンスが最も低くなります。パフォーマンスと拡張機能が制限されているため、Motion JPEGビデオ圧縮は無効になり、ビデオ伝送のネットワーク帯域幅が大幅に削減されます。

KVMセッションのネットワーク帯域幅情報

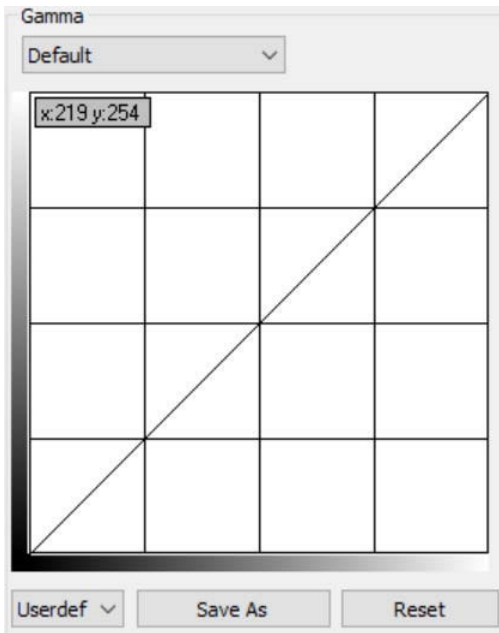
ネットワーク帯域幅を管理するにあたり、理想的な状況では、1920×1080@60HzのフルスクリーンビデオディスプレイのKVMセッションに約64Mbpsを要します。

上記の情報は、あくまでも理想的な値を提案していますが、各ステーションやセッションのネットワーク環境は異なるため、セッションの滑らかさや品質を保証するものではありません。

ガンマ調整

リモートビデオ表示のガンマレベルを補正する必要がある場合は、ビデオ設定ダイアログボックスのガンマ機能を使用します。

- ◆ 「高度な設定」には、10個のプリセットと4つのユーザー定義レベルがあります。リストボックスを展開して、最適なものを選択します。
- ◆ より高度な制御を行うには、「高度な設定」ボタンをクリックしてください。そうすると、次のダイアログボックスが表示されます。



- ◆ 満足がいく表示出力が得られるよう、希望する数のポイントで対角線をクリックしてドラッグしてください。

- ◆ 上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「**名前を付けて保存**」をクリックしてください。保存された値は、後でリストボックスから呼び出すことができます。
- ◆ 変更内容を破棄し、ガンマ線を元の状態に戻す場合は、「**リセット**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存し、ダイアログボックスを終了する場合は「**OK**」をクリックしてください。
- ◆ 変更内容を破棄し、ダイアログボックスを終了する場合は「**キャンセル**」をクリックしてください。

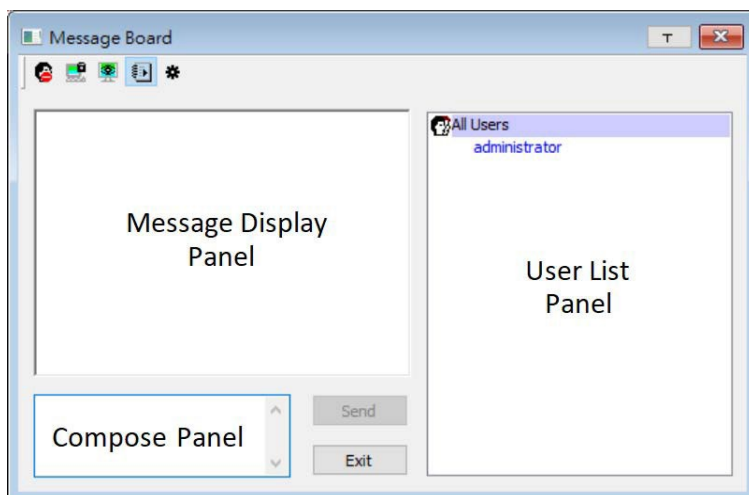
注意:

最適な結果を得るには、リモートサーバーの画面を見ながら設定値の変更を行ってください。








メッセージボード

IP-KVMスイッチは複数のユーザーログインをサポートしているため、アクセスの競合が発生する可能性があります。この問題を緩和するために、ユーザー同士のコミュニケーションを可能にするメッセージボード機能が提供されています:



ボタンバー

ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンとその機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効または無効にします。 チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードに投稿されたメッセージは表示されず、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがチャット機能を無効にすると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード・ビデオ・マウスを占有または解放します。 あるユーザーがKVMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード/マウスからの入力ができなくなり、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがKVMを占有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード・マウスを占有または解放します。 あるユーザーがKMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボードやマウスからの入力ができなくなります。また、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがキーボード/マウスを占有していると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示または非表示にします。 ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが終了します。また、ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけされた表示になります。
	メッセージをポップアップ表示します。 メッセージを受信したときにメッセージをポップアップ表示するかを有効/無効にするチェックボックスがあります。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに投稿したメッセージ(およびシステムメッセージ)は、このパネルに表示されます。ただし、チャットを無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

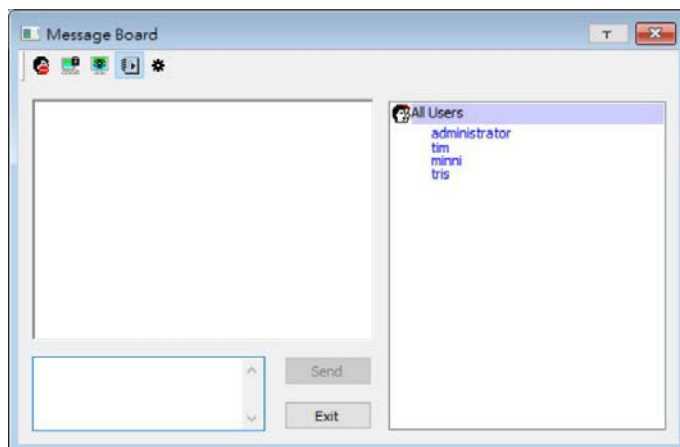
メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「送信」をクリックするか[Enter]キーを押すと、メッセージをボードに投稿します。

ユーザーリストパネル

このパネルには、ログインしているすべてのユーザーの名前が表示されます。

- ◆ 自分の名前は青色で表示され、他のユーザーの名前は黒色で表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに宛に投稿されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「すべてのユーザー」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。








バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使用すると、ユーザーのシステム上のドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスク、またはスマートカードリーダーを、あたかもリモートサーバーにセットアップされているかのように表示して動作させることができます。

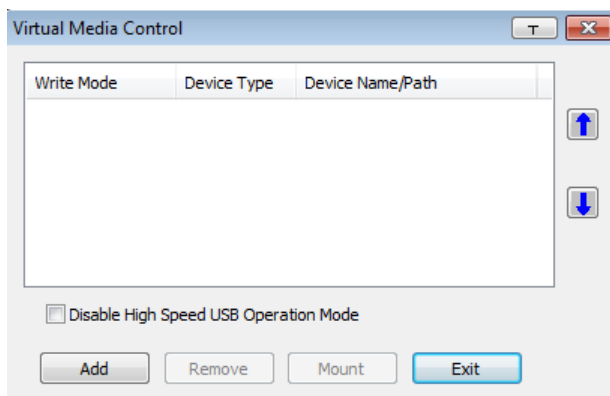
バーチャルメディアのアイコンは、バーチャルメディア機能のステータスに応じて変化します(下表を参照):

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効または利用できない場合、このアイコンが表示されません。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログボックスを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。

バーチャルメディアのマウント

バーチャルメディアのデバイスをマウントするには、次の手順を実行します:

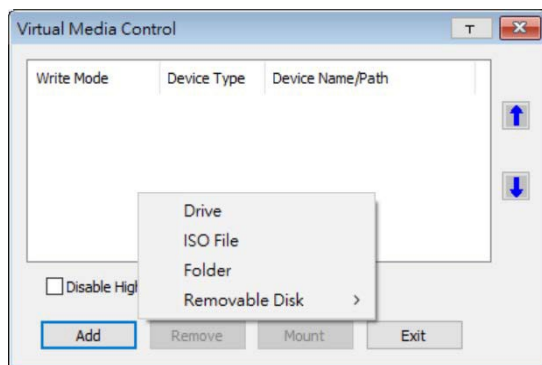
1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして、「バーチャルメディア操作」ダイアログボックスを表示してください。



注意:

右上の「T」ボタンには、ダイアログボックスの透明度を調整するためのスライダーが表示されます。調整を行ったら、ダイアログボックスの任意の場所をクリックしてスライダーを閉じます。

2. 「追加」をクリックし、メディアソースを選択します。



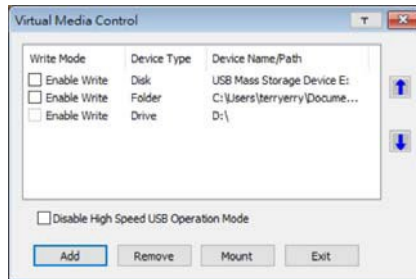
選択内容に応じて、追加のダイアログボックスが表示され、目的のドライブ、ISOファイル、フォルダー、またはリムーバブルディスクを選択できます。

サポートされるバーチャルメディアタイプの一覧と、それらのマウントに関する詳細は、p.326「サポートされるバーチャルメディア」を参照してください。

3. デバイスがFull Speed USBのみをサポートしている場合は、「High Speed

USBの操作モードを無効にする」の項目にチェックを入れます。

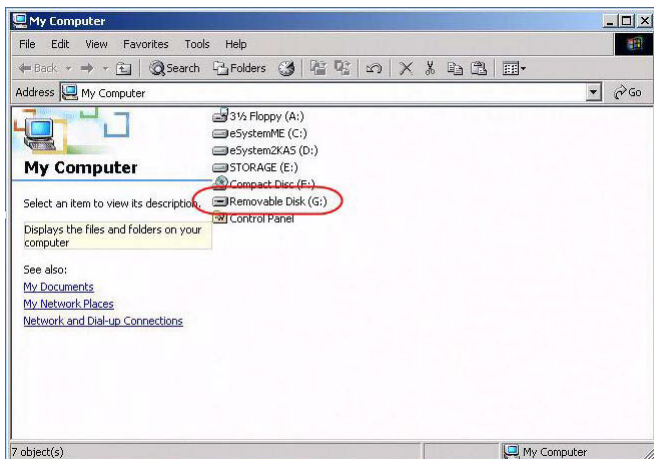
4. ソースメディアを追加する場合は、「追加」ボタンをクリックして必要となるメディアをすべて選択してください。最大3種類のバーチャルメディアをマウントできます。リストの上位3つの項目は、選択済みのものです。バーチャルメディアとスマートカードリーダーは同時にマウントできます。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動対象となるデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックしてリスト内で位置を移動させてください。
5. 「読み取り」とは、リダイレクトされたデバイスがリモートサーバーにデータを送信することを意味し、「書き込み」とは、リダイレクトされたデバイスがリモートサーバーからデータを書き込めることを意味します。リダイレクトされたデバイスを書き込み可能にし、読み取り可能にするには、クリックして「書き込みを有効にする」チェックボックスにチェックを入れます:



注意:

リダイレクトされたデバイスに書き込めない場合、そのチェックボックスはグレーで表示されます。

6. リストからエンタリーを削除するには、選択して「削除」をクリックします。
7. ソースメディアの選択後に「マウント」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスは終了します。選択したバーチャルメディアのデバイスは、リモートサーバーにリダイレクトされ、リモートサーバーのファイルシステムにドライブ、ファイル、フォルダーなどとして表示されます。



マウントされたバーチャルメディアは、リモートサーバーに存在するかのよう扱うことができます。ファイルをリモートサーバーにドラッグ&ドロップしたり、リモートサーバー上のファイルを開いて編集したり、リダイレクトされたメディアなどに保存したりできます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカルクライアントコンピューターのストレージに保存されます。リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にはローカルクライアントコンピューターのストレージから取得されます。

8. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

バーチャルメディアのマウント - ドラッグ&ドロップ

マウスポインターのオプションを「デュアル」に設定すると、ドラッグ&ドロップによるマウントを実行しやすくなります (p.109「マウスポインターの種類」参照)。

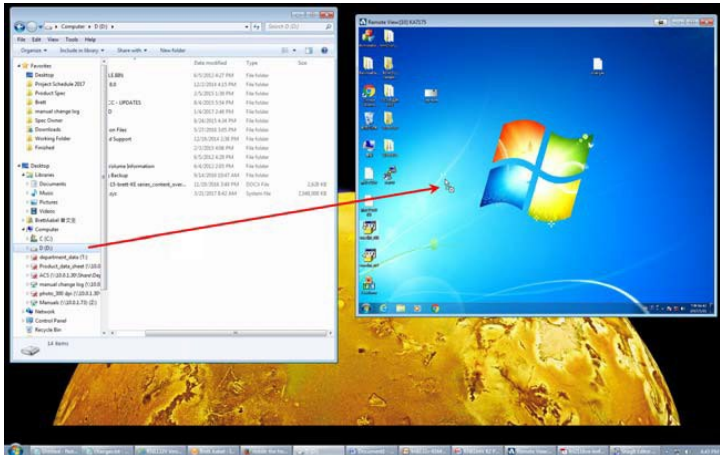
ドラッグ&ドロップでバーチャルメディアのデバイスをマウントするには、次の手順を実行します。

1. リモートサーバーでセッションを開き、バーチャルメディアアイコンが青色であることを確認します。



- ローカルコンピューターでエクスプローラーのウィンドウを開き、マウントするメディアソースを選択し、マウスで左クリックしたままバーチャルメディアソースをリモートビューウィンドウにドラッグ&ドロップします。以下に例を示します。

- ◆ ドラッグ & ドロップ = バーチャルメディア読み取り専用
- ◆ ドラッグ & ドロップ + [Ctrl] = バーチャルメディアの読み取り+書き込み



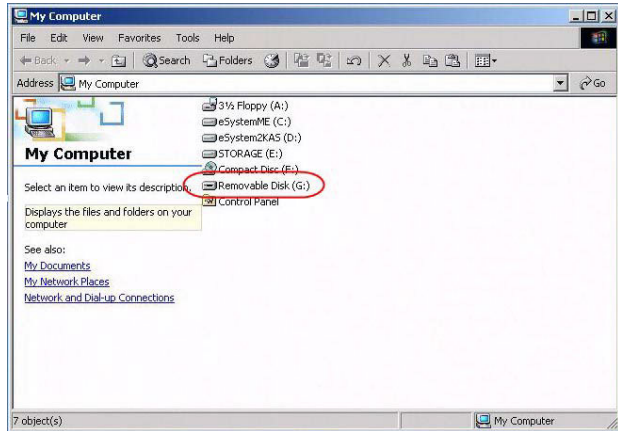
サポートされるバーチャルメディアタイプの一覧と、それらのマウントに関する詳細は、p.326「サポートされるバーチャルメディア」を参照してください。

- バーチャルメディアのドライブがマウントされると、リモートビュー画面に次のようなメッセージが表示されます。



- ドラッグ & ドロップしたバーチャルメディアのデバイスは、リモートサーバーにリダイレクトされ、リモートサーバーのファイルシステムにドライブ、ファイル、

フォルダーなどとして表示されます。



注意:

リダイレクトされたデバイスに書き込めない場合は、グレーで表示されます。

マウントされたバーチャルメディアは、リモートサーバーに存在するかのよう
に扱うことができます。ファイルをリモートサーバーにドラッグ&ドロップした
り、リモートサーバー上のファイルを開いて編集したり、リダイレクトされたメ
ディアなどに保存したりできます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカルクライ
アントコンピューターのストレージに保存されます。リダイレクトされたメディア
からドラッグしたファイルは、実際にはローカルクライアントコンピューターの
ストレージから取得されます。

5. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメ
ディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動
的にマウントが解除されます。

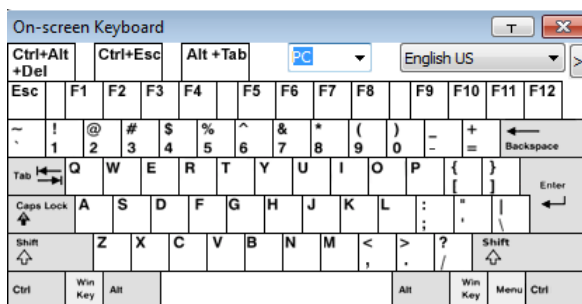
ズーム

「ズーム」アイコンは、リモートビューウィンドウのズーム倍率を制御します。設定内容は以下のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューのウィンドウを100%の倍率で表示します。この設定と100%設定の違いはリモートビューウィンドウのサイズを変更してもその内容はサイズ変更されず元のサイズのままになります。表示領域の外側にある物を表示するには、マウスをウィンドウの端に移動して、画面をスクロールします。

オンスクリーンキーボード

IP-KVMスイッチは、サポートされる各言語のすべての標準キーを備えた、複数の言語で使用可能なオンスクリーンキーボードをサポートしています。このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードがポップアップ表示されます。



オンスクリーンキーボードの大きな利点の1つは、リモートシステムとローカルシステムのキーボード言語が同じでない場合、いずれかのシステムの構成設定を変更する必要がないことです。オンスクリーンキーボードを起動するだけで、アクセスしているサーバーで使用されている言語を選択し、オンスクリーンキーボードを使用して通信します。

注意:

オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。実際のキーボードで操作できません。

言語の変更

言語を変更するには、以下の手順で操作を行ってください。

1. 現在選択されている言語の横にある下向き矢印をクリックして、言語リストをドロップダウン表示します。



2. リストから新しい言語を選択してください。

プラットフォームの選択

オンスクリーンキーボードは、SunプラットフォームとPCをサポートします。プラットフォームを選択するには、次の手順に従って作業を行ってください。

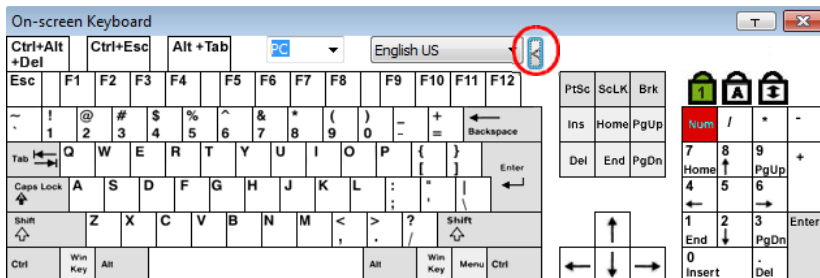
1. 現在選択されているプラットフォームの横にある下向き矢印をクリックして、プラットフォームリストを展開します。



2. リストから新規プラットフォームを選択します。

拡張キーボード

展開したオンスクリーンキーボードのキーの表示/非表示を切り替えるには、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。



マウスポインターの種類

IP-KVMスイッチは、リモートディスプレイでの作業時に多数のマウスポインターオプションを提供します。このアイコンをクリックして、利用可能なオプションから選択を行ってください。

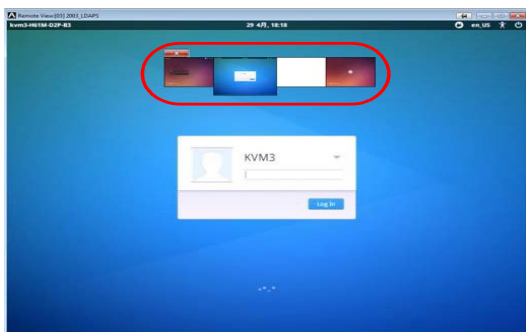


注意:

1. ポートにアクセスする前にWindowsビューアで使用できるポインターは、デュアルと十字のみです。ポートにアクセスすると、3種類のポインターが使用可能になります。
2. シングルポインターは、JavaクライアントビューアやJavaクライアントAPでは使用できません。
3. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「マウス表示の切替」のホットキーを実行した時と同じ状態になります(p.85参照)。
4. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。

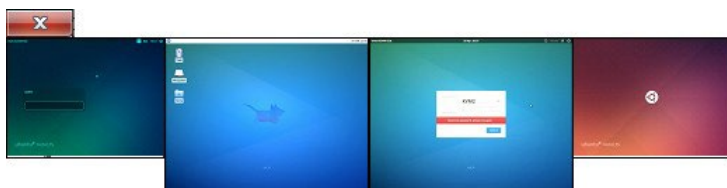
拡張ディスプレイ

拡張ディスプレイのアイコンは、拡張ディスプレイの機器構成で画面を表示する機能を提供します。アイコンをクリックすると、次に示すように、表示パネルウィンドウが拡張画面とともに表示されます。



表示パネルウィンドウの画面のサイズと番号は、セットアップの構成によって異なります。詳細については、p.161「マルチビュー」を参照してください。

表示パネルウィンドウ



オプション	使用方法
切替	表示パネルウィンドウの画面をダブルクリックすると、その拡張表示に切り替わります。
展開/折りたたみ	表示パネルウィンドウの端にマウスポインターを合わせ、マウスポインターが二重矢印ボタンに変わったら、クリックしてドラッグし、ウィンドウサイズを展開または折りたたみます。
移動	マウスポインターを表示パネルウィンドウ内に置き、クリックしてドラッグすると、ウィンドウがコンピューター画面の任意の場所に移動します。表示パネルウィンドウは、リモートセッションの外に移動できません。
終了	コントロールパネルの×または複数ディスプレイアイコンをクリックすると、コントロールパネルウィンドウを閉じます。



マウスダイナシクモード

ローカルマウスポインターとリモートマウスポインターの同期は、自動的に、または手動で行われます。

マウスの自動同期(ダイナシク)




マウスダイナシクは、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期します。これにより、2つの動きを頻繁に再同期する必要がなくなります。

注意:

この機能は、使用OSがWindowsまたはMac(G4以降)で、使用しているコンピューターモジュールの属性OS(attribute OS)の値がWinまたはMacに設定されている場合にのみご利用いただけます(p.158「ポートのプロパティ」参照)。この場合、使用モジュールがKA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、KA7189 のいずれかであることを確認してください。

他のすべての機器構成では、手動設定によるマウス同期を使用する必要があります(次のセクションで説明します)。

コントロールパネルのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

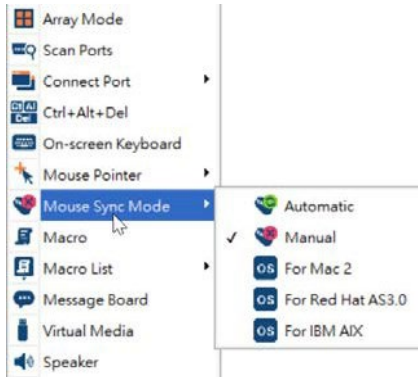
アイコン	機能
	このアイコンは、マウスダイナシクが使用できないことを示すために灰色で表示されます。手動同期手順を実行する必要があります。これは、KA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188およびKA7189以外のすべてのコンピューターモジュールのデフォルト設定です。
	このアイコンの緑色のチェックマークは、マウスダイナシクが使用可能で有効になっていることを示します。これは、マウスダイナシクが使用可能な場合のデフォルト設定です(上記の注意書きを参照)。
	このアイコンの赤い×印は、マウスダイナシク機能が使用可能であるものの、 無効 であることを示します。

マウスダイナシクが利用可能な場合、アイコンをクリックすると、そのステータスが有効と無効の間で切り替わります。マウスダイナシクモードを無効にする場

合は、下記の「手動設定によるマウスの同期」で説明されている手動による同期処理を使用する必要があります。

Mac/Linuxの環境における注意事項

- ◆ Mac OS バージョン10.4.11以降をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定をできます。デフォルト設定の同期方法で十分な結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試しください。Mac2を選択するには、コントロールパネルのテキストエリアを右クリックし、「マウス同期モード」>「Mac2用に自動同期」を選択してください。



- ◆ Linuxをお使いの場合、ダイナシクモードはサポートされませんが、マウス同期モードメニュー(Red hat AS 3.0)の設定を行うことで同期が可能です。AS 3.0システムでUSBタイプのコンピューターモジュール(前ページの注意書きを参照)を使用していて、デフォルトのマウス同期が不十分である場合は、Redhat AS 3.0設定を試すことができます。ただし、上記のいずれの場合においても、次のセクションに記載された手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

手動設定によるマウス同期

ローカルマウスのポインターがリモートシステムのマウスポインターと同期していない場合、それらを同期させる方法がいくつかあります。

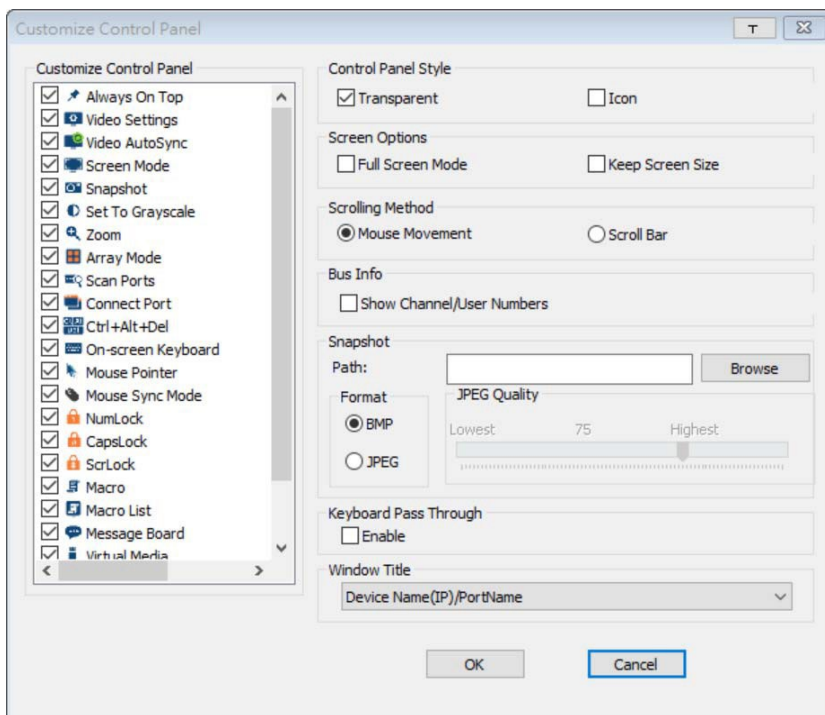
1. コントロールパネルのビデオ設定アイコンをクリックして、ビデオとマウスの自動同期を実行します(p.93参照)。
2. ビデオ調整機能で自動同期を実行します(詳細については、p.93「ビデオ設定」)

を参照してください)。

3. マウスの調整ホットキーを使用してマウスの調整機能を起動します(詳細についてはp.85「マウスの調整」を参照)。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。
6. 製品に接続されるサーバーのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行います。手順については、p.309「その他のマウス同期方法」を参照してください。

コントロールパネルの設定

「コントロールパネル」アイコンをクリックするとダイアログボックスが表示され、コントロールパネルに表示される項目とそのグラフィカル設定を構成できます。



ダイアログボックスの組織については、以下の表で説明します。

項目	説明
コントロールパネルのカスタマイズ	コントロールパネルに表示するアイコンを選択できます。表示したいものをチェックし、不要なものからチェックを外してください。
コントロールパネルのスタイル	<ul style="list-style-type: none">◆ 「透明」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルが半透明になり、下にあるオブジェクトを確認できます。◆ 「アイコン」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルの上にマウスを置くまでコントロールパネルがアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に置くと、パネル全体が表示されます。

項目	説明
画面オプション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「フルスクリーンモード」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。 ◆ フルスクリーンモードが有効になっていない場合、リモート側の画面はローカルのデスクトップにウィンドウ形式で表示されます。リモート画面がウィンドウに収まりきらない場合は、マウスポインターを表示したい領域に最も近い画面境界に移動すると、画面がスクロールします。 ◆ 「画面サイズを保持する」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面のサイズは変更されません。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度より小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウ形式で画面の中央に表示されます。 ◆ リモート解像度がローカルモニターの解像度より大きい場合、ディスプレイは画面の中央に表示されます。画面外の領域にアクセスするには、表示したい領域に最も近い画面の隅にマウスを移動すると、画面がスクロールします。 ◆ 「画面サイズを保持する」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてサイズ変更されます。
スクロール方法	<p>リモート画面の表示がモニターよりも大きい場合、画面外の領域にスクロールする方法を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「マウスの動き」を選択すると、マウスポインターを画面の境界に移動したときに画面がスクロールします。 ◆ 「スクロールバー」を選択すると、画面の境界線の周りに表示されたスクロールバーを使用して画面外の領域にスクロールできます。
バス情報	<p>バス情報が有効になっている場合、使用しているバス番号とそのバスにおけるユーザーの総数が、コントロールパネルの下端中央に「バス番号 / ユーザーの総数」の形式で表示されます(例については、p.80「コントロールパネル」の図を参照してください)。</p>

項目	説明
スナップショット	<p>これらの設定により、IP-KVMスイッチの画面キャプチャーのパラメーターを設定できます (p.82「コントロールパネル」の「スナップショット」の説明を参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「パス」は、キャプチャーした画面が自動的に保存されるディレクトリーを選択できます。「参照」ボタンをクリックし、対象となるフォルダーを「フォルダーの選択」ダイアログから選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでディレクトリーを指定しない場合、スナップショットはデスクトップに保存されます。 ◆ キャプチャーした画面のイメージの保存形式(BMP、JPEG)をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEGを選択した場合は、キャプチャーした画像の画質をスライダーバーで調整できます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。
キーボードパススルー	<p>これを有効にすると、[Alt]+[Tab]キーの押下がいリモートサーバーに渡され、そのサーバーに影響します。この項目が有効になっていない場合は、[Alt] + [Tab]のキー操作がローカルクライアントコンピューター上で実行されます。</p>
ウィンドウタイトル	<p>ウィンドウタイトルに表示する情報を選択できます。使用可能なオプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポートネーム ◆ ポートネーム/解像度/フレームレート/帯域幅 ◆ デバイス名(IP)/ポートネーム ◆ デバイス名(IP)/ポートネーム/解像度/フレームレート/帯域幅

Javaコントロールパネル

JavaクライアントビューアとJavaクライアントAPコントロールパネルは、Winクライアントで使用されるものと似ています。



これらの大きな違いは次のとおりです。

- ◆ 「マクロ」ダイアログボックスにおいて、マウス表示の切替機能は使用できません。
- ◆ ドットのマウスポインターの種類は使用できません。
- ◆ Javaクライアントビューアのメッセージボード機能には、ユーザーリストとメッセージパネルの表示/非表示を切り替える「表示」/「非表示」ボタンがあります。この機能は、ユーザーリストパネルとメインパネルを分離するバー上部の矢印ボタンをクリックすることでお使いいただけます。
- ◆ バーチャルメディアでは、ISOとフォルダーのみがサポートされます。詳細については、p.326「Javaクライアントビューア/JavaクライアントAP」を参照してください。
- ◆ コントロールパネルのロックLEDアイコンがキーボードと同期していません。初めて接続したときは、LEDディスプレイが正確でない場合があります。必ずLEDアイコンをクリックして設定してください。
- ◆ コントロールパネルの設定では、BMP形式のスナップショットがPNGに置き換えられています。



Webクライアントのコントロールパネル

Webクライアントのコントロールパネルは、次のように、Winクライアントコントロールパネルのよりシンプルなバージョンです。







注意:

WebクライアントではOSDホットキーはサポートされません。詳細については、p.146「ユーザー環境設定」を参照してください。



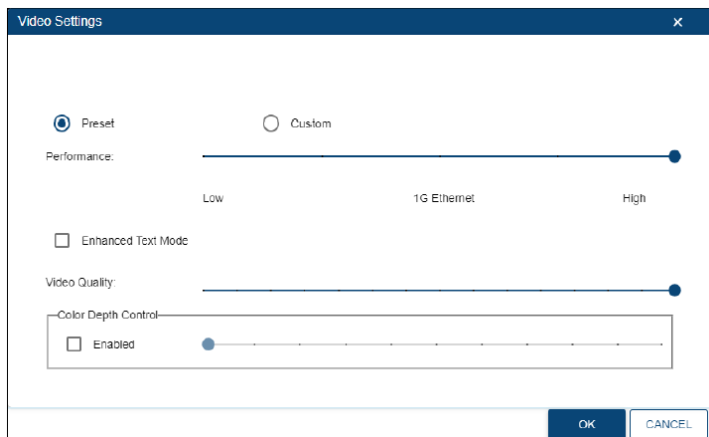
機能

アイコン	機能
	これはトグルボタンです。クリックしてコントロールパネルを固定します。つまり、常に他の画面要素の上に表示されます。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。
	「ビデオ設定」ウィンドウをクリックします。(詳細は、p.120「Webクライアントのビデオ設定」を参照してください)。
	クリックすると、ビデオの自動同期操作が実行されます。
	「画面モード」ドロップダウンメニューを選択します。「フルスクリーンモード」と「ウィンドウに合わせる」のどちらかを選択します。
	クリックすると、リモートディスプレイをカラー表示とグレースケール表示の間で切り替えます。
	アクセスされたポートで、クリックするとパネルアレイモードを呼び出します (p.246「パネルアレイモード」を参照)。
	使用可能なオンラインポートのドロップダウンメニューをクリックし、接続するポートをクリックして選択します。

	<p>クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号がリモートシステムに送信されます。</p>
	<p>クリックすると、オンスクリーン英語キーボードを表示します(詳細については、p.121「Webクライアントのオンスクリーンキーボード」を参照)。</p>
	<p>クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。 注意:このアイコンは、変更されているマウスポインターの種類に応じて変わります(詳細については、p.121「Webクライアントにおけるマウスポインターの種類」を参照してください)。</p>
	<p>クリックすると、マウス同期モードのメニューを表示します(詳細については、p.124「Webクライアントにおけるマウス同期モード」を参照してください)。</p>
	<p>クリックすると、「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。アイコンは、バーチャルメディア機能のステータスに応じて変化します(詳細については、p.101「バーチャルメディア」を参照してください)。</p>
	<p>クリックすると、クライアントコンピューターのスピーカーで聞こえるようにリモートサーバーからの音声のオンとオフを切り替えます。スピーカーをオフに切り替えると、アイコンに「禁止」マークが表示されます。</p>

Webクライアントのビデオ設定

このアイコンをクリックすると、以下のようなWebクライアントのビデオ設定が表示されます。



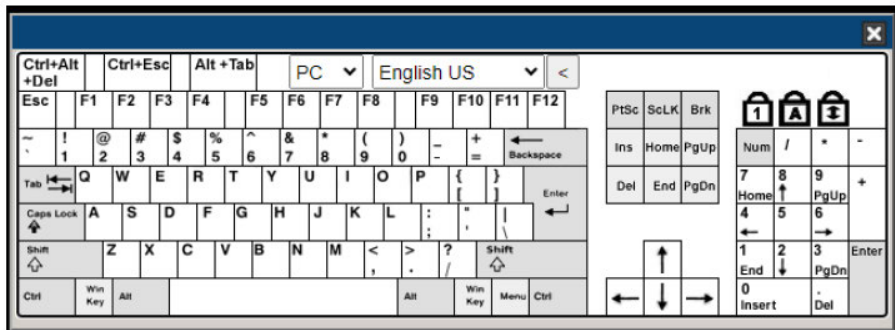
各選択とその機能は下表のとおりです。

オプション	使用方法
パフォーマンス	スライダーを使用して、ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続のタイプを選択してください。本機はその選択を使用して、ビデオ表示の品質を最適化するためにビデオ品質設定を自動的に調整します。 ネットワーク状態は様々であるため、プリセットの選択肢のいずれもうまく動作しないように見える場合は、「詳細」を選択し、「ビデオ品質」スライダーを使用して、条件に合わせて設定を調整できます。
テキストモードの強化	一部のインターフェースシステム(Sun Blade1000やその他のサーバーなど)に影響するビデオ画面解像度に関連するビデオ表示の問題を解決するには、これをオンにしてください。この設定により、一部の表示で画像の色を改善できます。 デフォルトYUV:4:1:1 拡張テキストモードYUV:4:4:4
ビデオ品質	スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワーク帯域によっては、値を大きくすると応答時間が低下する場合があります。

色深度コントロール	この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。
-----------	---

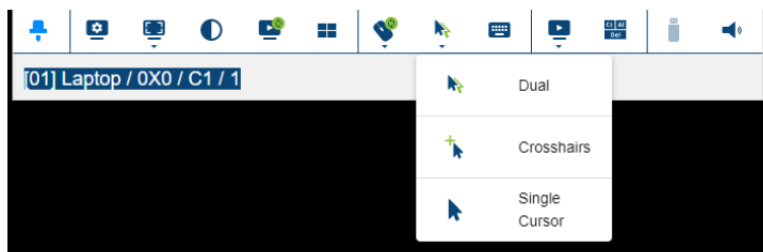
Webクライアントのオンスクリーンキーボード

このアイコンをクリックすると、オンスクリーン英語キーボードが表示されます。



Webクライアントにおけるマウスポインターの種類

IP-KVMスイッチは、リモートディスプレイでの作業時に多数のマウスポインターオプションを提供します。このアイコンをクリックして、使用したいタイプを選択してください。



注意:

1. 利用可能なオプションはブラウザーによって異なります。たとえば、Internet Explorerにはデュアルと十字タイプがあり、Chromeにはデュアル、十字、シングルカーソルがあります。
2. コントロールパネルのアイコンはポインターの選択に合わせて変化します。

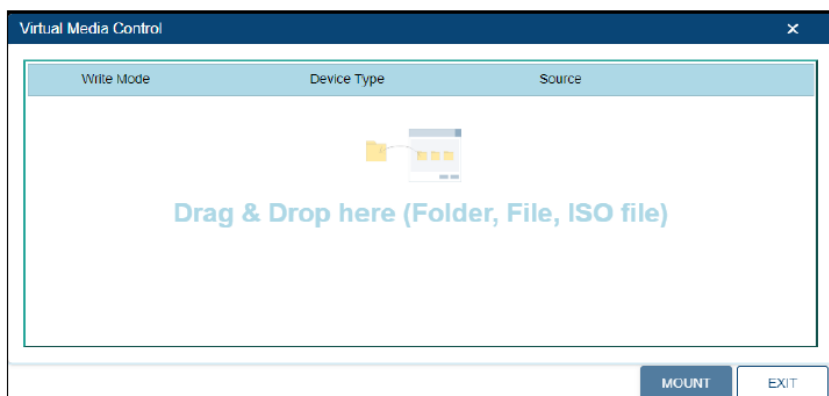
バーチャルメディア

バーチャルメディアのデバイスを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「バーチャルメディア」アイコンをクリックして、「バーチャルメディアコントロール」を表示してください。

注意:

1. Internet Explorerのウェブブラウザでは、ISOファイルのみがサポートされます。
 2. バーチャルメディアの書き込みはWebクライアントではサポートされていません。
-



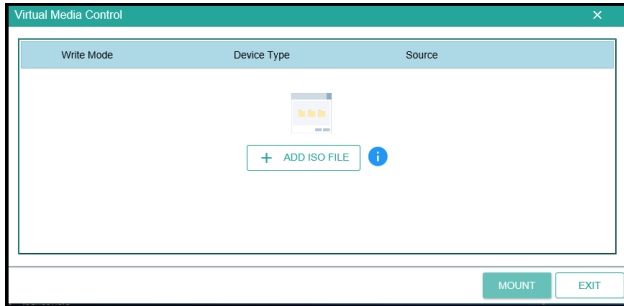
2. 選択したファイルを「バーチャルメディア制御」ダイアログボックスにドラッグ&ドロップして、「マウント」をクリックするだけです。
3. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックしてください。そうすると、マウントされているすべてのデバイスのマウントが自動的に解除されます。

Internet Explorerを使用したバーチャルメディアの追加

Internet Explorerを使用してバーチャルメディアデバイスをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. 「バーチャルメディア」アイコンをクリックして、バーチャルメディアコントロ

ールを表示してください。



2. **+ ADD ISO FILE** をクリックしてISOファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。
3. 「マウント」をクリックし、バーチャルメディアデバイスをマウントしてください。
4. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックしてください。そうすると、マウントされているすべてのデバイスのマウントが自動的に解除されます。

Webクライアントにおけるマウス同期モード

ローカルマウスポインターとリモートマウスポインターの同期は、自動的に、または手動で行われます。

マウスの自動同期(ダイナシク)



マウスダイナシクは、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期します。これにより、2つの動きを頻繁に再同期する必要がなくなります。

注意:

この機能は、使用OSがWindowsまたはMac(G4以降)で、使用しているコンピューターモジュールの属性OS(attribute OS)の値がWinまたはMacに設定されている場合にのみご利用いただけます (p.158「ポートのプロパティ」参照)。この場合、使用モジュールがKA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、KA7189 のいずれかであることを確認してください。

他のすべての機器構成では、手動設定によるマウス同期を使用する必要があります(次のセクションで説明します)。

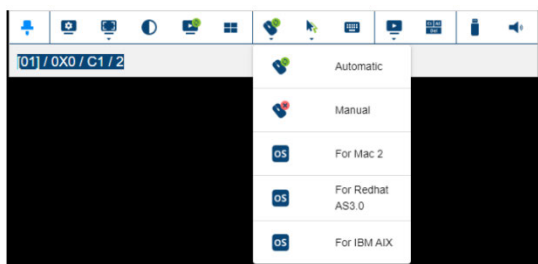
コントロールパネルのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

アイコン	機能
	このアイコンの緑色のチェックマークは、マウスダイナシクが 有効 であることを示します。これはデフォルト設定です(上の 注意書き を参照)。
	このアイコンの赤い×印は、マウスダイナシクが 無効 であることを示します。

アイコンをクリックすると、そのステータスが有効または無効に切り替わります。マウスダイナシクモードを無効にする場合は、以下で説明する手動同期手順を使用する必要があります。

Mac/Linuxの環境における注意事項

- ◆ Mac OS バージョン10.4.11以降をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定をできます。デフォルト設定の同期方法で十分な結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試しください。



- ◆ Linuxをお使いの場合、ダイナシクモードはサポートされませんが、マウス同期モードメニュー(Red hat AS 3.0)の設定を行うことで同期が可能です。AS 3.0システムでUSBタイプのコンピューターモジュール(前ページの注意書きを参照)を使用していて、デフォルトのマウス同期が不十分である場合は、Redhat AS 3.0設定を試すことができます。ただし、上記のいずれの場合においても、次のセクションに記載された手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

手動設定によるマウス同期

ローカルマウスのポインターがリモートシステムのマウスポインターと同期していない場合、それらを同期させる方法がいくつかあります:

1. ビデオの自動同期を行うには、p.93を参照してください。
2. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
3. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。

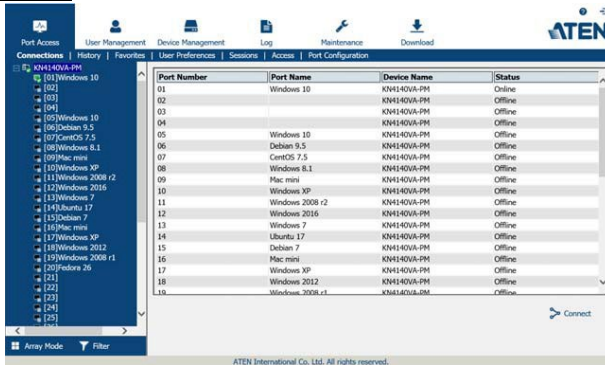
製品に接続されるサーバーのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行います。詳細については、p.309「その他のマウス同期方法」を参照してください。

第6章 ポートアクセス

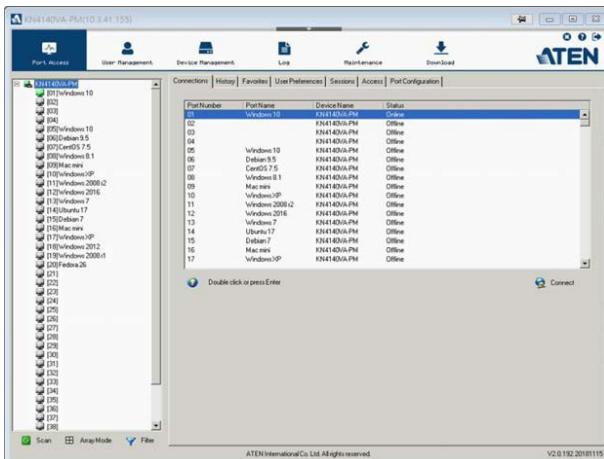
概要

本製品にリモートからログインすると、「ポートアクセス」画面にIP-KVMスイッチの「KVM接続」画面が表示されます。

ブラウザーGUI



AP GUI



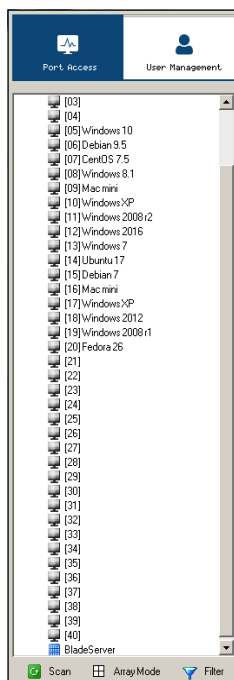
「接続」画面は、複数の主要なエリアから構成されています。ユーザーがアクセス権限を持っている機器やポート、および、アウトレットはすべて、画面の左側にあるサイドバーに一覧表示されます。IP-KVMデバイスのリストに加えて、ブレードサーバーが導入されている場合は、IP-KVMデバイスの下に個別に一覧表示されます。

KVMデバイスとポートの設定と動作についてはp.183で、ブレードサーバーの動作についてはp.217で、それぞれ説明します。

サイドバーでデバイス、ポート、またはアウトレットを選択した後、メニューバー(ブラウザGUI)またはタブメニュー(AP GUI)のエントリーをクリックすると、サイドバーで選択した項目に関連する情報と設定画面が開きます。

サイドバー

すべてのKVMスイッチとブレードサーバー(ポートとアウトレットを含む)は、画面左側のサイドバーにツリー形式で表示されます。



サイドバーのツリービュー

サイドバーにおけるツリー構造の特長は次のとおりです。

- ◆ ユーザーは、自分自身がアクセス権限を持つ機器およびポート/アウトレットのみを表示できます。
- ◆ ポート/アウトレットと子デバイスは、親デバイスの下にネストできます。デバイスの前にある「+」をクリックしてツリーを展開すると、その下にネストされたポート/アウトレットを確認できます。「-」をクリックすると、ツリーが折りたたまれ、ネストされたポート/アウトレットが非表示になります。
- ◆ ポート/アウトレットのID番号は、アイコンの横に括弧で囲まれて表示されます。ポート/アウトレットに名前を付けることもできます(詳細については、p.132「ポートやアウトレットの名称設定」を参照してください)。
- ◆ オンラインになっているIP-KVMスイッチとポートには、モニター画面アイコンが緑色で表示されます。モニター画面は、オフラインのデバイスとポートに対してグレーで表示されます。
- ◆ オンになっているアウトレットには、オレンジ色のアイコンがあります。オフになっているアウトレットのアイコンはグレーです。
- ◆ ポートにアクセスして操作するには、そのアイコンをダブルクリックします。ポート操作については、第12章「ポート操作」を参照してください。

注意:

1. ブラウザー版では、ポートの数だけポートビューアを開くことができますが、表示されるポートの数はIP-KVMスイッチがサポートするバスの数によって異なります。たとえば、KN4116VAなど4つのバスをサポートしている場合、5番目のビューアには1番目のビューアと同じポートが表示され、6番目のビューアには2番目のビューアと同じ画面が表示されます。
AP GUIバージョンでは、一度にアクセスできるポートは1つだけです。2つの異なるポートを表示するには、2つアプリを起動してログインする必要があります。
 2. CC管理機能が有効な場合(p.200参照)、ブレードサーバーは、IP-KVMスイッチに設定されていてもサイドバーに表示されません。というのは、これらのデバイスがCCサーバーによって管理されているためです。
-

スキャン

スキャンは、AP GUIサイドバーの下部にあります。サイドバーに表示されているすべてのポート(以下の「フィルター」を参照)を定期的に自動的に切り替え、アクティビティを自動的に監視できるようにします。詳細については、p.243「オートスキャン」を参照してください。

注意:

この項目は、ブラウザ版のサイドバーの下部には表示されません。そのバージョンでは、ポートのツールバーから呼び出す必要があります。詳細については、p.241「ポートツールバー」を参照してください。

アレイ

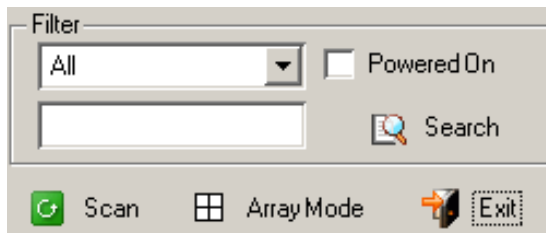
アレイは、AP GUIサイドバーの下部にあります。これは、ポートアクティビティを監視する別の方法を表します。この機能では、画面がパネルのグリッドに分割され、各パネルに特定のポートのビデオ出力が表示されます。サイドバーに表示されているポート(以下の「フィルター」を参照)と、オンラインのポートのみが表示されます。他のポートはすべて空白です。詳細については、p.246「パネルアレイモード」を参照してください。

注意:

この項目は、ブラウザ版のサイドバーの下部には表示されません。そのバージョンでは、ポートのツールバーから呼び出す必要があります。詳細については、p.241「ポートツールバー」を参照してください。

フィルター

フィルターでは、サイドバーに表示されるポートの数とタイプ、およびオートスキャンとアレイモードが呼び出されたときにスキャンされるポートを制御できます(前述の「スキャンとアレイ」を参照)。「フィルター」をクリックすると、パネルの下部が次の図のように変わります。



各項目の詳細は下表のとおりです。

選択	説明
すべて	<p>これはデフォルト表示です。他のフィルターオプションを選択しない場合、ユーザーがアクセス可能なすべてのポートがサイドバーに表示されます。</p> <p>お気に入りが指定されている場合(p.143参照)、リストボックスを展開すると、「すべて」ではなく、お気に入りを選択できます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択した項目のみがツリーに表示されます。</p>
電源オン	<p>「電源オン」を有効にする(ボックスにチェックを入れる)と、接続されているデバイスの電源が入っているポートのみがツリーに表示されます。</p>
検索	<p>検索したい文字列を入力して「検索」ボタンをクリックすると、ポート名がその文字列に一致するポートだけがツリーに表示されます。ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードの使用が可能ですので、複数のポートを表示できます。</p> <p>次に例を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Web*」と入力すると、「Web Server 1」と「Web Server 2」の両方がリストに表示されます。 2. 「W*1 or M*2」と入力すると、「Web Server 1」と「Mail Server 2」の両方がリストに表示されます。
終了	<p>「終了」をクリックすると、フィルターダイアログが終了します。</p>

サイドバーユーティリティー

AP GUIバージョンの「ポートアクセス接続」画面には、サイドバーツリーを操作するための便利な方法が用意されています。項目を右クリックすると、各種オプションを含むリストがポップアップ表示されます。



注意:

スクリーンショットには、表示できるポップアップの1つだけの例が表示されます。ポップアップに表示される項目は、リモートでログインしているか、ローカルコンソールからログインしているか、ユーザーの種類、スイッチまたはポートのどちらを選択したかによって異なります。

次の表に、表示される可能性のあるすべての項目とその説明を示します。

項目	ユーザータイプ	説明
展開する/ 折りたたむ	アドミニストレーター ユーザー	<ul style="list-style-type: none">◆ デバイスのポートがネストされている場合（非表示の場合）、ダイアログボックスのエントリーは「展開する」になります。ネストされたポートを表示するには、「展開する」をクリックします。◆ デバイスのポートが表示されている場合、ダイアログボックスのエントリーは「折りたたむ」になります。ポートを折りたたむには、「折りたたむ」をクリックします。 <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none">1. この項目は、IP-KVMスイッチまたは下位デバイスが接続されているポートにのみ表示されます。2. これは、ツリー表示で「+」または「-」をクリックした場合と同じ効果があります
コピー	アドミニストレーター ユーザー	この項目はポートでのみ使用できます。コピーを選択すると、ポートをお気に入り画面に貼り付けることができます。詳細については、p.143「お気に入りの追加」を参照してください。

ポートやアウトレットの名称設定

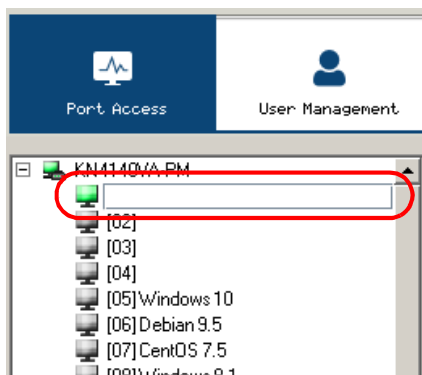
利便性のために(特に多くのデバイス、ポート、アウトレットを含む大規模な機器構成で)、アドミニストレーターおよびポート設定権限を持つユーザーは、各ポートまたはアウトレットに名前を付けることができます。名前を割り当て、変更、または削除するには、次の手順を実行します。

1. 編集する項目を1回クリックしたら、1秒後に、再度クリックします。

注意:

1. これはダブルクリックではありません。それは、2回に分けてシングルクリックを行う操作です。ダブルクリックすると、ポートに接続されているデバイスにアクセスします。
 2. AP GUIバージョンでは、編集するポートを右クリックし、表示されるポップアップボックスで「**名前の変更**」を選択するか、ポートを強調表示して[F2]キーを押します。
-

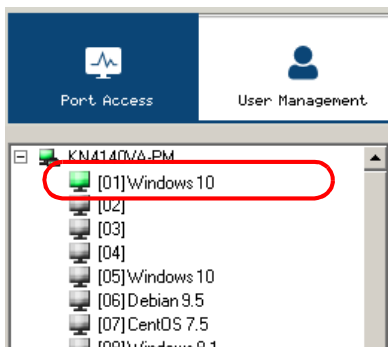
1~2秒後に項目が変更され、テキスト入力ボックスが表示されます。



2. 項目の名前を入力します(または前の項目を変更・削除します)。
 - ◆ PC US英語レイアウトのキーボードのキーでは、文字、番号、および記号の任意の組み合わせを使用できます。この場合、許可される最大文字数は20です。
 - ◆ ローカルIMEを有効にして、英語以外の文字を入力することもできます。2バイト・エンコーディングを使用する言語の場合、許可される最

大文字数は9です。

3. 名前の編集が終了したら、[Enter]を押すか、入力ボックスの外側をクリックして操作を完了します。

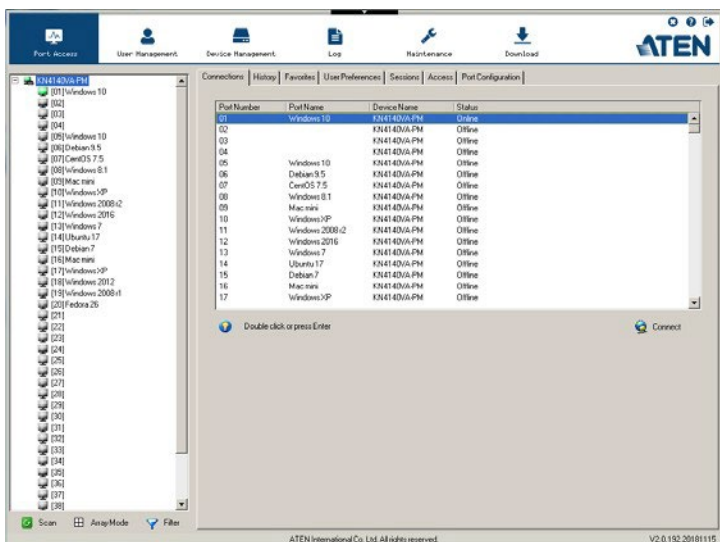


KVMデバイスとポート – 接続画面

IP-KVMスイッチの場合、接続画面にはポート状態情報がデバイスレベルで表示され、ポート接続設定オプションはポートレベルで表示されます。

デバイスレベル

サイドバーでIP-KVMスイッチを選択すると、「接続」画面に、ユーザーがアクセスまたは表示を許可されているデバイスのポートのリストが表示されます。



デバイスごとに次の属性が一覧表示されます。

- ◆ ポート番号 - KVMスイッチのポート番号です。
- ◆ ポートネーム - ポートに名前が割り当てられている場合は、ここに表示されます。
- ◆ デバイス名 - KVMスイッチに名前が割り当てられている場合は、ここに表示されます。
- ◆ ステータス - ポートの現在の状態(オンラインまたはオフライン)です。

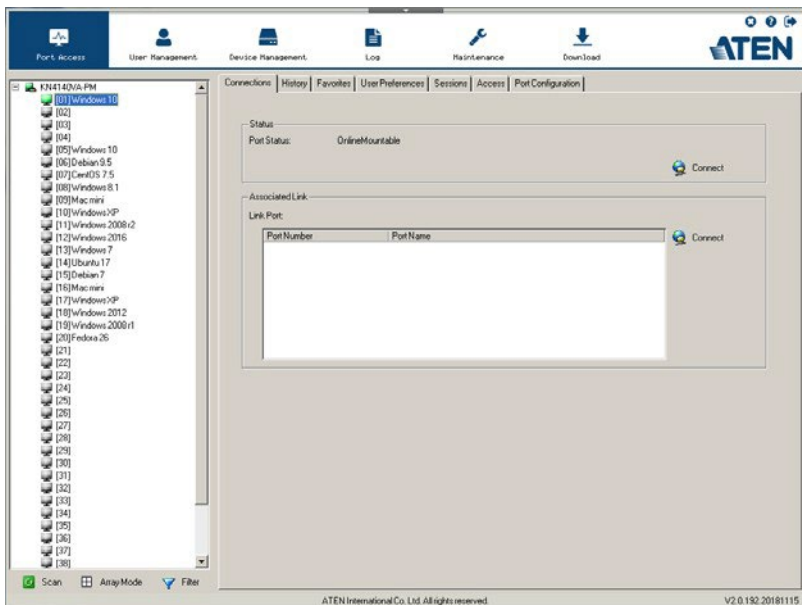
注意:

表示される情報の並べ替え順序は、列見出しをクリックして変更できます。

メインパネルからポートにアクセスするには、行エントリーの任意の場所をダブルクリックするか、行エントリーの任意の場所を選択して画面の右下にある「**接続**」をクリックします。

ポートレベル

サイドバーでポートを選択すると、「接続」画面が変更され、ポートの接続と設定オプションが表示されます。



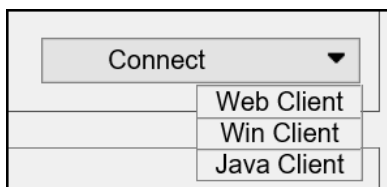
以下のセクションで説明するように、画面は2つの主要なパネルに分かれています。

状態

状態パネルには、ポートがオンラインかオフラインか、ポートがマウント可能かどうかなど、ポートの現在のステータス情報が表示されます。

「**接続**」ボタンをクリックしてポートに接続します。

ウェブブラウザを使用している場合、「接続」ボタンにはドロップダウンのオプションが含まれます。ドロップダウンオプションでは、ポート接続方法を手動で選択できます。接続方法の詳細については、p.148「ビューアの実環境設定」を参照してください。



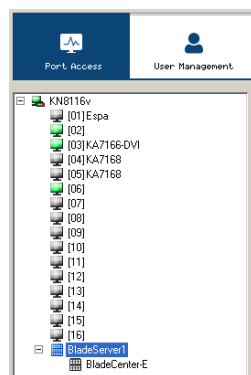
関連リンク

関連リンクパネルには、現在選択されているポートに関連付けられているポートが表示されます。関連付けの設定は、「ポートアクセス」>「ポート設定」>「ポートの関連付け」画面(p.137参照)で行います。

ブレードサーバー – 接続画面

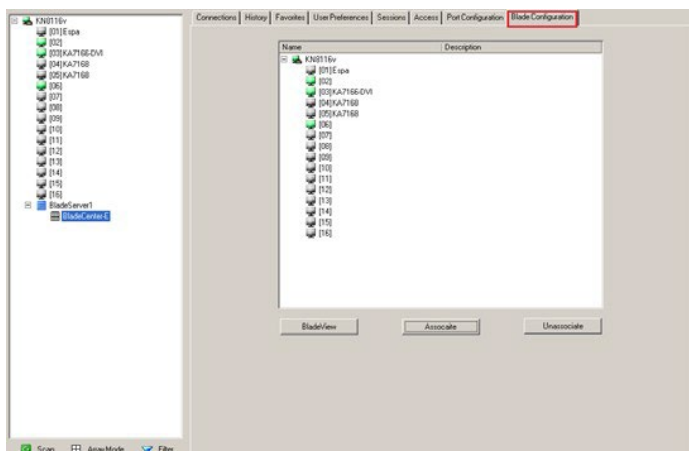
IP-KVMスイッチに接続されているブレードサーバーは、サイドバーのKVMスイッチの下に表示されます。

本項では、ブレードサーバーへのアクセスと設定、およびブレードとKVMスイッチのポートの関連付けについて説明します。ブレードサーバーまたはブレードをポートに関連付けると、サーバーとブレードがサイドバーレビューに統合され、ポートに接続されたデバイスとして表示されます。



ブレード設定画面

「ブレード設定」画面では、ブレードサーバーとKVMスイッチのポート間の関連付けが行われます。この画面にアクセスするには、ブレードサーバーまたはブレードを選択し、「ブレード設定」(メニューバーの右端にあるメニュー項目)をクリックします。



IBM製とDell製のブレードサーバーは、シャーシ全体がポートに関連付けられ、シャーシの各ブレードはツリー内でその関連ポートの子ポートとして表示されます(右スクリーンショットのポート08を参照)。

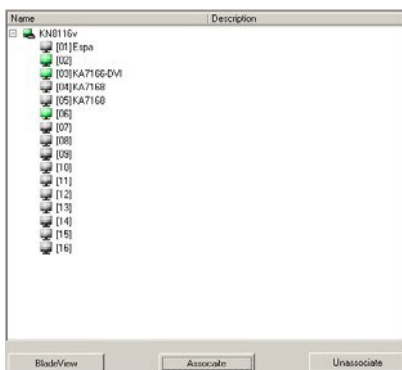
HP製のブレードサーバーの場合、関連付けはブレードごとに行われます。各ブレードは1つのポートに関連付けられます。

ブレードにアクセスするには、ツリーでそのポートエントリーをクリックします。

ポートの関連付け

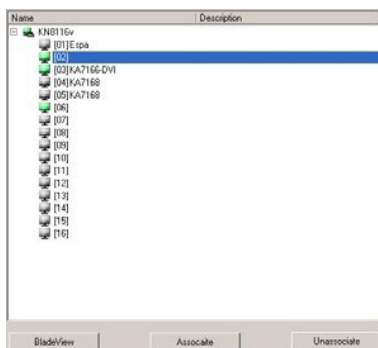
メインパネルのデバイスビュー

ポートの関連付けは、メニューバーの右端にある「ブレード設定」メニュー項目をクリックして開始します。「デバイスビュー」に画面が表示され、KVMスイッチのすべてのポート、ブレードサーバー、またはそれらに関連付けられている個々のブレードが一覧表示されます。

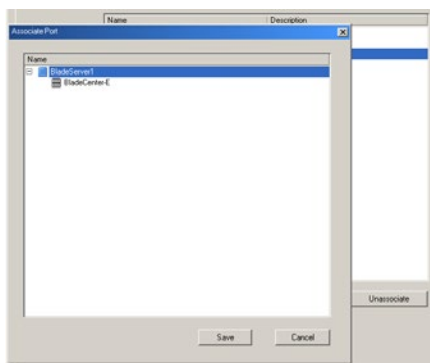


デバイスビューから関連付けを行うには、まずKVMポートを選択し、次にそれを関連付けるブレードサーバーまたはブレードを次のように選択します。

1. メインパネルでポートを選択します。



2. 「関連付け」をクリックします。
3. 「ポートの関連付け」ポップアップウィンドウで、選択したポートに関連付けるブレードサーバーまたは個々のブレードを選択します。



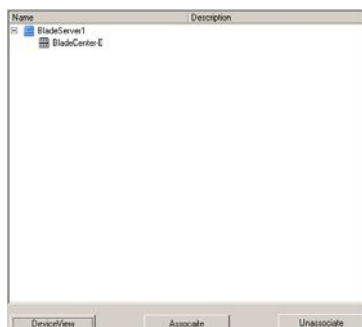
4. 「保存」をクリックしてください。

関連付けが正常に完了すると、ブレードアイコンがサイドバーツリーのポートマークとして表示されます。ブレード上で動作しているデバイスにアクセスするには、サイドバーのエントリーをクリックします。



メインパネルのブレードビュー

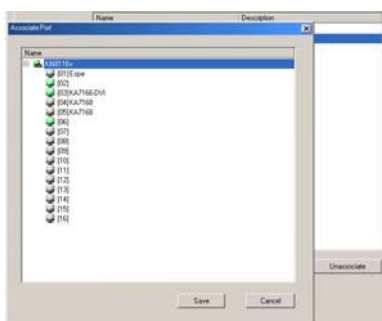
「デバイスビュー」メインパネルの下部には、「ブレードビュー」というラベルの付いたボタンがあります。これは、メインパネルを2つのビュー間で切り替えるボタンです。クリックすると、ブレードビューのメインパネルが表示されます。



「ブレードビュー」には、システムにインストールされているすべてのブレードサーバーと個々のブレード、およびそれらが関連付けられているポート(存在する場合)が一覧表示されます。

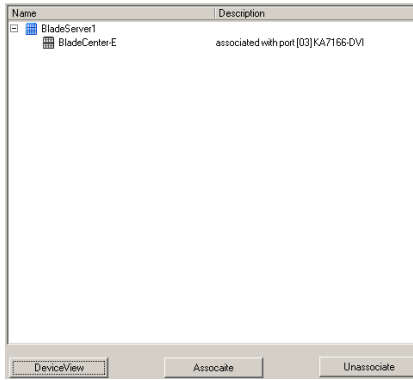
ブレードビューから関連付けるには、まずブレードサーバーまたはブレードを選択してから、次のように関連付けるKVMポートを選択します。

1. メインパネルでブレードサーバーまたはブレードを選択します。
2. 「**関連付け**」をクリックします(メインパネルの下部にあります)。



3. 表示された画面で、関連付けるポートを選択します。
4. 「**保存**」をクリックしてください。

関連付けが正常に完了すると、ブレードアイコンがサイドバーのポートマークとして表示されます。ブレード上で動作しているデバイスにアクセスするには、サイドバーのエントリーをクリックします。

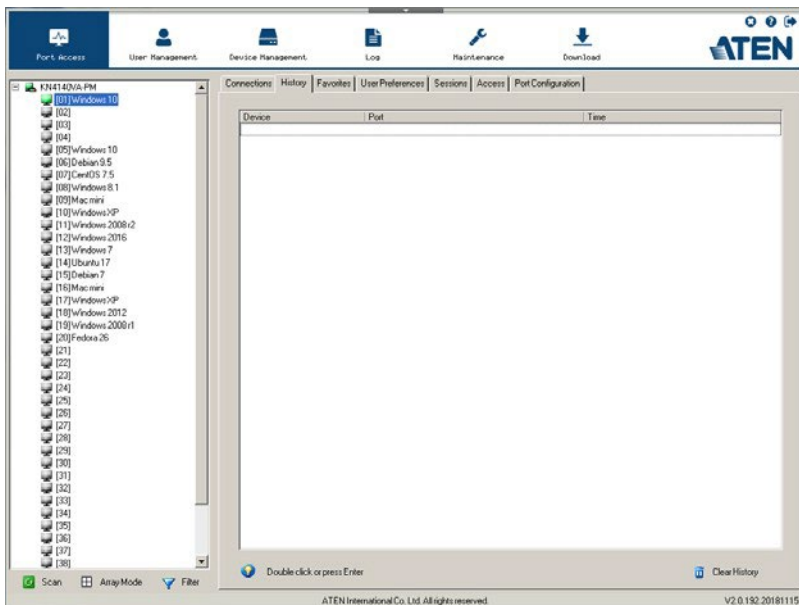


ポートの関連付け解除

ポートとブレードサーバーまたは個々のブレードとの関連付けを解除するには、メインパネルで関連付けを選択し、「**関連付け解除**」をクリックします。

履歴

「履歴」タブでは、ポートがアクセスされた記録を提供します。直近で使用されたポートには、ここから簡単にアクセスできます。メインパネルに表示されたポートをダブルクリックすると、そのポートにアクセスできます。



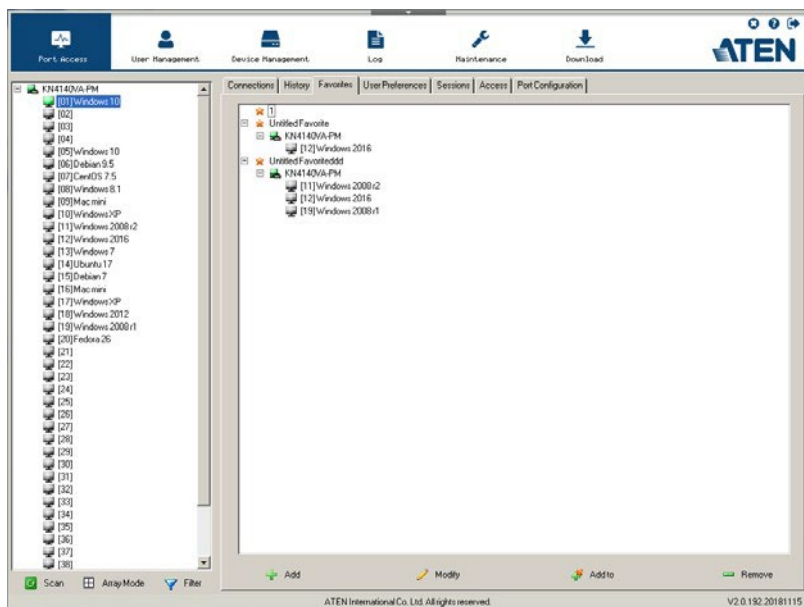
- ◆ 一画面を超える数のアイテムがある場合は、右側にスクロールバーが表示されますので、このスクロールバーを使って前のページや後のページにあるアイテムを確認できます。
- ◆ 記録を消去してやり直すには、画面の右下にある「履歴を消去」ボタンをクリックします。

注意:

表示される情報の並べ替え順序は、列見出しをクリックして変更できます。

お気に入り

お気に入り画面は、ブックマーク機能に似ています。頻繁にアクセスするポートは、ここのリストに保存できます。この画面を開けば、サイドバーから探さなくても、簡単にポートを選択できます。この機能は、規模が大きく、密度の高い機器構成で特に有用です。



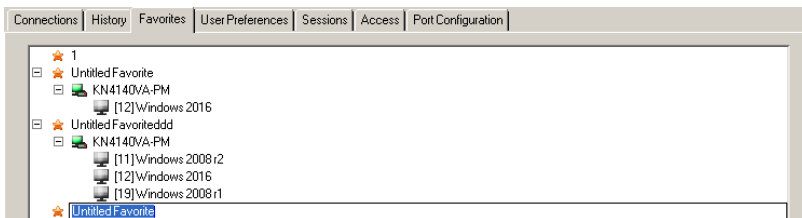
お気に入りの追加

ポートをお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

1. メインパネルで右クリックし、「お気に入りを追加」をクリックします。

– または –

メインパネル左下にある「追加」ボタンをクリックします。「無題」というお気に入りのエントリが表示されます。



2. これは、ポートエントリーを保持するコンテナのような役割を果たします。テキスト入力ボックス内をクリックして「Untitled Favorite」を消去し、適切な名前を入力してから、メインパネルで空いた場所をクリックします。

3. ポートを追加するには

サイドバーからドラッグしてコンテナにドロップします。

- または -

サイドバーで右クリックし、「コピー」を選択します。コンテナを右クリックし、「ペースト」を選択します。

- または -

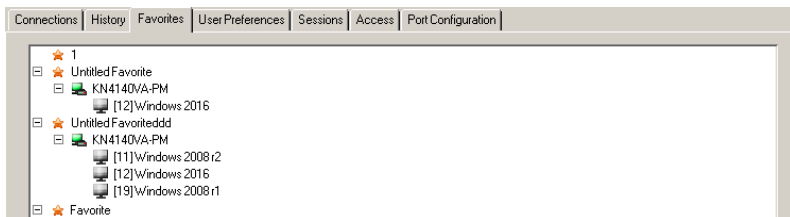
メインパネルでコンテナを選択し、サイドバーでポートを選択したら、メインパネルの下部にある「追加先」をクリックします。

ポートが属するKVMスイッチがコンテナに追加され、選択したポートがKVMスイッチの下に追加されます。

注意:

複数のポートを同時に追加するには、[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらサイドバーを選択し、グループ全体をお気に入りパネルにドラッグまたはコピーします。

4. 作成するその他のお気に入りカテゴリについて、手順3を繰り返します。



注意:

「お気に入り」は、サイドバーでフィルタリング用に選択できます。詳細については、p.129「フィルター」を参照してください。

お気に入りの変更

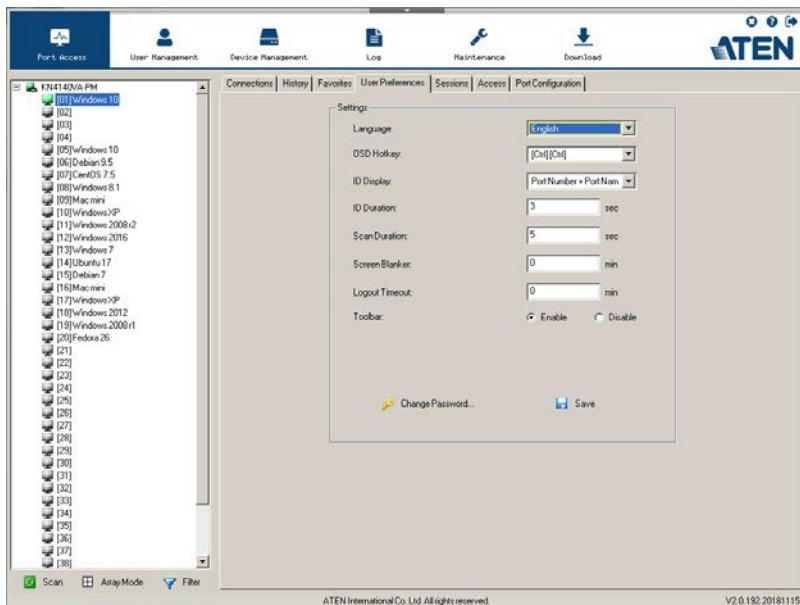
- ◆ お気に入り、またはその中に含まれている項目を変更するには、その項目を右クリックし、表示されるポップアップメニューから選択します。
- ◆ お気に入りの名前を編集するには
1回クリックしたら、1秒後に、再度クリックします。ディスプレイが変更された後に名前を編集して、テキスト入力ボックスを提供できます。これはポートの命名手順として説明された手順と同様です (p.132「ポートやアウトレットの名称設定」参照)。

- または -

メインパネルで「お気に入り」を選択し、メインパネルの下部にある「**変更**」をクリックします。

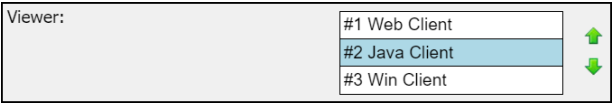
ユーザー環境設定

「ユーザー環境設定」画面では、ユーザーが自身の個別の作業環境を設定できます。KVMスイッチ本体には、各ユーザーのプロフィールが個別に保存され、ログインダイアログボックスに入力されたユーザー名に従って作業環境の設定を行います。



各項目の詳細は下表のとおりです。

設定	機能
言語	インターフェースが表示される言語を選択します。
OSDホット	GUI機能を制御するホットキーを選択します。[Scroll Lock][Scroll Lock]がデフォルトです。別の組み合わせを選択するには、ボックスの右側にある矢印ボタンをクリックして、選択肢のリストをドロップダウン表示します。 注意: このOSDホットキーはWebクライアントではサポートされていません。詳細については、p.118「Webクライアントのコントロールパネル」を参照してください。
ID表示	ポートIDの表示方法をポート番号のみ(PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、またはポート番号とポートネーム(PORT NUMBER+PORT NAME)から選択します。デフォルトはポート番号とポートネーム(PORT NUMBER+PORT NAME)です。

設定	機能
ID表示間隔	ポートの変更が行われた後、ポートIDがモニターに表示される時間を決定します。1～255秒の間で設定できます。デフォルトは3秒です。0(ゼロ)に設定すると、ポートIDが常にオンになります。
スキャンインターバル	オートスキャンモードで選択したポートを循環するとき、各ポートにフォーカスが滞留する時間を決定します(p.243「オートスキャン」参照)。1～255秒の値を入力します。デフォルトは5秒です。0に設定すると、スキャン機能が無効になります。
スクリーンブランカー	コンソールからの入力がないまま、本機能で設定した時間が経過すると、画面は空白になります。1～30分の値を入力します。0を設定すると、この機能は無効になります。デフォルトは0(無効)です。 注意: この機能は、ローカルコンソールまたはリモートログインのどちらからでも設定できますが、影響を受けるのはローカルコンソールモニターのみです。
ログアウトタイムアウト	ユーザーからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、ユーザーは自動的にログアウトさせられます。IP-KVMスイッチに再びアクセスするには、ログインが必要です。
ツールバー	ポートがアクセスされたときにポートツールバーを有効にするかどうかを選択します(詳細はp.241「ポートツールバー」を参照)。 ツールバー機能はGUIコントロールパネル(p.80参照)からも利用できるため、ここでは無効にすることを推奨します。
ビューア*	この画面のブラウザー版では、「ビューア」セクションを使用できます。ポートに接続するとき、どのビューアの方法を優先するかを選択できます。  詳細については、p.148「ビューアの環境設定」(下記)を参照してください。
初期メッセージ	サブメニューバーにおける初期メッセージの表示/非表示を選択できます。デフォルトでは無効に設定されています。
保存	「保存」をクリックすると、「ユーザー環境設定」設定に加えた変更を保存します。
パスワード変更	◆ ブラウザー版GUIでユーザーのパスワードを変更する場合は、旧パスワードと新パスワードをそれぞれ該当欄に入力してください。確認用新パスワードの欄には新パスワードを再入力してください。変更内容を適用する場合は、「パスワードの変更」をクリックしてください。 ◆ AP版のGUIでは、「パスワードの変更」をクリックし、旧パスワードと新パスワードをそれぞれ該当欄に入力してください。「確認」入力ボックスには新しいパスワードを入力します。そうしたら、「保存」をクリックしてください。

注意:

1. これらの項目は、ブラウザー版でのみ使用できます。
 2. ローカルコンソールの「ユーザー環境設定」画面には、デバイスのビープ音をオン(デフォルト)またはオフにするための「ビープ音」設定が追加で(排他的に)提供されています。
-

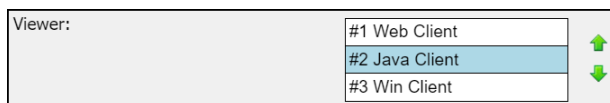
ビューア環境設定

「ユーザー環境設定」画面のブラウザー版にのみ表示されるこのセクションは、主にシステムのビューアの自動選択に関連します。

ビューアを手動で選択するには、p.239「ポートへの接続」を参照してください。

使用可能なビューアは、ログイン時のシステムのステータスとブラウザーの種類によって自動的に決定されます。

ポートに接続しようとする時(ポートをダブルクリックするか、ポートを選択して「接続」をクリックすると)、ビューアリストに従ってビューアが使用されます。以下に例を示します。



- ◆ 最上位の方法が最も推奨される方法であり、#1(デフォルトは「Webクライアント」として一覧表示されています)。
- ◆ ポートへの接続時に優先される方法がサポートされている場合、システムは優先される方法を使用して接続を試みます。
- ◆ 方法がサポートされていない場合、システムは次の方法を使用して接続を試行し、最後の方法を最後に試行します。

ビューア環境設定の調整

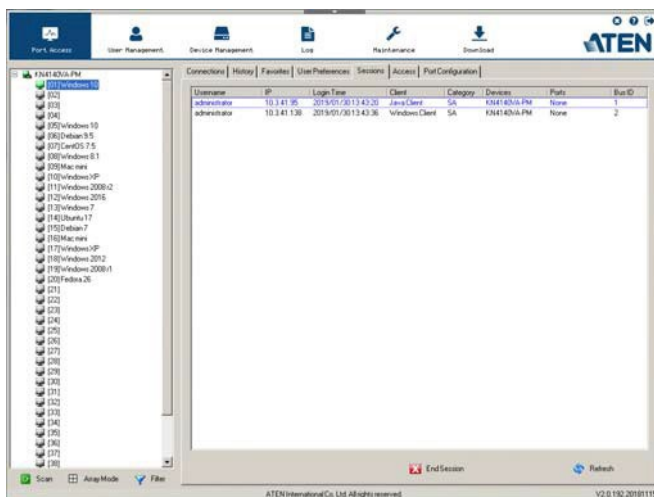
以下の手順で環境設定を調整します。

1. クリックして方法を選択し、強調表示させます。そうすると、上記の「#2 Java Client」の方法が選択されたとおりに表示されます。
2. 上(↑)または下(↓)の矢印をクリックして、位置を移動します。

上向き矢印(▲)は上方向に移動し(優先度が高くなります)、下向き矢印(▼)は下方向に移動します(優先度が低くなります)。

セッション

「セッション」画面では、アドミニストレーターとユーザー管理の権限を持つユーザーが、現在どのユーザーがIP-KVMスイッチにログインしているかが一目でわかり、各セッションに関する情報を提供します。



注意:

1. 一般ユーザーは「セッション」画面を使用することができません。
2. 一般ユーザーのセッション情報を確認することができるのは、ユーザー管理権限のあるユーザーだけです。
3. カテゴリーの見出しには、ログインしたユーザーのタイプ(SA(スーパーアドミニストレーター)、Admin(アドミニストレーター)、Normal User(一般ユーザー))が表示されます。

各項目の詳細は下表のとおりです。「IP」列は、ユーザーがログインしたIPアドレスを参照します。「デバイス」と「ポート」の各列には、ユーザーが現在アクセスしているデバイスとポートがそれぞれ表示されます。「バスID」は、ユーザーが現在使用しているバスを参照します(バス0 はローカルコンソールのバスを参照します)。

注意:

1. 一覧の項目をクリックすると、その項目順に表示を変更します。
 2. パスIDはコントロールパネルにも表示されます(p.80参照)。パスについては、p.249「ユーザーとパス」を参照してください。
-

この画面では、ユーザーを選択し、メインパネルの下部にある「セッションの終了」を選択して、ユーザーを強制的にログアウトさせるオプションもアドミニストレーターに提供されます。

アクセス

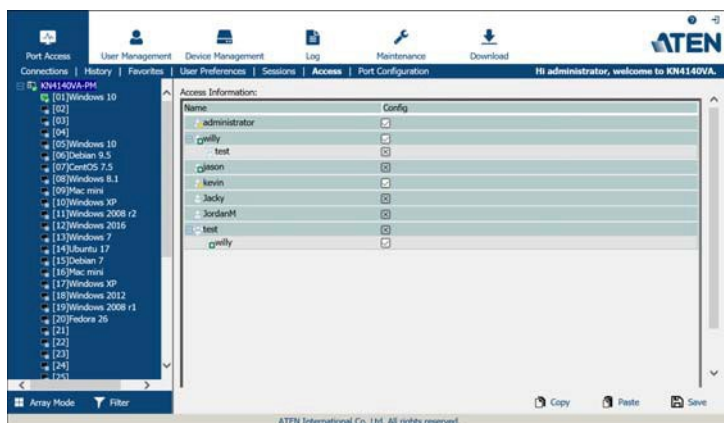
アドミニストレーターは、「アクセス」画面を使用して、IP-KVMスイッチおよびポートのユーザーおよびグループのアクセス権と設定権を設定します。

注意:

「アクセス」画面は、「ユーザー管理」権限を持つユーザーに対してのみ表示されます。他のユーザーは使用できません。

デバイスレベルのブラウザGUIインターフェース

サイドバーでIP-KVMスイッチを選択すると、メインパネルは下図のように表示されます。

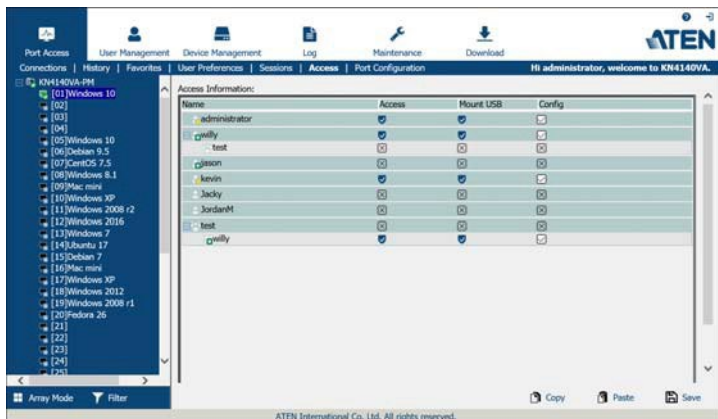


メインパネルは、「名前」と「設定」の2列から構成されます。




- ◆ 「名前」には、作成されたすべてのユーザーとグループが一覧表示されます。
- ◆ 「設定」は、設定権限を持つユーザーを示します。チェックマーク(✓)は、ユーザーがIP-KVMスイッチ設定を変更する権限を持っていることを示します(第8章「デバイス管理」を参照)。「×」は、ユーザーが設定変更を行う権限を拒否されていることを意味します。アイコンをクリックすると、アドミニストレーターとユーザーの権限を切り替えます(スーパーアドミニストレーターには常に設定権限があります)。
- ◆ メインパネルの下部にある「コピー」ボタンと「ペースト」ボタンは、あるポートの権限設定を他のポートのいずれかに割り当てるショートカット方法を提供します。そのためには、次の操作を行ってください。
 1. 他のポートに権限を適用するにあたり、コピー元となるポートを選択します。
 2. 「コピー」をクリックします。
 3. 権限を受け取るポートを選択します。
 4. 「ペースト」をクリックします。
- ◆ 設定変更が完了したら、「保存」をクリックします。

ポートレベルのブラウザGUIインターフェース

サイドバーでポートを選択すると、メインパネルは下図のように表示されます。

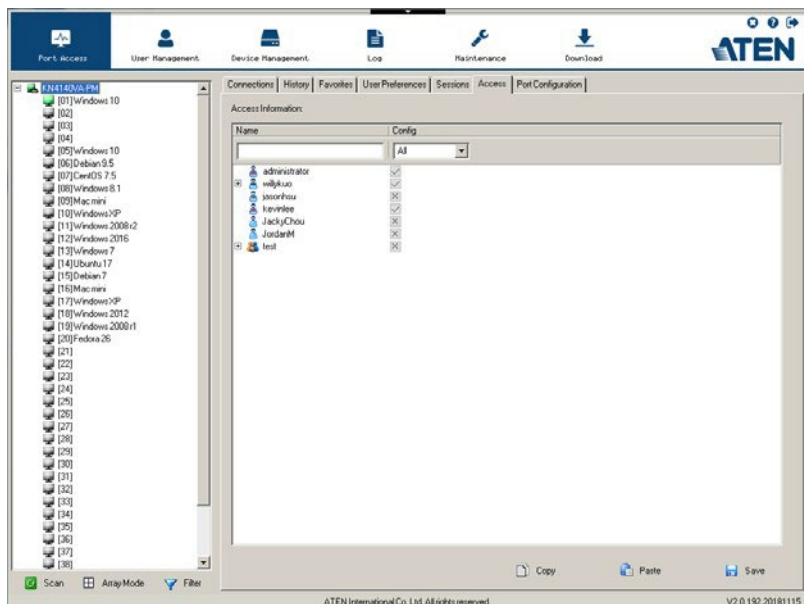


次の表で、ポートアクセス設定について説明します。

名前	現在操作しているユーザーがアクセスすることができるポートがこの列に表示されます。		
アクセス	デバイスへのアクセス権限を設定します。選択肢を循環するには、設定するユーザーに対応する行のアイコンをクリックしてください。アイコンの意味は次のとおりです		
		フルアクセス	ユーザーはリモート画面を表示し、自分のキーボードとモニターからリモートサーバー上で操作を実行できます。
		参照のみ	ユーザーはリモート画面を参照できますが、操作をできません。
		アクセス不可	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。
USBのマウント	<p>「USBのマウント」列では、リモートサーバーにバーチャルメディアデバイスをマウントする権限が設定されます。選択肢を循環するには、設定するユーザーに対応する行のアイコンをクリックしてください。アイコンは、「アクセス」列のアイコンと同じです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ フルアクセス設定では、ユーザーはバーチャルメディアのマウント、読み取り、および書き込みをできます。 ◆ 「表示のみ」設定では、ユーザーはバーチャルメディアの内容を表示することのみができ(読み取り専用)、バーチャルメディアに対する操作を実行できません。 ◆ 「アクセスなし」の設定では、リモート側のシステムでバーチャルメディアが設定されていても、ユーザーにはバーチャルメディアが表示されません。 <p>注意: このエントリーは、USBバーチャルメディア機能をサポートしないIP-KVMスイッチには表示されません。</p>		
設定	操作権限の設定や設定解除によって、ユーザーのポート設定を変更します。チェックマーク(✓)はユーザーに権限があることを示し、「×」はユーザーに権限がないことを示します。		

デバイスレベルのAP GUIインターフェース

サイドバーでIP-KVMスイッチを選択すると、メインパネルは次のように表示されます。

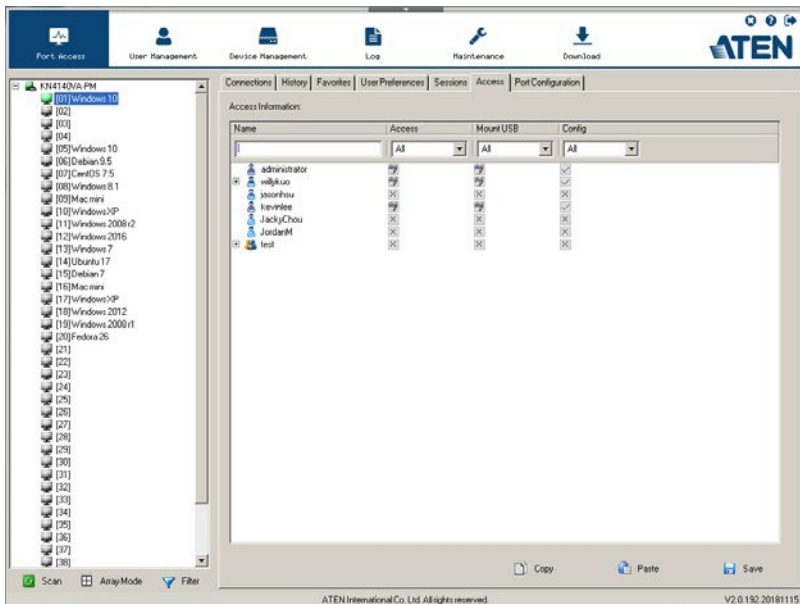


この画面は、ブラウザGUI(p.150参照)と基本的に同じですが、列の上部にフィルターがある点が異なります。フィルターを使用すると、次の表の説明に従って、表示されるユーザーとグループの範囲を拡張または制限できます。

フィルター	説明
名前	<p>ユーザーまたはグループの名前をフィルタリングするには、ユーザーやグループの名前またはこれに含まれる文字列を入力し、[Enter]キーを押してください。名前が入力された文字列に合致するユーザーとグループのみがリストに表示されます。</p> <p>ワイルドカード(単一文字の場合は?, 複数文字の場合は*)およびキーワード「or」がサポートされます。たとえば、「h*ds」を指定すると「hands」と「hoods」を返します。「h?nd」を指定すると「hard」と「hand」を返しますが、「hard」は該当しません。「h*ds or h*ks」を指定すると「hands」と「hooks」を返します。</p>
設定	<p>すべて</p> <p>すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。</p> <p>許可</p> <p>設定権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。</p> <p>制限付き</p> <p>設定権限のないユーザーとグループのみがリストに表示されます。</p>

ポートレベルのAP GUIインターフェース

サイドバーでポートが選択されている場合、メインパネルは以下のように表示されます。



この画面は、ブラウザーGUI(p.151参照)と基本的に同じですが、列の上部にフィルターがある点が異なります。フィルターを使用すると、次の表の説明に従って、表示されるユーザーとグループの範囲を拡張または制限できます。

フィルター		説明
名前		ユーザーまたはグループの名前をフィルタリングするには、ユーザーやグループの名前またはこれに含まれる文字列(ワイルドカード(*)の使用可)を入力し、[Enter]キーを押してください。名前が入力された文字列に合致するユーザーとグループのみがリストに表示されます。
アクセス	すべて	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	フルアクセス	フルアクセス権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	参照のみ	「表示のみ」の権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されません。
	アクセス不可	リストには、アクセス権限のないユーザーとグループのみが表示されます。

フィルター		説明
USBのマウント	すべて	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	フルアクセス	USBのマウントについてフルアクセス権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	読み取り専用	USBのマウントについて読み取り専用の権限を持つユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	アクセス不可	USBのマウントについてアクセス権限がないユーザーとグループのみがリストに表示されます。
設定	すべて	すべてのユーザーとグループがリストに表示されます。
	許可	設定が許可されたユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	制限付き	制限付きで設定が許可されたユーザーとグループのみがリストに表示されます。

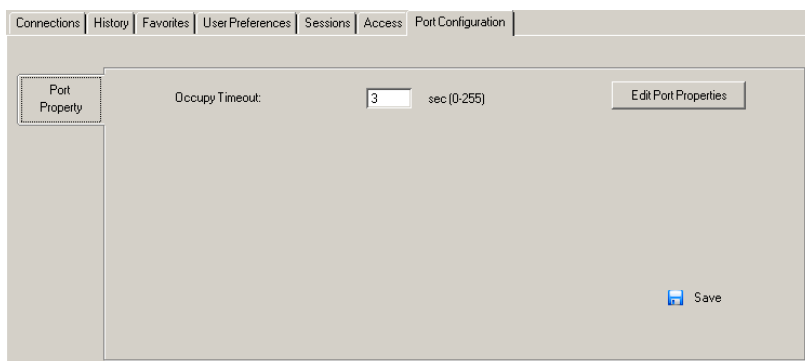
変更の保存

画面の右下隅にある「保存」ボタンをクリックすると、「アクセス」画面で行った変更を保存します。

ポート設定

デバイスレベル

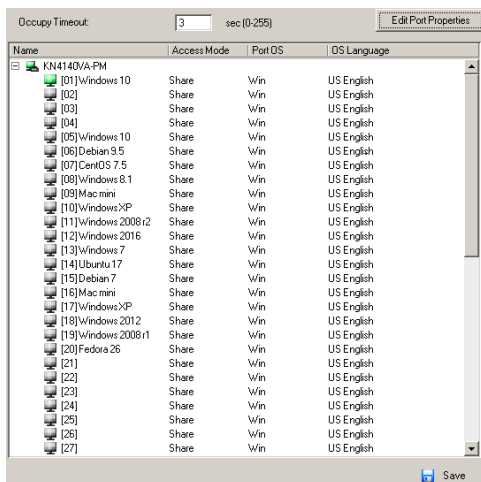
サイドバーでデバイスを選択すると、「ポートのプロパティ」画面の「ポート設定」に「ポートプロパティの編集」と「占有タイムアウト」の2つの項目があります。



「占有タイムアウト」の項目は、アクセスモードが「占有」に設定されているポートのユーザーの時間しきい値を設定します (p.159「アクセスモード」を参照)。ここで設定した時間、ポートを占有しているユーザーからのアクティビティがない場合、ユーザーはタイムアウトし、ポートが解放されます。ポートが解放されてから最初にキーボードまたはマウス入力を行ったユーザーがポートを占有します。

0～255秒の値を入力します。デフォルトは3秒です。0に設定すると、入力がない場合にポートが解放されます。

「ポートプロパティの編集」ボタンをクリックして、次に示すようにポートのリストを開きます。



リストでポートを選択し、列(アクセスモード、ポートOS、OS言語)をクリックしてドロップダウンメニューを開き、表に記載されているオプションのいずれかを選択します。

列	説明
名前	IP-KVMスイッチの下にある個々のポートの名前を一覧表示します。
アクセスモード	次のように、複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。
排他	最初にポートに切り替えたユーザーは、ポートを排他的に制御できます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。また、このモードに設定されている場合、タイムアウト機能は適用されません。
占有	ポートに最初に切り替えたユーザーがポートを制御します。他のユーザーもそのポートのビデオ出力を参照できます。ポートを制御するユーザーが非アクティブな状態のまま、タイムアウトボックスで設定された時間が経過した場合、最初にマウスやキーボードから入力を行ったユーザーに対してポート制御が転送されます。
共有	複数のユーザーで同時にポートを共有して操作できます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況下で、ユーザーはメッセージボードを利用できます。これにより、ユーザーはキーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。
ポートOS	接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。オプションはWin、Mac、Sun、その他です。デフォルトはWinです。
OS言語	接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。利用可能な項目を参照するにはリストを展開してください。デフォルトは英語(US)です。

ポートレベル

ポートのプロパティー

サイドバーでポートを選択すると、「ポートのプロパティー」画面が次のように表示されます。

Port Property	Status
Associated Link	Port Status: OnlineMountable
MultiView	Adapter Type: KA7175
	Adapter Version: V1.3.124
	Properties
	Access Mode: Share
	Port OS: Win
	OS Language: EnglishUS
	Exit Macro
	None

Save

- ◆ 「ステータス」パネルには、ポートがオンラインかオフラインか、サーバー(またはその他のデバイス)をポートに接続するために使用されるコンピューターモジュール、およびモジュールのファームウェアレベルに関する情報が表示されません。
- ◆ 「プロパティー」パネルでは、選択したポートの設定をできます。ポートのプロパティー設定項目の説明は、次ページにあります。詳しくは、次のページの表を参照してください。
- ◆ 「マクロの終了」パネルには、ユーザーが作成したシステムマクロのドロップダウン・リストボックスがあります。リモートサーバーの終了時に実行されるマクロをリストから選択できます。終了マクロの作成に関する詳細は、p.90「システムマクロ」を参照してください。

設定項目の説明を以下の表に示します。

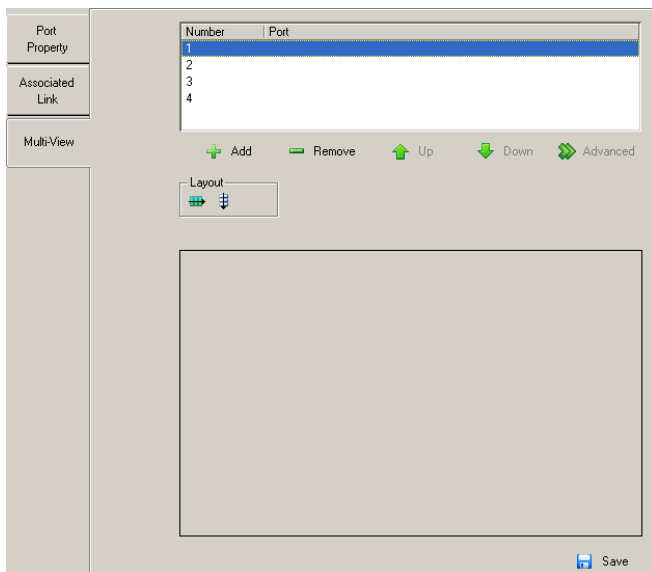
項目	説明
ポートOS	接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。オプションはWin、Mac、Sun、その他です。デフォルトはWinです。
OS言語	接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。利用可能な項目を参照するにはリストを展開してください。デフォルトは英語(US)です。
アクセスモード	<p>次のように、複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。</p> <p>排他:ポートにアクセスしたユーザーは、そのポートに対して排他的に制御できます。他のユーザーはこのポートの画面表示・操作ができません。アクセスしているユーザーが退出すると他のユーザーが利用できるようになります。また、このモードに設定されている場合、タイムアウト機能は適用されません。</p> <p>占有:最初にポートに切り替えたユーザーが操作を独占できますが、他のユーザーもそのポートの画面を閲覧できます。操作権限をもつユーザーが操作せず、指定された時間が経過した場合、最初にマウスやキーボードから入力を行ったユーザーに対してポート制御が転送されます。</p> <p>共有:複数のユーザーで同時にポートを共有して操作できます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況下で、ユーザーはメッセージボードを利用できます。これにより、ユーザーはキーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます (p.98「メッセージボード」参照)。</p>

設定変更が完了したら、「保存」をクリックします。

マルチビュー

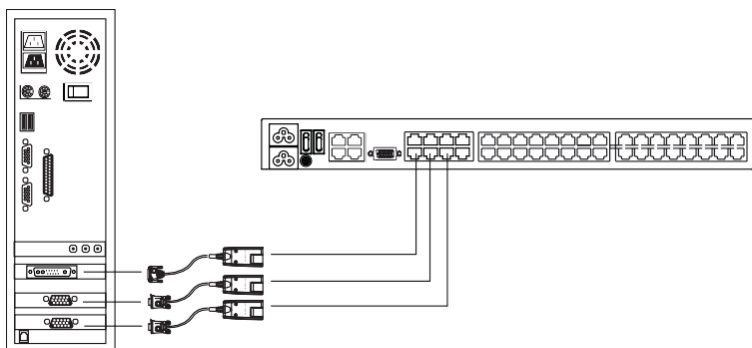
「マルチビュー」画面は、マルチディスプレイ構成のPCをリモートの1つのウィンドウで各画面に切り替えて表示する機能です。最大4台のディスプレイをKVMスイッチに接続し、リモートセッションで各画面に切り替えて表示できます。

「マルチビュー」画面は以下のように表示されます。



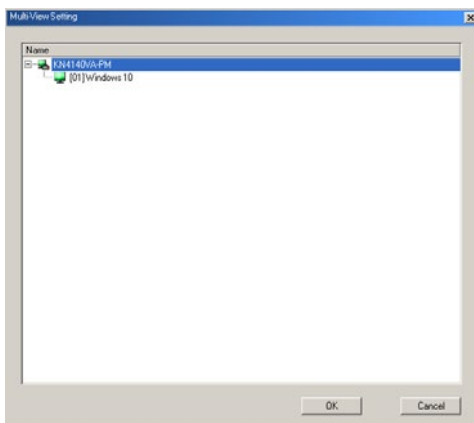
拡張ディスプレイのセットアップ:

1. 最大4台のコンピューターモジュールをコンピューターのビデオポートに接続し、各コンピューターモジュールをCat 5eケーブルでIP-KVMスイッチのポートに接続します。

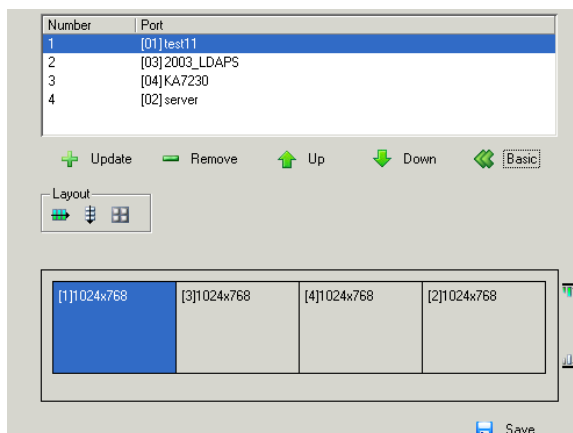


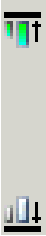
次に、拡張ディスプレイ部のKVMポートを次のように設定します。

2. 「拡張ディスプレイ」画面で「追加」をクリックします。
3. 「拡張ディスプレイの設定」ウィンドウが表示され、KVMポートのリストが表示されます。



4. 拡張ディスプレイでコンピューターに接続されているKVMポートを選択し、「OK」をクリックします。すべての拡張ディスプレイについて、この操作を繰り返します。
5. KVMポートが追加されると、ポート一覧とプレビューウィンドウに表示されます。



オプション	使用方法
ポート一覧	<p>拡張表示用に追加されたKVMポートを表示します。最大4つのKVMポートを追加でき、すべてを同じコンピューターに接続する必要があります。</p> <p>番号: 順番を一覧表示します。この番号は、各KVMポートがプレビューウィンドウに左から右へ表示される順序となります。</p> <p>ポート: 拡張ディスプレイの機器構成に追加されたKVMポート名を一覧表示します。</p>
追加	このアイコンをクリックすると、「拡張ディスプレイの設定」ダイアログボックスが開き、コンピューターに接続されているKVMポートを選択できます。
削除	クリックすると、ポートリストからKVMポートが削除されます。
上/下	クリックすると、KVMポートがポートリスト内で上下に移動します。これにより、プレビューウィンドウでのKVMポートの画面位置も変更されます。
詳細設定	クリックすると、追加のレイアウトオプションを表示します。
基本	クリックすると、表示されるレイアウトオプションを減らします。
レイアウト	水平、垂直、ボックスの3つのレイアウトオプションがあります。これにより、プレビューウィンドウに表示されるように、リモートセッションでの表示パネルウィンドウの表示方法が決まります。
プレビューウィンドウ	<p>プレビューウィンドウには、リモートセッション中の表示パネルウィンドウとその中の画面の表示方法のサンプルが表示されます。各画面にモニターの解像度が表示されます。</p> <p>注意: 表示パネルウィンドウは、複数のディスプレイアイコンをクリックするとリモートセッションで表示されず (p.110参照)。</p>
	「詳細」を選択すると、これらのアイコンがプレビューウィンドウの周囲に表示されます。アイコンをクリックすると、画面がウィンドウの上下左右に整列します。オプションは、選択したレイアウトに応じて、プレビューウィンドウの上部または右側に表示されます。
保存	クリックすると、設定に加えた変更を保存します。

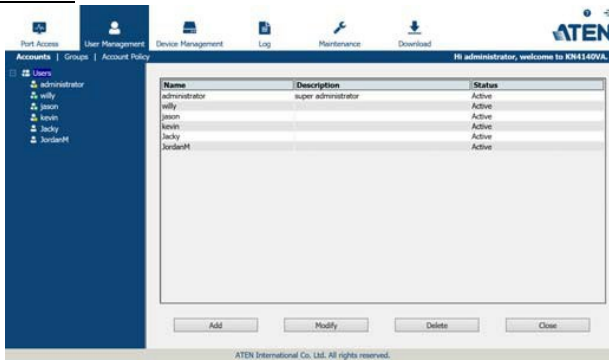
- レイアウトを設定し、「**保存**」をクリックします。
- リモートセッションで拡張ディスプレイを表示するには、p.110「拡張ディスプレイ」を参照してください。

第7章 ユーザー管理

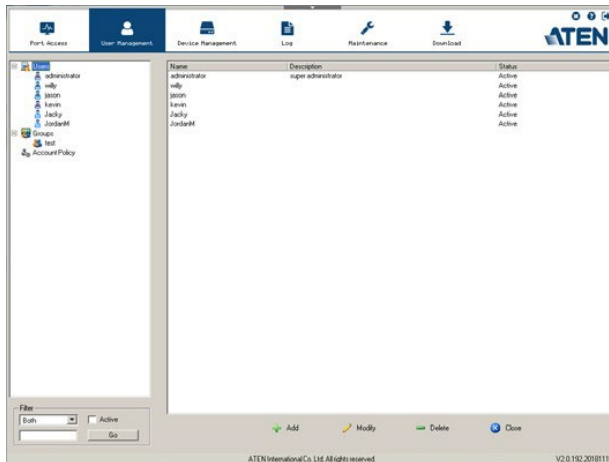
概要

「ユーザー管理」タブを選択すると、「ユーザー」画面が表示されます。

ブラウザGUI

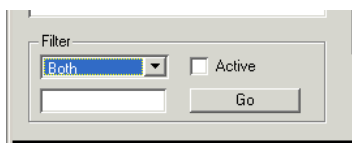


AP GUI



この画面は、左側のサイドバーと右側の大きなメインパネルといった2つの主な作業領域から構成されています。

- ◆ 画面左側のパネルにはユーザーとグループが表示されます。右側の大きなパネルには、ユーザーやグループのより詳しい情報が提供されます。
 - ◆ ブラウザーGUIでは、アカウント(ユーザー)とグループのメニューバーが別々に表示されます。選択されたメニューアイテムに応じて、ユーザーまたはグループがサイドバーに一覧表示されます。
 - ◆ AP GUIにはメニューエントリーがありません。代わりに、ユーザーとグループはサイドバーに別々に表示されます。
- ◆ ブラウザーGUIでは、メインパネルにある表の列名をクリックすると、情報の表示順を変更できます。
- ◆ AP GUIでは、サイドバーリストの下のセクションに、リストを管理できるフィルターが表示されます。



- ◆ リストボックスの右側にある矢印ボタンをクリックして、「ユーザーのみ」、「グループのみ」、または「ユーザーとグループ」のいずれかを表示するか選択します。
- ◆ クリックすると、「アクティブ」チェックボックスにチェックが入り、アカウントがアクティブでないユーザーが除外されます。
- ◆ 特定の文字列に一致する「ユーザー」または「グループ」だけを選択するには、「移動」ボタンの前にあるテキストボックスに文字列を入力し、「移動」をクリックしてください。文字列に一致するユーザーまたはグループのみがリストに表示されます。

ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。たとえば、「h*ds」を指定すると「hands」と「hoods」を返します。「h?nd」を指定すると「hard」と「hand」を返しますが、「hard」は該当しません。「h*ds or h*k*s」を指定すると「hands」と「hooks」を返します。
- ◆ メインパネルの下にあるボタンは、次のセクションに記載されているユーザーやグループの管理に使用されます。

ユーザー

IP-KVMスイッチは、次の表に示す3種類のユーザーをサポートします。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポートやデバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーやグループの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポートやデバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーやグループの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポートやデバイスへのアクセス、権限のあるポートやデバイスへの管理、個人の作業環境の設定が可能です。 注意: このタイプのユーザーでも権限が与えられている場合は、他のユーザーの管理ができます。

ユーザーの追加

ユーザーを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

- メニューバーで「アカウント」を選択します(ブラウザーGUI)。
- または -
サイドバーで「ユーザー」を選択します(AP GUI)。
- メインパネル下部にある「追加」ボタンをクリックしてください。下図のような「ユーザー」タブが表示されます。

The screenshot shows a web-based user management interface. At the top, there are tabs for 'User', 'Groups', and 'Devices', with 'User' selected. The main area is titled 'User Information' and contains several sections:

- User Information:** Fields for Username (containing 'jdoe'), Password, Confirm Password, and Description.
- Role:** Radio buttons for 'Super Administrator', 'Administrator' (selected), and 'User'.
- Permissions:** A grid of checkboxes for various permissions: Device Management, Maintenance, Tether Client, Post Configuration, System Log, Users/Client, Face-to-Grayscale, Use Management, View-only, SSH Client, and Power Management. Most are checked.
- Status:** Checkboxes for account and password policies: Disable account, Account never expires, Account expires on (with a date field), User must change password at next login, User cannot change password, Password never expires, and Password expires after (with a '0' days field).
- Save:** A blue 'Save' button at the bottom right.

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
ユーザーネーム	アカウントポリシーの設定に応じて、1～16文字を使用できます。p.207「暗号化」を参照してください。
パスワード	アカウントポリシーの設定に応じて、0～32文字を使用できます。p.207「暗号化」を参照してください。
パスワードの確認	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。2つのエントリーは一致している必要があります。
説明	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
役割	<p>スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリの中から選択できます。各カテゴリで作成できるアカウントの数に制約はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定や保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てがそれぞれ可能です。スーパーアドミニストレーターの権限(p.168参照)はシステムによって自動的に割り当てられ、変更できません。 ◆ アドミニストレーターのデフォルトの権限には、「強制的にグレースケールにする」以外のすべてが含まれていますが、権限チェックボックスのいずれかをオンまたはオフにすることで、各アドミニストレーターの権限を変更できます。 ◆ ユーザーのデフォルトの権限にはWin、Java、SSHクライアントが含まれますが、権限のチェックボックスをオンまたはオフにすることで、各ユーザー権限を変更できます。 <p>注意:</p> <p>ユーザー管理権限を付与されたユーザーは、グループにアクセスしたり、グループを設定したりできません。</p>

項目	説明
<p>許可</p> <p>注意:一般ユーザーの場合、デバイス管理、ポート設定、およびメンテナンス権限を有効にするだけでなく、管理を許可される各デバイスおよびポートに対する権限もユーザーに付与する必要があります。詳細は、p.178「デバイスの割り当て」を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デバイス管理を有効にすると、ユーザーはIP-KVMスイッチ操作全般を設定および制御できます (p.183「デバイス管理」参照)。 ◆ ポート設定を有効にすると、個々のポートの設定と制御をできます (p.156「ポート設定」参照)。 ◆ 「ユーザー管理」の項目にチェックを入れると、ユーザーおよびグループアカウントの作成・変更・削除が可能になります。 ◆ メンテナンスを有効にすると、「メンテナンス」タブで使用可能なすべてのメンテナンス操作を実行できます (p.224「メンテナンス」参照)。 ◆ システムログを有効にすると、ユーザーはシステムログにアクセスできます (p.220「ログ」参照)。 ◆ 「参照のみ」の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品に接続された機器の画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。 ◆ Windowsクライアントを有効にすると、ユーザーはWindowsクライアントAPソフトウェアをダウンロードし、ブラウザのアクセス方法に加えて(または代わりに)IP-KVMスイッチ経由でKVMにアクセスできます。 ◆ Javaクライアントを有効にすると、ユーザーはJavaクライアント APソフトウェアをダウンロードし、ブラウザのアクセス方法に加えて(または代わりに)IP-KVMスイッチ経由でKVMにアクセスできます。 ◆ SSHクライアントを有効にすると、ユーザーはSSHセッション経由でログインし、IP-KVMスイッチ経由でKVMにアクセスできます。 ◆ Telnetクライアントを有効にすると、ユーザーはTelnetセッションを介してログインし、IP-KVMスイッチ経由でKVMにアクセスできます。 ◆ 「強制的にグレースケールにする」は、リモートディスプレイのユーザーの表示を強制的にグレースケールにします。これにより、帯域幅が低い状況でI/O転送を高速化できます。

項目	説明
状態	<p>ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理できます。詳細は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「アカウントを無効にする」の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止できます。この機能ではユーザーは実際には物理的に削除されませんので、後に必要となった場合でも簡単に設定を戻すことができます。 ◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は「アカウントを無期限にする」の項目にチェックを入れてください。また、アカウントに有効期限を設ける場合は「アカウント失効日」の項目にチェックを入れ、有効期限の日付をテキストボックスに入力してください。 ◆ ユーザーが次回ログインする際にパスワードの変更を要求する場合は、「ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要」の項目にチェックを入れてください。この項目を使うことで、初回ログインでは管理者によって発行された一時パスワードを使用し、2回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用できます。 ◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「ユーザーはパスワード変更不可」の項目にチェックを入れてください。 ◆ セキュリティのために、アドミニストレーターはユーザーに定期的なパスワードの変更を要求することが可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ パスワードに有効期限を設けない場合は、「パスワードを無期限にする」の項目を選択してください。これによって、ユーザーはパスワードの有効期限の制限を受けることはありません。 ◆ パスワードに有効期限を設ける場合は、「パスワード失効まで」の項目を選択し、パスワードの有効日数を入力してください。ここで設定した日数が経過すると、新しいパスワードを設定しなければなりません。

4. この時点で、「グループ」タブを選択して新しいユーザーをグループに割り当てることができます。「グループ」画面については、p.175で説明します。また、「デバイス」タブを選択して、ユーザーのポートアクセス権を割り当てることもできます。「デバイス」画面については、p.178を参照してください。

注意：

グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「**保存**」をクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「オペレーション成功」と表示されます。ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「**ユーザー**」をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいユーザーが表示されます。
 - ◆ サイドバーのユーザーリストは展開したり閉じたりできます。リストが展開されている場合は、「ユーザー」の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合はアイコンの隣に「+」マークが表示されます。「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 首に黒い二重のバンドがついているアイコンはスーパーアドミニストレーターを、また、首に赤い一重のバンドがついているアイコンはアドミニストレーターをそれぞれ表します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはユーザーの名前、アカウント作成時に設定された説明、アカウントの状態(有効または無効)が表示されます。

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「ユーザー」リストで、ユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、ユーザーネームをクリックしたら、「**変更**」をクリックします。
2. メイン画面の「ユーザー」タブで内容を変更したら、「**保存**」ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意:

「ユーザー」画面についてはp.166で、「グループ」画面についてはp.172で、「デバイス」画面についてはp.178で、それぞれ説明します。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、ユーザーの名前を選択してください。
2. 「削除」ボタンをクリックしてください。
3. 「OK」ボタンをクリックしてください。

グループ

グループを使用すると、管理者はユーザーやデバイスを簡単かつ効率的に管理できます。グループ単位で設定を行うことで、デバイスのアクセス権限はグループの全メンバーに適用されますので、管理者は個々のユーザーに対して権限を設定する手間が省けます。複数のグループを定義して、複数のユーザーに特定のデバイスへのアクセスを許可したり、反対に、特定のデバイスへのアクセスを禁止したりできます。

グループの作成

グループを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メニューバーで「グループ」を選択します(ブラウザーGUI)。
- または -
サイドバーで「グループ」を選択します(AP GUI)。
2. メインパネル下部にある「追加」ボタンをクリックしてください。そうすると、グループメニューが開き、「グループ」タブが選択されます。

The screenshot shows a web interface for configuring a group. At the top, there are tabs for 'Group', 'Members', and 'Devices', with 'Group' selected. The main content area is titled 'Group Information' and contains the following fields and options:

- Group Name:** A text input field containing the value 'test'.
- Description:** A text input field containing the value 'test'.
- Permissions:** A section containing a grid of checkboxes for various permissions:
 - Device Management
 - Maintenance
 - Windows Client
 - Telnet Client
 - Port Configuration
 - System Log
 - Java Client
 - Force to Grayscale
 - User Management
 - View Only
 - SSH Client
 - Power Management

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
グループネーム	最大16文字まで入力できます。
説明	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。最大63文字まで入力できます。
許可	グループに対する操作許可と操作制限は、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。これらの権限は「ユーザー」タブの権限と同じです。詳細はp.168を参照してください。

4. この時点で、「メンバー」タブを選択してユーザーをグループに割り当てることができます。「メンバー」画面については、p.177で説明します。また、「デバイス」タブを選択して、グループのポートアクセス権を割り当てることもできます。「デバイス」画面については、p.178を参照してください。

注意:

グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「保存」をクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「オペレーション成功」と表示されます。ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「グループ」をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいグループが表示されます。
- ◆ サイドバーのグループリストは展開したり閉じたりできます。リストが展開されている場合は、「ユーザー」の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合はアイコンの隣に「+」マークが表示されます。「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 大きなメインパネルには、グループの名前と、グループの作成時に指定された説明(「状況」列は非アクティブ)が表示されます。

他にも追加するグループがある場合は、上記の操作手順を繰り返してください。

注意:

新しいグループを追加する前に、必ず手順7の操作を行ってください。この操作を行わないと、作成したばかりのグループが新規に作成しようとしているグループに置き換わってしまいます。

グループの編集

グループを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、グループ名をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、グループ名を選択し、「**変更**」をクリックしてください。
2. メイン画面の「グループ」タブで内容を変更したら、「**保存**」ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意:

「グループ」画面についてはp.172で、「メンバー」画面についてはp.177で、「デバイス」画面についてはp.178で、それぞれ説明します。

グループの削除

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーで、「グループ」アイコンをクリックしてください。
2. メインパネルで、グループの名前を選択してください。
3. 「**削除**」ボタンをクリックしてください。
4. 「**OK**」ボタンをクリックしてください。

ユーザーとグループ

ユーザーやグループの管理は、「ユーザー」タブ、「グループ」タブのどちらからでも操作できます。

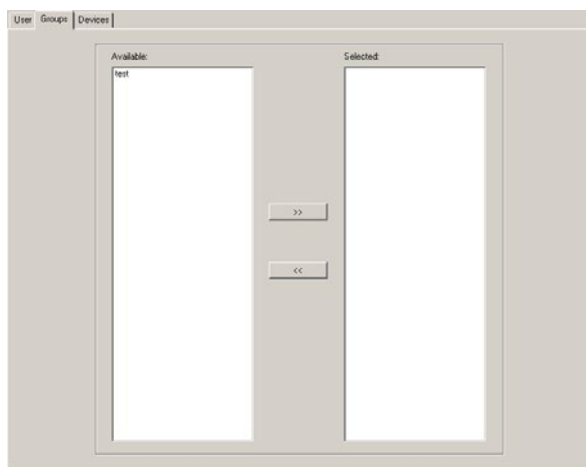
注意:

ユーザーをグループに割り当てる前に、必要となるユーザーとグループを事前に作成しておいてください。詳細については、p.166「ユーザーの追加」を参照してください。

ユーザーをグループに割り当てるには

「ユーザー」タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「ユーザー」リストで、ユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、ユーザーネームをクリックしたら、「変更」をクリックします。
2. メインパネルから「グループ」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



3. 「有効」リストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。

4. **右矢印のボタン(>>)**をクリックして、手順4で選択したグループを「選択」リストに移動させてください。
5. 他にもユーザーの所属グループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. 完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

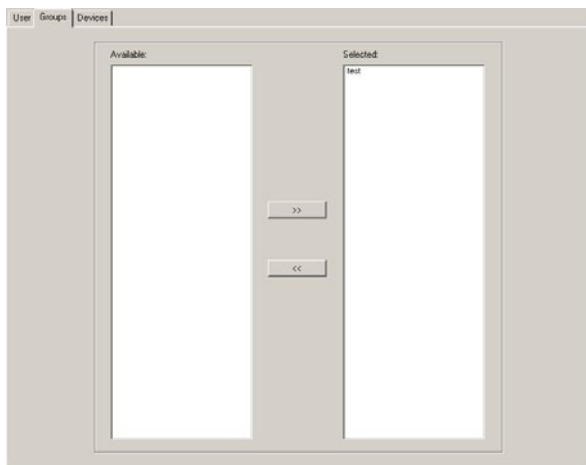
注意:

グループ権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

グループからユーザーを削除するには

「ユーザー」タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「ユーザー」リストで、ユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、ユーザー名前をクリックしたら、「**変更**」をクリックします。
2. メインパネルから「グループ」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



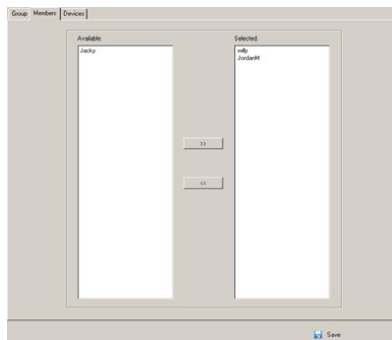
3. 「選択」リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。

4. **左矢印のボタン**(<<)をクリックして、手順4で選択したグループを削除してください(選択されたグループは「有効」リストに戻ります)。
5. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. 完了したら、「**保存**」をクリックしてください。

グループからユーザーを削除するには

「グループ」タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、グループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、グループ名を選択し、「**変更**」をクリックしてください。
2. メインパネルから「メンバー」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



3. 「選択」リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
4. **左矢印のボタン**(<<)をクリックして、手順4で選択したグループを削除してください。(選択されたグループは「有効」リストに戻ります。)
5. 他にもグループから除外したいユーザーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. 完了したら、「**保存**」をクリックしてください。

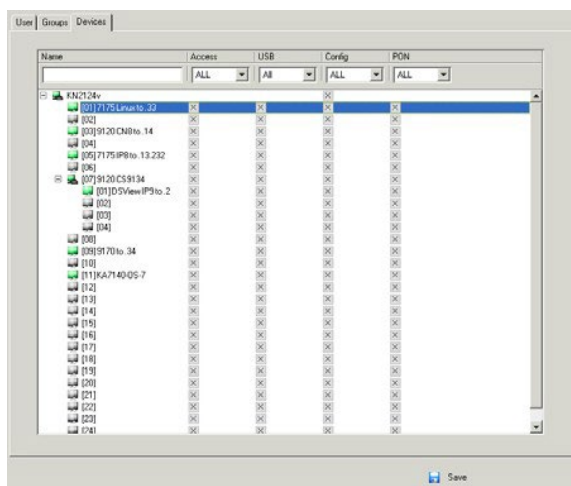
デバイスの割り当て

ユーザーがIP-KVMスイッチにログインすると、インターフェースに「ポートアクセス」画面が表示されます。このとき、そのユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて、画面左側のサイドバーに一覧表示されます。ポートやポートに接続されたデバイスに対するアクセス権限は、「ユーザー管理」タブの「ユーザー」または「グループ」リストからポートごとに割り当てられます。

デバイス権限の割り当て

「ユーザー」タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。




1. サイドバーの「ユーザー」リストで、ユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、ユーザーネームをクリックしたら、「変更」をクリックします。
2. メインパネルから「デバイス」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



3. 下記を参考にしながら、各ポートの権限設定を行ってください。

名前:ユーザーがアクセスできる各ポートは、この列の下に表示されます。

アクセス:この列は、デバイスのアクセス権が設定される場所です。設定するポートに対応する行のアイコンをクリックして、選択肢を循環させます。アイコンの意味を下表に示します。

	フルアクセス	画面表示・操作ができます。
	参照のみ	画面を参照できますが、操作できません。
	アクセス不可	アクセス権限はなく、メイン画面にもオンラインかの表示もされません。

USB:USB列には、USBバーチャルメディアデバイスのアクセス権が表示されます。このエントリーは、USBバーチャルメディア機能非対応のIP-KVMスイッチには表示されません。設定するポートに対応する行のアイコンをクリックして、選択肢を循環させます。

「フルアクセス」とは、ユーザーがバーチャルメディアのマウント・読み取り・書き込みといった操作を行うことができることを意味します。また、「参照のみ」とは、ユーザーがマウント済みのバーチャルメディアのデータを参照することしかできないことを意味します。

設定:この列は、ポートの設定を変更するユーザーの権限が許可または制限される場所です。設定するポートに対応する行のアイコンをクリックして、選択肢を循環させます。

チェックマーク(✓)は、ユーザーがポートの設定を変更する権限を持っていることを示します。「×」は、ユーザーが変更を行う権限を与えられていないことを意味します。

PON:PON列は、電源管理デバイスが接続されているポートの設定と電源操作を許可または制限します。チェックマーク(✓)はユーザーに権限があることを示し、「×」はユーザーに権限がないことを示します。

4. 内容を設定したら、「**保存**」をクリックしてください。
5. 確認ダイアログが表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

注意:

各列の値は、[Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のポートの属性を同時に定義できます。選択されたポートで各列をクリックすると、その列の設定内容を同時に循環しながら切り替えます。

フィルター

列の上部には5つのフィルターがあり、次の表で説明するように、「名前」列に表示されるポートの範囲を拡張または制限できます:

フィルター	説明	
名前	ポート名でフィルタリングするには、名前を入力して[Enter]キーを押します。名前が入力された文字列に合致するポートのみがリストに表示されます。 ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。たとえば、「h*ds」を指定すると「hands」と「hoods」を返します。「h?nd」を指定すると「hard」と「hand」を返しますが、「hard」は該当しません。「h*ds or h*ks」を指定すると「hands」と「hooks」を返します。	
アクセス	すべて	すべてのポートがリストに表示されます。
	フルアクセス	フルアクセスポートとして設定されたポートのみがリストに表示されます。
	参照のみ	表示専用ポートとして設定されたポートのみがリストに表示されます。
	アクセス不可	アクセス付加として設定されたポートのみがリストに表示されます。
USB	すべて	すべてのポートがリストに表示されます。
	フルアクセス	フルアクセスUSBポートとして設定されたポートのみがリストに表示されます。
	読み取り専用	読み取り専用のUSBポートとして設定されたポートのみがリストに表示されます。
	アクセス不可	アクセス付加のUSBポートとして設定されたポートのみがリストに表示されます。
設定	すべて	すべてのポートがリストに表示されます。
	許可	許可されたポートのみがリストに表示されます。
	制限付き	制限付きとして設定されたポートのみがリストに表示されます。
PON	すべて	すべてのポートがリストに表示されます。
	許可	許可されたポートのみがリストに表示されます。
	制限付き	制限付きとして設定されたポートのみがリストに表示されます。

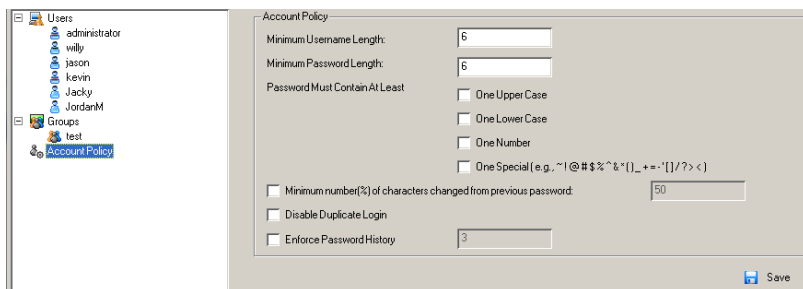
デバイス操作権限の割り当て

「グループ」タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「グループ」リストから、グループの名前をクリックしてください
- または -
メインパネルで、グループ名を選択し、「**変更**」をクリックしてください。
 2. 表示された「グループ」メニューから「デバイス」タブを選択してください。
 3. 表示される画面は、「ユーザー」メニューからデバイスの操作権限を割り当てる場合と同じです。唯一の違いは、設定が、個々のメンバーではなく、グループのすべてのメンバーに適用されることです。
- p.178「デバイス権限の割り当て」に従って、デバイスの割り当てを行います。

アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定できます。



このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
ユーザーネーム最小文字数	ユーザーネームの最低限必要な文字数を設定します。設定値は1~16です。デフォルトは6です。
パスワード最小文字数	パスワードの最低限文字数を設定します。設定値は0~32です。0を設定した場合は、パスワードの入力が不要です。ユーザーはユーザーネームのみでログインできます。デフォルトは6にです。
パスワードには以下が必須	チェックすると、新規アカウント作成時のパスワードに少なくとも1つの大文字、1つの小文字、または1つの数字を含める必要があります。 注意: このポリシーは作成済のアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。
重複ログインの無効化	オンにすると、同じアカウントで同時ログインできなくなります。
パスワード履歴を実行する	ユーザーがパスワードの再設定時に、同一パスワードを繰り返して使用することを防ぎます。パスワード履歴を何回前までさかのぼるか設定します。

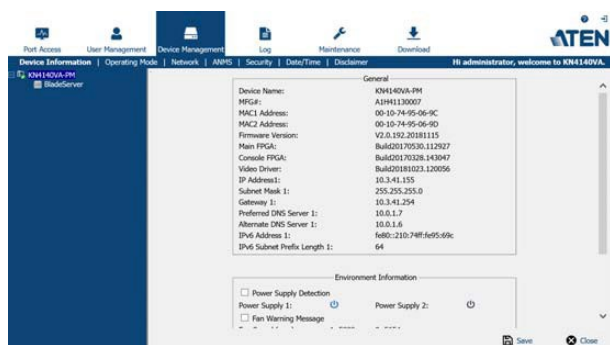
第8章 デバイス管理

KVMデバイス

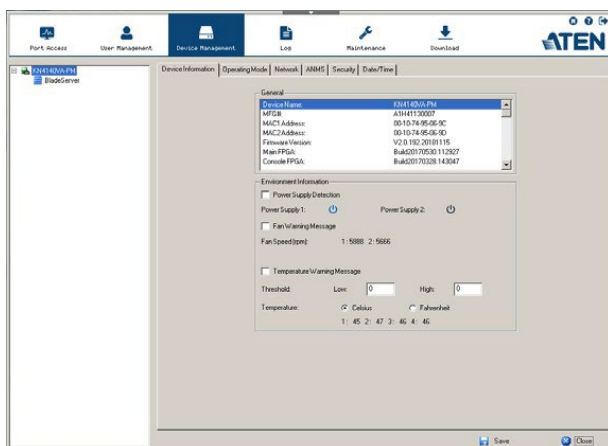
デバイス情報

「デバイス管理」画面にアクセスすると、サイドバーで最上位のIP-KVMスイッチが選択され、メニューバーで「デバイス情報」項目が選択されます。

ブラウザーGUI



AP GUI



全般

「デバイス情報」画面の「全般」セクションには、選択したデバイスの名前、ファームウェアバージョン、FPGA(Field-Programmable-GateArray)、およびネットワーク設定に関する情報が表示されます。

注意:

アプリ版では、ブラウザ版と同じ情報が表示されます。リストをスクロールすると、追加のエントリーが表示されます。

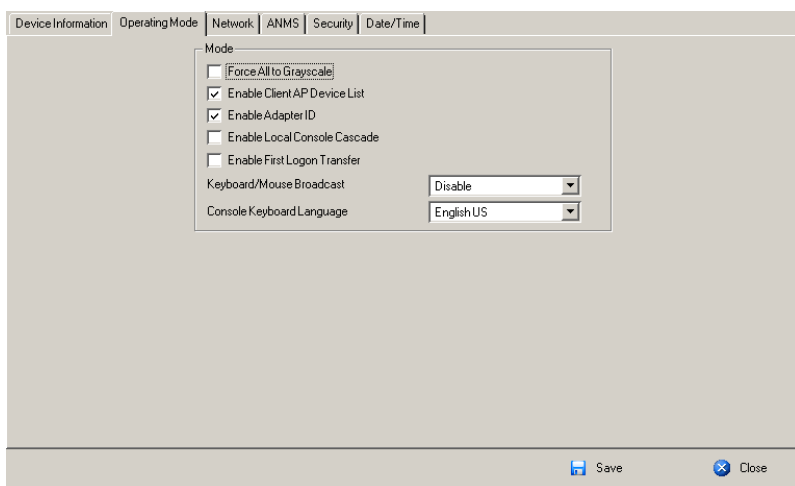
動作環境

下のパネルには、次の表で説明するデバイスの環境に関する情報が表示されません。

項目	説明
電源検出	<p>電源1と電源2のアイコンは、各電源に電力が供給されていない場合はグレーで表示され、電源に起動している場合は青色で表示されます。</p> <p>機能を有効にすると(ボックスにチェックが入っていると)、電源が片方しか起動してない場合、IP-KVMスイッチは常にピープ音を鳴らして警告します。</p> <p>ローカルコンソール側で作業をしている場合は、電源供給が片方にしか行われていないことを確認するメッセージが表示されます。電源1つだけで動作させて、ピープ音を停止する方法が2つあります。1)ボックスのチェックを外す。これで警告を無効にできます。常に無効にしたい場合は、この方法で停止してください。</p> <p>2)ダイアログボックスで操作する。警告を一時的に無効にしたい場合は、この方法で停止してください。この方法で停止した場合、本体再起動で再びこの警告機能が有効になります。</p> <p>デフォルトでは、この機能が有効になっています。</p>
ファン警告メッセージ	<p>機能を有効にすると、ファン警告メッセージを有効にします。この機能が有効な場合、ファンのいずれかが回転を停止すると、システムログにイベントが記録されます。無効にすると場合、ログは記録されません。</p> <p>注意:警告は、必ずしもファンが故障したことを意味するものではありません。それは、温度が下限の設定を下回ると、(必要に応じて)ファンの回転が停止するからです。</p> <p>デフォルトでは、この機能が有効になっています。</p>
ファン速度	<p>ここでは、ファンの速度について説明します。p.320「ファンの位置と速度に関する情報」を参照してください。</p>

項目	説明
温度警告メッセージ	ボックスにチェックを入れると、温度警告メッセージを有効にします。この機能が有効な場合、デバイスの温度が最小しきい値設定を下回るか、最大しきい値設定を上回ると、システムはイベントをシステムログに記録します。有効でない場合、ログは記録されません。 デフォルトでは、この機能が有効になっています。
温度	IP-KVMスイッチに内蔵されているセンサーの温度測定値はここに表示され、摂氏または華氏で表示できます。p.321「ログイン情報の消去」を参照してください。

操作モード



「操作モード」画面は、以下のように作業パラメーターを設定するために使用します。

- ◆ 「すべてを強制的にグレースケールにする」を有効にすると、IP-KVMスイッチに接続されているすべてのデバイスのリモート表示がグレースケールに変更されます。これにより、帯域幅が低い状況で追従性を改善できます。
- ◆ 「クライアントAPデバイスリストを有効にする」が有効な場合、WinクライアントまたはJavaクライアントAPを使用すると、IP-KVMスイッチがサーバーリストに表示されます (p.66「WindowsクライアントAPIによるログイン」、p.70「Java クライアントAPIによるログイン」を参照)。このオプションが有効になっていない場合、IP-KVMスイッチは引き続き接続できますが、その名前はサーバーリストに表示されません。

- ◆ 「モジュールIDを有効にする」の機能が有効(デフォルト)になっている場合、各ポートごとに接続しているコンピューターモジュールが設定を保存します。これにより、あるポートから別のポートにコンピューターモジュールを移動したときに、新しい場所にあるコンピューターモジュールにおけるポートのプロパティ情報が記憶されます (p.56「モジュールID機能」参照)。
- ◆ 「ローカルコンソールのカスケード接続を有効にする」機能を有効にすると、IP-KVMスイッチを、KM0532またはKM0932(共に販売終了製品)を上位スイッチとしてカスケード接続できます。認証および承認はKM0532またはKM0932を介して処理されます。この時のカスケード接続は、コンピューターモジュールKA7170とのみ互換性があります。

注意:

カスケード接続されたIP-KVMスイッチには、引き続きブラウザーまたはAPログインを介して直接アクセスできます。この場合、認証および承認は、独自のユーザー管理データベースを介して管理されます。

- ◆ 「最初のログオン転送を有効にする」にチェックを入れると、バスに空きがある状態で最初のユーザーのみがポートへアクセスできます。バス上の他のユーザーは、アクセスしたいポートが他ユーザーがアクセスしているか、使用可能な空きバスがない限り、ポートへアクセスできません (ユーザーとバスについては、p.249「ユーザーとバス」を参照してください)。
- ◆ 「キーボード/マウスのブロードキャスト」ドロップダウンメニューから、「キーボード」、「マウス」、または「キーボード/マウス」のいずれかを選択します:
 - ◆ キーボードのブロードキャスト機能を有効にした状態でビューアを使用してポートを開くと、アクセスできるすべてのサーバーにキー入力送信されます。
 - ◆ マウスのブロードキャスト機能を有効にした状態でビューアを使用してポートを開くと、アクセスできるすべてのオンラインサーバーにマウス操作が送信されます。
 - ◆ キーボード/マウスのブロードキャスト機能を有効にしてビューアを使用してポートを開くと、キー入力とマウスクリックが、アクセスできるすべてのサーバーに送信されます。
 - ◆ ローカルコンソールでビューアを使用してポートを開くと、ブロードキャストを開始または停止するための開始/停止ブロードキャストアイコンがツールバーメニューに表示されます。詳しくは、p.242「ツールバーアイコン」を参照してください。ツールバーメニューを表示するには、GUIホットキーを押します

(例:スクロールロックボタンを2回押します。GUIホットキーを変更する場合は、p.146「OSDホットキー」を参照してください)。

注意:

1. カスケード接続をされているKVMスイッチでは、ブロードキャストが実行できるのは、KVMスイッチの1ポートのみです。
 2. 「マウスのブロードキャスト」では、カーソル位置がすべて揃うよう、サーバーで同じOSを実行し、同じモニターの解像度や画面のレイアウト、マウス速度設定で使用してください。
 3. 詳細については、p.241「ポートツールバー」を参照してください。
-
- ◆ 「コンソールキーボード言語」設定では、ローカルコンソールキーボードで使用されているキーボードマッピングを指定できます。リストをドロップして選択します。
 - ◆ COM設定ドロップダウンメニューを使用して、COM1(シリアルまたはPDU)およびCOM2(シリアルまたはモデム)に接続されているデバイスのタイプを選択します。この設定は、シリアルポートやPONポートを備えたKVMスイッチでのみ使用できます。

ネットワーク

「ネットワーク」画面は、ネットワーク環境を定義する際に使用します。

The screenshot displays the 'Network' configuration page with the following sections:

- IP Installer:** Radio buttons for 'Enabled' (selected), 'View Only', and 'Disabled'.
- Service Ports:** Text input fields for Program (9000), HTTP (80), HTTPS (443), SSH (22), and Telnet (23).
- NIC Settings:**
 - Redundant NIC: (checked)
 - Adapter: 1000M Network Adapter 1 (dropdown menu)
 - IPv4 Settings:**
 - IP Address: Obtain IP address automatically [DHCP] (selected), Set IP address manually [Fixed IP]
 - IP Address: 10 . 3 . 41 . 155
 - Subnet Mask: 255 . 255 . 255 . 0
 - Default Gateway: 10 . 3 . 41 . 254
 - DNS Server: Obtain DNS server address automatically (selected), Set DNS server address manually
 - Preferred DNS server: 10 . 0 . 1 . 7
 - Alternate DNS server: 10 . 0 . 1 . 6
 - IPv6 Settings:**
 - IP Address: Obtain IPv6 address automatically [DHCP] (selected), Set IPv6 address manually [Fixed IP]
 - IPv6 Address: fe80::210:74ff:fe95:69c
 - Subnet Prefix Length: 64
 - Default Gateway: (empty field)
 - DNS Server: Obtain DNS server address automatically (selected), Set DNS server address manually
 - Preferred DNS server: (empty field)
 - Alternate DNS server: (empty field)
 - Network Transfer Rate: 99999 KBps

At the bottom right, there are 'Save' and 'Close' buttons. The footer contains 'ATEN International Co. Ltd. All rights reserved.' and 'V2.0.192.20181115'.

この画面における各項目については、後続のセクションで説明します。

IPインストーラー

IPインストーラーは、IP-KVMスイッチにIPアドレスを割り当てるための外部Windowsベースのユーティリティです。

IPインストーラーの用途に応じて、「有効」、「参照のみ」、「無効」のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IPインストーラーについては、p.189「IPインストーラー」を参照してください。

注意:

1. 「参照のみ」を選択すると、IPインストーラーのデバイスリストにIP-KVMスイッチが表示されますが、IPアドレスを変更できません。
 2. セキュリティーを確保するために、IPインストーラーの使用後には、この項目を「参照のみ」または「無効」に設定することを強く推奨します。
-

サービスポート

セキュリティ対策として、使用環境にファイアーウォールが導入されている場合、通信許可されたポート番号での通信を指定されるケースがあります。ここで各通信ポートを変更できます。ただしデフォルト以外のポートを指定された場合、ユーザーはログインの際にIPアドレスの一部としてポート番号を入力しなくてはなりません。無効なポート番号(またはポート番号なし)が指定された場合、IP-KVMスイッチは検出されません。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
プログラム	WinクライアントActiveXビューア、Winクライアントアプリ、Javaクライアントビューア、Javaクライアントアプリ、またはバーチャルメディア経由で接続するためのポート番号です。デフォルトでは9000に設定されています。
HTTP	ブラウザからのログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは80に設定されています。
HTTPS	SSL通信に使用するポート番号です。デフォルトでは443に設定されています。
SSH	SSHによるアクセスで使用するポートです。デフォルトでは22に設定されています。
Telnet	Telnetでのアクセスに使用するポートです。デフォルトでは23に設定されています。

注意:

1. すべてのサービスポートの指定可能な値は1～65535です。

2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、値が重複しないように設定してください。
3. ファイアウォールがないまたは通信ポートの指定がない場合は、初期設定のまま利用することを推奨します。

NIC設定

- ◆ 冗長NIC

IP-KVMスイッチは、2つのネットワークインターフェースで設計されています。冗長NICが有効な場合(デフォルト)、両方のインターフェースでネットワークアダプター1のIPアドレスを使用します。

この設定を行った場合、セカンドインターフェースは通常、非アクティブな状態になっています。アダプター1でリンクダウンとなった場合、自動的に2番目のインターフェースに切り替わります。

- ◆ 冗長ネットワーク有効 - 両方のインターフェースに同じIPアドレスを設定します。

冗長ネットワークを有効にするには、以下の手順で操作してください。

1. 「冗長NIC」チェックボックスをクリックして、チェックを入れます。
2. ネットワークアダプターリストボックスで「ネットワークアダプター1」が選択され、ネットワークアダプター2は設定できないようになります。
3. 「ネットワークアダプター1」で使用するIPとDNSサーバーのアドレスを設定してください(次のセクションを参照)。

- ◆ 冗長ネットワーク無効 - 両方のインターフェースに異なるIPアドレスを設定します。

冗長ネットワークを無効にすると、両方のインターフェースに異なるIPアドレスを設定できます。各アダプターに指定したIPアドレスでログインできます。この設定でIP-KVMスイッチをセットアップするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「冗長NIC」チェックボックスにチェックが入っている場合は、クリックして選択を解除します。
2. ネットワークアダプターのリストボックスで、「ネットワークアダプター1」を選択します。

3. 「ネットワークアダプター 1」で使用するIPアドレスとDNSサーバーのIPアドレスを設定してください(次のセクションを参照)。
4. ネットワークアダプターのリストボックスを展開し、「ネットワークアダプター2」を選択します。
5. ネットワークアダプター2のIPアドレスとDNSサーバーアドレスを設定します。

- ◆ IPv4設定

- ◆ IPアドレス:

IPv4はIPアドレスの従来の設定方法です。IP-KVMスイッチには、IPアドレスを動的に割り当てる(DHCP)ことも、固定IPアドレスを割り当てることもできます。

- ◆ 動的IPアドレスを割り当てる場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。
 - ◆ 固定IPアドレスを設定する場合は、「IPアドレスを手動で設定する」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効なIPアドレスを入力してください。

注意:

1. 「IPアドレスを自動的に取得する」の項目を選択し、DHCPを使って代替のIPアドレスを自動的に取得する場合、製品は起動後にDHCPサーバーからのIPアドレスの割り当てを待機します。1分後にアドレスを取得していない場合は、自動的に工場出荷時のIPアドレス(192.168.0.60)に戻ります。
2. IP-KVMスイッチがDHCPを使用してネットワークアドレスを割り当てるネットワーク上にあり、そのIPアドレスを確認する必要がある場合は、p.294「IPアドレスの設定」を参照してください。

- ◆ DNSサーバー

- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。
 - ◆ DNSサーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「DNSサー

バーアドレスの手動設定」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先DNSサーバーと代替DNSサーバーのIPアドレスをそれぞれ入力してください。

注意:

代替DNSサーバーのアドレスは任意で設定してください。

◆ IPv6設定

◆ IPアドレス:

IPv6はIPアドレス設定の新しいフォーマット(128ビット)です(詳細については、p.296「IPv6」を参照してください)。IP-KVMスイッチには、IPv6アドレスを動的に割り当てる(DHCP)ことも、固定IPアドレスを割り当てることもできます。

- ◆ 動的IPアドレスを割り当てる場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。
- ◆ 固定IPアドレスを設定する場合は、「IPアドレスを手動で設定する」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効なIPアドレスを入力してください。

◆ DNSサーバー

- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNSサーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「DNSサーバーアドレスの手動設定」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先DNSサーバーと代替DNSサーバーのIPアドレスをそれぞれ入力してください。

注意:

代替DNSサーバーのアドレスは任意で設定してください。

ネットワーク転送速度

この設定では、IP-KVMスイッチが自身とクライアントコンピューター間でデータを転送する速度を設定することで、ネットワークトラフィックの条件に合わせてデータ

転送ストリーミングのサイズを調整できます。範囲は4～99999KB/秒(KBps)です。

入力が終わったら

ネットワークを変更した後、「デバイス管理」>「システム操作」画面で「終了時にリセット」が有効になっている(ボックスにチェックが入っている)ことを確認してからログアウトしてください(p.235参照)。これにより、IP-KVMスイッチはログアウトをした直後に設定を反映させるために再起動をします。遠隔地から本体電源を切り切りせず、設定変更を即座に反映できます。

ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関する設定を行います。以下で説明するように、2つのタブが付いたノートブックとして構成され、それぞれに一連の関連パネルがあります。

イベント送信先

The screenshot shows the ANMS configuration interface with the 'Event Destination' tab selected. The interface includes a sidebar with 'Event Destination', 'Authentication', and 'SNMP Agent' options. The main content area is divided into several sections:

- SMTP Settings:** Includes a checkbox for 'Enable report from the following SMTP Server'. Below it are fields for 'SMTP Server', 'Service Port' (set to 25), and checkboxes for 'My server requires secure connection (SSL)' and 'My server requires authentication'. There are also fields for 'Account Name', 'Password', 'From:', and 'To:'.
- Log Server:** Includes a checked checkbox for 'Enable', a 'MAC Address' field (set to E0D855C11934), and a 'Service Port' field (set to 9001).
- SNMP Trap:** Includes a checkbox for 'Enable', a 'Server IP' field (set to 10.21.64.5), and a 'Service Port' field (set to 162).
- Syslog Server:** Includes a checkbox for 'Enable', a 'Server IP' field, and a 'Service Port' field (set to 514).

◆ SMTP設定

IP-KVMスイッチからユーザーに対してSMTPサーバー経由で電子メールレポートを送るようになるには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「以下のSMTPサーバーからの通知を有効にする」の項目にチェックを入れ、お使いのSMTPサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
2. サーバーがセキュアなSSL接続を必要とする場合は、「サーバーでセキュア接続(SSL)が必要」のボックスにチェックを入れます。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「サーバーで認証が必要」ボックスに

チェックを入れ、「アカウント名」と「パスワード」の各欄に適切なアカウント情報を入力します。

4. レポートの差出人となるメールアドレスを「From」欄に入力してください。

注意:

1. 「From」欄に設定できるメールアドレスは一つだけです。64バイト以内で設定してください。
 2. 1バイトは半角英数字1文字に相当します。
-

5. レポートの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。

注意:

複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、宛先のアドレス全体が256バイト以内になるように設定してください。

◆ ログサーバー

ログインや内部ステータスメッセージなど、IP-KVMスイッチで検知されたログは、アプリ「ログサーバー」で外部ログファイルとして保存できます。

- ◆ ログサーバーが動作しているコンピューターのMACアドレスを「MACアドレス」欄に入力してください。
- ◆ ログサーバーが動作しているコンピューターがIPKVMから出力するポートの番号を「サービスポート」欄に入力してください。有効なポート範囲は1～65535です。デフォルトでは9001に設定されています。

注意:

ログサーバーで使用するポート番号は、プログラムポートに使用されている番号と重複させないでください(p.189「プログラム」参照)。

ログサーバーの設定については、p.251「ログサーバー」を参照してください。ログファイルについては、p.220で説明します。

◆ SNMPトラップ

SNMPトラップイベントを通知するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「SNMPエージェントを有効にする」の項目にチェックを入れてください。
2. SNMPトラップイベントを通知するコンピューターのIPv4アドレス、IPv6アドレ

ス、またはドメイン名のいずれかを入力します。

3. ポート番号を入力してください。有効なポート範囲は1～65535です。

注意:

SNMPトラップイベントが通知されるログは、「ログ」タブの「通知設定」画面で設定します。詳細については、p.223「ログ通知設定」を参照してください。

◆ Syslogサーバー

IP-KVMスイッチで検知したイベントを記録し、Syslogサーバーに送信するには、次の手順を実行します:

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. SyslogサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
3. ポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は1～65535です。

認証

Device Information | Operating Mode | Network | ANMS | Security | Date/Time

Event Destination

Authentication

SNMP Agent

Disable Device Authentication

RADIUS Settings

Enable

Preferred RADIUS

Server IP: Port: 1645

Same as preferred setting

Authentication Type: CHAP

Timeout: 3 sec Retries: 3

Shared Secret (at least 6 characters):

AD/LDAP Settings

Enable

Preferred LDAP

Server IP: Port: 389

Same as preferred setting

Server requires secure connection(SSL)

Timeout: 0 sec

Admin DN:

Admin Name:

Password:

Search DN:

CC Management

Enable

Server IP: 10.3.166.11 Port: 8000

◆ ローカル認証の無効化

このオプションを選択すると、IP-KVMスイッチでのログイン認証が無効になります。IP-KVMスイッチには、LDAP、LDAPS、MS Active Directory、RADIUS、またはCC管理認証を使用するのみアクセスできます。

◆ RADIUS設定

RADIUSサーバーを介して IP-KVMスイッチの認証および承認を許可するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. 優先または代替RADIUSサーバーを選択します。
3. 優先RADIUSサーバーと代替RADIUSサーバーのIPアドレスおよびポート番号をそれぞれ入力してください。IPの各欄は、IPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかで設定できます。
4. 「認証の種類」で「PAP」または「CHAP」を選択します。

5. 「タイムアウト」欄に、IP-KVMスイッチがRADIUSサーバーの応答を待機する時間(秒単位)を設定します。この時間が経過するとタイムアウトします。
6. 「再試行」の項目に、RADIUSサーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
7. 「共有シークレット」欄で、IP-KVMスイッチとRADIUSサーバー間の認証に使用する文字列を入力します。入力には6文字以上が必要です。
8. RADIUSサーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証をできません。
 - ◆ ユーザーエントリーを「su/xxxx」として設定する。
ここで、xxxxは、アカウントがIP-KVMスイッチで作成されたときにユーザーに与えられたユーザーネームを表します。
 - ◆ RADIUSサーバーとIP-KVMスイッチの両方で同じユーザーネームを使用する。
 - ◆ RADIUSサーバーとIP-KVMスイッチの両方で同じグループネームを使用する。
 - ◆ RADIUSサーバーとIP-KVMスイッチの両方で同じユーザーネーム/グループネームを使用する。
いずれの場合も、ユーザーのアクセス権は、IP-KVMスイッチで「グループのユーザー」を作成したときに割り当てられたものになります (p.166「ユーザーの追加」参照)。

◆ LDAP/LDAPS認証および承認の設定

LDAP/LDAPS経由でIP-KVMスイッチの認証と承認を許可するには、以下の表の情報を参照してください。

項目	アクション
有効	「有効」ボックスにチェックを入れると、LDAP/ LDAPS の認証および承認を許可します。
種類	ラジオボタンをクリックして、LDAPとLDAPSのどちらを使用するかを指定します。

項目	アクション
LDAPサーバーのIPとポート	優先または代替LDAPサーバー選択し、LDAPまたはLDAPSサーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。 ◆ 「LDAPサーバー」欄は、IPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名を使って設定できます。 ◆ LDAPの場合、デフォルトのポート番号は389、LDAPSの場合、デフォルトのポート番号は636です。
アドミニストレーターDN	この項目はLDAPまたはLDAPSサーバーの管理者にご確認の上、設定してください。以下、設定例です。 ou=kn8132,dc=aten,dc=com
アドミニストレーター名	LDAPアドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
パスワード	LDAPアドミニストレーターのパスワードを入力してください。
サーチDN	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始するDNS名です。
タイムアウト	IP-KVMスイッチがLDAPまたはLDAPSサーバーの応答を待機してからタイムアウトするまでの時間を秒単位で設定します。

LDAP/LDAPS サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証をできます。

- ◆ MS Active Directoryスキーマを使用
- ◆ スキーマなし - IP-KVMスイッチで使用されるユーザーネームのみがLDAP/LDAPSサーバー上の名前と照合されます。ユーザー権限は、IP-KVMスイッチ側で定義されたものと同じです。
- ◆ スキーマなし - AD内のグループのみが照合されます。ユーザー権限は、IP-KVMスイッチ上で、そのユーザーが属しているグループに設定される権限と同じです。
- ◆ スキーマなし - ADのユーザーネームとグループが照合されます。ユーザー権限は、そのユーザーがIP-KVMスイッチおよびユーザーに設定される権限と同じです。

注意:

1. 完全にセットアップするためには、LDAP属性が必要です。LDAP属性は、ターミナルインターフェースを使用してGetコマンドから取得できません。詳しくは、p.233「ターミナル」を参照してください。一意のX500オブ

ジェクトID(OID)は、組織から割り当てられるか、属性に対して独自に定義されます(例: 1.3.6.1.4.1.21317.1.3.1.3)。

- LDAPの設定の詳細については、弊社のウェブサイトから完全なLDAPマニュアルをダウンロードできます。
-

CC管理設定

CC(Control Center/例・弊社製CC2000など)サーバー経由でIP-KVMスイッチの認証を許可するには、「有効にする」にチェックを付け、CCサーバーのIPアドレスとサービスポートを該当するフィールドに入力します。「CCサーバーIP」欄は、IPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかで設定できます。

SNMPエージェント

SNMPエージェントを使用すると、弊社ウェブサイトで公開しているMIBファイルを使用して、MIBブラウザー経由で管理できます。MIBファイルはMIBブラウザーにインポートすると、次のデバイス管理項目が設定されます。

操作モード: モード、COM設定、

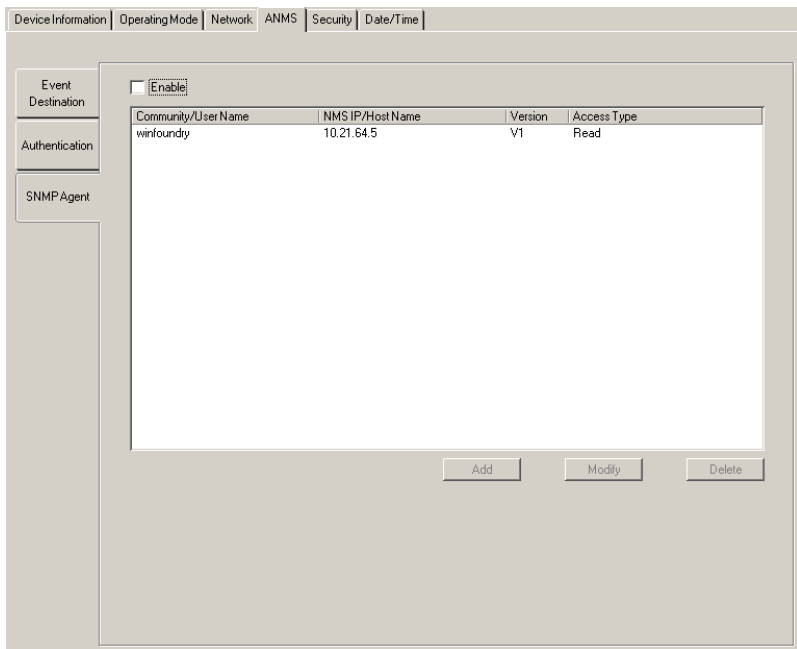
ネットワーク: IPインストーラー、サービスポート、IPv4設定、IPv6設定、

ANMS - イベント送信先: ログサーバー、SNMPトラップ、

認証: CC管理

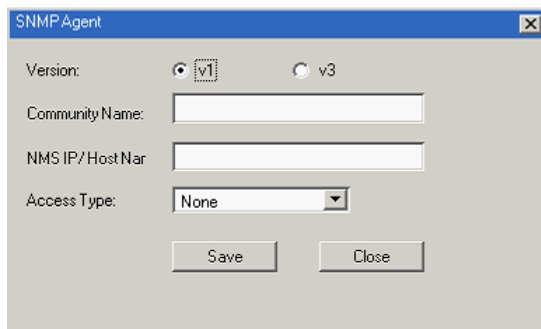
弊社ウェブサイトのKN8製品ページにある「サポートとダウンロード」メニューから**KN MIBファイル**をダウンロードします。

MIBブラウザーを介してIP-KVMスイッチに接続するには、次の手順を使用してSNMPエージェントを追加し、IP-KVMスイッチ設定の構成に使用するコンピューターからのアクセスを許可します。



SNMPエージェントを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. 「追加」ボタンをクリックしてください。次のようなウィンドウが表示されます。



3. バージョンを選択します。
4. コミュニティ名を入力します。
5. NMS IP/ホスト名にSNMPマネージャのIPアドレスを入力します。
6. 「アクセスタイプ」を選択し、「保存」をクリックします。

7. MIBブラウザからMIBファイル*をインポートし、IP-KVMスイッチのIPアドレスを入力します。

注意:

弊社ウェブサイトにおけるKN4/KN8シリーズの製品ページにある「サポートおよびダウンロード」メニューから**KN MIBファイル**をダウンロードしてください。

セキュリティ

「セキュリティ」メニューは、以下のセクションで説明するように、7つのメインパネルから構成されています。

ログイン失敗

セキュリティを強化するために、「ログイン失敗」のセクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定できます。

The screenshot shows a window titled "Login Failures" with the following settings:

- Enable
- Allowed:
- Timeout: min
- Lock Client PC
- Lock Account

「ログイン失敗」ポリシーを設定するには、「有効」ボックスにチェックを入れてください(デフォルトでは「ログイン失敗」が有効になっています)。各項目が表す内容は下表のとおりです。

項目	説明
許可	リモートコンピューターからの連続したログイン試行の失敗回数を設定します。デフォルトでは5回に設定されています。
タイムアウト	許容される失敗回数を超えた後、再度ログインの試行を許可するまでの時間を設定します。デフォルトでは3分に設定されています。
クライアントPCのロック	この項目を有効にすると、許可される失敗回数を超えた後、ログインを試みるコンピューターが自動的にロックアウトされます。このコンピューターからのログインは拒否されます。デフォルトでは有効に設定されています。 注意: この機能は、クライアントコンピューターのIPに関連します。IPアドレスが変更されると、そのコンピューターはロックされなくなります。

アカウントのロック	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、失敗したユーザーネームとパスワードからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトでは有効に設定されています。
-----------	---

注意:

「ログイン失敗」の項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティ上の理由から、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを有効にすることを推奨します。

フィルター

The screenshot shows a 'Filter' window with the following elements:

- Enable IP Filter:** A checkbox that is currently unchecked. To its right are radio buttons for 'Include' (selected) and 'Exclude'.
- IP Filter List:** An empty list box with 'Add', 'Modify', and 'Delete' buttons to its right.
- Login String:** A text input field.
- Enable MAC Filter:** A checkbox that is currently unchecked. To its right are radio buttons for 'Include' (selected) and 'Exclude'.
- MAC Filter List:** An empty list box with 'Add', 'Modify', and 'Delete' buttons to its right.

◆ IP/MACフィルター

IPおよびMACフィルターは、接続を試みるクライアントコンピューターのIPアドレスやMACアドレスに基づいて、IP-KVMスイッチへのアクセスを許可/遮断します。フィルターはIP、MAC各フィルターともそれぞれ最大で100項目作成できます。フィルターの設定が行われると、IPフィルターは上部のリストボックスに、MACフィルターは下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

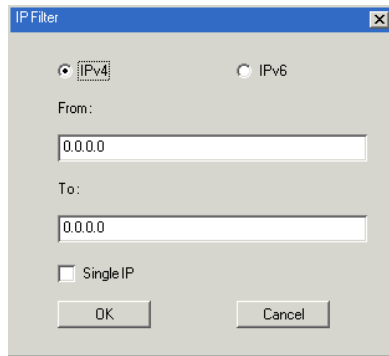
IPアドレスやMACアドレスによるフィルタリングを有効にするには、「IPフィルター有効」または「MACフィルター有効」のチェックボックスを**クリック**して、チェッ

クマークを付けてください。

- ◆ 「含む」ボタンをオンにすると、フィルター範囲内のすべてのアドレスにアクセスが許可され、それ以外のアドレスにはアクセスが拒否されます。
- ◆ 「除く」ボタンをオンにすると、フィルター範囲内のすべてのアドレスがアクセスを拒否されます。他のすべてのアドレスはアクセスを許可されます。
- ◆ フィルター項目の追加

IPアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「追加」ボタンをクリックしてください。次のようなダイアログボックスが表示されます。



2. IPv4とIPv6のどちらのアドレスをフィルタリングするかを指定します。
3. フィルタリングするアドレスを、「From:」欄に入力します。
 - ◆ IPアドレスを1つだけフィルタリングするには、クリックして「Single IP」ボックスにチェックを入れます。
 - ◆ 連続したアドレスの範囲をフィルタリングするには、その範囲の終わりとなるアドレスを「To:」欄に入力します。

注意:

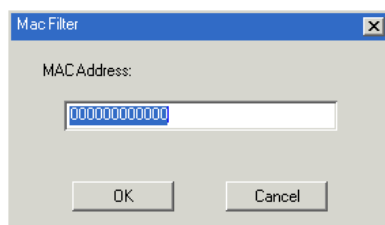
この説明はAP GUI用です。ブラウザーGUIは以下と異なります。

1. IPv4またはIPv6の選択肢はありません。IPv4フィルターの「From」と「To」の各項目のみがあります。
2. 単一のIPアドレスを指定するチェックボックスはありません。1つのIPv4アドレスをフィルタリングするには、「From」と「To」の各欄の両方で同じアドレスを指定します。

-
4. IPアドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
 5. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

MACアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「追加」ボタンをクリックしてください。次のようなダイアログボックスが表示されます。



2. ダイアログボックスでMACアドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
 3. フィルタリングする追加のMACアドレスに対して、これらの手順を繰り返してください。
- ◆ IPフィルターとMACフィルターの競合

IPフィルターとMACフィルターの間には競合がある場合(つまり、コンピューターのアドレスが一方のフィルターで許可されているものの、もう一方のフィルターでブロックされている場合)、ブロックフィルターが優先されます(コンピューターのアクセスがブロックされます)。

◆ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目をIPフィルターリスト、またはMACフィルターリストのボックスから選択し、「**変更**」をクリックしてください。フィルター追加時に表示されるものと同様のダイアログボックスが表示されますので、古いアドレスを削除して新しいアドレスに変更してください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目をIPフィルターリスト、またはMACフィルターリストのボックスから選択し、「**削除**」ボタンをクリックしてください。

ログイン文字列

「ログイン文字列」入力欄を使用すると、ブラウザでIP-KVMスイッチにアクセスするときにIPアドレスの後ろに追加のアドレスを指定できます。

たとえば、IPアドレスが「192.168.0.126」で、ログイン文字列が「abcdefg」の場合、ブラウザで次のアドレスを入力する必要があります。

192.168.0.126/abcdefg

注意:

1. ユーザーはIPアドレスと文字列の間にスラッシュを入れる必要があります。
 2. ここでログイン文字列が指定されていない場合、IPアドレスのみを使用して、誰でもIP-KVMスイッチのログイン画面にアクセスできます。これにより、お使いのシステムの安全性が低下することになります。
-

文字列に使用できる文字は次のとおりです。

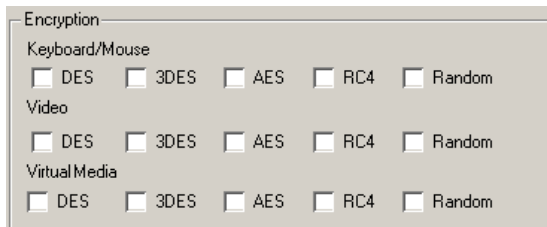
0~9、a~z、A~Z、!@ \$ & * () _ - = + []

以下の文字は使用できません:

% ^ " : / ? # ¥ ' { } ; ' < > スペース、複合文字(É Ç ñ など)

セキュリティ上の理由から、この文字列を定期的に変更することを推奨します。

暗号化



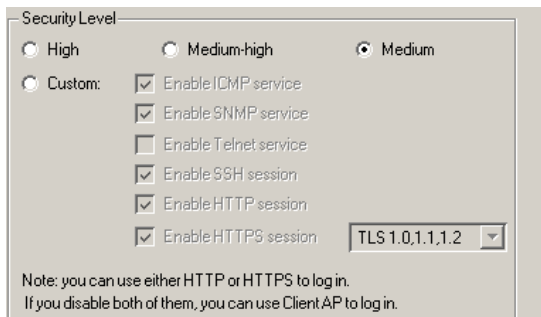
本製品では、キーボードおよびマウス、ビデオ、バーチャルメディアデータの各信号を柔軟に暗号化できるオプションを提供しており、いずれの信号もそれぞれDES、3DES、AES、RC4、ランダムを自由に組み合わせ設定できます。

暗号化を有効にすると、システムのパフォーマンスに影響します。選択した暗号化の方式にかかわらず、暗号化をするとパフォーマンスは低下します。また、暗号化を有効にすると、影響が大きくなります。暗号化を有効にする場合、パフォーマンスに関する考慮事項は次のとおりです。

- ◆ パフォーマンスに与える影響は、RC4、DES、3DES、AESの順に大きくなります。
- ◆ 複数の暗号化を組み合わせる場合、最もシステムに与える影響が小さい組み合わせはRC4とDESです。

セキュリティレベル

セキュリティを強化するために、「高」、「中高」、「中」または「カスタム」のラジオボタンを選択してください。



1. 高 - SSHv2、HTTPS(TLS v1.2)を除く、すべてのサービスを無効にします。

2. 中高 - SSHv2を有効にし、HTTPSをHTTPS、HTTPS(TSL v1.2)、ICMPにリダイレクトします。
3. 中 - SSHv2を有効にし、HTTPSをHTTPS、HTTPS(TSL v1.0、1.1、1.2)、ICMPにリダイレクトします(デフォルト)。
4. カスタム - 次のセキュリティオプションから適用したい項目にチェックを入れてください。
 - ◆ ICMPサービスを有効にする
 - ◆ SNMPサービスを有効にする
 - ◆ Telnetサービスを有効にする
 - ◆ SSHセッションを有効にする
 - ◆ HTTPセッションを有効にする
 - ◆ HTTPSセッションを有効にする(「TLS1.2」、「TLS1.0,1.1,1.2」のいずれかから選択)

動作モード

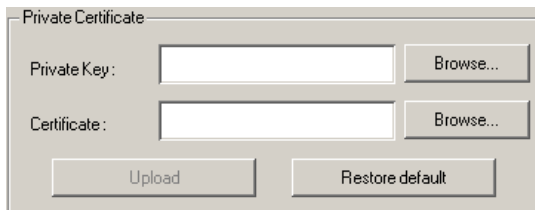
Working Mode	
<input type="checkbox"/>	Enable FIPS
<input type="checkbox"/>	Enable Multiuser Operation
<input checked="" type="checkbox"/>	Enable Virtual Media Write
<input checked="" type="checkbox"/>	Enable Local/Virtual Media
<input type="checkbox"/>	Disable Authentication

動作モードの項目の説明を下表に示します。

項目	説明
FIPSを有効にする	FIPSセキュリティ規格を有効にします。
マルチユーザー操作を有効にする	デフォルトで有効になっているマルチユーザー操作では、最大32人のユーザーが同じリモートバスにログインして共有できます。無効にすると、同時にログインできるユーザーの最大数は、デバイスのリモートバスの数と同じになります(p.1「サポートされるバス数」参照)。
バーチャルメディアの書き込み操作を有効にする	バーチャルメディアの書き込み操作を有効にすると、ユーザーのシステム上のリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスがリモートサーバーにデータを送信し、リモートサーバーからのデータを書き込むことができるようになります。
ローカルバーチャルメディアを有効にする	ローカルのバーチャルメディアを有効にすると、IP-KVMスイッチに接続されたUSBストレージ周辺機器(CD/DVD、HD、フラッシュドライブなど)がリモートシステムにセットアップされているかのように表示され、動作します。
認証を無効にする	「認証を無効にする」にチェックを入れると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーは、ユーザーネームとパスワードの組み合わせを入力するだけで、IP-KVMスイッチへの管理者アクセス権を取得します。 注意: この設定を有効にすることは、セキュリティ面において極めて危険な影響を及ぼすことがありますので、特別な環境以外では設定しないでください。

プライベート証明書

SSL接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトのATEN証明書をを使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化できます。



プライベート証明書の作成方法には、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

- ◆ 自己署名済み証明書の作成

独自の自己署名証明書を作成する場合は、無料のユーティリティー `openssl.exe` をウェブ経由でダウンロードできます。OpenSSLを使用して独自のプライベートキーとSSL証明書を生成する方法の詳細については、p.318「自己署名済みプライベート証明書」を参照してください。

- ◆ CA署名済みSSLサーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局のウェブサイトにアクセスし、SSL証明書を申請してください。CAから証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適切なフォルダーに保存してください。

- ◆ プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「プライベートキー」の右側にある「参照」をクリックし、プライベートキーのファイルがある場所を参照して選択してください。

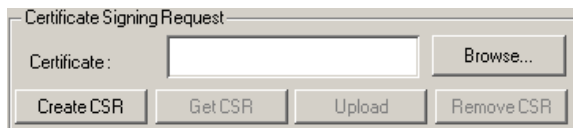
2. 「証明書」の右側にある「参照」をクリックし、証明書ファイルがある場所を参照して選択してください。
3. 「アップロード」ボタンをクリックして操作を完了してください。

注意:

1. 「デフォルトのリストア」をクリックすると、デバイスはデフォルトのATEN証明書を使用するように戻ります。
 2. プライベート暗号キーおよび署名済証明書は同時にインポートしてください。
-

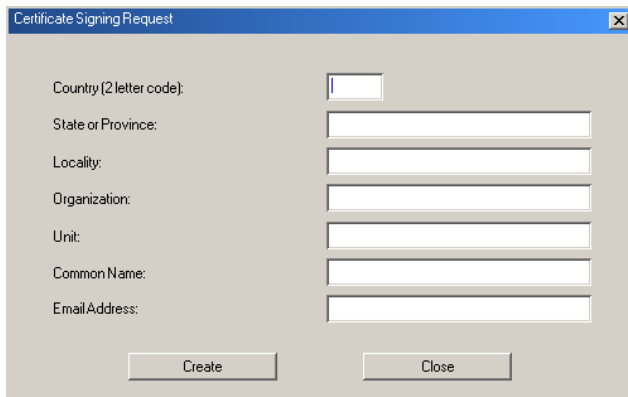
証明書署名要求

証明書署名要求のセクションでは、CA署名済みSSLサーバー証明書の取得とインストールを自動的に行います。



この操作を行う場合は、下記の手順に従ってください。

1. 「CSRの作成」をクリックしてください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。



2. お使いの環境で有効な値を、項目に入力してください。下記に例を示します。

情報	例
国(2文字のコード)	TW
州または都道府県	Taiwan
市区町村	Taipei
組織	Your Company, Ltd.
部署	Techdoc Department
コモンネーム	mycompany.com 注意: ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正確に入力してください。サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」で、「mycompany.com」のみを指定した場合、証明書は有効になりません。
メールアドレス	administrator@yourcompany.com

3. フォームへの入力(全項目への入力が必須)が完了したら、「作成」をクリックしてください。

ここで提供した情報に基づく自己署名証明書は、IP-KVMスイッチの内部に保存されます。

4. 「CSRを取得する」をクリックし、証明書ファイル(csr.cer)をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。

これは、署名済みSSL証明書の申請の際にサードパーティーの認証局へ提出が必要となるファイルです。

5. 認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。「参照」をクリックしてファイルを見つけたら、「アップロード」をクリックしてIP-KVMスイッチに保存します。

注意:

ファイルをアップロードすると、IP-KVMスイッチはファイルをチェックして、指定された情報が引き続き一致しているかどうかを確認します。もし、一致しているのであれば、このファイルを受け入れます。一致していなければ、このファイルを拒否します。

証明書を削除する場合(ドメイン名の変更などにより新しい証明書に置き換える場合)は、「CSRの削除」をクリックしてください。

日付/時刻

「日付/時刻」ダイアログ画面は、IP-KVMスイッチの時刻パラメーターを設定します。

The screenshot shows the 'Date/Time' configuration window. At the top, there are tabs: 'Device Information', 'Operating Mode', 'Network', 'ANMS', 'Security', and 'Date/Time'. The 'Date/Time' tab is selected. Below the tabs, there are four main sections:

- Time Zone:** A dropdown menu is set to '(GMT+08:00) Taipei'. There is an unchecked checkbox for 'Daylight Savings Time'.
- Date:** A calendar for 'January, 2019'. The date '30' is highlighted in blue.
- Time:** A text input field shows '21 : 19 : 54' and a 'Set' button.
- Network Time:** An unchecked checkbox for 'Enable auto adjustment'. Below it, there are two sections: 'Preferred time server' and 'Alternate time server'. Each section has a dropdown menu (both set to 'AU |ntp1.cs.mu.OZ.AU') and an unchecked checkbox for 'Preferred custom server IP' and 'Alternate custom server IP'. At the bottom, there is an 'Adjust time every' field set to '1' days and an 'Adjust Time Now' button.

パラメーターは下記を参考にしながら設定してください。

タイムゾーン

- ◆ IP-KVMスイッチが配置されているタイムゾーンを設定するには、タイムゾーンリストを展開し、その場所に最も近い都市を選択します。
- ◆ この場所が属している国または地域がサマータイムを導入している場合は、「サマータイム」の項目にチェックを入れてください。

日付

- ◆ ドロップダウン・リストボックスから月を選択します。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。

- ◆ カレンダーから適切な日をクリックしてください。
- ◆ 時刻を設定するには、24時間制の「HH:MM:SS」形式を使用します。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「**設定**」ボタンをクリックしてください。

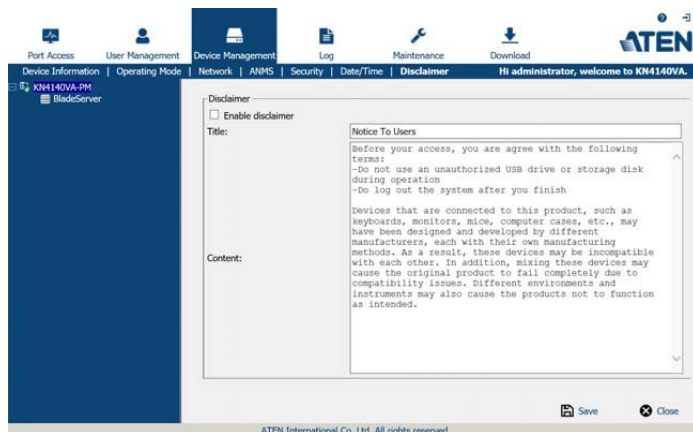
ネットワークタイム

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「自動調整を有効にする」の項目にチェックを入れてください。
2. タイムサーバーリストを展開して、希望するタイムサーバーを選択してください。
- または -
「優先カスタムサーバーIP」ボックスにチェックを入れ、選択したタイムサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「代替タイムサーバー」ボックスにチェックを入れ、代替タイムサーバーに対して手順2の操作を繰り返してください。
4. 次の同期を行うまでの日数を入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「**今すぐ時刻調整**」ボタンをクリックしてください。

免責事項(ブラウザーインターフェースのみ)

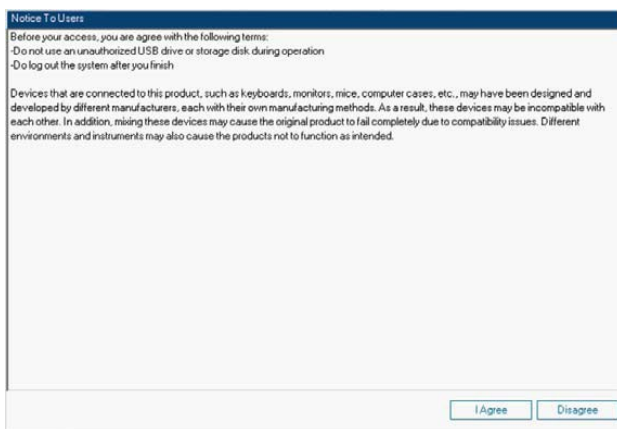
以下の図に示すように、ここで免責事項を設定できます。



ログイン時に免責事項を有効にするには、「免責事項を有効にする」ボックスにチェックを入れます(デフォルトでは無効)。

免責事項のタイトルと内容を入力し、「保存」をクリックして変更を保存します。

ログインすると免責事項が表示されます。WindowsクライアントAPを使用してログインする場合の例を次に示します。

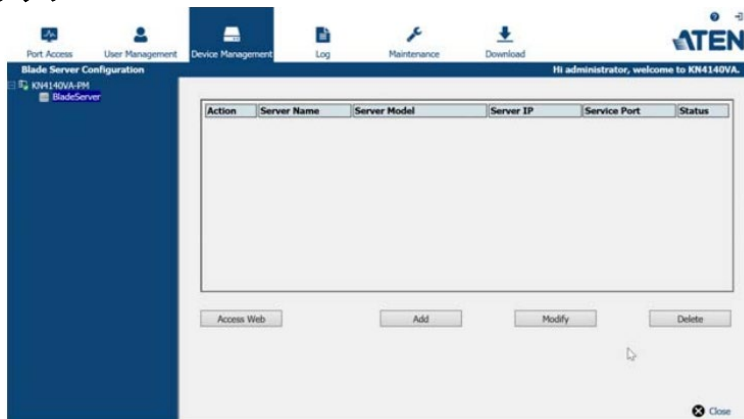


ブレードサーバー

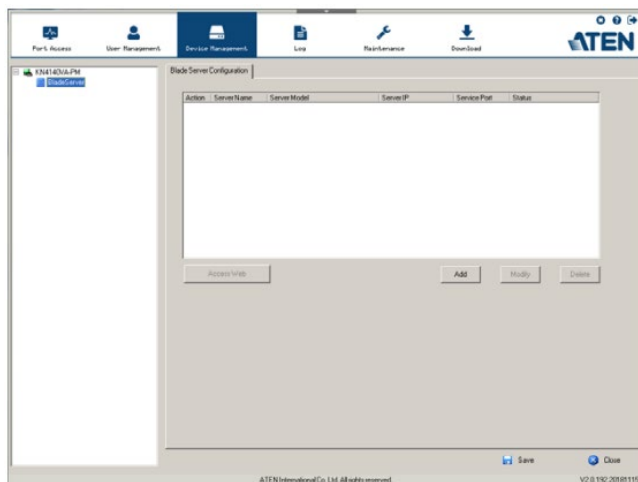
設定画面

スーパーアドミニストレーターの場合、サイドバーでブレードサーバーが選択されていると、そのサーバーの設定画面が表示されます。

ブラウザーGUI



AP GUI



ブレードサーバーのセットアップ

ブレードサーバーの追加

新しいブレードサーバーを設定するには、次の手順を実行します。

1. サイドバーでアイコンを選択し、メインパネルで「追加」をクリックします。そうすると、「ブレードサーバーのセットアップ」ダイアログボックスが開き、「手順1」タブが表示されます。

Setup Blade Server

Step1 Step2

Server Model: DELL PowerEdge1855/1955

Include KVM

Server Name:

Server IP:

Service Port: 22

User Name:

Password:

Scan Interval: 1 min

Timeout: 60 sec

Web URL: https://

Login Name:

Login Password:

Next Close

2. 下表の情報に従って各欄に入力します。

項目	説明
サーバーモデル	リストを展開して、ブレードサーバーのシャーシのモデルを選択します。サポートされているサーバーのリストにお使いのモデルが含まれていない場合は、販売店にお問い合わせください。
KVMを含む	この項目は情報提供のみを目的とし、編集できません。サーバーがKVM機能をサポートしている場合は、このボックスがチェックされています。それ以外の場合は、チェックが付いていません。
サーバー名	便宜上、サーバーに名前を付けることができます。

項目	説明
サーバーIP	シリアル接続(TelnetまたはSSH)経由でサーバーにアクセスするために使用されるサーバーのIPアドレス(IPv4、IPv6、またはドメイン名)を入力します。
サービスポート	シリアルアクセスに使用するポート番号を入力します。
ユーザーネーム	シリアルアクセス認証に必要なユーザーネームを入力します。
パスワード	シリアルアクセス認証に必要なパスワードを入力します。
スキャンインターバル	IP-KVMスイッチがサーバーで情報をスキャンする間隔です。
タイムアウト	IP-KVMスイッチがサーバーからの応答を待機してから情報のスキャンを停止するまでの時間です。
Web URL	ブラウザ経由でサーバーにアクセスする際に使用されるサーバーのIPアドレス(IPv4、IPv6、またはドメイン名)を入力します。
ログイン名	ブラウザ認証に必要なユーザーネームを入力します。
ログインパスワード	ブラウザ認証に必要なパスワードを入力します。

3. 各項目の設定が完了したら、「次へ」をクリックして、手順2のタブが表示されたダイアログボックスを表示します。
4. 手順2のダイアログには、取り付けられているブレードの数など、ブレードサーバーの設定の概要が表示されます。「保存」をクリックして、ブレードサーバーを機器構成に追加します。

ブレードサーバーの変更・削除

- ◆ ブレードサーバーの設定を変更するには、まずサイドバーでブレードサーバーを選択し、「変更」をクリックします。そうしたら、「ブレードサーバーのセットアップ」ダイアログボックスで変更を行います。
- ◆ ブレードサーバーを削除するには、まずサイドバーでそのサーバーを選択し、「削除」をクリックします。

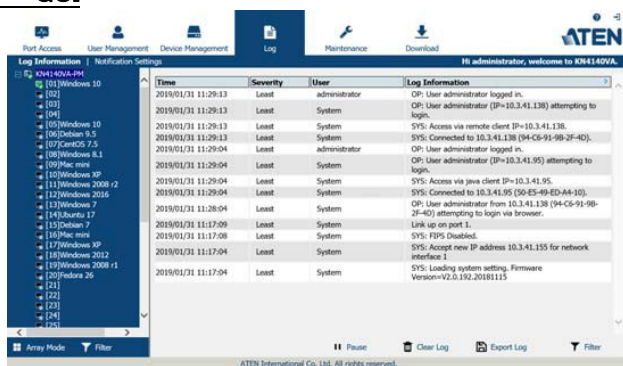
ウェブアクセス

ブレードサーバーのウェブページにアクセスするには、まずサイドバーでブレードサーバーを選択し、「ウェブへのアクセス」をクリックします。

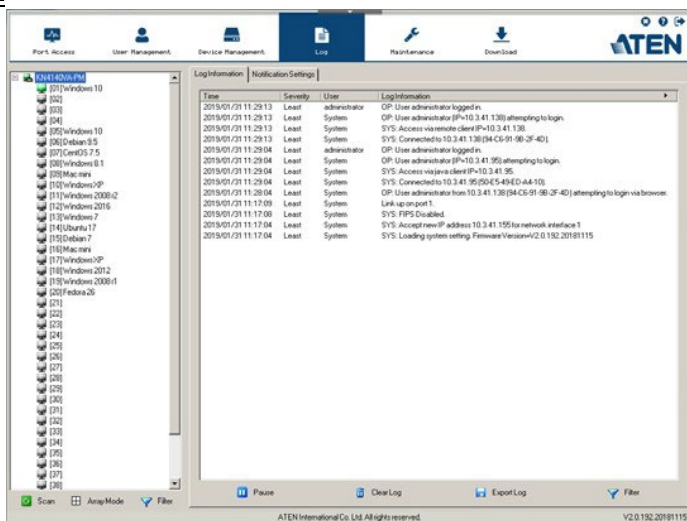
概要

IP-KVMスイッチは、そのユニットで検知したイベントをログに記録します。ログの内容を確認する場合は、「ログ」タブをクリックしてください。次のようなデバイスのログ情報画面が表示されます。

ブラウザーGUI



AP GUI



ログ情報

「ログ情報」画面には、IP-KVMスイッチで検知されたイベントが表示され、時間、重要度、ユーザー、およびそれぞれの説明が表示されます。列の見出しをクリックすると、その項目で表示順を変更します。

ログファイルは、最大512件のイベントを記録します。イベント数が512になると、新しいイベントが発生した際に、一番古いイベントが切り捨てられます。画面の下部にあるボタンの目的について、次の表で説明します。

ボタン	説明
一時停止	「一時停止」をクリックすると、新しいイベントの表示が停止します。表示が一時停止されると、ボタンは「再開」に変わります。「再開」をクリックすると、イベントの表示を再開します。一時停止中のログは記録されません。
ログの消去	ログファイルの内容を消去します。
ログのエクスポート	ログの内容をお使いのコンピューター上にファイルとして保存します。
フィルター	日付、特定の文字列等でイベントを検索します(次のセクションに記載)。

フィルター

この機能を使うと、表示されるログイベント情報を、発生時間、メッセージに含まれているキーワード、ユーザーネームなどの条件で絞り込むことができます。この機能呼び出すと、画面下部に下図のようなメニューが表示されます。

Display Options

Time: Start Date/Time... End Date/Time... Today Only

Information: User: Device Time

Priority: Least Less Most Apply Reset

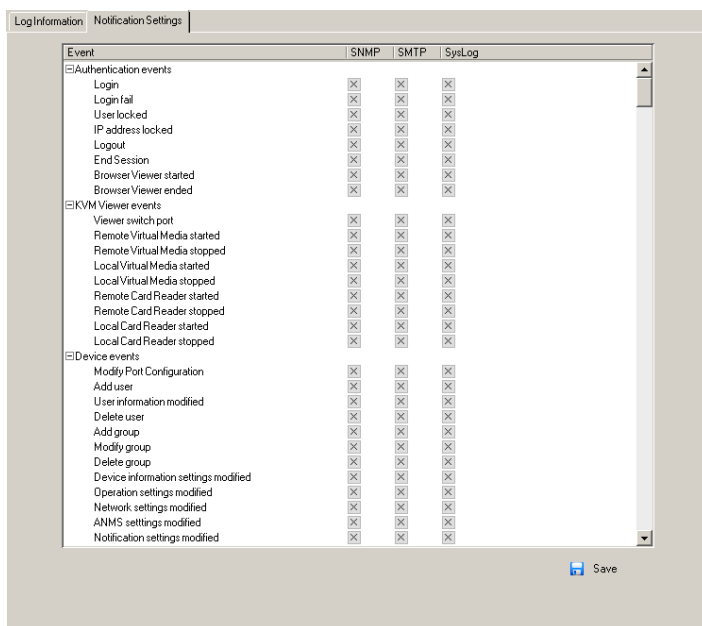
この画面に表示される各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
時刻	<p>この機能を使用すると、特定の時間に発生したイベントを次のようにフィルタリングできます。</p> <p>当日のみ: 当日のイベントのみが表示されます。</p> <p>デバイス時間: IP-KVMスイッチに設定されている時間に従ってイベントを表示します。</p> <p>開始日時: 特定の日時から現在までのイベントをフィルタリングします。ボックスにチェックを入れるとカレンダーが表示されます。フィルタリングを開始する日時を設定します。開始日時から現在までのすべてのイベントが表示されます。</p> <p>ウェブブラウザインターフェースの場合、開始日時をチェックした後、カレンダーを表示するには、テキストボックス内をクリックする必要があります。カレンダーを選択したら、カレンダーパネルの右下にあるAアイコンをクリックします。</p> <p>終了日時: 特定の日時から特定の日時までのイベントをフィルタリングします。最初に「開始日時」(前述)を選択し、「終了日時」をオンにして終了日時を設定します。</p> <p>ウェブブラウザインターフェースの場合、「終了日時」をオンにした後、カレンダーを表示するにはテキストボックス内をクリックする必要があります。カレンダーを選択したら、カレンダーパネルの右下にあるAアイコンをクリックします。</p>
情報	<p>特定のキーワードを含むイベントを検索します。キーワードはテキストボックスに入力してください。その文字列を含むイベントだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。たとえば、「h*ds」を指定すると「hands」と「hoods」を返します。「h?nd」を指定すると「hard」と「hand」を返しますが、「hard」は該当しません。「h*ds or h*ks」を指定すると「hands」と「hooks」を返します。</p>
ユーザー	<p>特定のユーザーに関連するイベントを検索します。まず「ユーザー」ボックスにチェックを入れ、ユーザーネームを入力してから、「適用」を選択します。この文字列を含むユーザーネームに関連したイベントのみが表示されます。</p> <p>注意: 「フィルター」パネルで「ユーザー」チェックボックスがチェックされていない場合は、メインパネルに「ユーザー」列全体が表示されません。</p>
重要度	<p>イベントの重要度に基づいてイベントを検索します。最小イベントは黒で表示され、最小イベントは青色で表示され、ほとんどのイベントは赤色で表示されます。</p> <p>まず「重要度」チェックボックスにチェックを入れ、次にフィルタリングする重要度オプションをチェックします(複数の項目をチェックできます)。指定した重要度に一致したイベントのみが表示されます。</p> <p>注意: フィルターパネルで「重要度」チェックボックスがここでチェックされていない場合、「重要度」列全体はメインパネルに表示されません。</p>
適用	<p>指定された条件で検索を行います。</p>
リセット	<p>検索条件をデフォルトの状態に戻します。</p>

項目	説明
終了	このボタンをクリックすると、ログフィルタ機能が終了します。

ログ通知設定

「通知設定」では、通知イベントをどの外部ツールへ通知するか設定できます。



通知は、SNMPトラップ、SMTP、SysLogへの送信、またはこれら3つの任意の組み合わせを介して送信できます。チェックマーク(✓)は、列見出しで指定された方法に対してイベントの通知が有効になっていることを示し、「×」は通知が有効になっていないことを示します。

注意:

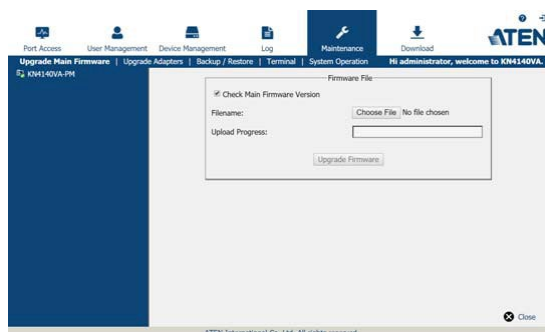
どの列でも、[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックして、イベントのグループを選択できます。いずれかをクリックして有効または無効にすると、すべてが連動して変更されます。

第10章 メンテナンス

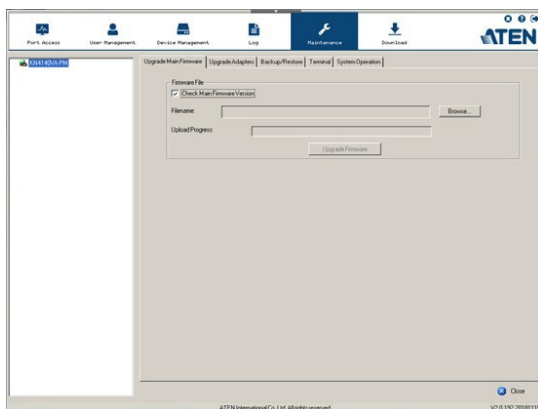
概要

メンテナンス機能は、ファームウェアのアップグレード、設定情報やアカウント情報のバックアップとリストア、ターミナルコマンドの送信、ネットワークデバイスへのpingコマンド実行、およびデフォルト値のリストアに使用されます。

ブラウザーGUI



AP GUI

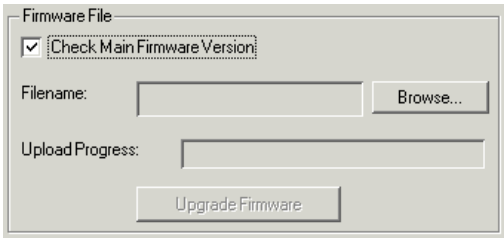


メインファームウェアのアップグレード

IP-KVMスイッチのメインファームウェアのアップグレードに加えて、この機能を使用して、システムに導入されたブレードサーバーをアップグレードすることもできます。新しいバージョンのファームウェアが利用可能になると、弊社のウェブサイト (<http://www.aten.com/jp/ja/>) からダウンロードできます。このサイトにて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

ファームウェアをアップグレードするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 新しいファームウェアファイル(IP-KVMスイッチ、またはブレードサーバーモジュール)をコンピューターにダウンロードします。
2. IP-KVMスイッチにログインしたら、「メンテナンス」タブをクリックします。「メンテナンス」タブが開き、「メインファームウェアのアップグレード」画面が表示されます。



3. 「参照」をクリックし、新しいファームウェアファイルがあるディレクトリーに移動して、ファイルを選択します。
4. 「ファームウェアのアップグレード」ボタンをクリックし、アップグレードを実行してください。
 - ◆ 「メインファームウェアのバージョンを確認する」の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、状況を通知するポップアップメッセージが表示され、アップグレードが中断されます。
 - ◆ 「メインファームウェアのバージョンを確認する」の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレ

ードを行います。

- ◆ アップグレードの進行状況は、プログレスバーで確認できます。
 - ◆ アップグレードに成功すると、製品本体がリセットされます。
5. IP-KVMスイッチに再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されていることを確認してください。

注意:

「アップグレードの失敗」状態から回復するには、p.226「ファームウェアアップグレードのリカバリー」を参照してください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

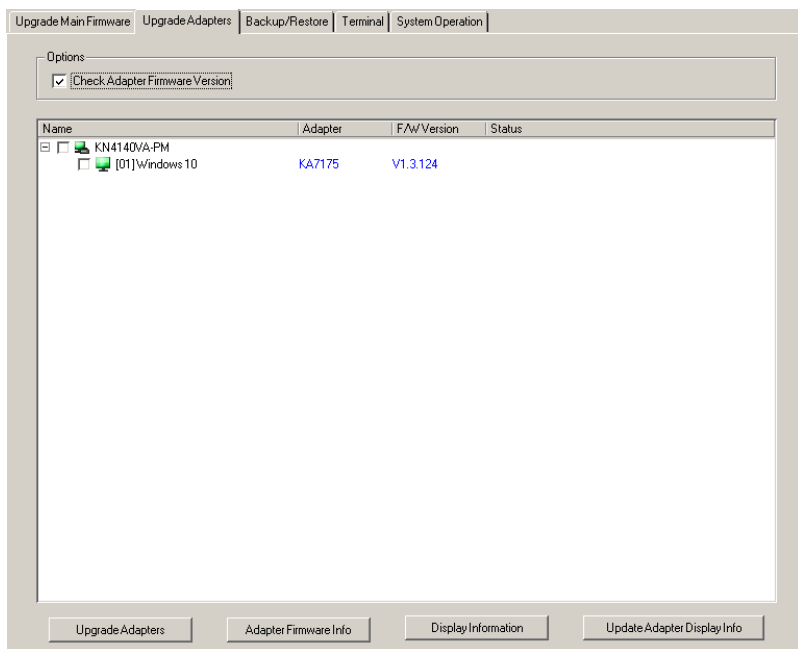
IP-KVMスイッチのメインファームウェアのアップグレードが失敗し、ユニットが使用できなくなった場合は、次の復旧手順で問題を解決できるかお試しください。

1. IP-KVMスイッチの本体背面にある電源を切ってください。
2. リセットボタンを押したままにします (p.39またはp.42「リセットボタン」参照)。
3. リセットボタンを押したまま、IP-KVMスイッチの電源を入れてください。

これにより、工場製造時に使用した最初のメインファームウェアバージョンが使用されます。起動準備が完了したら、ウェブブラウザを介してIP-KVMスイッチにログインすることで、メインファームウェアのアップグレードを再試行できます (p.225「メインファームウェアのアップグレード」を参照)。

コンピューターモジュールのアップグレード

「モジュールのアップグレード」画面では、コンピューターモジュールのファームウェアのバージョン表示とアップグレード、EDID設定変更ができます。このセクションでは、PCから給電されたコンピューターモジュールだけが参照できます。



コンピューターモジュールのアップグレード

「モジュールのアップグレード」ボタンは、コンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードするために使用します。

アップグレードを実行するには、次の手順を実行します。

1. 「メンテナンス」タブをクリックし、「アダプタをアップグレードする」を選択します。
2. 「アダプタファームウェア情報」をクリックすると、メインファームウェアに保存されているコンピューターモジュールのファームウェアバージョンの一覧が表示されます。メインファームウェアをアップグレードした場合、現在、モジュ

ールにあるバージョンよりも新しいファームウェアが含まれている可能性があります。

3. メインファームウェアに格納されているモジュールのファームウェアのバージョンと、メインパネルの「F/Wバージョン」列に一覧表示されているバージョンを比較します。

ファームウェアに保存されているバージョンがコンピューターモジュールのバージョンよりも新しい場合は、コンピューターモジュールのアップグレードの実行を推奨します。

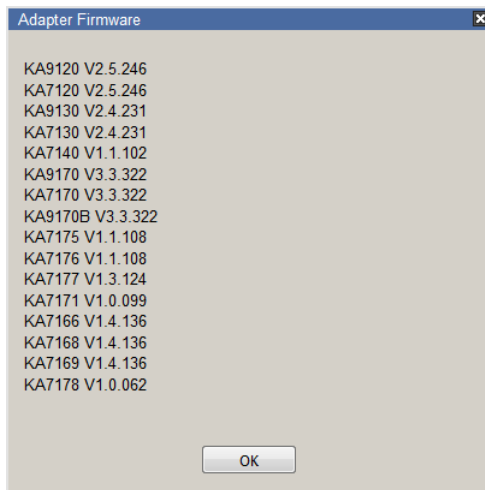
4. メインパネルの「名前」列で、モジュールをアップグレードするポートを確認します。
5. 「**アダプタをアップグレード...**」をクリックしてアップグレード手順を開始します。
 - ◆ 「モジュールのファームウェアバージョン確認」にチェックを入れた場合、現在のファームウェアと同じか、古いバージョンを書き込もうとした場合は、アップグレードを停止します。
 - ◆ 「モジュールのファームウェアバージョンを確認する」を有効にしなかった場合、アップグレードファイルを強制的に書き込み施行します。ただしバージョンによっては書き込み失敗となる場合がございます。
 - ◆ 手順が完了すると、新しいモジュールのファームウェアバージョンが表示されます。

注意:

1. 古いコンピューターモジュールのファームウェアバージョンでも動作する場合がありますが、予期しない不具合を回避するためIP-KVMスイッチのメインファームウェアのバージョンに即したものをアップグレードすることを推奨します。
 2. コンピューターモジュールを追加するときは、本体のバージョンを確認して最新のファームウェアバージョンになっているか確認してからご利用ください。
 3. 「アップグレードの失敗」の状態から回復するには、p.230「モジュールのファームウェアアップグレードリカバリー」を参照してください。
-

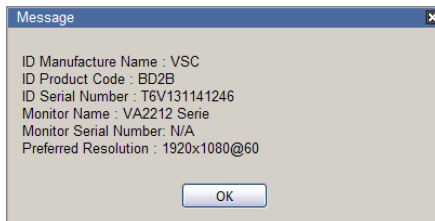
コンピューターモジュールのファームウェア情報

「アダプタファームウェア情報」ボタンには、IP-KVMスイッチ本体に保存されているコンピューターモジュールのファームウェアの一覧が表示されます。この情報を使用して、接続しているコンピューターモジュールのF/Wバージョンと比較できます。最適な互換性を得るため、IP-KVMスイッチのメインファームウェアに合わせてアップグレードすることを推奨します。



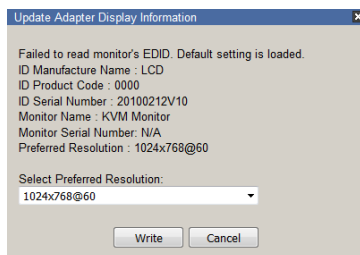
情報の表示

「情報の表示」ボタンは、ローカル接続されたモニターのEDID情報を次の図のように照会して表示します。



モジュール表示情報の更新

「モジュールのディスプレイ…」ボタンは、IP-KVM本体に接続しているモニターのEDID情報を照会し、コンピューターモジュールに記録させることができます。EDIDとはディスプレイの解像度情報のことで各CPUポートに接続しているサーバーが起動時など画面表示をするときにコンピューターモジュールから取得します。



「情報の表示」ボタンを使用して、サーバー側モニターの「優先解像度」(オプション)を取得し、「優先度解像度の選択」ドロップダウンメニューで適用してから、「書き込み」をクリックします。IP-KVMにディスプレイに接続されていない場合、本体内蔵の汎用EDIDがコンピューターモジュールに書き込まれます。

モジュールのファームウェアアップグレードリカバリー

いずれかのコンピューターモジュールのファームウェアのアップグレード手順が失敗し、アダプターが使用不能になった場合、次のファームウェアのアップグレード復旧手順によって問題が解決されます。

1. 接続先のサーバーからモジュールを取り外します。
2. (Cat5eポートの横にある)ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」の位置にスライドさせます。
3. モジュールをサーバーに再び接続し給電します。
4. モジュールのアップグレード手順を繰り返します。

モジュールが正常にアップグレードされたら、接続されているサーバーからモジュールを取り外し、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「NORMAL」の位置にスライドさせて戻し、モジュールを差し込みます。

バックアップ/リストア

「バックアップ/リストア」メニュー項目を選択すると、IP-KVMスイッチの設定およびユーザーのプロファイル情報をバックアップできます。

Upgrade Adapters | Backup/Restore | Terminal | System Operation

Backup

Password:

Backup

Restore

Filename: Choose...

Upload progress:

Password:

Select All User Account User Select

Options

<input checked="" type="checkbox"/> Device Information	<input checked="" type="checkbox"/> Network
<input checked="" type="checkbox"/> ANMS	<input checked="" type="checkbox"/> Security
<input checked="" type="checkbox"/> Date/Time	<input checked="" type="checkbox"/> Operating Mode
<input checked="" type="checkbox"/> Account	

Restore

バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「パスワード」の項目に、ファイルのリストアに必要となるパスワードを入力してください。

注意:

1. パスワードの設定は任意です。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードなしでリストアされます。
2. パスワードを設定する場合、リストアの際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。

2. 「バックアップ」ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザーからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「デ

ディスクに保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適当な場所に保存してください。

リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「参照...」ボタンをクリックし、バックアップファイルが保存されているフォルダーを選択してください。

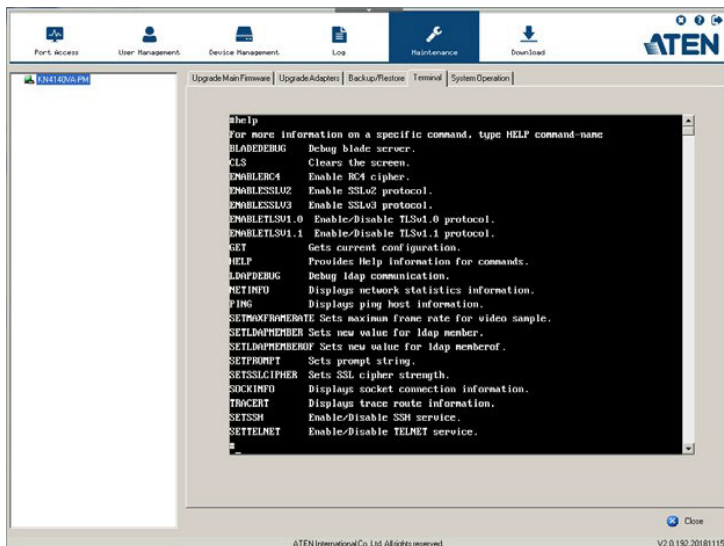
注意:

デフォルト設定のファイル名を変更しても、新しい名前そのままお使いいただけます。元の名前に変更する必要はありません。

2. バックアップファイル作成の際にパスワードを設定している場合は、「パスワード」欄に、そのパスワードと同じ文字列を入力してください。
3. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください(複数選択可)。
4. 「リストア」ボタンをクリックしてください。
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

ターミナル

ターミナルには、ターミナルインターフェースを使用してオプションを実行するためのコマンドラインがあります。ウィンドウにコマンドを入力し、[Enter]を押して実行します。



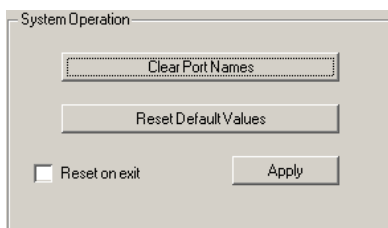
使用可能なコマンドは以下のとおりです。

- ◆ BLADEDEBUG ⇒ ブレードサーバーをデバッグします。
- ◆ CLS ⇒ 画面を消去します。
- ◆ ENBLERC4⇒RC4暗号を有効にします。
- ◆ ENBLESSLV2 ⇒ SSLv2プロトコルを有効にします。
- ◆ ENBLESSLV3 ⇒ SSLv3プロトコルを有効にします。
- ◆ GET ⇒ 現在の設定を取得します。
- ◆ HELP ⇒ コマンドのヘルプ情報を提供します。
- ◆ LDAPDEBUG ⇒ LDAP通信のデバッグを行います。
- ◆ NETINFO ⇒ ネットワーク統計情報を表示します。
- ◆ PING ⇒ pingホスト情報を表示します。
- ◆ SETAMFRAMECOLOR ¥[RGBカラーコード] ⇒ パネルアレイのフレーム色を設定します。任意の色を設定可能です。RGBカラーコード例:

- ◆ 設定値:ff0000 = 赤色
- ◆ 設定値:00ff00 = 緑
- ◆ 設定値:000ff = 青色
- ◆ SETCABLELEN[チャンネル][値]=>ケーブル長を設定します。
 - ◆ チャンネル:ローカルコンソールの場合は0、リモートコンソールの場合は01~08
 - ◆ 設定値:0=自動、1=無効、2=ショート、3=ロング
- ◆ SETFORWARD [IPアドレス] => チャンネル転送のセカンダリースイッチにプライマリースイッチIPアドレスを設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBER => LDAPメンバーの新しい値を設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBEROF => LDAP memberofの新しい値を設定します。
- ◆ SETMAXFRAMERATE [フレームレート] [マウス動作オプション] => 最大フレームレートとマウス移動オプションを設定します。
 - ◆ フレームレート:1~30
 - ◆ マウス動作オプション:0 = マウスの動きでフレームレート設定を無効にします。1 = マウスの動きでフレームレート設定を維持します。
- ◆ SETPROMPT => プロンプト文字列を設定します。
- ◆ SETSSLCIPHER => SSL暗号強度を設定します。
- ◆ SETUSERINFOEXT [値] => イベントログに記録する各ポートの詳細なユーザーログイン情報を有効または無効にします。
 - ◆ 設定値:0 = 無効、1 = 有効
- ◆ SETVCHANNELMODE [値] => チャンネル転送を有効にします。
 - ◆ 設定値:0 = 無効、1 = 有効
- ◆ SOCKINFO => ソケット接続情報を表示します。
- ◆ TRACERT => トレースルートの情報を表示します。

システム操作

「システム操作」画面では、IP-KVMスイッチで行われた特定の設定変更を元の工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。



この画面で実行される機能は次のとおりです。

ポート名の消去

このボタンをクリックすると、各ポートの名前が削除されます。

デフォルト値のリストア

このボタンをクリックすると、IP-KVMスイッチの「カスタマイズ」で行われたすべての変更（アカウント情報やポート名を除く）とネットワーク転送速度が取り消され、パラメーターが工場出荷時の初期設定に戻ります。

終了時にリセット

ここにチェックを入れて「適用」をクリックしログアウトすると、IP-KVMスイッチが自動的にソフトウェア再起動をおこない、再起動後にすべての新しい設定が反映されます（再起動は約30～60秒お待ちください）。

IP-KVMスイッチのIPアドレスを変更すると（p.188「ネットワーク」参照）、ボックスが自動的にチェックされ、ログアウト時にKVMスイッチが再起動します。ログアウトする前にチェックマークを外すと、変更されたIP設定は無視され、元のIPアドレス設定が有効なままになります。

注意:

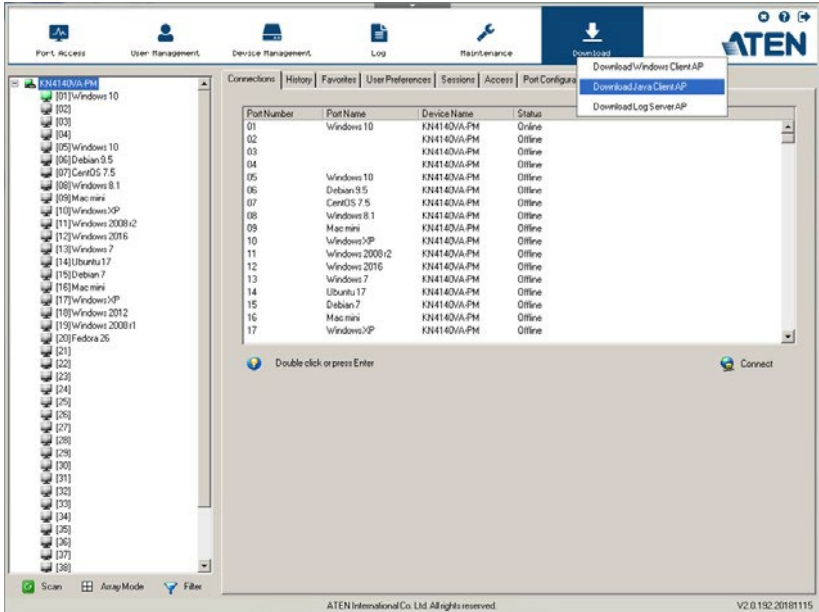
あるユーザーで設定変更しても、他アカウントにログインしてもIP設定が変更されていないように見えます。これは複数ユーザーの同時設定操作による設定内

容の破綻を回避するため、意図的に設定を反映させるまでに意図的に数分間遅延をするようにしています。そのため、ネットワーク設定をすぐに反映させる場合には、「終了時にリセット」にてソフトウェア再起動を実施することを推奨します。

第11章 ダウンロード

概要

「ダウンロード」画面は、スタンドアロンAP版のWindowsクライアント、Javaクライアント、およびログサーバーのダウンロードに使用されます。

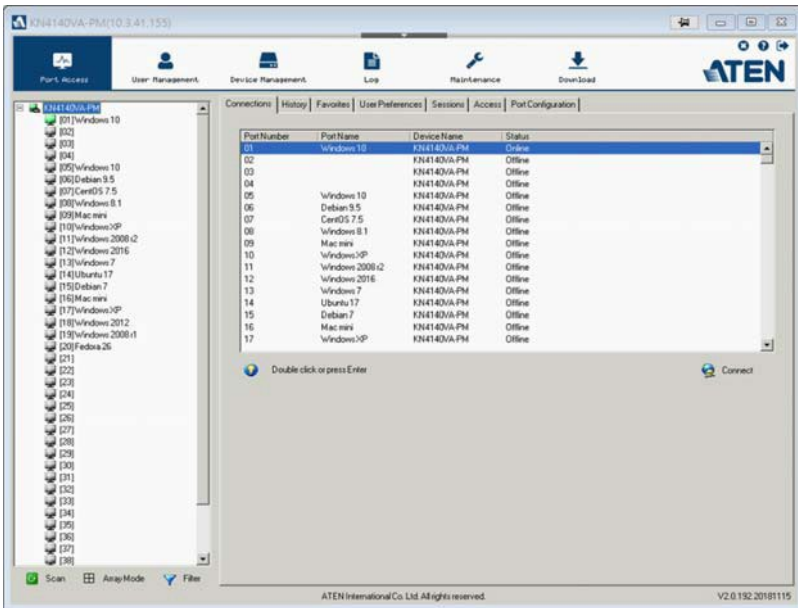


ダウンロードしたいプログラムをクリックし、ハードディスク上の便利な場所に保存してそこから実行します。

第12章 ポート操作

概要

正常にログインすると(p.63「ログイン」を参照)、IP-KVMスイッチは「ポートアクセス」タブの「接続」画面に遷移します。このとき、サイドバーではログインしたIP-KVMスイッチが選択されています。

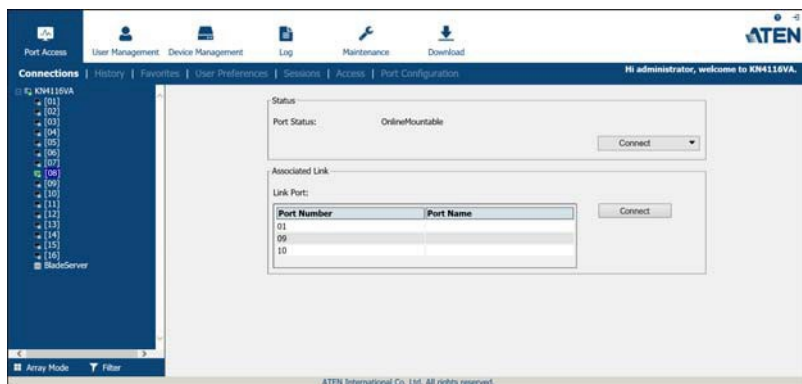


注意:

1. WinクライアントおよびJavaクライアントAPプログラムで起動すると、画面の上部中央にカーソルを合わせるとコントロールパネルが表示されます。コントロールパネルについては、p.80で説明します。
2. ポートアクセスの接続画面については、p.133「KVMデバイスとポート - 接続画面」を参照してください。

ポートへの接続

ユーザーがアクセス権限を持っている機器やポート、および、アウトレットはすべて、画面の左側にあるサイドバーに一覧表示されます。

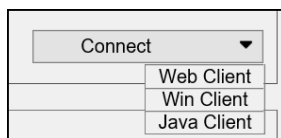


ポートに接続するときに、ビューアを自動または手動で選択できます。

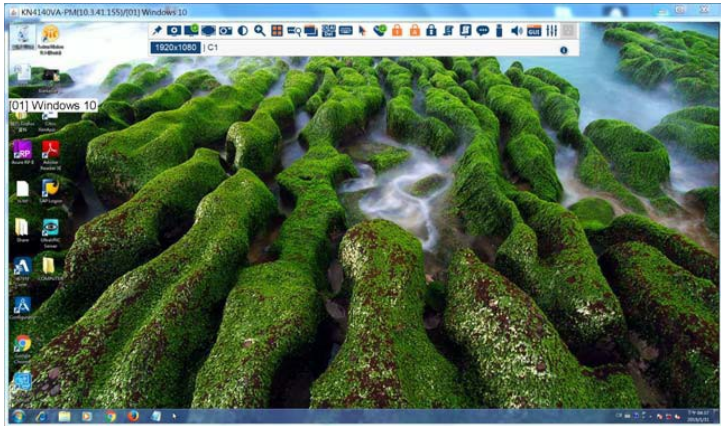
自動選択:ポート(サイドバー上)をダブルクリックするか、ポートを選択した後に「接続」をクリックします。

- ◆ システムは、「ユーザー環境設定」画面の「ビューア」オプションから優先ビューアを自動的に選択します。詳細については、p.148「ビューアの環境設定」を参照してください。

手動選択:接続ボタンの右側にあるドロップダウンメニューをクリックし、優先するビューアを選択します。



接続すると、画面がモニターに表示され、キーボードとマウスの入力がリモートサーバーに影響します。



ポートツールバー

IP-KVMのローカルコンソールには、切替操作に役立つツールバーがあります。WinクライアントやJavaクライアントでもコントロールパネルとは別に利用ができます。ツールバーを表示するには、GUIホットキー([Scroll Lock]または[Ctrl])を2回タップします。ツールバーが画面の左上隅に表示されます。



[01] Windows 10

ID表示で選択した設定(p.146参照)に応じて、ポート番号やポートネームが表示されます。ツールバーアイコンの意味は、p.242の表に記載しています。

ツールバーにマウスとキーボードの入力が表示されている場合、ポートに接続されているサーバーには影響しません。サーバーで操作を実行するには、ツールバーの「x」アイコンをクリックしてツールバーを閉じます。










「ポートアクセス」の「接続」画面に戻るには、該当するアイコン(p.242「ツールバーのアイコン」参照)をクリックするか、GUIホットキーをもう一度タップします。

注意:

1. ツールバーの透明度を調整できます(p.93「ビデオ設定」参照)。
 2. ツールバーの機能はコントロールパネルにもあります。コントロールパネルで有効にするように選択した場合(p.114「コントロールパネルの設定」参照)、ツールバーを無効にできます(詳細はp.146「ユーザー環境設定」参照)。ツールバーを無効すると「ポートアクセス」の「接続」画面を呼び出すには、GUIホットキーを2回タップします。
 3. ポートのツールバー機能はローカルコンソール、Win/Javaクライアントでのみサポートされます。
-

ツールバーのアイコン

ツールバーにおけるアイコンの意味は次の表のとおりです。

アイコン	目的
	クリックすると、「ポートアクセス」画面を呼び出さなくても、システム全体で最初にアクセス可能なポートにスキップします。
	クリックすると、「ポートアクセス」画面を呼び出さずに、現在のポートの前にある最初のアクセス可能なポートにスキップします。
	クリックすると、オートスキャンモードを開始します。IP-KVMスイッチは、フィルター機能で自動スキャンの対象として選択されたポート間で自動的に切り替わります (p.129「フィルター」を参照)。これにより、手動で切り替えることなく、アクティビティを監視できます。
	クリックすると、現在のポートから次のアクセス可能なポートにスキップします。「ポートアクセス」画面を呼び出す必要はありません。
	クリックすると、「ポートアクセス」画面を呼び出さなくても、現在のポートからシステム全体で最後にアクセス可能なポートまでスキップできます。
	クリックすると、「ポートアクセス」画面が呼び出されます。
	クリックすると、ツールバーを閉じます。
	パネルアレイモードを起動します (p.246「パネルアレイモード」参照)。
	クリックすると、ビデオの自動同期を実行します。これは、「ビデオオプション」ダイアログボックスで「自動同期」ボタンをクリックした操作と同じアクションを実行します (p.93「ビデオ設定」参照)。 注意: この機能はローカルコンソールで実行してください。

ツールバーのホットキーによるポート切替

ツールバーが表示されたら、キーボード操作で次が機能できます。

- ◆ ポート番号を入力して[Enter]をクリックすると、ポートに直接移動します。
- ◆ オートスキャン（自動切換えモード）
- ◆ スキップモード（カーソルキー操作での即時切替モード）

ホットキーは、[A]と[P]でオートスキャンを、矢印キーでスキップモードを、それぞれ操作します。

注意:

1. これらの操作を実行するには、ツールバーが表示されている必要があります（p.241「ポートツールバー」参照）。
 2. PCで操作に戻る場合は[Esc]キーでツールバーを閉じる必要があります。
 3. オートスキャンモードで複数ユーザーの操作に影響する問題については、p.248「マルチユーザー操作」を参照してください。
-

オートスキャン

スキャン機能は、アカウントに応じてアクセス可能なすべてのポートを自動的に巡回し切り替えるため、監視用途などで最適です。ユーザーは、サイドバーの「フィルター」機能でスキャンするポートの数を制限することもできます。詳しくは、p.133「KVMデバイスとポート - 接続画面」、およびp.129「フィルター」を参照してください。

- ◆ スキャンインターバルの設定

オートスキャンで各ポートに留まる時間は、スキャンインターバル設定で定義します（p.147「スキャンインターバル」参照）。

- ◆ オートスキャンの起動

ツールバーが表示されている状態でオートスキャンを開始するには、[A]キーをタップします。オートスキャン機能は、システムの最初のポートから順番にポートを循環します。

ポートIDの前に[S]が表示され、ポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。

- ◆ オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードでは、[P]を押して特定のサーバーを選択するためにスキャンを一時停止できます。オートスキャンが一時停止している間、ポートIDの前にあるSが点滅します。

特定のサーバーを選択しておきたい場合に一時停止すると、スキャンを再開するときに中断した場所から開始するため、オートスキャンモードを終了するよりも便利です。一方、オートスキャンモードを終了してから再起動した場合、スキャンはシステムの最初のサーバーからやり直しになります。

一時停止後にオートスキャンを再開するには、[Esc]またはスペースキーを除く任意のキーを押します。一時停止していたポートからスキャンが続行されません。

- ◆ オートスキャンの終了

オートスキャンモード中は、通常のキーボード機能が停止します。キーボードの通常操作に戻るには、オートスキャンモードを終了する必要があります。オートスキャンモードを終了するには、[Esc]またはスペースキーを押してください。オートスキャンは、オートスキャンモードを終了すると停止します。

スキップモード

スキップモードで、カーソルキー操作でポートを切り替えることができます。オートスキャンが一定の間隔で自動的に切り替わるのに対し、この機能では、時間を問わず特定のポートを表示させておくことができます。スキップモードのホットキーは、4つの矢印キーのみです。以下の表でその動作を説明します。

矢印	アクション
←	現在のポートからアクセス可能な最初のポートまでスキップします。
→	現在のポートからアクセス可能な最初のポートにスキップします。
↑	現在のポートから、お使いの機器構成で最初にアクセス可能なポートにスキップします。
↓	現在のポートから、お使いの機器構成で最後にアクセス可能なポートにスキップします。

ポートアクセス画面の呼び出し

ツールバーを閉じて、「ポートアクセス」画面に戻るには、以下のいずれかの操作を行います。

- ◆ Escキーを1回押してキャンセルします。
- ◆ コントロールパネルから、ポートアクセス画面を呼び出すアイコンをクリックします (p.242「ツールバーアイコン」参照)。
- ◆ ツールバーを閉じない方法であれば、[Scroll Lock]を1回押すと「ポートアクセス」画面に戻ります。

ツールバーが終了し、「ポートアクセス」画面が表示されます。

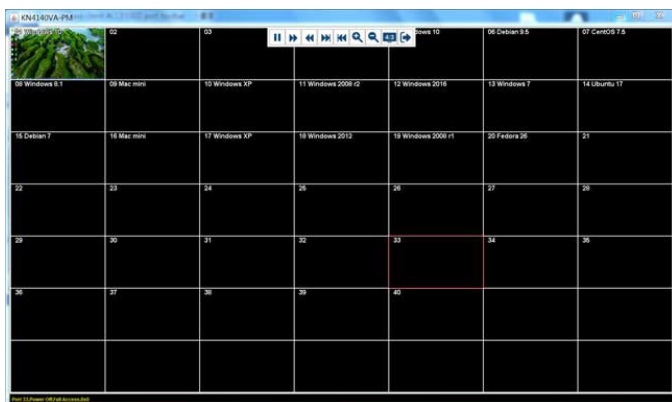
GUIホットキー一覧

次の表に、ポートにアクセスした後のGUIホットキーアクションの概要を示します。GUIホットキーを設定するには、p.146「ユーザー環境設定」を参照してください。

目的		実行する操作
ツールバーを開く。		GUIホットキーを2回クリックします。
「ポートアクセス」画面を開く。	ツールバーが開いている。	GUIホットキーを1回クリックします。
	ツールバーが開いていない。	GUIホットキーを3回クリックします。

パネルアレイモード











ツールバーのパネルアイコンをクリックすると、パネルアレイモードが起動します。このモードでは、画面は最大64個のパネルのグリッドに分割されます。



- ◆ 各パネルは、ポート1が左上隅から描画を開始し、左から右に、上から下に向かって、IP-KVMスイッチのポートのプレビューを表示します。
- ◆ アレイ内のパネルの数は、パネルアレイツールバーの「**一覧表示ポートを増やす**」および「**表示ポートを減らす**」のマークをクリックすると選択できます(パネルアレイツールバーの説明については、次のページを参照してください)。
- ◆ パネルアレイが起動すると、フィルター機能でオートスキャン用に選択された各ポートをスキャンします(p.129「フィルター」を参照)。スキャンすると、選択中のポートの枠線が強調表示されます。
- ◆ ユーザーがアクセス可能なポートのみが表示されます。アクセスできないポートの場合、パネルはスキップまたは黒画面のままとなります。
- ◆ ポートに接続されているサーバーがオンラインの場合、その画面はパネルに表示されます。オンライン以外の場合、パネルは黒画面で表示されます。
- ◆ パネル上にマウスを置くと、ポートに関する情報(ポート名前、オンラインの状態、ポートアクセスの状態、および解像度)が表示されます。
- ◆ パネルアレイから任意のポートにアクセスするには、そのサーバーのプレビュー画面にマウスポインターを合わせてクリックします

パネルアレイツールバー

パネルアレイツールバーは、パネルアレイのショートカットナビゲーションと制御を提供します。ツールバーは画面上の任意の場所にドラッグできます。アイコンの上にマウスを置くと、アイコンの機能の簡単な説明を示す「ツールチップ」が表示されます。各アイコンが表すアイコン機能は下表のとおりです。

	ツールバーをクリック&ドラッグして移動します。 注意: このアイコンは、Windowsクライアントでのみ使用できます。Javaクライアントツールバーを移動するには、空の領域をクリックしてドラッグします。
	パネルのスクランを一時的に停止し、現在選択中のパネルにフォーカスを置いたままにします。
	次のパネルに移動します。
	前のパネルに移動します。
	4つ前のパネルに移動します。
	4つ前のパネルに移動します。
	表示ポートを増やす: アレイのパネル数を増やします。
	表示ポートを減らす: アレイのパネル数を減らします。
	4/3のアスペクト比を切り替えます。
	パネルアレイモードを終了します。

注意:

パネルアレイモードでマルチユーザー操作に影響する問題については、p.248「マルチユーザー操作」を参照してください。

マルチユーザー操作

IP-KVMスイッチは、マルチユーザー操作をサポートします。クライアントコンピューターから複数のユーザーが同時にIP-KVMスイッチにアクセスする場合、適用される優先順位のルールを次の表に示します。

操作方法	ルール
全般	各バスは独立しています。ユーザーをバスに割り当てる方法については、次項「ユーザーとバス」を参照してください。各ユーザーは、自身のGUIメイン画面を開くことができます。
オートスキャンモード	<p>ユーザーがオートスキャンモードを起動し(p.243参照)、別のユーザーがログオンして同じバスに割り当てられると、最初に新しいユーザーにGUIメイン画面が表示されますが、ポートにアクセスするとすぐに、自動的にオートスキャンモードに入ります(元のユーザーとバスを共有しているため)。</p> <p>バス上のすべてのユーザーは、GUIメイン画面を呼び出すことで、オートスキャンモードを停止できます。これが発生すると、オートスキャンモードは停止し、バス上の他のすべてのユーザーは、オートスキャンモードが停止したときにアクセスされていたポートに切り替えられます。</p>
パネルアレイモード	<ul style="list-style-type: none">◆ ユーザーがパネルアレイモードを起動し(p.246参照)、最初に別のユーザーがログオンして同じバスに最初に割り当てられた場合、新しいユーザーにはGUIメイン画面が表示されますが、ポートにアクセスするとすぐに、自動的にパネルアレイモードに入ります(元のユーザーとバスを共有しているため)。◆ パネルアレイモードは、元のユーザーが停止するまで続きます(ただし、アドミニストレーターはパネルアレイモードを上書きできます)。◆ スキップモード(p.244参照)は、パネルアレイモードを起動したユーザーのみ使用できます。◆ パネルアレイモードを起動したユーザーのみポートを切り替えることができます。他のユーザーは、元のユーザーが選択したポートに自動的に切り替えます。ただし、他のユーザーのいずれかが元のユーザーが切り替えるポートへのアクセス権を持っていない場合、そのユーザーはポートを表示できません。◆ パネルアレイモードで表示するパネルの数は、個々のユーザーによって増減できますが、パネルの数が増えると画質が減少する場合があります。

ユーザーとバス

- ◆ KN8032VB/KN8164V/KN8132V/KN8064VBは、8系統のリモートバスに対応しています。1人目、9人目、17人目などのユーザーは、すべて1番目のバスに割り当てられ、2人目、10人目、18人目などのユーザーは、すべて2番目のバス上に割り当てられ、3人目、11人目、19人目などのユーザーは、すべて3番目のバス上に割り当てられ、4人目、12人目、20人目などのユーザーは、すべて4番目のバス上に割り当てられ、5人目、13人目、21人目などのユーザーは、すべて5番目のバス上に割り当てられ、6人目、14人目、22人目などのユーザーは、すべて6番目のバス上に割り当てられ、7人目、15人目、23人目などのユーザーは、すべて7番目のバス上に割り当てられ、8人目、16人目、24人目などのユーザーは、すべて8番目のバス上に割り当てられます。
- ◆ KN4016VB/KN4024VB/KN4116VA/KN4124VA/KN4132VA/KN4140VA/KN4164Vは、4系統のリモートバスをサポートします。1人目、5人目、9人目などのユーザーは、すべて1番目のバスに割り当てられ、2人目、6人目、10人目などのユーザーは、すべて2番目のバスに割り当てられ、3人目、7人目、11人目などのユーザーは、すべて3番目のバスに割り当てられ、4人目、8人目、12人目などのユーザーは、すべて4番目のバスに割り当てられます。
- ◆ KN2116VA/KN2116VB/KN2124VA/KN2132VA/KN2140VAは2系統のリモートバスをサポートしています。1人目、3人目、5人目などのユーザーは、すべて1番目のバスに割り当てられ、2番目、4番目、6番目などのユーザーは、すべて2番目のバスに割り当てられます。
- ◆ KN1108VA/KN1116VA/KN1132V/KN1132VBは2系統のリモートバスをサポートしています。1人目、3人目、5人目などのユーザーは、すべて1番目のバスに割り当てられます。
- ◆ すべてのIP-KVMスイッチは独立したバス切替をサポートします。独立バス切替では、ユーザーが別のバス上のユーザーによって使用されているポートに切り替えると、ポートを切り替えたユーザーのみが新しいポートと新しいバスに切り替えられます。元のバス上の他のユーザーは元のポートと元のバス上に残ります。

注意:

1. 複数ユーザーが同時に特定のポートにアクセスしている状態で、いずれかのメンバーがオートスキャンモードまたはパネルアレイモード

を使用している場合、そのユーザーだけが独立してオートスキャンまたはパネルアレイに切り替えはされません。ポートにアクセスしているメンバー全員が切り替わります。

2. 「Enable first login transfer」が有効な場合、バス上の最初のユーザーのみが未アクセスのポートに切り替えることができます。バス上の他のユーザーは、アクセスしたいポートにすでに接続されているバスがあるか、使用可能な空きバスがない限り、ポートを切り替えることはできません。
-
- ◆ パネルアレイモードを起動するユーザーは、パネル表示を最低でも4分割に設定することを推奨します。それ以外の場合は、他のユーザーが画像の一部しか受信できないおそれがあります。

第13章 ログサーバー

Windowsベースのアプリ、ログサーバーはIP-KVMスイッチで検知したイベントを記録し、検索可能なデータベースに書き込む管理ユーティリティです。この章では、ログサーバーのインストール方法と設定方法について説明します。

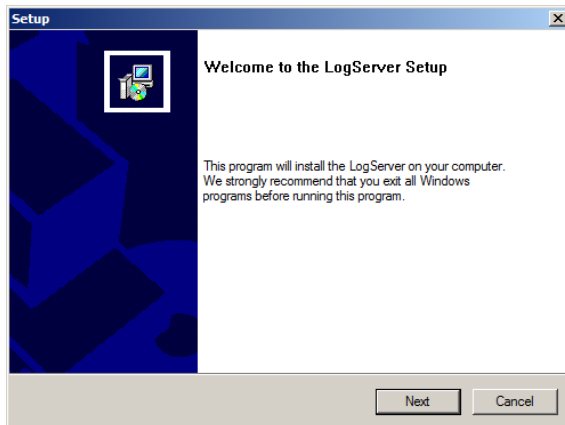
セットアップ

1. IP-KVMスイッチにログインします (p.63参照)。
2. 「ダウンロード」タブを選択し、ログサーバーAPプログラムをダウンロードします。
3. ログサーバープログラムをダウンロードしたハードディスク上の場所に移動し、そのアイコン(LogSetup.exe)をダブルクリックして**セットアップ**画面を表示します。

注意:

ブラウザでファイルを実行できない場合は、代わりにディスクに保存し、ディスクからファイルを実行します。

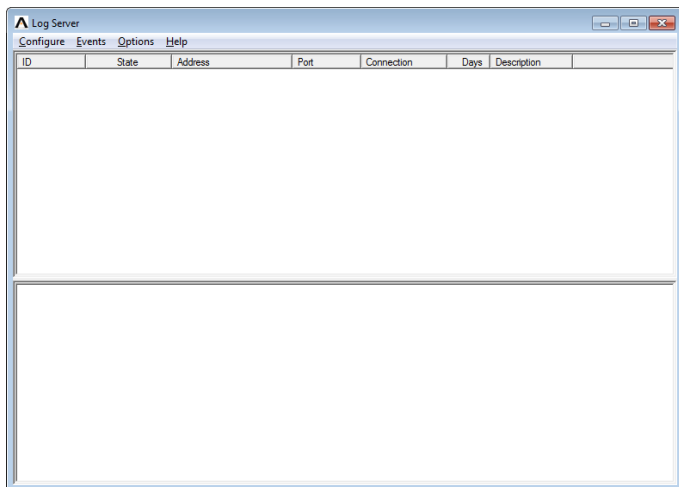
ログサーバーのインストール画面が表示されます。



4. 「次へ」をクリックしてください。画面の指示に従ってセットアップを完了し、デスクトップにログサーバープログラムアイコンを配置します。

起動

ログサーバーを起動するには、プログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインでプログラムのフルパスを入力します。プログラムの初回起動時には、次のような画面が表示されます。



注意:

1. ログサーバーのコンピューターのMACアドレスは、「ANMS」で指定する必要があります (p.195「ログサーバー」を参照)。
 2. ログサーバーにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。プログラムが起動しない場合は、「ログサーバーのプログラムが起動しない」をご確認ください (p.290参照)。
-

画面は3つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央のパネル (IP-KVMスイッチの一覧を表示) (p.257「ログサーバーのメイン画面」参照)。
- ◆ 下部のイベントリストパネル

各コンポーネントについては、以降のセクションで説明します。

メニューバー

メニューバーには4つの項目があります。

- ◆ 設定
- ◆ イベント
- ◆ オプション
- ◆ ヘルプ

これらについては、以降のセクションで説明します。

注意:

メニューバーが無効になっている場合は、リストウィンドウをクリックして有効にします。

設定

「設定」メニューには、「追加」、「編集」、「削除」の3つの項目があります。リストに複数のIP-KVMを追加したり、リストにすでにあるユニットの情報を編集したり、リストからユニットを削除したりするために使用します。

- ◆ ユニットのリストに追加するには、「**追加**」をクリックします。
- ◆ 一覧表示されたユニットを編集または削除するには、まずリストウィンドウでターゲットを選択してから、このメニューを開き、「**編集**」または「**削除**」をクリックします。

「追加」または「編集」を選択すると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "Add a Server". It contains the following fields and controls:

- Address:** A text input field containing "Server Address".
- Port:** A text input field containing "9001".
- Description:** A text input field containing "Server Description".
- Limit:** A text input field containing "100" followed by the text "Days".
- Enable automatic export for every:** A checkbox that is currently unchecked, followed by a text input field containing "1" and the text "Days".
- Save to:** A text input field with a "Browse..." button to its right.
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

以下の表で各欄の説明を示します。

項目	説明
アドレス	これは、IP-KVMスイッチが実行されているIPアドレス、またはそのDNS名のいずれかになります。
ポート	デバイス管理でログサーバーに割り当てられたポート番号 (p.195「ログサーバー」を参照)。
説明	この項目は、ユニットを識別するのに役立つ説明を入力できるように提供されたものです。
期限	これは、イベントをログサーバーのデータベースに保存する日数を指定します。ここで指定した時間を超えるイベントは、メンテナンス機能で削除できます (p.256「メンテナンス」参照)。
次の頻度/保存先に対する自動エクスポートを有効にする	ボックスにチェックを入れると、システムがログファイルを自動エクスポートするまでの経過日数を入力します。「参照」をクリックすると、ログファイルのエクスポート先のディレクトリーの位置を選択します。

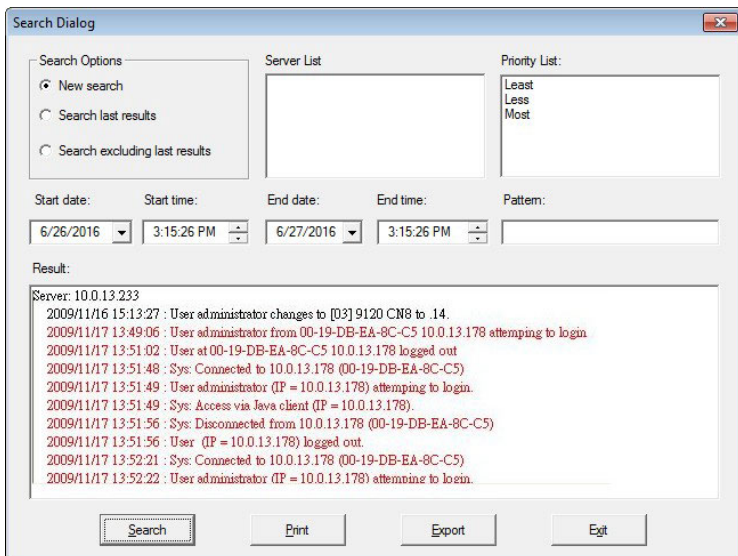
項目への入力や変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

イベント

「イベント」メニューは「検索」と「メンテナンス」の2つのサブメニューから構成されています。

検索:

「検索」メニューでは、特定の単語や文字列を含むイベントを検索できます。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。



以下の表に各項目の説明を示します。

項目	説明
新規検索	これは、検索範囲を定義する3つのラジオボタンのうちの1つです。これを選択すると、選択したユニットのデータベース内のすべてのイベントで検索が実行されます。
前回の結果から検索	これは、前回の検索の結果として発生したイベントに対して実行される二次検索です。
前回の結果以外から検索	これは、選択したユニットのデータベース内のすべてのイベントで実行されるセカンダリー検索です。ただし、前回の検索の結果のイベントは除きます。
サーバーリスト	IP-KVMスイッチは、IPアドレスに従って一覧表示されます。ログの検索対象となるユニットをリストから選択してください。複数のユニットを検索対象として選択できます。ユニットが選択されていない場合は、すべてのユニットに対して検索が実行されます。
優先度	検索結果をどの程度詳細に表示するかを設定します。「Least」を選択すると簡易版表示を、「Most」を選択すると詳細表示をそれぞれ行います。またレベルが「Least」の検索結果は黒色で、「Less」の結果は青色で、「Most」の結果は赤色でそれぞれ表示されます。
開始日	検索を開始する日付を選択します。「YYYY/MM/DD」の形式で入力してください。2009/11/04
開始時刻	検索を開始する時刻を選択します。形式は、「HH:MM:SS」の規則に従います。
終了日	検索を終了する日付を選択します。

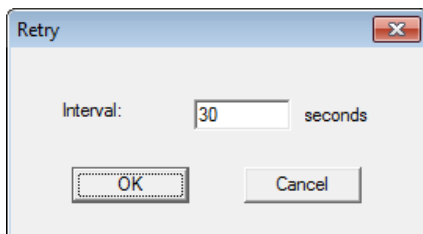
項目	説明
終了時刻	検索を終了する時間を選択します。
パターン	パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(%)を使用できます。例: h%dsという検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。
結果	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
検索	このボタンをクリックすると検索が開始します。
印刷	このボタンをクリックすると検索結果を印刷します。
エクスポート	このボタンをクリックすると、検索結果をファイルに保存します。
終了	このボタンをクリックすると、ログサーバーが終了します。

メンテナンス:

この機能により、アドミニストレーターは、指定されたレコードを保管期限前に消去するなど、データベースの手動メンテナンスを実行できます。

オプション

「ネットワーク再試行」では、前回の接続試行が失敗した場合にログサーバーが接続を試行するまでに待機する秒数を設定できます。この項目をクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。



待機秒数を入力したら「OK」ボタンをクリックし、操作を完了してください。

ヘルプ

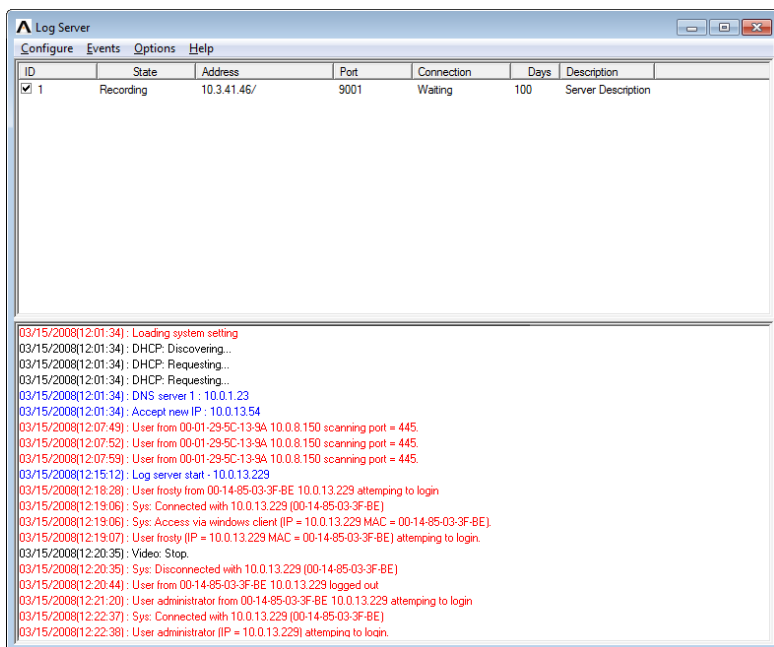
オンラインのWindowsヘルプファイルにアクセスするには、このメニューから「コンテンツ」をクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、およびトラブルシューティングの方法に関する手順が記載されています。

ログサーバーのメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面はだまかに次の2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部(リスト)には、追跡するログサーバーに選択されているすべてのユニットが一覧表示されます (p.253「設定」を参照)。
- ◆ 下部の(イベント)パネルには、現在チェックで選択されているユニットの情報が表示されます。(複数のユニットがある場合は、選択したユニットが強調表示されます)。
- ◆ リスト内のユニットを選択するには、そのユニットをクリックします。



リストパネル

リストパネルには6つの項目があります。

項目	説明
ID/状態	デバイスのID番号を表示し、ログサーバーがこのユニットを記録するかどうかをチェックボックスで決定します。「ID」ボックスにチェックを入れると、「状態」欄に「記録中」と表示され、チェックマークが付きます。「ID」ボックスがチェックされていない場合、「状態」欄に「一時停止」と表示され、チェックマークが外れます。 注意: 現在選択されているユニットではなくても、「記録」ボックスにチェックを入れると、ログサーバーはそのユニットを記録します。またチェックが外れている期間の記録はログサーバー記録されません。
アドレス	これは、ログサーバーに追加されたときにユニットに与えられたIPアドレスまたはDNS名です (p.253「設定」参照)。
ポート	ユニットに割り当てられたアクセスポート番号です (p.253「設定」参照)。
接続	<ul style="list-style-type: none">◆ ログサーバーがユニットに接続されている場合は、「接続済み」と表示されます。◆ ログサーバーが接続されていない場合、この欄には「待機中」と表示されます。これはログサーバーのMACアドレスが正しく設定されていないことを表しています。機器の「デバイス管理」の「日時」画面で設定する必要があります (p.253参照)。
日数	この項目には、装置のログイベントがログサーバーのデータベースに保存されてから期限切れになるまでの日数が表示されます (p.253「設定」参照)。
説明	この項目には、ユニットがログサーバーに追加されたときに指定された説明が表示されます (p.253「設定」参照)。

イベントパネル

下部パネルには、現在選択されているユニットのログイベントが表示されます。現在選択されていないユニットが複数ある場合でも、「記録」ボックスにチェックが入っていると、ログサーバーはそのログイベントを記録し、データベースに保持します。チェックが外れている間は記録されず、再度有効にしても新たに記録されたものから保存されます。

安全にお使いいただくために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ また、弊社ウェブサイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。装置が落下すると、深刻な損傷が生じます。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源装置の制限を把握し、超えないようにしてください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜いた後は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプ

について不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。

- ◆ お使いの装置への損傷を避けるために、すべての装置を適切にアースへ接続をしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。これは安全性の特徴です。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国や地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源ケーブルやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は15アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ラックやキャビネットの空きスロットに余剰な電源ケーブル類を押し込まないようにしてください。危険な電源ポイントに触れたり、部品がショートしたり、火災や電気的な衝撃の危険性がある場合があります。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。すべての保守については、適格な保守担当者にお問い合わせください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - ◆ 電源ケーブルが破損した。
 - ◆ 装置の上に液体をこぼした。
 - ◆ 装置が雨や水にぬれた。
 - ◆ 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - ◆ 装置の動作に異変が見られる（修理が必要です）。
 - ◆ 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず正常動作しない。

- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。他のコントロールの不適切な調整は、修理する資格のある技術者による広範な作業を必要とする損傷をもたらす可能性があります。
- ◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加で必要になることがあります。
- ◆ Cat 5e/6ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、モーター、インバーター、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線してください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックへの搭載作業を始める前に、ラックのスタビライザーがラック本体と床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給するAC電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保し、取り付けた機器を冷却できるよう処置してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

仕様

KN2116VA/KN4116VA/KN8116V

機能		KN2116VA	KN4116VA	KN8116V
コンピューター接続数	ダイレクト	16		
	最大	512(カスケード接続のKVMスイッチ経由)		
コンソール接続	ローカル	1		
	リモート	2	4	8
ポート選択		プッシュボタン/GUI/ホットキー		
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス × 1 (White)	
		ビデオ	DVI-D メス × 1 (White) VGA HDB-15 × 1 (Blue)	
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)	
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)	
		LUCポート	Mini-USB メス × 1 (Black)	
		セカンドコンソール	RJ-45 メス × 1 (Black)	
	KVMポート	RJ-45 メス × 16 (Black)		
	電源	IEC 60320/C14 × 2		
	LAN	RJ-45 メス × 2 (Black)		
	PON	RJ-45 メス × 1 (Black)		
	モデム	RJ-45 メス × 1 (Black)		
	USB (コンソール/バーチャルメディア)	USB Type-A メス × 3 (White)		
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ × 1		
	電源	ロッカースイッチ × 2		
	ポート選択	プッシュボタン × 2		
LED	オンライン/選択	16 (Green / Orange)		
	電源	2 (Blue)		
	リンク10 /100/1000Mbps	2 (Red / Orange / Green)		
エミュレーション	キーボード/マウス	PS/2/USB		
ビデオ	ローカル	1920 × 1200@60Hz		
	リモート	1920 × 1200@60Hz		
スキャンインターバル		1～255秒		
電源仕様		100～240V～、50～60Hz、1A		

機能		KN2116VA	KN4116VA	KN8116V
消費電力		AC110V、32.97W AC220V、33.18W	AC110V、50.3W AC220V、48.9W	AC110V、60.93W AC220V、59.43W
動作環境	動作温度	0~40°C		
	保管温度	-20~60°C		
	湿度	0~80%RH、結露なきこと		
ケース	ケース材料	メタル		
	重量	5.56kg	5.60kg	
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm	43.36×41.21×4.40cm	

KN2124VA/KN4124VA

機能		KN2124VA	KN4124VA	
コンピューター接続数	ダイレクト	24		
	最大	384 (カスケード接続のKVMスイッチ経由)		
コンソール接続	ローカル	1		
	リモート	2	4	
ポート選択		プッシュボタン/GUI/ホットキー		
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス × 1 (White)	
		ビデオ	DVI-1 メス × 1 (White)	
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)	
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)	
		LUCポート	Mini-USB メス × 1 (Black)	
	KVMポート		RJ-45 メス × 24 (Black)	
	電源		IEC 60320/C14 × 2	
	LAN		RJ-45 メス × 2 (Black)	
	USB (コンソール / パーチャルメディア)		USB Type-A メス × 3 (White)	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ × 1		
	電源	ロッカースイッチ × 2		
	ポート選択	プッシュボタン × 2		
LED	オンライン/選択	24 (Green / Orange)		
	電源	2 (Blue)		
	リンク10 / 100 / 1000Mbps	2 (Red / Orange / Green)		
エミュレーション	キーボード/マウス	PS/2/USB		
ビデオ	ローカル	1920 × 1200@60Hz		
	リモート	1920 × 1200@60Hz		
スキャンインターバル		1 ~ 255秒		
電源仕様		100 ~ 240V ~, 50 ~ 60Hz, 1A		
消費電力		AC110V, 34.3W, 198BTU AC220V, 34.3W, 198BTU	AC110V, 38.2W, 215BTU AC220V, 38.5W, 217BTU	
動作環境	動作温度	0 ~ 40°C		
	保管温度	-20 ~ 60°C		
	湿度	0 ~ 80%RH, 結露なきこと		

機能		KN2124VA	KN4124VA
ケース	ケース材料	メタル	
	重量	5.48kg	5.51kg
	サイズ(W×D×H)	43.36 × 41.21 × 4.40cm	43.36 × 41.21 × 4.40cm

KN1132V/KN2132VA/KN4132VA

機能		KN1132V	KN2132VA	KN4132VA
コンピューター 接続数	ダイレクト	32		
	最大	512(カスケード接続のKVMスイッチ経由)		
コンソール接続	ローカル	1		
	リモート	1	2	4
ポート選択		プッシュボタン/GUI/ホットキー		
コネクタ	コンソール ポート	キーボード	USB Type-A メス × 1(White)	
		ビデオ	DVI-D メス × 1 (White) VGA HDB-15 × 1 (Blue)	
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)	
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)	
		LUCポート	Mini-USB メス × 1 (Black)	
		セカンド コンソール	RJ-45 メス × 1 (Black)	
	KVMポート		RJ-45 メス × 32 (Black)	
	電源		IEC 60320/C14 × 2	
	LAN		RJ-45 メス × 2(Black)	
	PON		RJ-45 メス × 1 (Black)	
	モデム		RJ-45 メス × 1 (Black)	
	USB (コンソール / バーチャルメディア)		USB Type-A メス × 3 (White)	
	スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ × 1	
電源		ロッカースイッチ × 2		
ポート選択		プッシュボタン × 2		
LED	オンライン/選択	32 (Green / Orange)		
	電源	2 (Blue)		
	リンク10 /100/1000Mbps	2 (Red / Orange / Green)		
エミュレーション	キーボード/マウス	PS/2/USB		
ビデオ	ローカル	1920 × 1200@60Hz		
	リモート	1920 × 1200@60Hz		
スキャンインターバル		1 ~ 255秒		
電源仕様		100 ~ 240V ~、50 ~ 60Hz、1A		
消費電力		AC110V、26.88W AC220V、27.83W	AC110V、39.5W AC220V、39.7W	AC110V、48.4W AC220V、47W

機能		KN1132V	KN2132VA	KN4132VA
動作環境	動作温度	0~40°C		
	保管温度	-20~60°C		
	湿度	0~80%RH、結露なきこと		
ケース	ケース材料	メタル		
	重量	5.54kg	5.69kg	5.73kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm	43.36×41.21×4.40cm	43.36×41.21×4.40cm

KN8132V/KN4164V/KN8164V

機能		KN8132V	KN4164V	KN8164V	
コンピューター 接続数	ダイレクト	32	64	64	
	最大	512 (カスケード接続のKVMスイッチ経由)			
コンソール接続	ローカル	1			
	リモート	8	4	8	
ポート選択		プッシュボタン/GUI/ホットキー			
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス × 1 (White)		
		ビデオ	DVI-D メス × 1 (White) VGA HDB-15 × 1 (Blue)		
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)		
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)		
		LUCポート	Mini-USB メス × 1 (Black)		
		セカンドコンソール	RJ-45 メス × 1 (Black)		
	KVMポート		RJ-45 メス × 32 (Black)	RJ-45 メス × 64 (Black)	RJ-45 メス × 64 (Black)
	電源		IEC 60320/C14 × 2		
	LAN		RJ-45 メス × 2 (Black)		
	PON		RJ-45 メス × 1 (Black)		
	モデム		RJ-45 メス × 1 (Black)		
	USB (コンソール/バーチャルメディア)		USB Type-A メス × 3 (White)		
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ × 1			
	電源	ロッカースイッチ × 2			
	ポート選択	プッシュボタン × 2			
LED	オンライン/選択	32 (Green / Orange)	64 (Green / Orange)	64 (Green / Orange)	
	電源	2 (Blue)			
	リンク10 / 100 / 1000Mbps	2 (Red / Orange / Green)			
エミュレーション	キーボード/マウス	PS/2/USB			
ビデオ	ローカル	1920 × 1200@60Hz			
	リモート	1920 × 1200@60Hz			
スキャンインターバル		1～255秒			
電源仕様		100～240V～、50～60Hz、1A			

機能		KN8132V	KN4164V	KN8164V
消費電力		AC110V、69.83W AC220V、68.04W	AC110V、49.4W AC220V、47.3W	AC110V、75.18W AC220V、73.5W
動作環境	動作温度	0~40℃		
	保管温度	-20~60℃		
	湿度	0~80%RH、結露なきこと		
ケース	ケース材料	メタル		
	重量	5.80kg	7.00kg	7.07kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm	43.36×41.26×8.80cm	43.36×41.26×8.80cm

KN2140VA/KN4140VA

機能			KN2140VA	KN4140VA
コンピューター接続数	ダイレクト		40	
	最大		512 (カスケード接続のKVMスイッチ経由)	
コンソール接続	ローカル		1	
	リモート		2	4
ポート選択			プッシュボタン/GUI/ホットキー	
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス × 1 (White)	
		ビデオ	DVI-I メス × 1 (White)	
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)	
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)	
		LUCポート	Mini-USB メス × 1 (Black)	
	KVMポート		RJ-45 メス × 40 (Black)	
	電源		IEC 60320/C14 × 2	
	LAN		RJ-45 メス × 2 (Black)	
	USB (コンソール / バーチャルメディア)		USB Type-A メス × 3 (White)	
	スイッチ	リセット		ピンホール型スイッチ × 1
電源		ロッカースイッチ × 2		
ポート選択		プッシュボタン × 2		
LED	オンライン/選択		40 (Green / Orange)	
	電源		2 (Blue)	
	リンク10 / 100 / 1000Mbps		2 (Red / Orange / Green)	
エミュレーション	キーボード/マウス		PS/2/USB	
ビデオ	ローカル		1920 × 1200@60Hz	
	リモート		1920 × 1200@60Hz	
スキャンインターバル			1 ~ 255秒	
電源仕様			100 ~ 240V ~、50 ~ 60Hz、1A	
消費電力			AC110V、36.5W、207BTU AC220V、36W、205BTU	AC110V、41.2W、229BTU AC220V、41.5W、231BTU
動作環境	動作温度		0 ~ 40°C	
	保管温度		-20 ~ 60°C	
	湿度		0 ~ 80%RH、結露なきこと	

機能		KN2140VA	KN4140VA
ケース	ケース材料	メタル	
	重量	5.54kg	5.56kg
	サイズ(W×D×H)	43.36 × 41.21 × 4.40cm	43.36 × 41.21 × 4.40cm

KN8032VB/KN8064VB

機能			KN8032VB	KN8064VB
コンピューター 接続数	ダイレクト		32	64
	最大		512(カスケード接続のKVMスイッチ経由)	
コンソール接続	ローカル		1 (共有)	
	リモート		8	8
ポート選択			プッシュボタン/GUI/ホットキー	
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス × 1 (White)	
		ビデオ	HDMI メス × 1 (Black) VGA HDB-15 × 1 (Blue)	
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)	
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)	
		LUCポート	USB Mini-B メス × 1 (Black)	
	KVMポート		RJ-45 メス × 32 (Black)	RJ-45 メス × 64 (Black)
	電源		IEC 60320/C14 × 2	
	LAN		RJ-45 メス × 2 (Black)	
	USB (コンソール / バーチャルメディア)		USB Type-A メス × 3 (White)	
	シリアル		RJ-45 メス × 1 (Black)	
	PON		RJ-45 メス × 1 (Black)	
スイッチ	リセット		ピンホール型スイッチ × 1	
	電源		ロックスイッチ × 2	
	ポート選択		プッシュボタン × 2	
LED	オンライン/選択		32 (Green / Orange)	64 (Green / Orange)
	電源		2 (Green)	
	リンク10 / 100/1000Mbps		2 (Red / Orange / Green)	
エミュレーション	キーボード/マウス		PS/2/USB	
ビデオ	ローカル		1920 × 1200@60Hz	
	リモート		1920 × 1200@60Hz	
スキャンインターバル			1~255秒	
電源仕様			100~240V~, 50~60Hz, 1A	
消費電力			AC110V, 64.7W, 357BTU AC220V, 63.4W, 351BTU	AC110V, 72.6W, 394BTU AC220V, 71.2W, 387BTU

機能		KN8032VB	KN8064VB
動作環境	動作温度	0~40°C	
	保管温度	-20~60°C	
	湿度	0~80%RH、結露なきこと	
ケース	ケース材料	メタル	
	重量	5.29kg	7.19kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm	43.39×41.26×8.80cm

KN1132VB

機能		KN1132VB	
コンピューター 接続数	ダイレクト	32	
	最大	512 (カスケード接続のKVMスイッチ経由)	
コンソール接続	ローカル	1	
	リモート	1	
ポート選択		ブッシュボタン/GUI/ホットキー	
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス×1 (White)
		ビデオ	HDMI メス×1 (Black) VGA HDB-15×1 (Blue)
		マウス	USB Type-A メス×1 (White)
		オーディオ	オーディオジャック メス×2 (Pink, Green)
		LUCポート	USB Mini-B メス×1 (Black)
	KVMポート		RJ-45 メス×32 (Black)
	電源		IEC 60320/C14×2
	LAN		RJ-45 メス×2 (Black)
	USB (コンソール / バーチャルメディア)		USB Type-A メス×3 (White)
	シリアル		RJ-45 メス×1 (Black)
	PON		RJ-45 メス×1 (Black)
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	電源	ロックスイッチ×2	
	ポート選択	ブッシュボタン×2	
LED	オンライン/選択	32 (Green / Orange)	
	電源	2 (Green)	
	リンク10 /100/1000Mbps	2 (Red / Orange / Green)	
エミュレーション	キーボード/マウス	PS/2/USB	
ビデオ	ローカル	1920×1200@60Hz	
	リモート	1920×1200@60Hz	
スキャンインターバル		1～255秒	
電源仕様		100～240V～、50～60Hz、1A	
消費電力		AC110V、32W、205BTU AC220V、31.7W、202BTU	

機能		KN1132VB
動作環境	動作温度	0~40°C
	保管温度	-20~60°C
	湿度	0~80%RH、結露なきこと
ケース	ケース材料	メタル
	重量	5.03kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm

KN2116VB/KN4016VB

機能			KN2116VB	KN4016VB
コンピューター 接続数	ダイレクト		16	
	最大		512(カスケード接続のKVMスイッチ経由)	
コンソール接続	ローカル		1	1(共有)
	リモート		2	4
ポート選択			プッシュボタン/GUI/ホットキー	
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス × 1 (White)	
		ビデオ	HDMI メス × 1 (Black)	
			VGA HDB-15 × 1 (Blue)	
		マウス	USB Type-A メス × 1 (White)	
		オーディオ	オーディオジャック メス × 2 (Pink, Green)	
	LUCポート	USB Mini-B メス × 1 (Black)		
	KVMポート		RJ-45 メス × 16 (Black)	
	電源		IEC 60320/C14 × 2	
	LAN		RJ-45 メス × 2 (Black)	
	USB (コンソール / バーチャルメディア)		USB Type-A メス × 3 (White)	
	シリアル		RJ-45 メス × 1 (Black)	
PON		RJ-45 メス × 1 (Black)		
スイッチ	リセット		ピンホール型スイッチ × 1	
	電源		ロックスイッチ × 2	
	ポート選択		プッシュボタン × 2	
LED	オンライン/選択		16 (Green / Orange)	
	電源		2 (Green)	
	リンク10 / 100/1000Mbps		2 (Red / Orange / Green)	
エミュレーション	キーボード/マウス		PS/2/USB	
ビデオ	ローカル		1920 × 1200@60Hz	
	リモート		1920 × 1200@60Hz	
スキャンインターバル			1～255秒	
電源仕様			100～240V～、50～60Hz、1A	
消費電力			AC110V、31.4W、201BTU AC220V、31.7W、196BTU	AC110V、44W、260BTU AC220V、42.9W、254BTU

機能		KN2116VB	KN4016VB
動作環境	動作温度	0~40°C	
	保管温度	-20~60°C	
	湿度	0~80%RH、結露なきこと	
ケース	ケース材料	メタル	
	重量	5.18kg	5.19kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm	

KN4024VB

機能		KN4024VB	
コンピューター 接続数	ダイレクト	24	
	最大	384 (カスケード接続のKVMスイッチ経由)	
コンソール接続	ローカル	1 (共有)	
	リモート	4	
ポート選択		ブッシュボタン/GUI/ホットキー	
コネクタ	コンソールポート	キーボード	USB Type-A メス×1 (White)
		ビデオ	HDMI メス×1 (Black) VGA HDB-15×1 (Blue)
		マウス	USB Type-A メス×1 (White)
		オーディオ	オーディオジャック メス×2 (Pink, Green)
		LUCポート	USB Mini-B メス×1 (Black)
	KVMポート		RJ-45 メス×24 (Black)
	電源		IEC 60320/C14×2
	LAN		RJ-45 メス×2 (Black)
	USB (コンソール / バーチャルメディア)		USB Type-A メス×3 (White)
	シリアル		RJ-45 メス×1 (Black)
	PON		RJ-45 メス×1 (Black)
	スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源		ロックスイッチ×2	
ポート選択		ブッシュボタン×2	
LED	オンライン/選択	24 (Green / Orange)	
	電源	2 (Green)	
	リンク10 /100/1000Mbps	2 (Red / Orange / Green)	
エミュレーション	キーボード/マウス	PS/2/USB	
ビデオ	ローカル	1920×1200@60Hz	
	リモート	1920×1200@60Hz	
スキャンインターバル		1～255秒	
電源仕様		100～240V～、50～60Hz、1A	
消費電力		AC110V、45.3W、266BTU AC220V、44.7W、263BTU	

機能		KN4024VB
動作環境	動作温度	0~40°C
	保管温度	-20~60°C
	湿度	0~80%RH、結露なきこと
ケース	ケース材料	メタル
	重量	5.22kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×41.21×4.40cm

トラブルシューティング

操作全般

問題	解像度
「ローカル」と「リモート」という用語が、どのデバイスを指しているのか混乱する。	詳細については、p.11「用語」を参照してください。
動作が不安定である。	IP-KVMスイッチは、カスケード接続されたKVMスイッチよりも後に起動する必要があります。 <ol style="list-style-type: none">IP-KVMスイッチには、カスケード接続されたKVMスイッチより後に電源を入れるようにしてください。IP-KVMスイッチを先に起動した場合は、すべてのKVMスイッチの電源を落とし、カスケード接続されたスイッチから起動します。 IP-KVMのリセットボタンを短押しして再起動を試みてください (p.19またはp.26「リセットボタン」参照)。
アカウントを取得したものの、ログインできない。	<ol style="list-style-type: none">ユーザーネームとパスワードが正しく指定されていることを確認してください。ログインした後に各サーバーへアクセスするために必要な権限が管理者から付与されていることを確認してください。IP-KVMスイッチがCC2000の管理下にあるかどうかをアドミニストレーターに確認してください。この場合は、IP-KVMスイッチのCC管理を無効にするか (p.194参照)、CCサーバーで選択を解除して解決する必要があります (詳しくは、CC ユーザーマニュアルを参照)。
IPアドレスとポート番号を正しく指定しても、IP-KVMスイッチにアクセスできない。	IP-KVMスイッチがルーターを超えた先にある場合は、ルーターのポート転送 (仮想サーバー) 機能を設定されているか確認してください。詳細については、p.298「ポートの転送」を参照してください。
ブラウザからログインすると、「404 Object Not Found」というメッセージが表示される。	ログイン文字列が設定されている場合は、IP-KVMスイッチのIPアドレスを指定した後に、スラッシュと正しいログイン文字列を含めるようにしてください (p.206「ログイン文字列」参照)。
ネットワーク接続が突然失われる。	IP-KVMスイッチへの接続を終了し、約30秒待ってから再度ログインします。リモート端末の省エネ設定を無効にするほか、一般のインターネット回線で接続している場合は帯域保証型の回線に変えるなど対策を行ってください
クライアントコンピューターにリモートサーバーのビデオ出力が表示されません。	コンピューターモジュールのファームウェアバージョンがIP-KVMスイッチのメインファームウェアに保存されているバージョンと同じであることを確認します。詳細については、p.227「コンピューターモジュールのアップグレード」を参照してください。 リモートサーバーの解像度を1280×1024以下に設定します。

問題	解像度
<p>クライアントコンピューターにリモートサーバーのビデオは表示されないのに、ローカルコンソール上でマウスの動きが表示され、マウスのクリックが無効になる。</p>	<p>左[Alt]キーを押して指を離したら、右[Alt]キーを押して指を離します。</p>
<p>クライアントコンピューターのディスプレイが歪んでいるため、自動同期を実行しても問題が解決しない。</p>	<p>ポートを別の解像度のポートに切り替えてから、戻します。</p> <p>上記で問題が解決しなかった場合は、ポートで実行されているシステムの解像度とリフレッシュレートを変更します。その後、新しい解像度で実行するか、元の解像度に戻すことができます。</p>
<p>コントロールパネルのロックキーLEDは、キーボード入力の実際のロック状態を正確に反映していない。</p>	<p>IP-KVMへログインした直後の場合、LED表示がキーボードのLEDを正確に反映しない場合があります。問題を解決するには、コントロールパネルのLEDをキーボードと一致するまでクリックします。その後、キーボードから変更すると、コントロールパネルで変更されます。</p>
<p>ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。</p>	<p>これは証明書の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。詳細については、p.313「信頼された証明書」を参照してください。</p>
<p>マルチユーザー操作では、表示していたポートに対して排他的(または占有)な権限を持っていたのに「ポートアクセス」画面を再読み込みし、占有していたポートに戻ると、別のユーザーに引き継がれている。なぜそうなったのか。</p>	<p>メニュー画面からツリーで再度選択してポートに戻ろうとすると、一度バスセッションを解放してから再度接続します。別のユーザーがポートで待機していた場合は、解放した時に次のユーザーに権限が移行します。権限を保持したまま操作画面に戻る正しい方法は、「ポートアクセス」画面の右上にある終了アイコンをクリックする操作です。</p>
<p>IPインストーラーのデバイスリストに、ATEN over IPのユニットが一覧表示されない。</p>	<p>自動検出を正常に機能させるには、ネットワーク内がブロードキャスト機能が有効になっているまたはファイアーウォールなどで遮断していないか確認してください。</p> <p>自動検出が正常に機能するように、ファイアーウォールやウイルス対策ソフトウェアを一時的に無効にしてください。</p> <p>ATEN over IPユニットとPCが同じネットワークセグメントにあることを確認してください。</p>

マウスの問題

問題	解像度
マウスまたはキーボードが応答しない。	<p>コンピューターモジュールのファームウェアバージョンがIP-KVMスイッチのメインファームウェアに保存されているバージョンと同じであることを確認します。詳細については、p.227「コンピューターモジュールのアップグレード」を参照してください。</p> <p>IP-KVMのコンソールポートからデバイスを抜き差ししてみてください。</p>
マウスの動作が極端に遅い。	<p>転送されるデータ量が多いため、マウスの表示が動作に追いつかないことが考えられます。ビデオ品質を下げて (p.93「ビデオ設定」参照)、データ転送量を減らして改善できるかお試しください。</p>
リモートサーバーにアクセスした後、2つのマウスポインターがある。	<p>別のポインタータイプを選択できます。詳細については、p.109「マウスポインターの種類」を参照してください。</p>
マウスポインターがシングルポインターモードの場合、コントロールパネルにアクセスできない。	<p>コントロールパネルを呼び出し、すぐにポインターをデュアルモードに変更します。</p>
デュアルポインターモードがあるのはなぜか？	<p>リモートサーバーのポインターが実際に現在の場所にあることがわかるようにするためです。</p> <p>ネットワークのラグなどによって、マウスカーソルの遅延が発生しても、目視でどれぐらいか確認するようになっています。</p>
マウスポインターの表示で混乱する。	<p>2つのマウスポインター(ローカルポインターとリモートポインター)の表示が分かりにくい場合は、マウス表示の切替機能を使用して、機能していないポインターを縮小できます。p.85「マウス表示の切替」、およびp.109「マウスポインターの種類」を参照してください。</p>
Windowsシステムにログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. マウス同期モードの設定状況を確認します (p.111参照)。「自動」に設定されている場合は、設定を「手動」に変更してください。詳細は、p.112「手動設定によるマウス同期」の情報を参照してください。 2. 手動モードの場合は、自動同期機能 (p.93「ビデオ設定」参照) を使用して、ローカルおよびリモートの各モニターを同期します。 3. それでも解決しない場合は、p.85「マウスの調整」機能を使用して、手順でポインターを元に戻します。 4. 上記の手順で問題が解決しない場合は、その他のマウス同期方法 (p.309) を参照して、実行する手順を確認してください。

問題	映像度
Macシステムにログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	マウス同期の自動設定には、デフォルトとMac2の2つがあります。マウス同期がデフォルトで満足できない場合は、Mac2の設定を試してください。詳細については、p.112の注意書きを参照してください。
Sunシステムでログインしたときに、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウス同期は、WindowsおよびMac(G4以上)システムのUSBマウスのみをサポートします。ポインターは手動で同期する必要があります。詳細については、マウス同期モード(p.111参照)と手動によるマウス同期(p.112参照)を参照してください。 上記の手順を実行した後、p.309「その他のマウス同期方法」にあるp.311「Sun/Linux」の実行手順を参照してください。
Linuxシステムでログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウス同期は、WindowsおよびMac(G4以上)システムのUSBマウスのみをサポートします。ポインターは手動で同期する必要があります。マウス同期モード(p.111参照)と手動設定によるマウス同期(p.112参照)を参照してください。 詳しくは、p.125「Mac/Linuxの環境における注意事項」を参照してください。 上記の手順を実行した後、p.309「その他のマウス同期方法」にあるp.311「Sun/Linux」の実行手順を参照してください。
IP-KVMスイッチとCS1308/CS1316を、KA7170でカスケード接続すると、KA7170のオンラインLEDが点滅し続けてカスケード接続することができない。	KA7170を使ってCS1308/CS1316をカスケード接続する場合、マウス同期モードを手動モードに設定する必要があります。次の手順に従って作業を行い、カスケード接続を正しくセットアップしてください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. CS1308/CS1316からKA7170を取り外してください。 2. KA7170を任意のソースデバイス(PC)に接続してください。 3. KA7170が接続しているKVMポートをクライアントビューアで開いてください。 4. クライアントビューアで、コントロールパネルにアクセスし、マウスダイナミックモードを手動モードに設定してください。詳細については、p.111「マウスダイナミックモード」を参照してください。 5. KA7170をソースデバイス(PC)から取り外してください。 6. KA7170をCS1308/CS1316に接続し直してください。

バーチャルメディア

問題	解像度
バーチャルメディアが動作しない。	コンピューターモジュールが対応している型番かご確認ください。またターゲットサーバーがUSB接続を許可しているかご確認ください。同様に新しいファームウェアとBIOSバージョンがある場合(USBをサポートするもの)は、更新して動作できるかお試しください。
コントロールパネルにバーチャルメディアアイコンがない。	<ol style="list-style-type: none"> バーチャルメディアは、KNシリーズのIP-KVMスイッチ搭載のKA7166、KA7168、KA7169、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、またはKA7189の各コンピューターモジュールで接続されたデバイスのみをサポートします。 WinClientで起動した場合はクライアントコンピューターの管理者権限が必要です。これはWindowsの制限です。
バーチャルメディアドライブからリモートサーバーを起動できない。	リモートサーバーのBIOSはUSBドライブからの起動をサポートしていません。メーカーからメインボードの最新のファームウェアとBIOSバージョンを入手し、メインボードBIOSをアップグレードします。
USBフロッピードライブをリモートサーバーに接続すると、リモートサーバーを起動できるが、これをバーチャルメディアドライブとしてリモートサーバーにマッピングすると、リモートサーバーを起動できない。	USBフロッピードライブには、UFIとCBIの2種類のフォーマットがありますが、どちらもOSレベルのバーチャルメディア機能に使用できません。現在はBIOSレベル(ブートなど)の機能でサポートされているのはUFIのみです。
フォルダーをバーチャルメディアデバイスとしてマウントできない。	マウントするフォルダーがFAT16ファイルシステムでフォーマットされている場合、ファイル内容が2GBを超えるとマウントできません。

ウェブブラウザ

問題	解像度
ファームウェアのアップグレード後、ウェブブラウザでログインすると、IP-KVMスイッチは古いファームウェアバージョンを使用しているように見える。	<p>ブラウザのキャッシュをクリアして再度アクセスしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ IE:「ツール」>「インターネットオプション」>「インターネット一時ファイル」>「ファイルの削除」 ◆ Firefox:「ツール」>「プライベートデータの消去」
FirefoxではJavaクライアントビューアしか開くことができず、WinクライアントActiveXビューアは開くことができない。	IE11版ビューアにはActiveXが必要です。Firefoxは、ActiveXをサポートしていないため、利用可能なのはWebクライアントビューアのみです。Webクライアントビューアは全機能が搭載されていないため、ダウンロード版WinClientをご利用ください。

WinクライアントActiveXビューアとWinクライアントAP

問題	解像度
WinクライアントAPプログラムを起動しても、IP-KVMスイッチのユニットが「サーバーリスト」ウィンドウに表示されない。	プログラムのアクセスポート設定 (p.188参照) が、このダイアログボックスの「サーバー」領域の「ポート」に指定された番号と一致するユニットのみが、「サーバーリスト」ウィンドウに表示されます。「ポート」の入力内容が、「デバイス管理」の「ネットワーク」画面で「プログラム」に指定した入力内容と一致することを確認します。
WinクライアントActiveXビューアとWinクライアントAPが、IP-KVMスイッチ経由でKVMに接続しない。	クライアントコンピューターにDirectX8.0以上がインストールされている必要があります。
「ログイン失敗」エラーが表示され、Windowsクライアントビューアを実行できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. IP-KVMスイッチが最新のファームウェアバージョンに更新されていることを確認します。 2. ファイアーウォールで80、443、9000などの必要なサービスポートが許可されていることを確認します。詳細については、p.189「サービスポート」を参照してください。 3. 接続先のIP-KVM管理画面からWinClientをダウンロードして利用してください。
ファームウェアのアップグレード後、WinクライアントActiveXビューアまたはWinクライアントAPが実行されない。	<p>古いバージョンの.ocxファイルが削除されていないため古いファイルを削除する必要があります。ファイルを削除するには2つの方法があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ActiveXビューアの場合: IE を起動し、「ツール」>「アドオンの管理」を開きます。Winクライアントに関するすべてのアイテムを削除または無効にします。 2. WinクライアントAPの場合: エクスプローラーを開き、WinClient.ocxを検索したら、すべてのアイテムを削除します。
リモートモニターでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動同期を実行します(詳細については、p.80「Windowsクライアントのコントロールパネル」の機能を参照してください)。 2. 画面サイズを保持が有効になっていない場合 (p.115「画面オプション」参照)、自動同期機能 (p.93「ビデオ設定」参照)を使用してローカルおよびリモートの各モニターを同期します。 3. 「画面サイズを保持する」が有効になっている場合は、画面外の領域にスクロールできます。
リモート画面が90度回転する。	「画面サイズを保持する」を有効にします (p.114「コントロールパネルの設定」を参照)。
Winクライアントの実行中にNet Meetingを実行できない。	「画面サイズを保持する」を有効にします (p.114「コントロールパネルの設定」を参照)。

問題	解像度
ログイン後、WinクライアントActiveXビューアを開くことができない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントコンピューターにWinクライアントのコントロールアドオンをインストールする権限がありません。プログラムの初回インストールは、クライアントコンピューターの管理者権限を持つユーザーに実行してもらいます。ユーザーは、その後、起動できます。 2. Vistaでは、信頼済みサイトのリストにIP-KVMスイッチのURLアドレスも追加する必要があります。「ツール」>「インターネットオプション」>「セキュリティ」>「信頼済みサイト」>「サイト」
Windows Vistaで、WinクライアントActiveXビューアを開いてドライバーまたはリムーバブルディスクをマウントしようとする、「ドライバーが準備できていません」というメッセージが表示される。	<p>これは、VistaのUAC(ユーザーアカウント制御)に起因します。この問題を解決するには2つの方法があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントコンピューターの管理者の場合は、ブラウザのアイコンを右クリックして「Run as...」を選択し、管理者アカウントでブラウザを実行することを選択します。 2. クライアントコンピューターのアドミニストレーターでない場合は、クライアントコンピューターのアドミニストレーターに依頼してUACを無効にする必要があります。

JavaアプレットとJavaクライアントAP

問題	解像度
IP-KVMスイッチに接続できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最新のJavaバージョンがクライアントコンピューターにインストールされている必要があります。 2. IPアドレスとともにプログラムポートを指定する必要があるかどうかを確認します。詳細については、p.70「JavaクライアントAPIによるログイン」を参照してください。 3. Javaを閉じて、再度実行してください。
「ログイン失敗」エラーが表示され、Javaクライアントビューアを実行できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. IP-KVMスイッチが最新のファームウェアバージョンに更新されていることを確認します。 2. ファイアーウォールで80、443、9000などの必要なサービスポートが許可されていることを確認します。詳細については、p.189「サービスポート」を参照してください。 3. ビューアを閉じて、再試行してください。
最新のJREをインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性に問題がある。	<p>本製品のJavaクライアントビューアの開発以降にリリースされたバージョン(特に最新版など)のJavaをお使いの場合、Java側の新機能に対応していないなどの理由でパフォーマンスが悪いことが考えられます。最新のバージョンより1つか2つ前のバージョンのJavaバージョンを使用してみてください。</p>

問題	解像度
<p>ファームウェアのアップグレード後、JavaクライアントビューアまたはJavaクライアントAPでログインすると、IP-KVMスイッチは古いファームウェアバージョンを使用しているように見える。</p>	<p>ログアウトします。Javaの一時インターネットファイルを次のように削除します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「コントロールパネル」>「Java」を開きます。 2. 「インターネット一時ファイル」セクションで、「設定」をクリックします。 3. 「ディスク容量」セクションで、「ファイルの削除」をクリックします。 4. 表示されるダイアログボックスで、「OK」をクリックします。
<p>入力した各国語文字が表示されない。</p>	<p>クライアントコンピューターのキーボード言語を「英語(UK)」に変更します。</p> <p>IP-KVMスイッチのオンスクリーンキーボードを使用し、オンスクリーンキーボードを他のシステムが使用しているのと同じ言語に設定します(p.107「オンスクリーンキーボード」参照)。</p>
<p>Javaクライアントビューアに問題がある。</p>	<p>プログラムを一度終了させて、再起動してください。</p>
<p>Windowsのメニューキーを押しても何も反応しない。</p>	<p>Javaは、Windowsメニューキーをサポートしていません。</p>
<p>バーチャルメディアのドライブとしてマウントするフォルダーを追加しようとすると、フォルダーを選択できない。唯一の選択肢はデスクトップである。</p>	<p>「フォルダーの選択」入力欄に、追加したいフォルダーのルートディレクトリーを入力します。その後、ルートディレクトリーの下に含まれるフォルダーが表示されます。これで、選択するフォルダーに移動できます。</p>

Sunシステム

問題	解像度
HDB15インターフェースシステム (Sun Blade1000サーバーなど) でのビデオ表示の問題が発生する。*	ディスプレイの解像度は1024×768@60Hzに設定してください: テキストモードで: OKモードに移行し、次のコマンドを発行します。 setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all XWindowの場合: 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。 m64config -res 1024x768x60 2. ログアウトします。 3. ログインします。
13W3インターフェースシステム (Sun Ultraサーバーなど) でのビデオ表示の問題が発生する。*	ディスプレイの解像度は1024×768@60Hzに設定してください: テキストモードで: OKモードに移行し、次のコマンドを発行します。 setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all XWindowの場合: 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。 m64config -res 1024x768x60 2. ログアウトします。 3. ログインします。

* Sun VGAカードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。問題が解決しない場合は、Sun VGAカードのマニュアルを参照してください。

Macシステム

問題	解像度
SafariブラウザでIP-KVMスイッチにログインすると、スナップショット機能の使用時にハングアップする。	Safariを強制終了した後で、再起動してください。スナップショット機能は今後使用しないようにしてください。 Safariでスナップショット機能を使用するには、Mac OSは10.4.11に、Safariは3.0.4にそれぞれアップグレードしてください。

Redhatシステム

問題	解像度
Redhat 9.0(2.4.20-8)がサーバーとしてインストールされている場合、キーボードとマウスがKA7175/KA7176コンソールモジュールで正常に動作しない。	マウス同期モードに「AS3.0設定」を選択します。詳細については、p.125「Mac/Linuxの環境における注意事項」を参照してください。
Redhat9.0(2.4.20-8)をデスクトップシステムとしてインストールした場合、キーボードとマウスがKA7175/KA7176コンソールモジュールで正常に動作しない。	まず、キーボードとマウスをUSB 2.0ハブに差し込み、次にハブをRedhat 9.0サーバーに接続します。

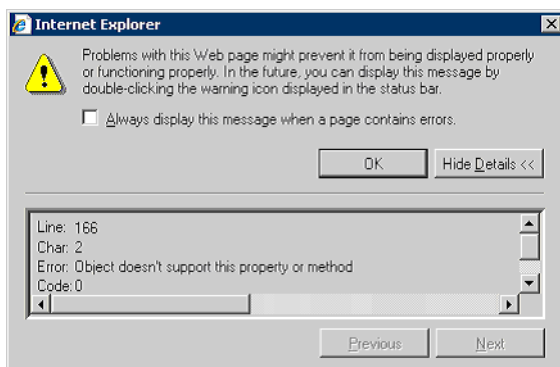
ログサーバー

問題	解像度
ログサーバーのプログラムが起動しない。	<p>ログサーバーでデータベースにアクセスするにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。</p> <p>このドライバーはWindows ME、2000、XPで自動的にインストールされています。</p> <p>Windows 98またはNTの場合、Microsoftのダウンロードサイト (http://www.microsoft.com)に移動し、MDACを検索してドライバーファイルを取得します。</p> <p>MDAC2.7RTM Refresh(2.70.9001.0)</p> <p>このドライバーはWindows Office Suiteで使用されるため、別の方法として、Windows Office Suiteをインストールします。ドライバーファイルまたはWindows Office Suiteがインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。</p>

パネルアレイモード

問題	解像度
低解像度ビデオで画面がはっきりと表示されない。	これは、画面がパネルに収まるように拡大されているために発生することがあります。表示されるパネルの数を減らします。
複数のリモートユーザーがログインしている場合、その一部は部分的な画像しか受信できない。	最初にパネルアレイモードを起動するユーザーは、パネル表示を最低でも4分割に設定する必要があります。
1つ前または後ろのポートに移動しようとする、ディスプレイが2つ前に移動したり、元のポートに残ったりすることがある。	これは、ネットラグの問題により時折発生します。アレイは、一定の時間間隔でポートを自動的に表示していきます。ユーザーからの入力がある前に、製品は1つ後ろのポートに移動しているものの、表示処理が追いついていない場合は、ポートが切り替わって見えないように見える場合があります。 したがって、ユーザーがポートを切り替えると、自動に切り替えられたポートから、さらに1ポート先に進みますので、2ポート先に移動したように見えたり、自動的に切り替えられたポートから1ポート後ろに戻ることで移動していないように見えたりするという現象が発生することになります。

Q1. ビューアを開くと、ウェブページが表示されないか、正しく動作せず、次のいずれかのようなエラーメッセージが表示される:



1. Internet Explorerのセキュリティー設定をリセットして、Active Scripting、ActiveXコントロール、およびJavaアプレットを有効にします

デフォルトでは、Internet Explorer 6と一部のバージョンのInternet Explorer 5.xでは、制限付きサイトゾーンに高セキュリティーレベルが使用され、Microsoft Windows Server 2003では、制限付きサイトゾーンとインターネットゾーンの両方に高セキュリティーレベルが使用されます。Active Scripting、ActiveXコントロール、Javaアプレットを有効にするには、次の手順に従って操作を行ってください:

- a) Internet Explorerを起動します。
 - b) 「ツール」メニューで、「インターネットオプション」をクリックします。
 - c) 「インターネットオプション」ダイアログボックスで、「セキュリティ」をクリックします。
 - d) 「デフォルトレベル」をクリックします。
 - e) 「OK」ボタンをクリックしてください。
2. Active Scripting、ActiveX、Javaがブロックされていないことを確認します。
- 一部のクライアントコンピューターは動作するものの、他のコンピューターが動作しない場合は、Internet Explorerまたはクライアントコンピューター上のアンチウイルスプログラムやファイアーウォールなどの別のプログラムが、スクリプト、ActiveXコントロール、Javaアプレットをブロックするように設定されていないことを確認します。
3. 「インターネット一時ファイル」または「ダウンロードしたプログラムファイル」フォルダーをスキャンするようにアンチウイルスプログラムが設定されていないことを確認します。
4. インターネット関連の一時ファイルをすべて削除します。
- クライアントコンピューターからインターネット関連の一時ファイルをすべて削除するには、次の手順に従って操作を行ってください：
- a) Internet Explorerを起動します。
 - b) 「ツール」メニューで、「インターネットオプション」をクリックします。
 - c) 「全般」タブをクリックします。
 - d) 「インターネット一時ファイル」で「設定」をクリックします。
 - e) 「ファイルの削除」をクリックします。
 - f) 「OK」ボタンをクリックしてください。
 - g) 「クッキーの削除」をクリックします。
 - h) 「OK」ボタンをクリックしてください。
 - i) 「履歴」で、「履歴の消去」をクリックし、「はい」をクリックします。

j) 「OK」ボタンをクリックしてください。

5. Microsoft DirectXの最新バージョンがインストールされていることを確認します

Microsoft DirectXの最新バージョンのインストール方法については、次のMicrosoftウェブサイト参照してください:

<http://www.microsoft.com/windows/directx/default.aspx?url=/windows/directx/downloads/default.htm>

6. 最新バージョンのJava JREがインストールされていることを確認します。
JREの最新バージョンのインストール方法については、Java ウェブサイト (www.java.com)を参照してください。

IPアドレスの設定

初めてログインする管理者の場合は、IP-KVMにアクセスして、ユーザーが接続できるIPアドレスを設定する必要があります。設定方法は全部で3種類ありますが、いずれの場合も、クライアントコンピューターはIP-KVMスイッチと同じネットワークセグメントに存在する必要があります。接続してログインすると、IP-KVMスイッチに固定ネットワークのアドレスを与えることができます(p.188「ネットワーク」参照)。

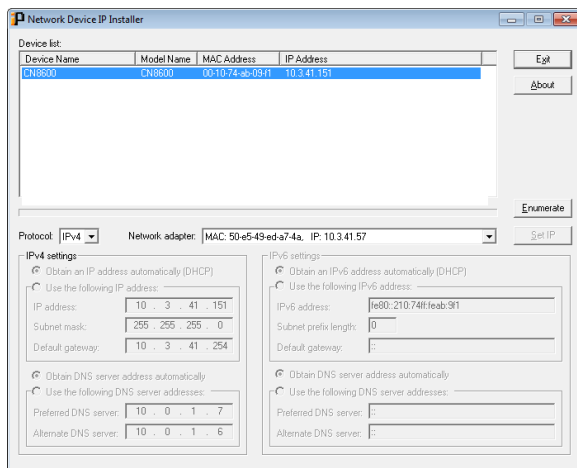
ローカルコンソール

最も簡単なIPアドレスの設定方法はローカルコンソールから設定する方法です。関連する手順について詳しくは、p.58「初期設定」を参照してください。

IPインストーラー

Windowsがインストールされたコンピューターをお使いの場合は、IPインストーラーというツールを使用してIPアドレスを設定できます。IPインストーラーは弊社ウェブサイトのダウンロードページからダウンロードできます。ダウンロードページの「ドライバー&ソフトウェア」のリストから、お使いの機器の型番を選択してください。IPインストーラーをお使いのコンピューターにダウンロードしたら、以下の手順に従ってIPアドレスを設定してください。

1. ダウンロードしたファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適切なフォルダーに解凍してください。
2. 手順1でIPインストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IPインストーラーの実行ファイル(IPInstaller.exe)を起動してください。
以下のようなダイアログボックスが表示されます。



3. デバイスリストでIP-KVMスイッチを選択します。

注意:

1. リストに何も表示されない、また、対象となるユニットが表示されない場合は、「Enumerate」をクリックして、デバイスリストを更新してください。
 2. リストに複数のデバイスがある場合は、MACアドレスから必要なデバイスを選択します。IP-KVMスイッチのMACアドレスは、IPアドレスの右隣にあります。
-
4. ドロップダウンメニューを使用して**プロトコル**(IPv4またはIPv6)を選択し、以下のIP設定を行います。
 5. 「IPアドレスを自動的に取得する(DHCP)」または「次のIPアドレスを使用する」を選択します。後者を選択した場合は、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の各項目に、ネットワークに適した情報を入力します。
 6. 「DNSサーバーアドレスを自動的に取得する」または「次のDNSサーバーアドレスを使用する」のいずれかを選択します。後者を選択した場合は、優先DNSサーバーと代替DNSサーバーに、ネットワークに適したIPアドレスを入力します。
 7. 「**IPの設定**」ボタンをクリックしてください。
 8. IPアドレスが「デバイス一覧」に表示されたら、「**終了**」ボタンをクリックしてください。詳細については、p.189「IPインストーラー」を参照してください。

ブラウザ

1. クライアントコンピューターのIPアドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。
ここで、XXXは、60以外の任意の数字を表します(192.168.0.60は、IP-KVMスイッチのデフォルトアドレスです)。
2. ウェブブラウザのアドレスバーに、ユニットのデフォルトIPアドレス(192.168.0.60)を指定すると、接続できるようになります。
3. IP-KVMスイッチに対して、そのスイッチがセットアップされているネットワークセグメントに適した固定IPアドレスを割り当ててください。
4. ログアウトしたら、手順1で設定を変更したコンピューターのIPアドレスを元の値に戻しておいてください。

IPv6

現在、IP-KVMスイッチは、リンクローカルIPv6アドレス、IPv6ステートレス自動設定、ステートフル自動設定(DHCPv6)の3つのIPv6アドレスプロトコルをサポートしています。

リンクローカルIPv6アドレス

電源投入時に、IP-KVMスイッチはリンクローカルIPv6アドレス(例:fe80::210:74ff:fe61:1ef)で自動的に設定されます。リンクローカルIPv6アドレスの内容を確認するには、IP-KVMスイッチのIPv4アドレスでログインし、「デバイス管理」>「デバイス情報」画面を開きます。アドレスは「全般」リストボックスに表示されます(p.184参照)。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Javaの各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力します。

http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄にアドレスを次のように入力します (p.66「Windows クライアントAP によるログイン」を参照)。

fe80::2001:74ff:fe6e:59%5

注意:

1. リンクローカルIPv6アドレスでログインするには、クライアントコンピューターがIP-KVMスイッチと同じローカルネットワークセグメントに存在する必要があります。
2. %5は、クライアントコンピューターで使用される%インターフェースです。クライアントコンピューターのIPv6アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。

```
ipconfig /all
```

「%」値はIPv6アドレスの最後に現れます。

IPv6ステートレス自動設定

IP-KVMスイッチのネットワーク環境に、IPv6ステートレス自動設定機能をサポートするデバイス(ルーターなど)が含まれている場合、IP-KVMスイッチは、IPv6アドレスを生成するためにそのデバイスからプレフィックス情報を取得できます。次はその例です。

2001::74ff:fe6e:59

上記のように、アドレスは「デバイス管理」>「デバイス情報」画面 (p.184参照)の「全般」リストボックスに表示されます。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Javaの各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力してください。

http://[2001::74ff:fe6e:59]

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄にアドレスを次のように入力します (p.66「Windows クライアントAPIによるログイン」を参照)。

2001::74ff:fe6e:59

ポートの転送

IP-KVMがルーター内のセグメントに構築されている場合、外部からのアクセスをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。IP-KVMにはルーター機能は無く、ポート転送のパラメーター設定や特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送すればよいのかを、ルーターにて設定し、ご利用ください。









たとえば、特定のルーターに接続されているIP-KVMスイッチのIPアドレスが「192.168.1.180」の場合、ルーターの設定プログラムにログインし、ポート転送(場合によってはバーチャルサーバー)設定画面にアクセスします。先ほどのIPアドレス「192.168.1.180」および開放したいポート(たとえばインターネットアクセスでは9000番を使用)を設定します。

ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルやメーカー様へお問い合わせください。

キーボードエミュレーション

Macキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、Macキーボードの機能をエミュレートできません。エミュレーションマッピングは下表のとおりです。



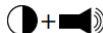



PC用キーボード	Macキーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl][1]	
[Ctrl][2]	
[Ctrl][3]	
[Ctrl][4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意:

キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

Sunキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、[Ctrl]キーを他のキーと組み合わせて使用すると、Sunキーボードの機能をエミュレートできます。対応する機能を下表に示します。

PC用キーボード	Sunキーボード
[Ctrl][T]	Stop
[Ctrl][F2]	Again
[Ctrl][F3]	Props
[Ctrl][F4]	Undo
[Ctrl][F5]	Front
[Ctrl][F6]	Copy
[Ctrl][F7]	Open
[Ctrl][F8]	Paste
[Ctrl][F9]	Find
[Ctrl][F10]	Cut
[Ctrl][1]	
[Ctrl][2]	
[Ctrl][3]	
[Ctrl][4]	
[Ctrl][H]	Help
	Compose
	Meta

注意:

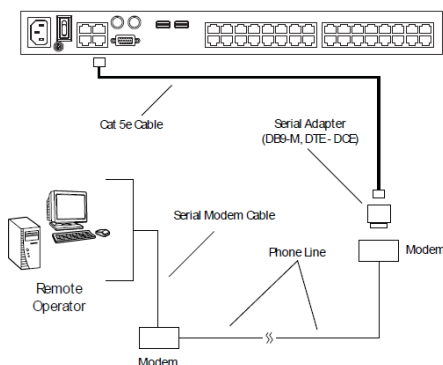
キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

PPPモデムの動作

基本設定

IP-KVMスイッチにシリアルポートがある場合は、次のようにアナログモデムを使用してRS-232C経由でアクセスできます。

1. 以下の図に合わせてハードウェアの設定を行います。



2. クライアントコンピューターから、モデムのダイヤルインプログラムを使用し
てIP-KVMスイッチのモデムにダイヤルインします。

注意:

1. IP-KVMスイッチのモデムのシリアルパラメーターがご不明な場合は、
IP-KVMスイッチの管理者にご確認ください。
2. Windows XPでのモデムダイヤルインプログラムの設定例は、次ページ
に記載されています。

3. 接続が確立されたら、ブラウザを開いてURLバーで次を指定します。

192.168.192.1

注意:

1. デフォルトのユーザーネームとパスワードは空白です。
2. モデムセッションの場合、IP-KVMスイッチのIPアドレスは
「192.168.192.1」、ユーザー側のIPアドレスは「192.168.192.101」です。

以降の操作は、ブラウザまたはAPプログラムからログインした場合と同じです。

接続設定例(Windows XPの場合)

Windows XPでIP-KVMスイッチへのダイヤルイン接続をセットアップするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. スタートメニューから「コントロールパネル」>「ネットワーク接続」>「新規接続の作成」を選択します。
2. 新規接続ウィザードダイアログボックスが表示されたら、「次へ」をクリックして次へ進みます。
3. 「ネットワーク接続タイプ」ダイアログボックスで、「職場のネットワークに接続する」を選択し、「次へ」をクリックします。
4. 「ネットワーク接続」ダイアログボックスで「ダイヤルアップ接続」を選択し、「次へ」をクリックします。
5. 「接続名」ダイアログボックスで、接続の名前(TPE-KN8132-01など)を入力し、「次へ」をクリックします。
6. 「接続の可用性」ダイアログボックスで、環境設定に応じて、誰でも使用するか、「使用時のみ」のいずれかを選択し、「次へ」をクリックします。

注意:

このクライアントコンピューターで唯一のユーザーである場合、このダイアログボックスは表示されません。

7. ダイヤルする電話番号ダイアログボックスで、IP-KVMスイッチに接続されているモデムの電話番号(必要な場合は、国と市外局番を必ず追加のこと)を入力し、「次へ」をクリックします。
8. 「新規接続の完了ウィザード」ダイアログボックスで、「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」をチェックし、「終了」をクリックします。

これで接続設定は完了です。デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックして、IP-KVMスイッチにPPP接続します。

KA7140の設定と操作

コンピューターモジュールKA7140は、シリアルデバイスをIP-KVMスイッチ経由でKVMに接続します。

設定

KA7140に対して接続デバイスとの通信設定を行うには、次のように、シリアルパラメーターもデバイスのパラメーターと同じように設定する必要があります。

1. 「ポートアクセス」画面のサイドバーで、KA7140が接続されているポートを選択します。
2. メニューバーから「**ポート設定**」を選択します。

「ポートのプロパティー」タブが選択された状態で画面が表示されます。

Port Property			
Associated Link			
Power Management			
Status			
Port Status:	Online		
Adapter Type:	KA7140		
Adapter Version:	V1.1.101		
Properties			
Bits per second:	9600	Data bits:	8
Parity:	None	Stop bits:	1
Flow control:	None	Access Mode:	Share
Exit Macro			
None			
Save			

3. 「プロパティー」セクションで、各リストを展開して、接続されているシリアルコンソールデバイスで使用されているポートプロパティー値と一致するポートプロパティー値を選択します。KA7140がサポートするポートのプロパティー設定を次の表に示します。

設定	意味
bps (ボーレート)	ポートのデータ転送速度を設定します。選択肢は300～38400です(すべてを表示するには、リストを展開します)。この設定は、シリアルコンソールデバイスのボーレート設定に合わせてください。 デフォルトでは(多くのシリアルデバイスの基本設定である)9600に設定されています。
データビット	データ1文字を転送するのに使用されるビット数を設定します。設定できる値は、7または8です。この設定は、シリアルコンソールデバイスのデータビット設定に合わせてください。デフォルトでは(大半のシリアルコンソールデバイスにおけるデフォルト設定である)8に設定されています。
パリティ	このパリティビットは、転送データの整合性をチェックします。設定できる値は、「無」、「奇数」、「偶数」です。この設定は、シリアルコンソールデバイスのパリティ設定に合わせてください。デフォルトでは奇数に設定されています。
ストップビット	文字が転送されたことを表すビットです。この設定は、シリアルコンソールデバイスのストップビット設定に合わせてください。設定できる値は、1または2です。デフォルトでは、(大半のシリアルコンソールデバイスのデフォルト設定である)1に設定されています。
フローコントロール	これにより、データフローの制御方法を選択できます。設定できる値は、「無」、「ハードウェア」、「XON/XOFF」です。この設定は、シリアルコンソールデバイスにおけるフローコントロールの設定に合わせてください。 デフォルトでは「無」に設定されています。 注意: 「無」は9600以下のボーレートでのみサポートされます。ボーレートが9600を超える場合は、「ハードウェア」または「XON/XOFF」を選択してください。
アクセスモード	これにより、シリアルコンソールデバイスのアクセスモードを設定できます。設定できる値は、「共有」、「占有」、「排他」です。デフォルトは「共有」です。この機能については、p.159「アクセスモード」を参照してください。

4. 選択が完了したら、「保存」をクリックします。

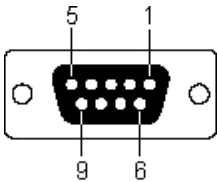
操作方法

ポートに接続されているデバイス进行操作するには、「ポートアクセス」画面でポートをダブルクリックしてデバイスへのシリアル接続を確立します。

KA7140のピン配列

KA7140コンピューターモジュールのピン配列を以下の表に示します。

ピン	ピン配列
1	DCD
2	RXD
3	TXD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	N/A

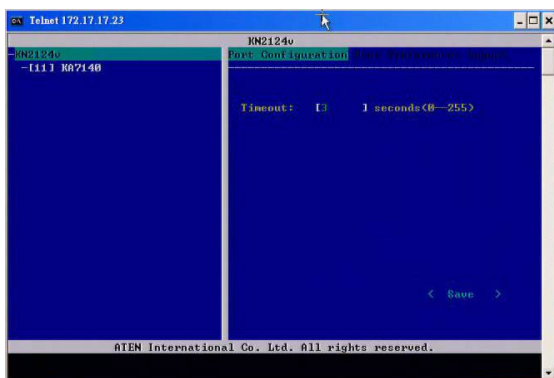


DB-9 メス

内部シリアルインターフェースの設定

IP-KVMスイッチは、接続されたデバイスのシリアルインターフェースパラメーターを、アクセスされた任意のサーバー内から設定できる機能を提供します。この機能を使用するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. アクセスしたサーバーから、コマンドライン(ターミナル)セッションまたはサードパーティーのシリアルアプリケーション(HypterTerminalやPuTTYなど)を開きます。
2. IP-KVMスイッチのIPアドレスに対してTelnetまたはSSHでアクセスします。
3. 通常のコマンドラインセッションでログインし、アクセス画面を表示します。



ナビゲーション

左側のパネルには、IP-KVMスイッチが上部に表示され、接続されているすべてのシリアルデバイスが以下のリストに表示されます。右側のパネルには、上部に設定パラメーターが表示され、下部エリアに設定内容が表示されます。

- ◆ 左右矢印キー(←および→)を使用して、右パネルと左パネルの間でハイライトバーを移動し、設定するパラメーターを選択します。
- ◆ 上下矢印キー(↑および↓)を使用して、左パネルのスイッチとシリアルデバイスから選択します。これらを使用して、右パネルの設定項目を選択します。

操作方法

- ◆ 上下矢印キー(↑および↓)を使用して、左パネルでデバイスをハイライト表示し、[Enter]を押して、アクセスしたデバイスでコマンドライン(ターミナル)セッションを開きます。
- ◆ セッションが終了したら、アクセス画面に戻るホットキー(p.307およびp.308参照)を押します。
- ◆ この機能を終了するには、アクセス画面の右パネルでハイライトバーを「ログアウト」に移動し、下矢印キーを押して「終了」をハイライト表示し、[Enter]を押します。

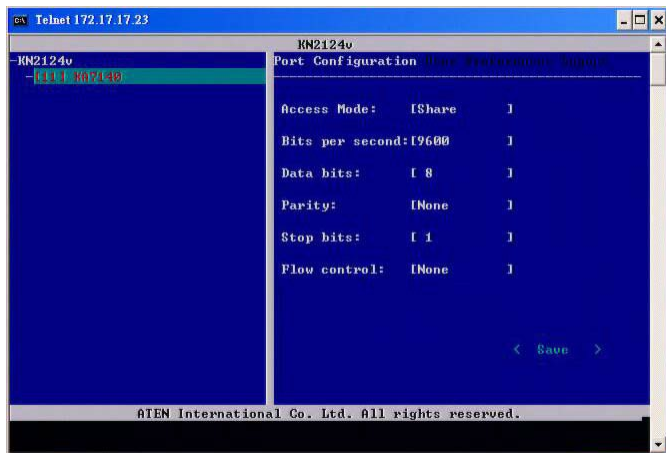
スイッチレベルの設定

左側のパネルで「IP-KVMスイッチ」を選択した場合に実行できる右側のパネル構成設定について、以下の表で説明します。

設定	説明
ポート設定	ポート設定を選択したら、下矢印キーを押して現在のタイムアウト数値を強調表示します。新しいタイムアウト値を入力して、現在の値を上書きします。 注意: 入力した数字を消去する方法はありません。変更する場合は、上矢印ボタンキーを使用して項目を終了し、下矢印ボタンキーを使用して項目に戻ります。戻ったら、新しい数字を入力します。 完了したら、下矢印ボタンを使用して「保存」を選択し、[Enter]を押します。
ユーザー環境設定	「ユーザー環境設定」では、作業中のセッションからアクセス画面に戻るホットキーを設定できます。 「ユーザー環境設定」を選択したら、下矢印キーを押して現在のホットキー文字を強調表示します。現在の文字を上書きするには、新しい文字を入力します。 完了したら、下矢印ボタンを使用して「保存」を選択し、[Enter]を押します。
ログアウト	ログアウトが選択されたら、下矢印キーを押して「終了」を選択し、[Enter]を押します。

ポートレベルの設定

左パネルでシリアルインターフェースデバイスを選択すると、次のような画面が表示されます。



シリアルインターフェースデバイスを選択した場合に設定可能な項目を以下の表に示します。

設定	説明
ポート設定	シリアルパラメーターを設定するには、次の手順に従って操作を行ってください。 1. 上下の矢印キーを使用して、対象となる項目を強調表示します。 2. [Enter] を押して、選択肢のリストを表示します。 3. 上下矢印キーを使用して選択内容をハイライト表示し、 [Enter] を押します。 完了したら、下矢印キーを押して「保存」を選択し、 [Enter] を押します。
ユーザー環境設定	「ユーザー環境設定」では、作業中のセッションからアクセス画面に戻るホットキーを設定できます。 「ユーザー環境設定」を選択したら、下矢印キーを押して現在のホットキー文字を強調表示します。現在の文字を上書きするには、新しい文字を入力します。 完了したら、下矢印ボタンを使用して「保存」を選択し、 [Enter] を押します。
ログアウト	ログアウトが選択されたら、下矢印キーを押して終了をハイライト表示し、 [Enter] を押します。

その他のマウス同期方法

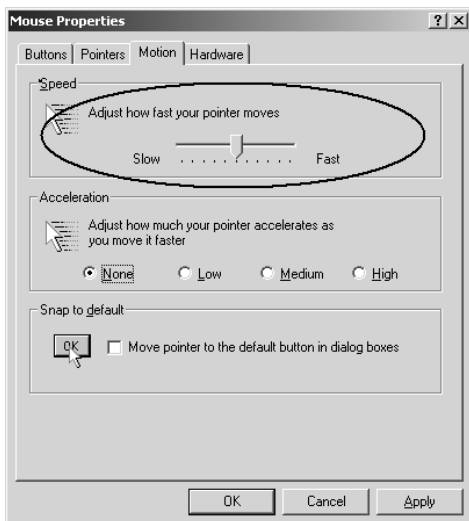
手動設定によるマウス同期を使用する場合は、IP-KVMスイッチに接続するサーバーで次の操作を実行する必要があります。

注意:

1. これらの手順は、IP-KVMスイッチのポートに接続されているサーバーで実行する必要があります。IP-KVMスイッチ経由でKVMにアクセスするために使用しているクライアントコンピューターでは実行しないでください。
 2. ローカルマウスとリモートマウスを同期するには、Windowsオペレーティングシステムに付属の汎用マウスドライバーを使用する必要があります。サードパーティー製のドライバー(例: マウスの製造元から提供されたドライバーなど)を使用している場合は、そのドライバーを削除してください。
-

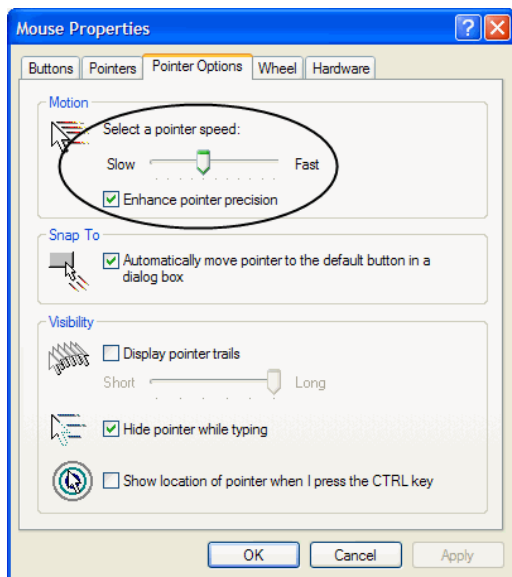
Windows:

1. Windows 2000:
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを開いてください(「コントロールパネル」>「マウス」>「マウスのプロパティ」)。
 - b) 「動作」タブをクリックしてください。
 - c) マウス速度を中央位置(左から6目盛り)に設定します。
 - d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP / Windows Server 2003:

- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを表示してください([コントロールパネル]→[マウス])。
- b) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスから、「ポインターオプション」タブをクリックしてください。
- c) マウス速度を中央位置(左から6目盛り)に設定します。
- d) 「ポインターの精度を高める」の項目からチェックを外して、この機能を無効にしてください。



3. Windows ME:

マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください
(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックしてください)。

4. Windows NT/Windows98/Windows95: マウスの速度を最も低い設定にしてください。

Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

(Sunの場合) `xset m 1`

(Linuxの場合) `xset m 0` または `xset m 1`

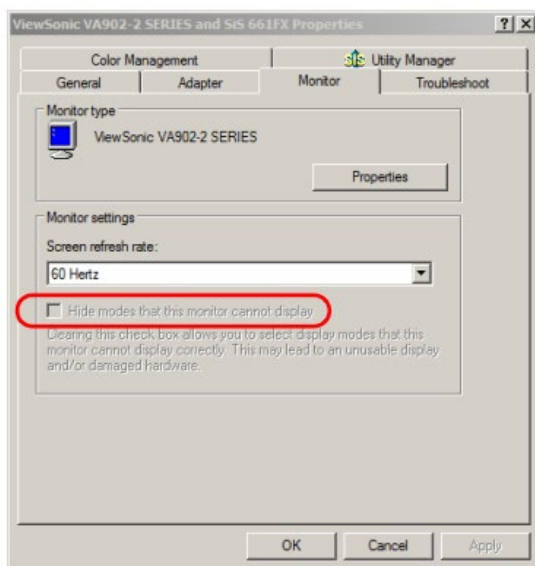
※一方がうまくいかない場合は、もう一方を試してみてください。

(Redhat AS3.0マウスモードを使用したLinuxの場合) `xset m 1`

その他のビデオ解像度の手順

Windowsを実行していて、新しいリフレッシュレートを使用したい場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 次のメニューにアクセスします。「コントロールパネル」>「ディスプレイ」>「設定」>「詳細設定」>「モニター」
2. 表示されるダイアログボックスで、このモニターが表示できない「非表示」モードのボックスにチェックが入っていないことを確認します。



3. 画面リフレッシュレートのリストボックスの右側にある矢印ボタンをクリックし、表示されるリストから目的のリフレッシュレートを選択します。

注意:

選択したリフレッシュレートがお使いのモニターでサポートされていることを確認してください。サポートされていない場合、モニターに重大な損傷を与えることがあります。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由でデバイスにログインすると、以下のような「セキュリティの警告」ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



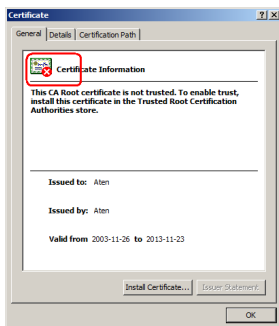
証明書は信頼できませんが、証明書の名前が信頼できる認証局のMicrosoftリストに見つからないため、警告が通知されます。これに対応するには、次の2つの方法があります。1) 警告を無視し、「はい」をクリックして操作を続行する。または 2) 証明書をインストールして、信頼された証明書として認識させる。

- ◆ 別の場所にあるクライアントコンピューターで作業している場合は、「はい」をクリックして、このセッションの証明書のみを受け入れます。
- ◆ 自分のクライアントコンピューターで作業している場合は、クライアントコンピューターに証明書をインストールします(詳細は以下を参照)。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。

証明書のインストール

証明書のインストールは下記の手順に従ってください。

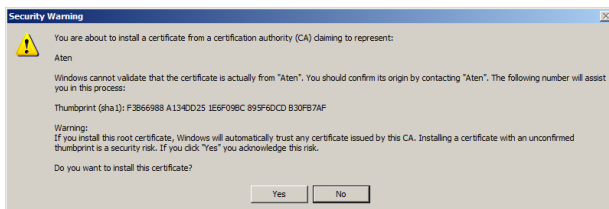
1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックしてください。「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意:

証明書の上に赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書が信頼できないと認識されていることを表しています。

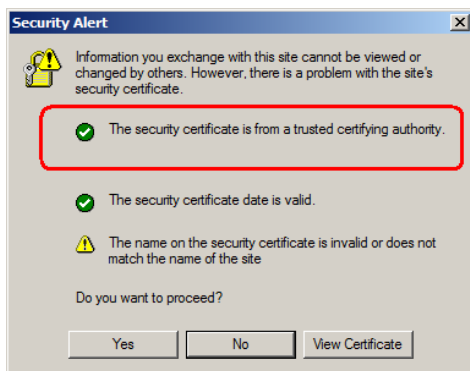
2. 「証明書のインストール」をクリックしてください。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めてください。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールしてください。
4. ウィザードに注意画面が表示されたら、「はい」をクリックします。



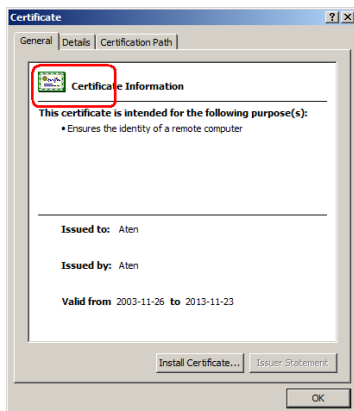
5. 「完了」をクリックしてセットアップを完了し、「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

証明書のインストール完了

証明書は信頼できるものに変更されました。

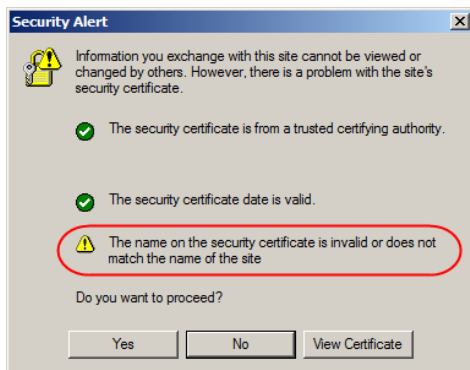


「証明書の表示」ボタンをクリックすると、赤と白色の「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



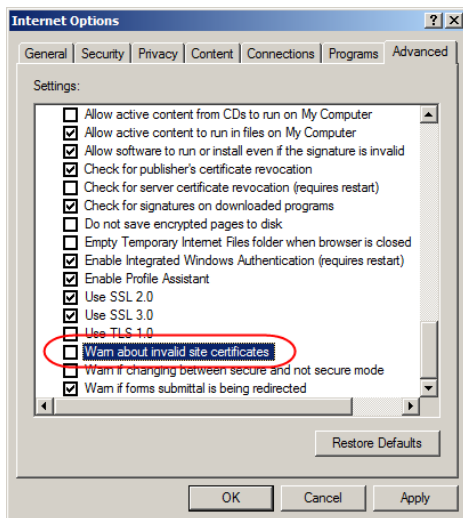
アドレス不整合に関する注意事項

証明書の生成に使用されるサイト名またはIPアドレスがIP-KVMスイッチの現在のアドレスと一致なくなると、不整合警告が発生します。



「はい」ボタンをクリックして継続することも、不整合のチェックを無効にすることもできます。不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ログイン画面が表示されたら、ブラウザのツールメニューを開き、「インターネットオプション」>「詳細設定」を選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザーの再起動後に有効になります。

自己署名済みプライベート証明書

独自の自己署名暗号化キーと証明書を作成したい場合は、www.openssl.orgのサイトからダウンロードできる無料ユーティリティー「openssl.exe」を利用することが可能です。ご自身のプライベートキーと証明書を作成するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. ダウンロードして解凍したopenssl.exeのディレクトリーに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して「openssl.exe」を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out  
CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
 2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。
-

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer -  
config openssl.cnf -subj /C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/CN=yourcommonname/emailAddress=name  
@yourcompany.com
```

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer -  
config openssl.cnf -subj /C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN  
International"/OU=ATEN/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

ファイルのインポート

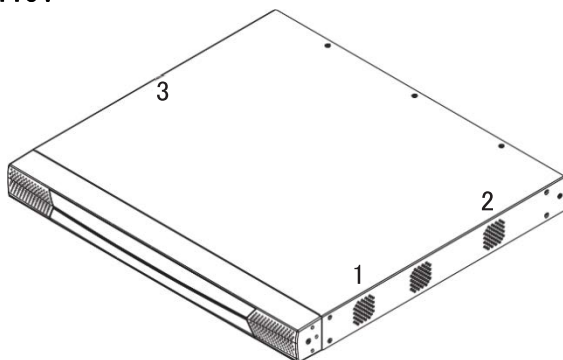
openssl.exeのプログラムが終了すると、プログラムを実行したディレクトリーに「CA.key」(プライベートキー)と「CA.cer」(自己署名SSL証明書)の2つのファイルが作成されます。これらは、「セキュリティ」画面の「プライベート証明書」パネルでアップロードするファイルです (p.202「セキュリティ」、p.210「プライベート証明書」を参照)。

ファンの位置と速度に関する情報

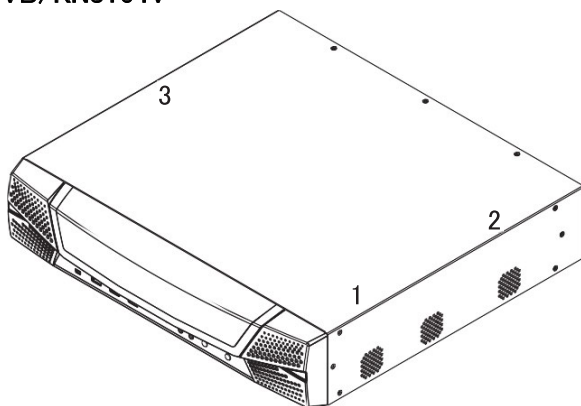
ファンの位置

IP-KVMスイッチには3基のファンがあり、リアルタイムのファン速度情報をWinクライアント/Javaクライアントの「デバイス管理」画面に送ります。

KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/
KN1132VB/KN2116VB/KN2132VA/KN4016VB/KN4024VB/
KN4132VA/KN8032VB/KN8132V/KN2140VA/
KN4140VA/KN8116V



KN4164V/KN8064VB/KN8164V



上記の画像の各ファンの速度は、「デバイス情報」のウェブページに表示されます。詳細についてはp.183を参照してください。

ログイン情報の消去

管理者権限のアカウントやパスワードを間違えたり、または忘れてしまったりして、ログインできなくなった場合、下記の作業を行ってログイン情報を消去できます。

注意:

この作業を行うと、すべての設定内容がデフォルト値に戻ります。

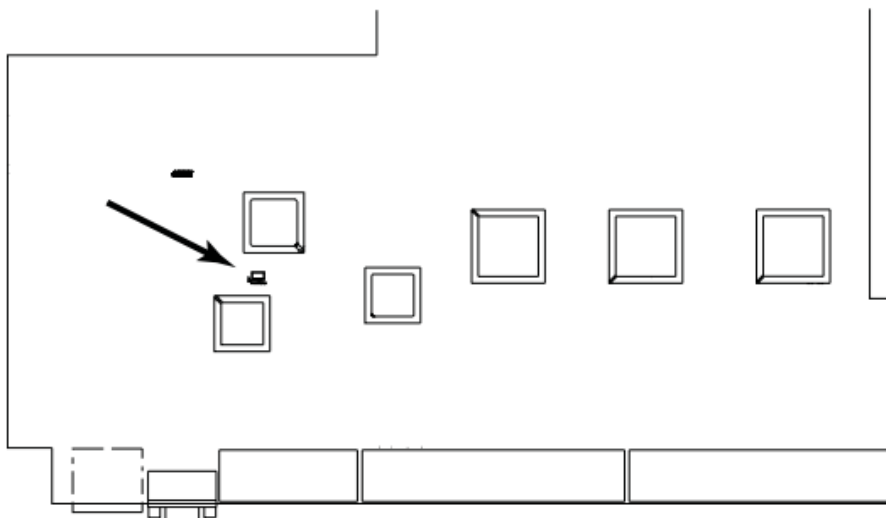
ログイン情報を消去する(すべての設定内容をデフォルト値に戻す)場合は、次の手順で作業を行ってください。

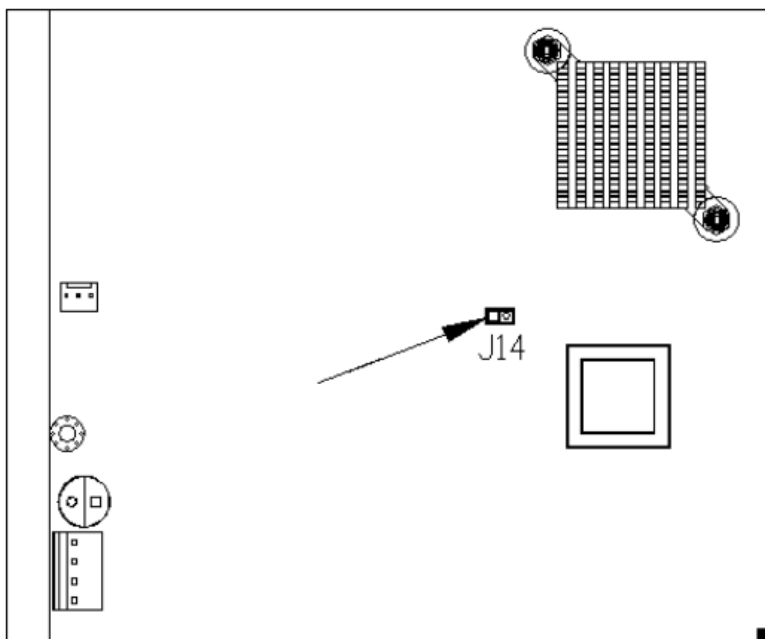
1. IP-KVMスイッチの電源を切り、ケースを取り外します。
2. ジャンパーキャップを使用して、「J25」または「J14」というラベルの付いたメインボードのジャンパーをショートさせます。

注意:

メインボードには2つのバージョンがあります。

メインボードにある「J25」または「J14」と記載されたジャンパーは、以下の図で確認してください。





3. 製品本体に電源を入れてください。
4. リンクと10/100MbpsのLEDが点滅したら、IP-KVMスイッチの電源を切ります。
5. 「J25」または「J14」からジャンパーキャップを取り外します。
6. ケースを閉じ、IP-KVMスイッチを起動します。

デバイスの電源を入れた後、既定のスーパーアドミニストレーターユーザー名とパスワード(p.58「初期設定」参照)を使用してログインできます。

工場出荷時のデフォルト設定

デフォルトの設定は以下のとおりです。

設定	デフォルト
言語	英語
GUIホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示	ポート番号 + 名前
ポートID表示時間	3 秒
スキャンインターバル	5 秒
スクリーンブランカー	0 分(無効)
ビープ音	オン
マイク/スピーカー	オン
ビューア	自動検出
初期メッセージ	非表示
アクセス可能なポート	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スーパーアドミニストレーター - すべてのポートに対してフルアクセス ◆ 他のすべてのユーザー - すべてのポートに対してアクセス不可

シリアルアダプターのピン配列

SA0142:RJ-45 メス→DB-9ピン オス(コネクタ:Black)

DTE→DCE

KVM over IP (RJ-45)	ピン(8)		モデム/デバイス (DB-9)
RTS	1	<—————>	7
DTR	2	<—————>	4
TXD	3	<—————>	3
CTS	4	<—————>	8
GND	5	<—————>	5
RXD	6	<—————>	2
DCD	7	<—————>	1
DSR	8	<—————>	6
			9 NC未使用

サポートされるKVMスイッチ

本製品とカスケード接続して使用できることが確認されたKVMスイッチは、以下の通りです。

- ◆ CS1308
- ◆ CS1316
- ◆ CS9134
- ◆ CS9138
- ◆ KH1508A
- ◆ KH1516A
- ◆ KH1532A

注意:

1. カスケード接続されたKVMスイッチは、IP-KVMスイッチの一部の機能がサポートされない場合があります（たとえば、バーチャルメディア機能はご利用いただけません）。
 2. カスケード接続は本製品含めて2段までサポートします。
-

サポートされる電源管理デバイス

本製品に接続できる電源管理デバイスは、以下の通りです。

- ◆ PN0108
- ◆ PN5212
- ◆ PN5320
- ◆ PN7212
- ◆ PN7320

サポートされるPDU

本製品に接続できるPDUデバイスは、以下の通りです。

- ◆ PE8rシリーズ
- ◆ PE9rシリーズ

サポートされるバーチャルメディア

Windowsクライアント Active Xビューア/WinクライアントAP

- ◆ IDE CDROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読み取り専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ USBハードディスクドライブ - 読み取り/書き込み対応*
- ◆ USBフラッシュメモリー - 読み取り/書き込み対応*
- ◆ USBフロッピードライブ - 読み取り/書き込み対応
- ◆ スマートカードリーダー - 読み取り/書き込み (コンピューターモジュール KA7166、KA7168、KA7169、KA7177、KA7188、KA7189のみ)

* これらのドライブは、ドライブとして、またはリムーバブルディスクとしてマウントできます (p.101「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクを使用すると、ディスクにブート可能なOSが含まれている場合、ユーザーはリモートサーバーをブートできます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスできます。

- ◆ ISOファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応

Javaクライアントビューア/JavaクライアントAP

- ◆ ISOファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応